

第2回 淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査
Shukutoku Yomiuri Chiba Social Survey (SYCSS)

報告書



2026年3月

淑徳大学社会福祉研究所

巻頭言

第2回淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査（SYCSS2025）の報告書をお届けします。

本調査は、2023年度に始まり、隔年で計5回の実施を予定しているものです。2020年からの数年間、新型コロナウイルス感染症により、私たちの日常生活はたいへんな制約を受けました。社会のあり方自体が変わってしまった感がありました。大学における教育研究活動も、新しい方法が模索され、遠隔授業など、その一部は今日にも引き継がれています。就職活動やサークル活動にも大きな影響がありました。大学に限らず、「日常生活が、そして社会が、変わった」という実感を多くの人びとが共有した数年間でした。

そうした変化を目の当たりにして、何が失われ、何が新しくなったのか、何がどう変化したのかを記録する必要性を私たちは痛感しました。単発の社会調査ではなく、同一の手法の、同一の設問での社会調査の継続がなければ、生活と社会の変化を精確に把握することはできません。淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査は、このような問題意識から、淑徳大学の附属機関である淑徳大学社会福祉研究所において山本功教授を班長とし、学内外研究者を組織してスタートし、その結果も報告をしてきました。

前回調査から2年後の、まだ2回目の調査結果ですので、変化の方向性をまだはっきりと捕捉できているわけではありません。しかしながら、初心を忘れることなく継続することが、この社会の変化をきちんと記録することになると考えております。

前回調査から第2回調査までの間の期間にも、様々な出来事がありました。2024年、1月には能登半島地震があり、私たちは震災と津波の恐ろしさを改めて見せつけられました。新紙幣の発行、闇バイトによる強盗の多発といった出来事もありました。2025年には大阪で関西万博、熊による獣害の多発、米価格の高騰といった事態がありました。

淑徳大学は1965年に千葉県で福祉系単科大学として出発した歴史をもつ大学です。千葉県で最大の部数を誇る読売新聞社と共同しての調査を実施することによって、社会問題へのよりよい対応策を構想したいと考えるものです。福祉領域はもとより、様々な社会問題への対策を構想する基礎資料として、皆さまにご活用いただけることを願っております。

淑徳大学社会福祉研究所

所長 齊藤順子

目 次

1. 調査の概要

1-1. 目的と方法

(1) 調査の目的	1
(2) 調査方法及び対象者	1
(3) 調査項目の設計について	5

1-2. 回答者の個人属性

(1) 同居家族 〈Q1〉〈Q5-11〉	7
(2) 職業 〈sc6〉	8
(3) 学歴 〈Q5-12〉	8
(4) 年収 〈Q30〉	8

2. 調査結果

2-1. 生活実態・習慣・生活実感

(1) 住宅 〈Q5-1,2〉	10
(2) 主な交通手段 〈Q5-14~16〉	12
(3) 情報環境 〈Q16〉〈Q5-13〉	13
(4) 健康行動・意識 〈Q28-1~4〉	16
(6) 生活レベル評価 〈Q17-6〉	19
(7) メンタルヘルス 〈Q9〉	20
(8) ゆとり・階層意識 〈Q28-5~8〉	23
(9) ギャンブル 〈Q28-9,10〉	26

2-2. 交流・サポート・福祉

(1) 家族・友人等との交流 〈Q3〉	27
(2) ソーシャル・サポート（心理的支えになる人） 〈Q4〉	33
(3) 孤独感・ストレス 〈Q26〉〈Q27〉	37
(4) 各機関への信頼度 〈Q12〉	41
(5) 生活保護に関する意見 〈Q10〉〈Q5-17,18〉	45

2-3. 地域・コミュニティ

(1) 地域との関わり 〈Q5-3~10〉	47
(2) 地域環境満足度 〈Q8〉	50

(3) 地域環境評価〈Q7〉	54
(4) 地域信頼感〈Q18-3~7〉	58
(5) 地域安全確保主体への意見〈Q21-6~8〉	60
(6) 地域の変化〈Q18-8~10〉	62
2-4. 犯罪・防犯	
(1) 犯罪被害経験〈Q13〉〈Q6-7〉	63
(2) 犯罪不安感〈Q14〉	65
(3) 固定電話対策の実施状況〈Q6-1,2,4〉	68
(4) 相談窓口等の認知〈Q11〉	70
(5) 犯罪や刑罰への意見〈Q21-1~5〉	72
2-5. 災害・防災	
(1) 災害不安感〈Q23〉	74
(2) 災害被害経験〈Q22〉	77
(3) 災害への備え実施状況〈Q24〉〈Q21-9,10〉	80
(4) ペットの災害対策実施状況〈Q5-19,20〉〈Q25〉	84
2-6. 行政・施策への意見	
(1) 政策の必要性に関する意向〈Q15〉	85
2-7. その他	
(1) 行動基準〈Q19〉	89
(2) いじめに対する認識〈Q20〉	92
(3) ジェンダーに関する認識〈Q29〉	96
3. 調査画面	101

1. 調査の概要

1-1. 目的と方法

(1) 調査の目的

本調査は、千葉県在住者を対象にした総合的、汎用的な社会調査であり、2023年度から隔年で計5回継続的に実施する調査の第2回目にあたる。調査の目的は、調査結果の分析及び公表を通じて、社会問題への対策を構想する基礎資料を広く提供することによって、社会の課題を明らかにし、その解決に寄与することである。

(2) 調査方法及び対象者

調査方法は、2023年度調査（第1回調査、2023年10月に実施）同様、web上で回答するインターネット調査であり、調査会社（株式会社クロスマーケティング）を通じて、2025年9月30日～10月14日に実施した。最初、2023年度調査回答者に配信し、10月6日以降にその他の登録モニターへの配信を始めた。

対象者は、千葉県在住の調査モニター登録者（男女20～69才）で、2023年度同様、対象者の居住地を本調査第1回設計当時の千葉県総合計画（令和4年3月策定）によって設定された区分である6ゾーン（エリア）に分け、エリアごとに性別・年代が住民基本台帳人口（2025年4月1日時点）に比例するよう割付を行った。

4,998サンプルの配信割付を表1-1に、有効回答数（4,353）を表1-2に示す。有効回答数はエリアによって大きな差があり、東葛・湾岸エリアだけで全体の68.8%を占める。他のエリアは、多い順に、印旛11.2%、内房9.0%、九十九里5.0%、香取・東総3.7%、南房総・外房2.4%である。

表 1-1 配信割付 (n=4,998)

エリア	男性					女性					合計
	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代	
東葛・湾岸	322	331	385	442	286	312	311	360	412	278	3,439
印旛	48	51	64	70	54	45	46	60	66	56	560
内房	40	44	51	59	46	32	36	45	52	44	449
香取・東総	15	15	19	23	24	11	13	17	22	24	183
南房総・外房	8	8	12	16	17	7	7	12	15	16	118
九十九里	19	20	27	33	31	16	18	24	30	31	249
合計	452	469	558	643	458	423	431	518	597	449	4,998

表 1-2 有効回答数 (n=4,353)

エリア	男性					女性					性別他・ 答えたくない	合計
	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代		
東葛・湾岸	76	263	385	443	286	199	311	360	413	278	23	3,037
印旛	10	36	64	70	54	16	46	60	66	56	5	483
内房	7	29	51	59	46	13	36	45	52	44	2	384
香取・東総	1	5	19	23	24	7	7	17	22	13	0	138
南房総・外房	1	2	12	16	17	0	7	11	15	14	0	95
九十九里	2	20	27	33	31	3	15	24	30	29	2	216
合計	97	355	558	644	458	238	422	517	598	434	32	4,353

表 1-3 各ゾーン（エリア）別自治体一覧（数字は有効回答数）

東葛・湾岸	千葉市 725, 市川市 368, 船橋市 509, 習志野市 124, 八千代市 151, 浦安市 126, 松戸市 392, 野田市 81, 柏市 273, 流山市 111, 我孫子市 104, 鎌ヶ谷市 73
印旛	成田市 82, 佐倉市 123, 四街道市 64, 八街市 37, 印西市 90, 白井市 47, 富里市 23, 酒々井町 8, 栄町 9
内房	市原市 184, 木更津市 98, 君津市 40, 富津市 23, 袖ヶ浦市 39
香取・東総	香取市 27, 神崎町 3, 多古町 7, 東庄町 7, 銚子市 44, 旭市 31, 匝瑳市 19
南房総・外房	勝浦市 12, いすみ市 26, 大多喜町 2, 御宿町 3, 館山市 21, 鴨川市 10, 南房総市 20, 鋸南町 1
九十九里	東金市 49, 山武市 26, 大網白里市 36, 九十九里町 11, 芝山町 2, 横芝光町 9, 茂原市 54, 一宮町 3, 睦沢町 2, 長生村 7, 白子町 7, 長柄町 3, 長南町 7

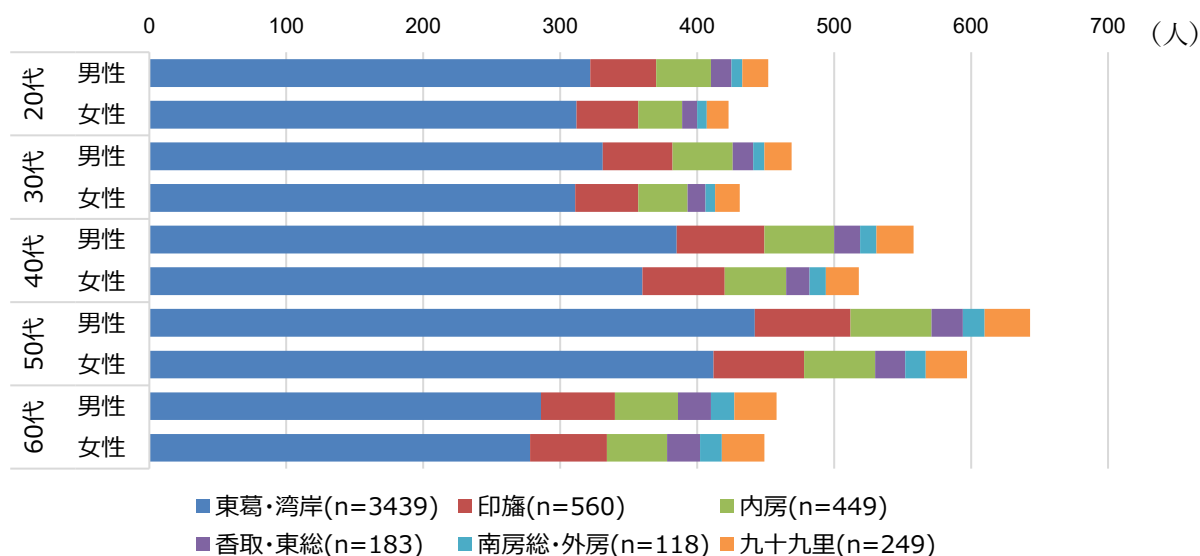


図 1-1 配信割付（n=4,998）のエリア別性別年代

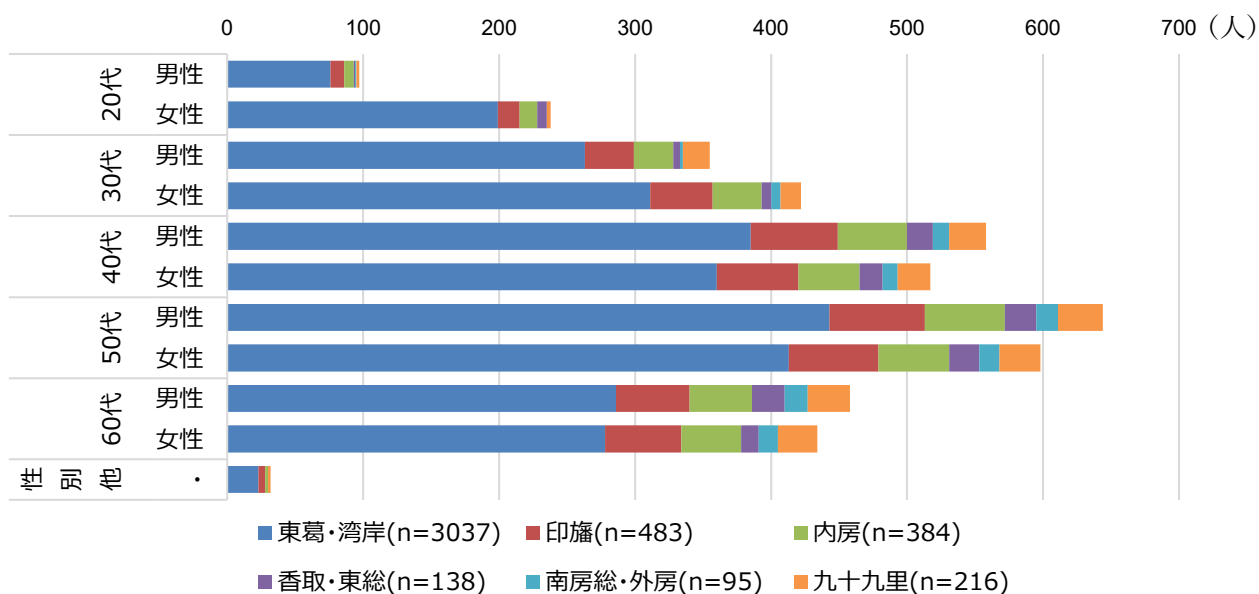


図 1-2 対象者（有効回答 n=4,353）のエリア別性別年代

年代は、エリアごとに若干の差がある。若い層がもっとも多いのは東葛・湾岸エリアであり、次いで、印旛、内房、九十九里、香取・東総、南房総・外房の順であった。この順は2023年度調査と同様だが、いずれのエリアでも若年層の回答割合が2023年度よりも若干少なくなっており、この傾向は南房総・外房エリアで顕著であった。

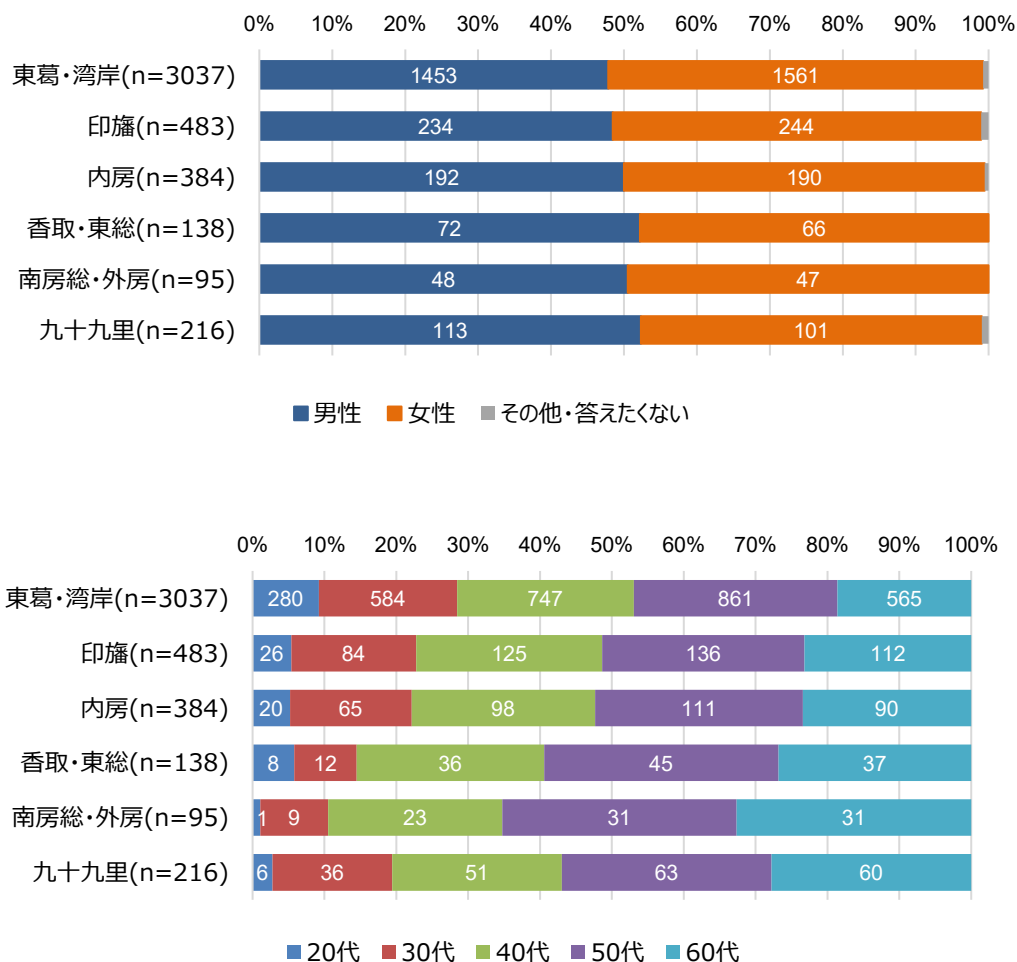


図 1-3 対象者（有効回答）のエリア別性別年代

今回の調査の有効回答は、約半数が2023年度調査にも回答した対象者の回答、もう半数が今回はじめて回答した対象者の回答である。

ただし、若い層ほど2023年度調査回答者から回答が得られにくかったために、年代別に大きな差が表れた。エリア別の若干の差は、この年代別の差による影響と考えられる（若い層が多いエリアでは2023年度調査回答者割合が若干少ない）。性別では、男性で2023年度調査回答者割合が少ない。「若い層で今回初めて回答した対象者の割合が高く、高齢層で2023年度回答者の割合が高い」という傾向は男性においてとくに顕著であった。

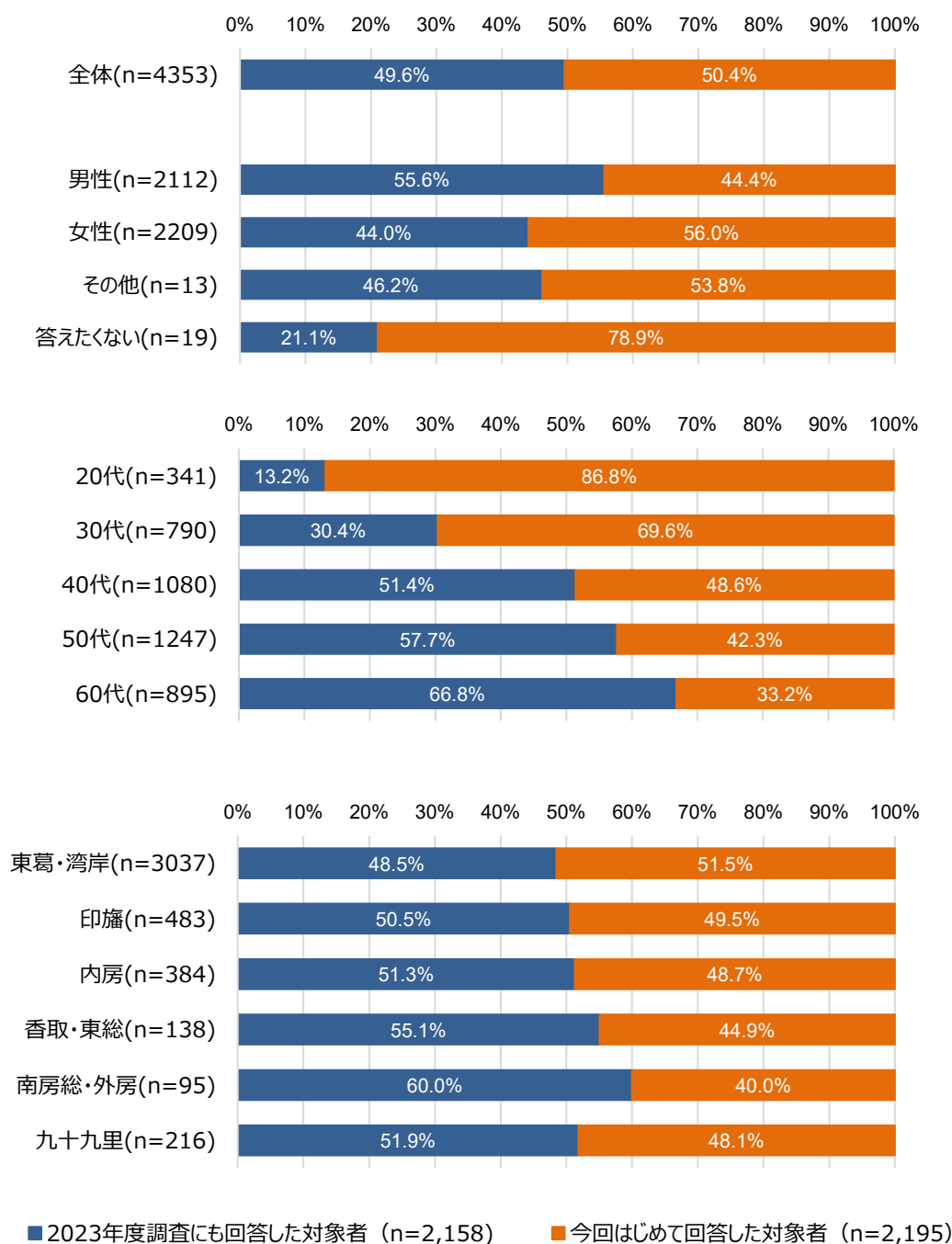


図 1-4 対象者（有効回答）の2023年度調査回答割合

(3) 調査項目の設計について

本調査は、2023年度を第1回とし、以降隔年で5回の調査を予定している。そのため、9年間の千葉県の変化をゾーン別に把握することを念頭においた。特定の領域に限定せず、できるだけ広範な領域をカバーできる総合社会調査とすることを目指した。

調査項目の設計は、学内コア委員と学外委員が中心となり、継続的に同一の設問で社会の変化を把握するコア項目を策定した。また、共同調査者である読売新聞東京本社から要望のあった設問を取り入れた。

さらに、学内でその都度掲載するアドホックな設問を公募し、採択にあたってはアドホック委員とした。

- 淑徳大学学内コア委員

山本 功	コミュニティ政策学部	教授
青柳涼子	コミュニティ政策学部	教授
本多敏明	コミュニティ政策学部	教授
八田和子	コミュニティ政策学部	准教授
伊藤潤平	コミュニティ政策学部	助教
永房典之	人文学部	教授

- 学外委員

佐藤麻衣	名寄市立大学保健福祉学部	講師
鈴木あい	福島大学教育推進機構	特任准教授
高木大資	京都大学大学院医学研究科	特定准教授

- 淑徳大学学内アドホック委員

中坪太一郎	総合福祉学部	教授
-------	--------	----

- オブザーバー

菅原康司	株式会社生活環境工房あくと	代表
若林直子	株式会社生活環境工房あくと	顧問 (拓殖大学政経学部社会安全学科 教授)

主な調査項目を表1-4に示す。多くの項目が2023年度調査と同様であるが、一部に今回新しく追加した項目がある。

なお、本調査の実施主体は、淑徳大学社会福祉研究所である（共同調査者：読売新聞東京本社）。事務局は学校法人大乗淑徳学園本部経営企画部が担当した。本調査は、淑徳大学研究倫理審査委員会の審査を受審し、承認を得ていることを付記する（申請番号2025-203）。

本報告書は、今回の調査結果の単純集計、性別・年代別・エリア別集計の結果を概観し、報告するものである。「2.調査結果」では、各節の冒頭にて2023年度調査結果との単純集計比較を行うが、2023年度からの変化に注目すべき点がある場合を除き、基本的に今年度調査の結果のみを報告している。関係各位にご覧いただき、千葉県の現状の把握に何らかの寄与ができれば幸いである。

なお、調査結果のより詳細な分析は調査メンバーをはじめ淑徳大学の研究者によってなされ、学術論文等の分析データとして活用される予定である。

表 1-4 調査項目一覧

主な調査項目	
個人属性	性別／年齢／居住市町村 同居家族 (Q1) (Q2) (Q5-11) (Q17-1) / 職業 (SC6) / 学歴 (Q5-12) / 年収 (Q30) / 居住年数 (Q17-2・3)
生活実態・ 習慣・意識	住居 (Q5-1・2) 利用交通手段 (Q5-14・15・16) 情報環境 (Q16) (Q5-13) 健康行動・意識 (Q9) 新 (Q28-1~4) ゆとり・階層意識 (Q28-5~8) / 生活レベル評価 (Q17-6) 新 ギャンブル (Q28-9・10) 新 労働状況 (Q17-4)
交流・サポー ト・福祉	家族・友人等との交流 (Q3) ソーシャル・サポート (Q4) 孤独感 (Q26) / ストレス (Q27) 各機関信頼度 (Q12) 生活保護に関する意見 (Q10) 新 / 社会保障受給状況 (Q5-17・18) 新
地域・コミュ ニティ	地域との関わり (Q5-3~10) 地域満足度 (Q8) / 地域環境評価 (Q7) 地域信頼感 (集団的効力感) (Q18-3~7) 地域安全確保主体への意見 (Q21-6・7・8*) *新 地域変化 (Q18-8~10) 新
犯罪・防犯	犯罪被害実態 (Q13) (Q6-7) 犯罪不安感 (Q14) / 犯罪被害予想 (Q17-5) 固定電話対策実施状況 (Q6-1・2・4*) *新 相談窓口等の認知度 (Q11) 少年犯罪や刑罰への意見 (Q21-1~5) 特殊詐欺予防イベント経験 (Q6-5) 新 / 警察巡回連絡経験 (Q6-6) 新
災害・防災	災害不安感 (Q23) / 災害被害経験 (Q22) 新 災害備え実施状況 (Q24) (Q21-9・10) ペット飼育状況 (Q5-19・20) 新 / ペット災害対策実施状況 (Q25) 新
行政・施策 への意見	自治体の施策・サービス評価 (Q18-1・2) 政策の必要性意向 (Q15)
その他	行動基準 (Q19) いじめに関する認識 (Q20) ジェンダーに関する認識 (Q29)

新 : 今回の調査 (2025 年度調査) で新たに追加した項目

1-2. 回答者の個人属性

(1) 同居家族

〈Q1〉 〈Q5-11〉

「誰とも同居していない（ひとり暮らし）」は21.0%であった。この割合は、東葛・湾岸エリアで多く、九十九里、印旛エリアで少ない。

同居家族は、多い順に「配偶者」52.7%、「子ども」32.4%、「親（配偶者の親を含む）」24.4%、「兄弟姉妹」7.9%であった。この割合はエリアごとに差がみられたが、顕著な差があったのは「親」であり、香取・東総エリアでは34.8%と高いのに対し、東葛・湾岸では22.2%と低かった。

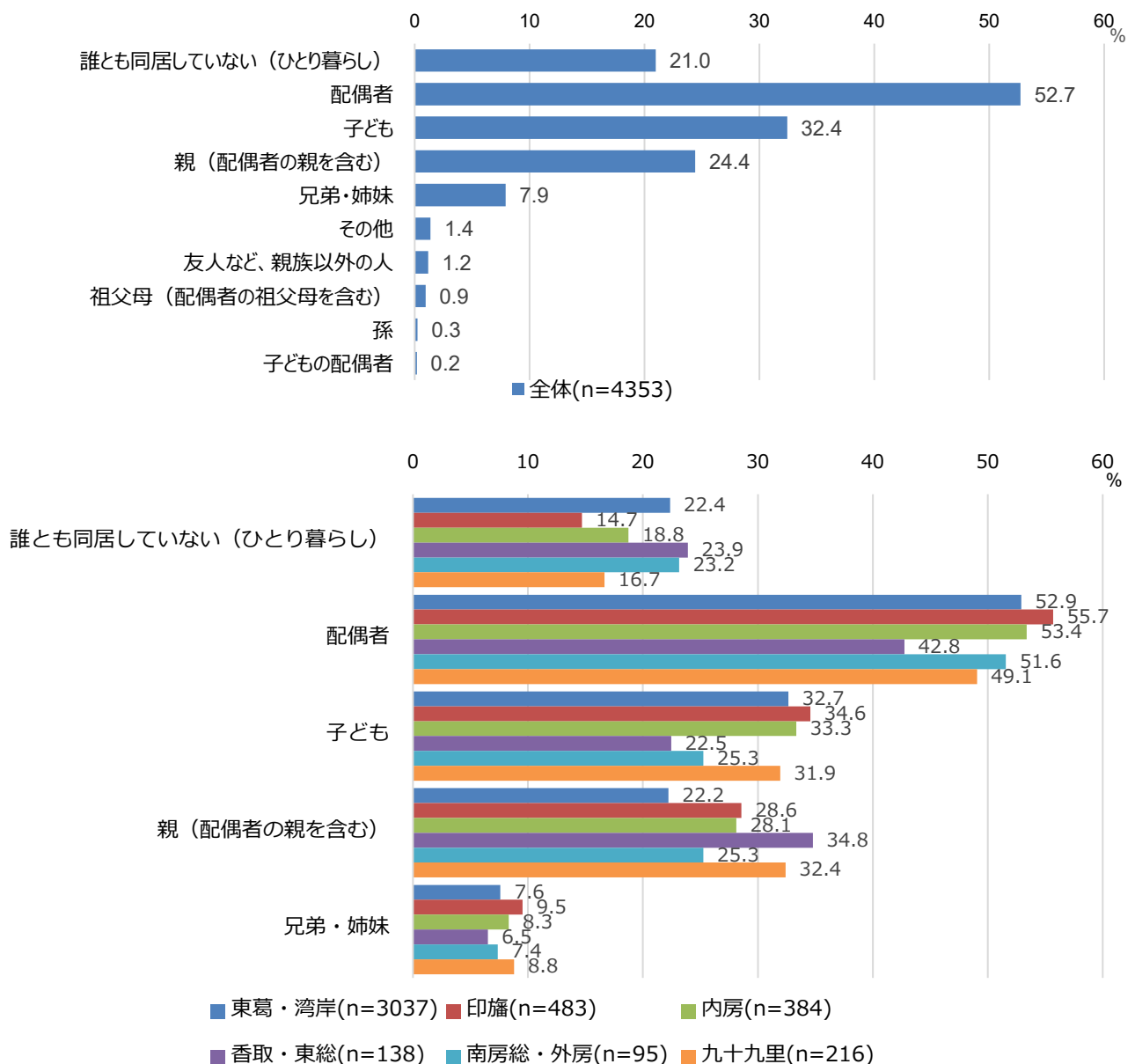


図 1-4 同居家族（複数回答可・%）【上図：全体，下図：エリア別抜粋】

また、同居家族が全員 65 歳以上（自身を含む）である割合は 4.0%であったが、この割合もエリアごとに差がみられた。多い順に、九十九里 9.3%、南房総・外房 7.4%、印旛 5.8%、内房および香取・東総 3.6%、東葛・湾岸 3.3%であった。

(2) 職業 <sc6>

職業は、会社員（会社勤務・会社経営）がもっとも多く 36.0%であった。パート・アルバイトは 16.8%、専業主婦・主夫は 13.1%、無職は 12.4%である。

会社員の割合は、多い順に、東葛・湾岸 38.9%、内房 32.6%、印旛 31.1%、南房総・外房 27.4%、香取・東総 23.9%、九十九里 23.6%である。

(3) 学歴

<Q5-12>

「大学を卒業している（在学中を含む）」率は 47.0%であった。

エリア別に差があり、大卒の割合が高い順に、東葛・湾岸 51.2%、印旛 44.5%、九十九里 35.6%、内房 34.9%、香取・東総 29.7%、南房総・外房 23.2%である。

(4) 年収

<Q30>

「年収（税込み）」について尋ねた結果を図 1-5 および 6 に示す。個人年収については半数以上が 400 万円未満、世帯年収については半数以上が 800 万円未満である。

個人年収は性別で大きく異なり、男性が女性より高い（世帯年収はほぼ変わらない）。また、女性の方が「わからない」という回答が多い傾向がみられた。年代別には、個人年収がもっとも高いのが 40 代、次いで 50 代と 30 代であった。

エリア別の個人年収は、南房総・外房および香取・東総エリアで若干低く、東葛・湾岸エリアで高い傾向がみられた。

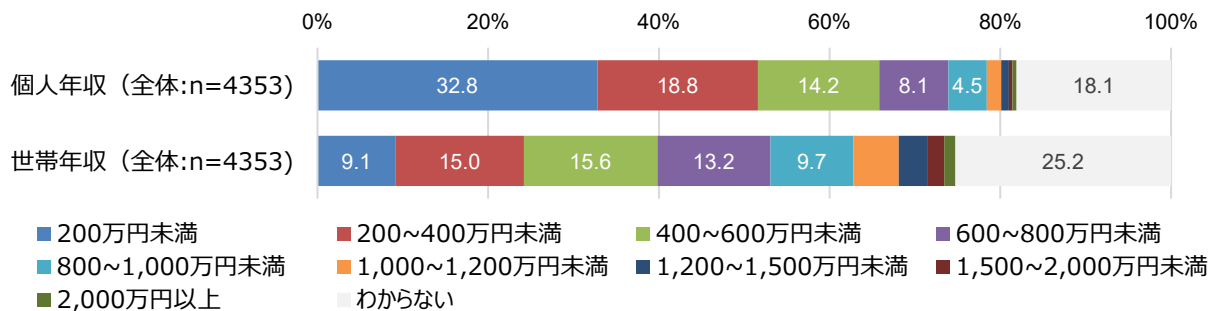


図 1-5 個人年収、世帯年収 (%)

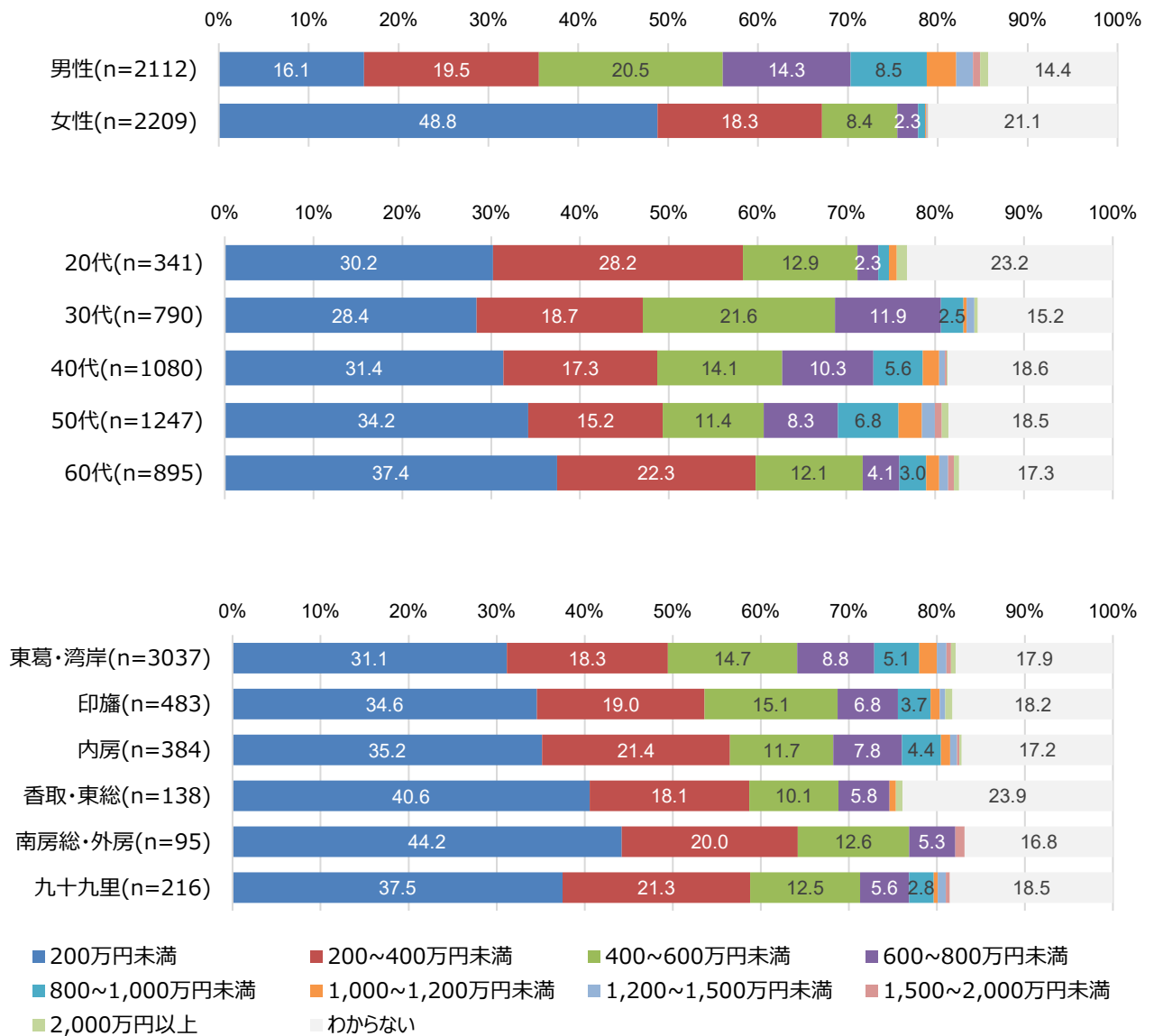


図 1-6 個人年収 (%)【性別、年代別、エリア別】

2. 調査結果

2-1. 生活実態・習慣・生活実感

(1) 住宅

〈Q5-1,2〉

「今の住まい」が「持家（分譲マンション含む）である」割合は63.1%、「戸建てである」割合は52.1%であった。

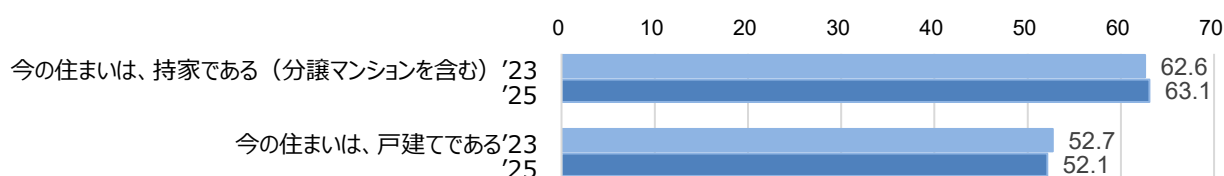


図 2-1 今の住まい (%) 【全体、2023 年度調査結果との比較】

持家率および戸建て率は、高年齢になるにしたがって徐々に高まる（持家率：20代37.0%、30代47.2%、40代62.6%、50代67.8%、60代80.9% / 戸建て率：20代36.1%、30代41.8%、40代52.2%、50代57.2%、60代60.0%）。

戸建て率はエリアによる違いも大きい。南房総・外房や九十九里エリアでは8割超であるのに対し、東葛・湾岸エリアでは5割に満たないという結果であった。

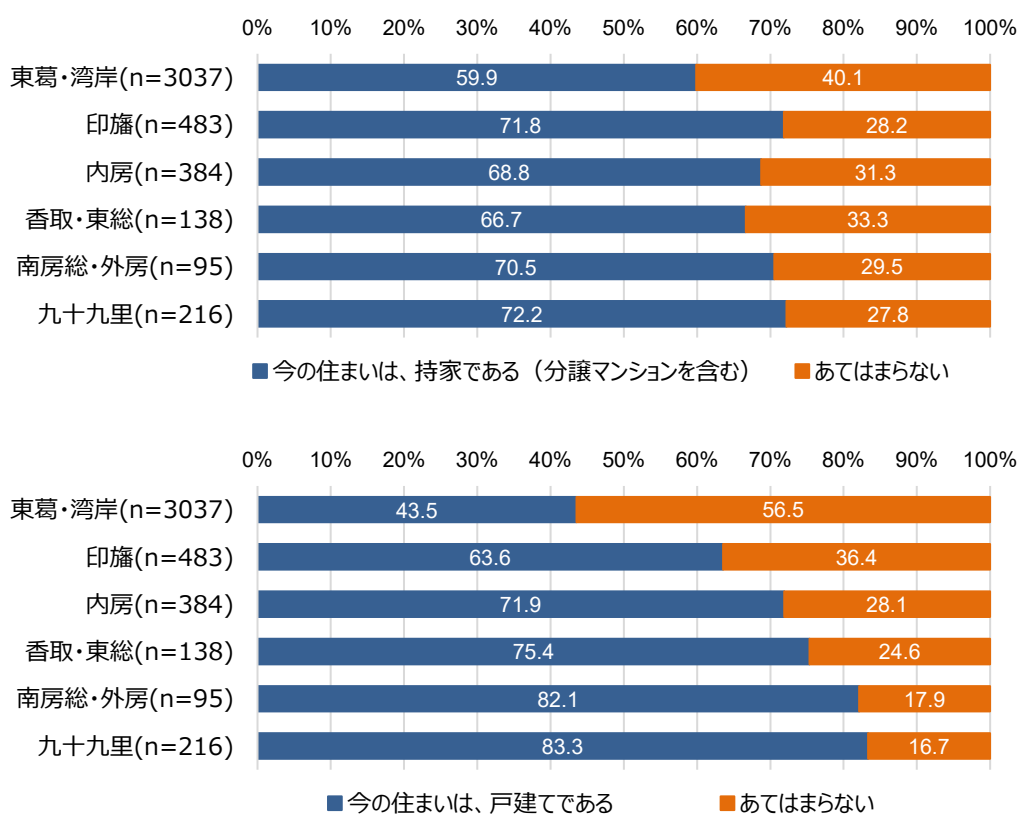
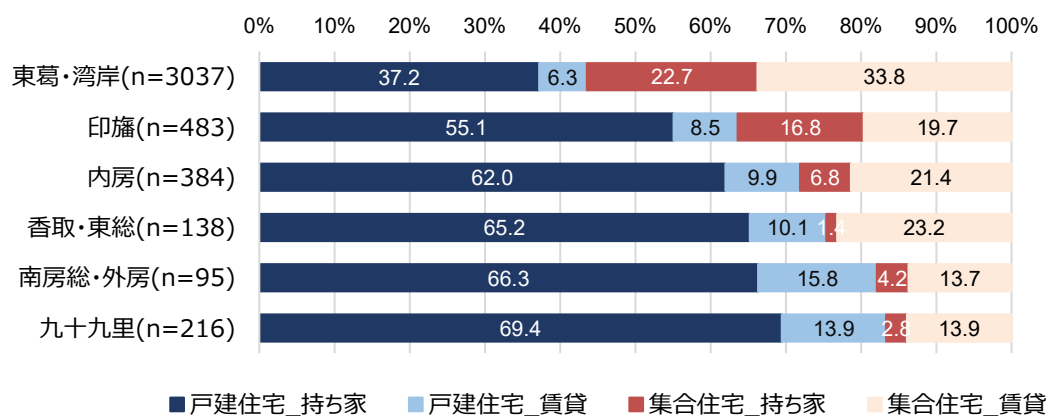


図 2-2 今の住まい (%) 【エリア別】

なお、全体としては、戸建ての場合はほとんどが持家、戸建以外（集合住宅）の場合は賃貸が多い。ただし、東葛・湾岸および印旛エリアでは、賃貸ではない集合住宅（分譲マンション等）も少なくなかった。



※ 戸建て住宅に「あてはまらない」を集合住宅、持家に「あてはまらない」を賃貸と解釈

図 2-3 今の住まい (%) 【エリア別】

(2) 主な交通手段

〈Q5-14～16〉

「ふだん自動車を運転している」率は48.7%、通勤・通学の交通手段として「鉄道（モノレール含む）を利用している」38.5%、「バスを利用している」は11.7%であった。

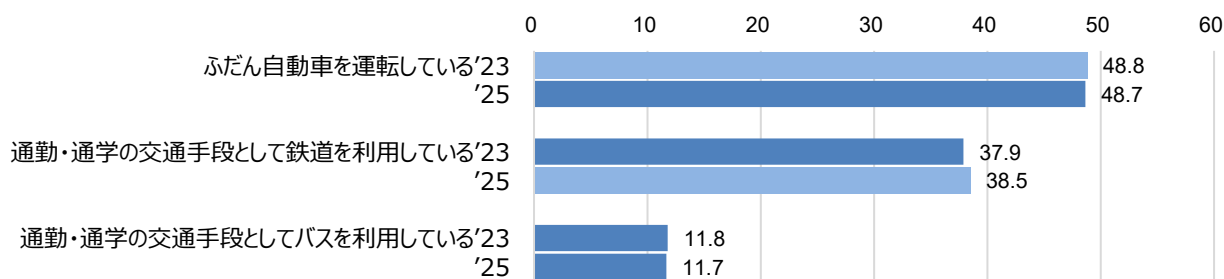


図 2-4 利用交通手段 (%) 【全体、2023 年度調査結果との比較】

自動車運転率は、高年齢になるにしたがって徐々に高まる（20代32.6%、30代39.5%、40代49.1%、50代52.4%、60代57.1%）。通勤・通学のための公共交通手段利用率はこの逆である（鉄道：20代54.3%、30代45.2%、40代38.9%、50代37.2%、60代27.8%）。

エリア別には、東葛・湾岸エリアでは自動車運転率が比較的低く鉄道等利用率が高い、香取・東総や南房総・外房エリアではその逆という結果であった。

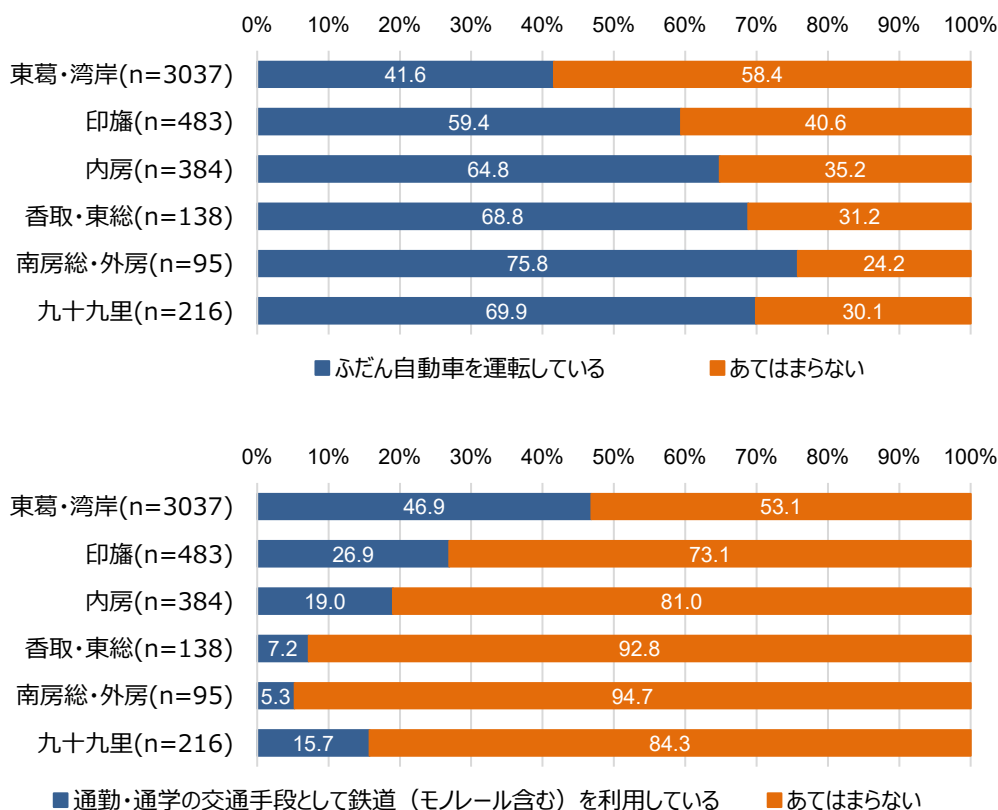


図 2-5 利用交通手段 (%) 【エリア別】

(3) 情報環境

〈Q16〉 〈Q5-13〉

パソコン等の所持、新聞・テレビ視聴、SNS 利用等の情報環境について、あてはまるか否かを聞いた結果を図 2-6 および表 2-1 に示す。

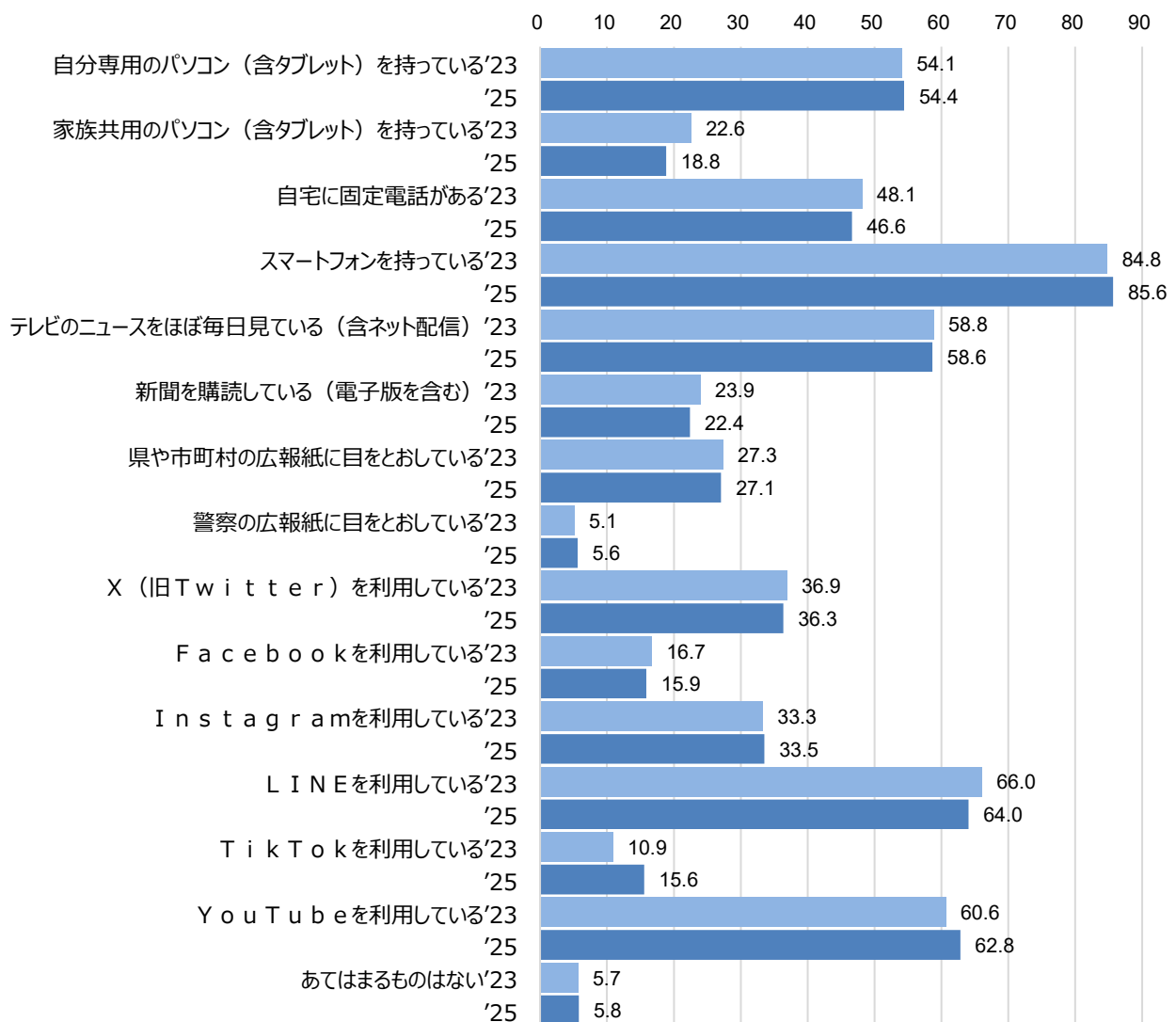


図 2-6 情報環境（複数回答可・%）【全体、2023 年度調査結果との比較】

スマートフォンの所持率（85.6%）と Facebook 利用率（16.7%）を除き、年代による顕著な差がみられた。年齢が高くなるにしたがって該当率が高くなるのは、主に以下の項目である。

- ・ 「自宅に固定電話がある」（30代 21.0%、60代 68.2%）
- ・ 「テレビのニュースをほぼ毎日見ている（含ネット配信）」（20代 33.4%、60代 65.1%）
- ・ 「新聞を購読している（含電子版）」（20代 7.3%、60代 36.2%）
- ・ 「県や市町村の広報紙に目をとおしている」（20代 11.1%、60代 41.9%）
- ・ 「警察の広報誌に目をとおしている」（20代 1.8%、60代 10.6%）

若いほど該当率が高いのは、以下のような SNS の利用率である。

- ・ 「X（旧 Twitter）を利用している」（20代 62.2%、60代 22.1%）
- ・ 「Instagram を利用している」（20代 61.3%、60代 23.0%）
- ・ 「TikTok を利用している」（20代 41.6%、60代 12.3%）
- ・ 「YouTube を利用している」ss（20代 74.8%、60代 55.9%）

「LINE を利用している」(20代 74.8%、60代 63.6%) も同じ傾向ではあるが、その差は他に比べると小さく、高年齢層にも広く普及していることがわかる。

なお、とくに20代は他の年代に比べ「あてはまるものはない」が11.1%と高く、「スマートフォンを持っている」が76.2%と少ない。他の年代よりもいい加減回答が多いと解釈すると、SNS利用率の差はより大きいと考えることができる。

表 2-1 情報環境（複数回答可・%）【年代別、性別、全体】

情報環境（年代別、性別）	年代別					性別		全体 (n=4535)
	20代	30代	40代	50代	60代	男性	女性	
	(n=341)	(n=790)	(n=1080)	(n=1247)	(n=895)	(n=2112)	(n=2209)	
自分専用のパソコン（含タブレット）を持っている	48.7	47.5	49.2	57.8	64.4	63.3	46.0	54.4
家族共有のパソコン（含タブレット）を持っている	11.1	16.2	19.4	20.1	21.6	17.0	20.7	18.8
自宅に固定電話がある	29.9	21.0	39.2	58.4	68.2	49.8	43.7	46.6
スマートフォンを持っている	76.2	85.1	84.2	86.6	90.2	84.1	87.4	85.6
テレビのニュースをほぼ毎日見ている（含ネット配信）	33.4	46.8	53.4	65.1	75.9	59.4	58.3	58.6
新聞を購読している（電子版を含む）	7.3	11.5	19.5	26.0	36.2	25.7	19.4	22.4
県や市町村の広報紙に目をとおしている	11.1	19.5	21.5	30.4	41.9	25.8	28.4	27.1
警察の広報紙に目をとおしている	1.8	5.1	3.5	5.2	10.6	5.6	5.5	5.6
X（旧 Twitter）を利用している	62.2	50.0	37.6	29.8	22.1	36.6	36.2	36.3
Facebookを利用している	10.0	17.8	16.6	13.5	18.9	18.8	13.2	15.9
Instagramを利用している	61.3	46.7	32.9	25.7	23.0	25.6	41.4	33.5
LINEを利用している	74.8	70.1	63.0	58.5	63.6	58.6	69.6	64.0
TikTokを利用している	41.6	19.1	14.4	11.5	9.5	12.3	18.9	15.6
YouTubeを利用している	74.8	70.3	64.4	58.5	55.9	65.6	60.3	62.8
あてはまるものはない	11.1	6.6	6.8	4.7	3.4	6.0	5.3	5.8

表 2-2 情報環境（複数回答可・%）【エリア別、全体】

情報環境（エリア別）	東葛・湾岸	印旛	内房	香取・東総	南房総・外房	九十九里	全体 (n=4535)
	(n=3037)	(n=483)	(n=384)	(n=138)	(n=95)	(n=216)	
自分専用のパソコン（含タブレット）を持っている	55.2	54.7	51.0	46.4	51.6	55.1	54.4
家族共有のパソコン（含タブレット）を持っている	19.6	20.3	18.0	10.1	14.7	14.4	18.8
自宅に固定電話がある	44.3	52.2	51.6	52.2	49.5	53.2	46.6
スマートフォンを持っている	85.6	85.3	86.2	87.7	81.1	87.0	85.6
テレビのニュースをほぼ毎日見ている（含ネット配信）	58.7	56.7	61.2	55.1	54.7	61.1	58.6
新聞を購読している（電子版を含む）	21.2	24.8	23.2	30.4	26.3	25.0	22.4
県や市町村の広報紙に目をとおしている	25.5	32.3	24.7	31.9	44.2	31.5	27.1
警察の広報紙に目をとおしている	4.5	6.8	6.0	10.9	12.6	11.6	5.6
X（旧 Twitter）を利用している	38.7	32.9	34.4	23.9	20.0	29.6	36.3
Facebookを利用している	16.2	15.7	15.9	13.0	17.9	12.5	15.9
Instagramを利用している	34.5	31.7	34.4	31.9	25.3	27.3	33.5
LINEを利用している	65.7	61.7	60.4	55.8	51.6	63.4	64.0
TikTokを利用している	15.8	14.9	16.7	12.3	16.8	12.5	15.6
YouTubeを利用している	63.6	62.3	64.1	50.0	53.7	62.5	62.8
あてはまるものはない	6.0	5.2	5.5	6.5	7.4	4.2	5.8

性別による差も若干みられた。「自分専用のパソコン（含タブレット）を持っている」は男性で若干多く、Instagram や LINE の利用は女性の方が多いなどである。

エリアによる顕著な傾向はみられなかった。

「よく読書をする（電子書籍を含む）」に対して「あてはまる」は全体で 32.1%であった。読書率の性年代による差は小さいが、女性（34.1%）の方が男性（30.0%）より、若年層より高年齢層の方が読書率が若干高いという傾向がみられた。

エリアでは、南房総・外房で読書率が低い傾向がみられた。

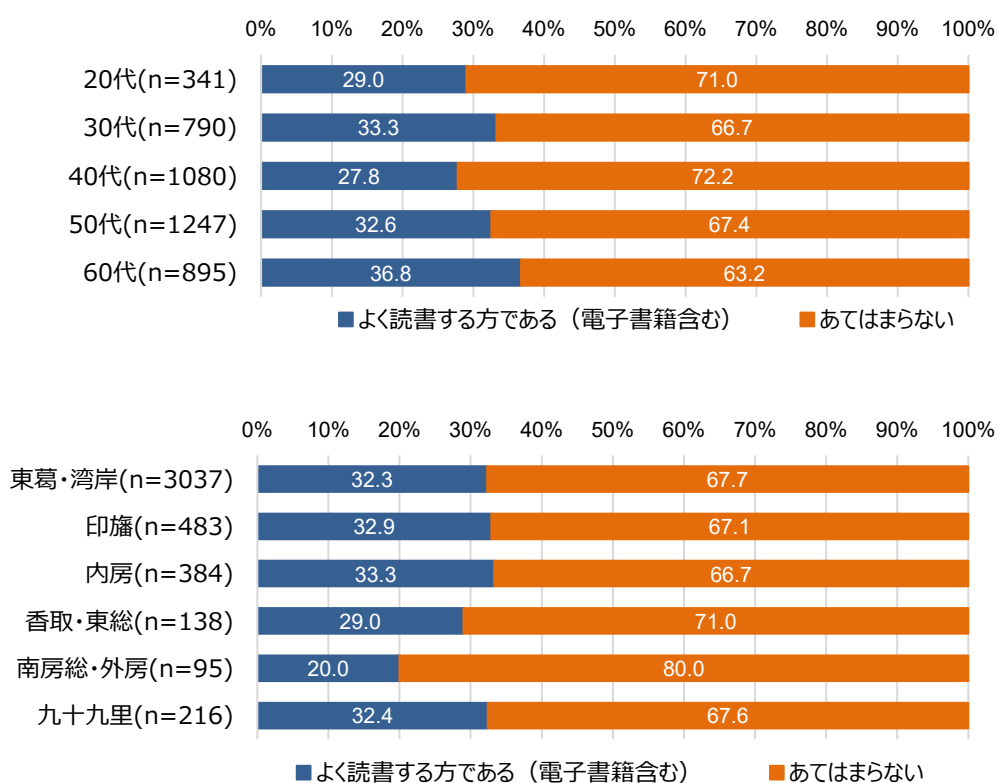


図 2-7 「よく読書をする方である」 (%) 【年代別・エリア別】

(4) 健康行動・意識

〈Q28-1~4〉

「毎日たばこを吸っている」「毎日お酒を飲んでいる」は2割前後、「毎日2食以上野菜を食べている」は52.3%、「健康状態はとてもよい」は53.3%という結果であった（4件法。「あてはまる」+「どちらかといえばあてはまる」の合計）。

性別・年代別にみると、「たばこ」「お酒」については男性・高齢で、「野菜」については女性・高齢で該当者が多かった。「健康状態はとてもよい」については、性別による差はほとんどなく、年代では、60代に該当者が若干多いという傾向がみられた。

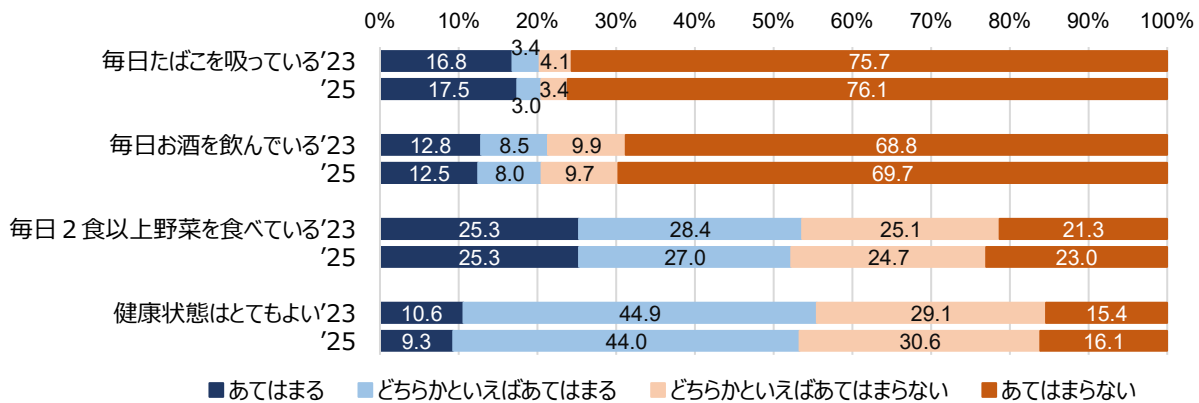


図 2-8 健康行動・意識 (%) 【全体、2023 年度調査結果との比較】

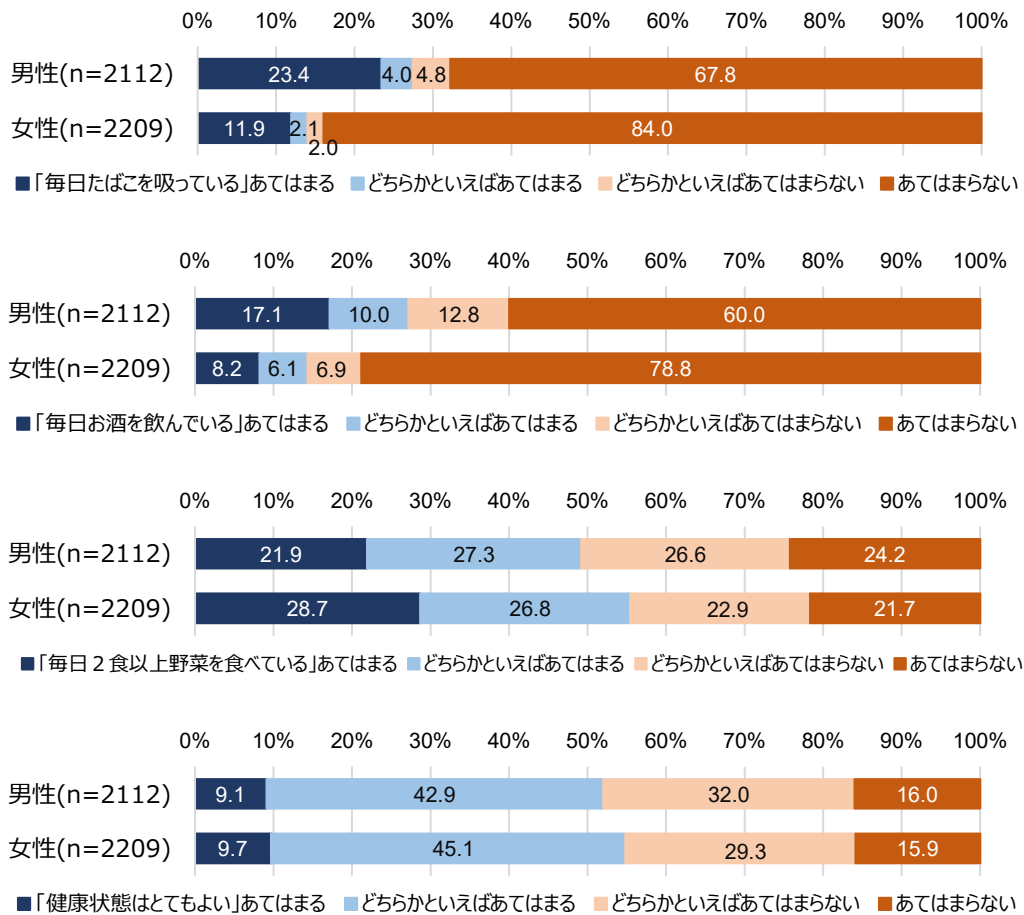


図 2-9 健康行動・意識 (%) 【性別】

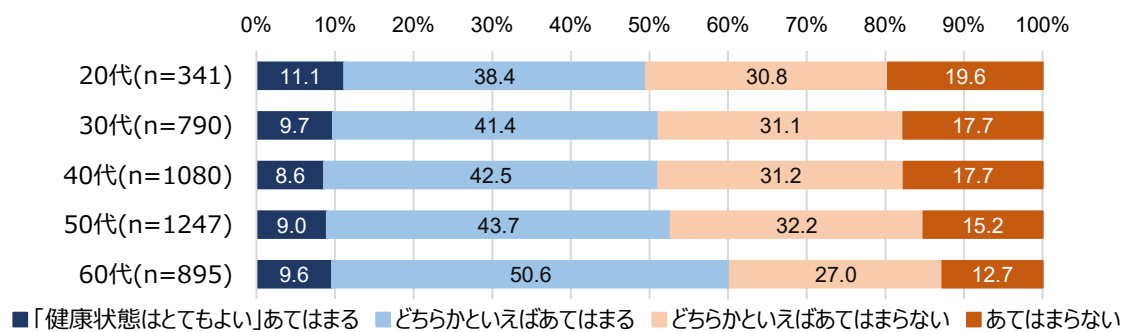
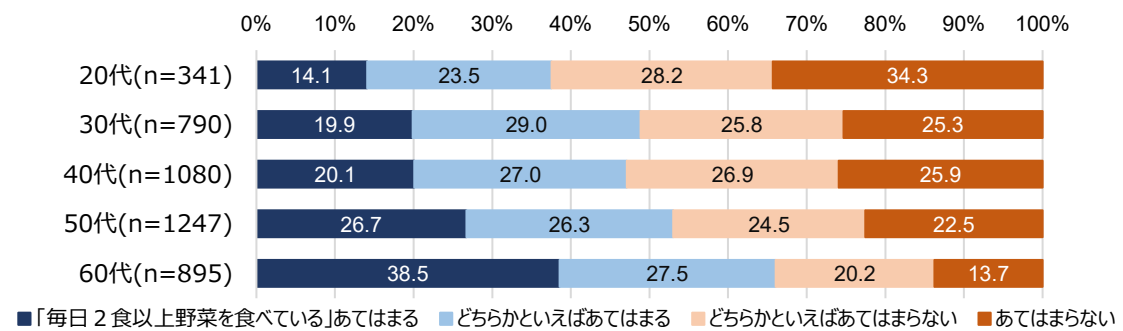
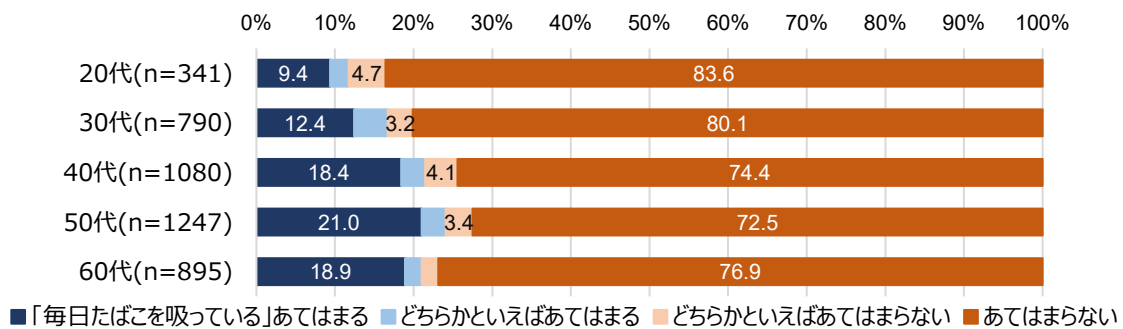
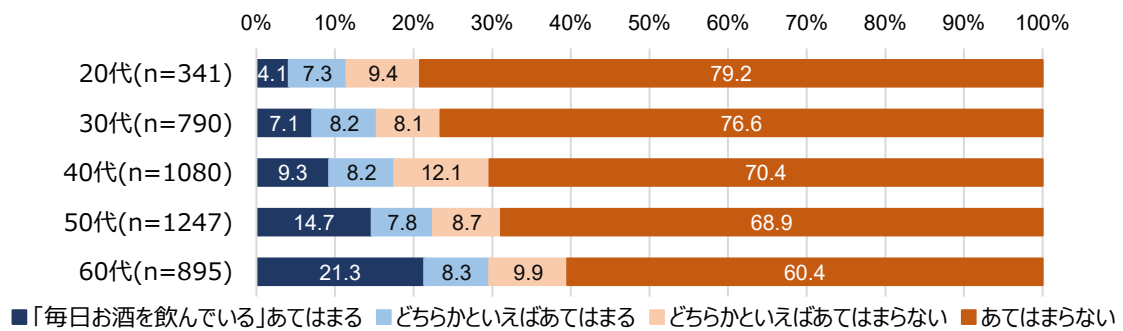


図 2-10 健康行動・意識 (%)【年代別】

エリア別の差は顕著ではないが、以下のように若干の差がみられる項目があった。

- ・ 「たばこ」：九十九里、次いで南房総・外房で該当者が多く、印旛、東葛・湾岸で少ない。
- ・ 「お酒」：南房総・外房、次いで香取・東総で該当者が多く、印旛で少ない。

なお、南房総・外房の「お酒」の該当者は、2023年調査時点より約10%程度多くなっている。

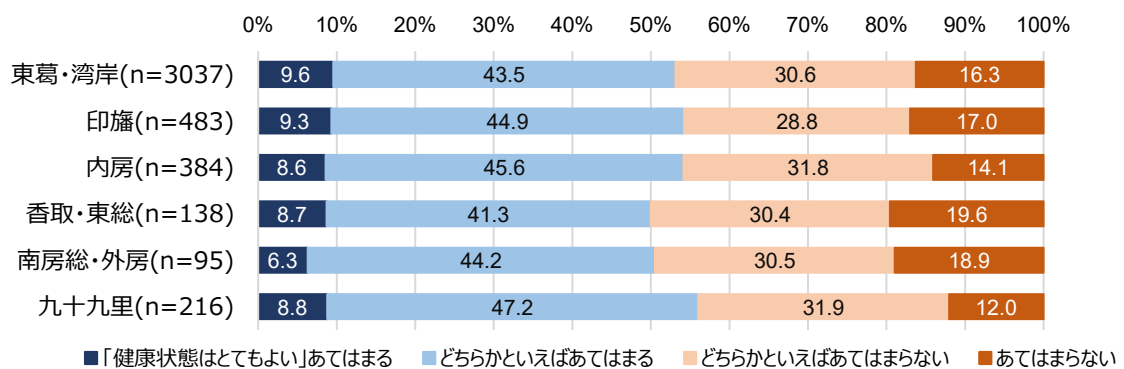
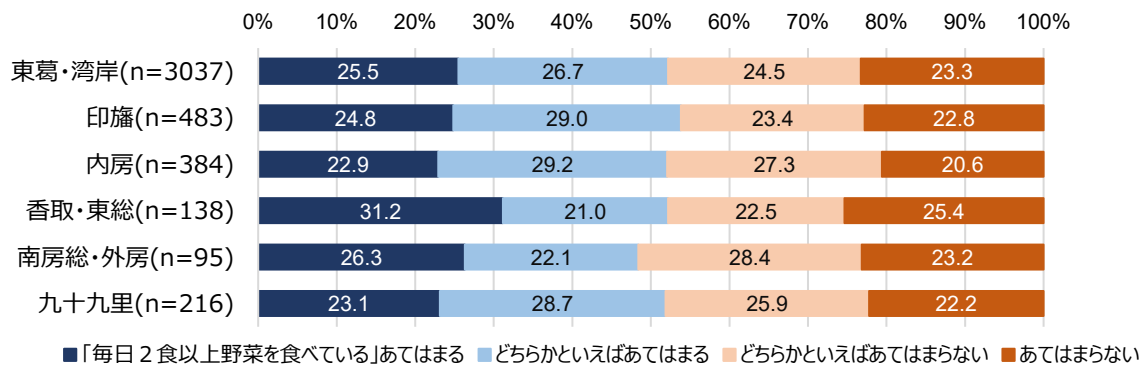
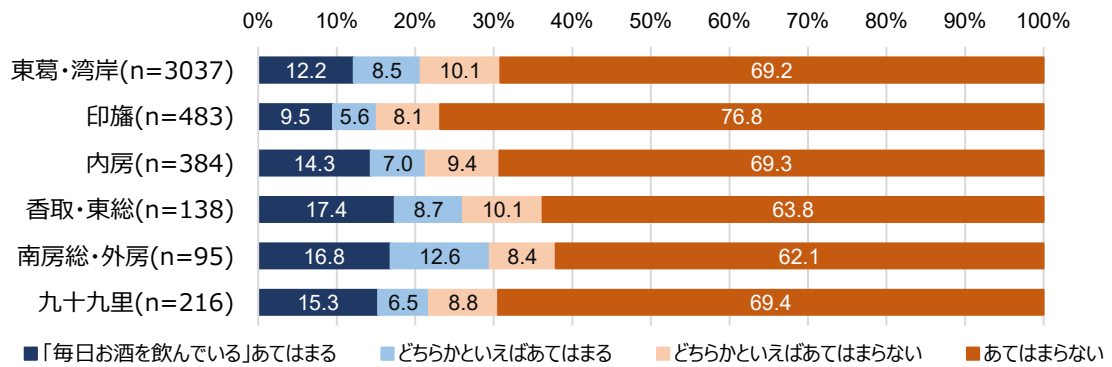
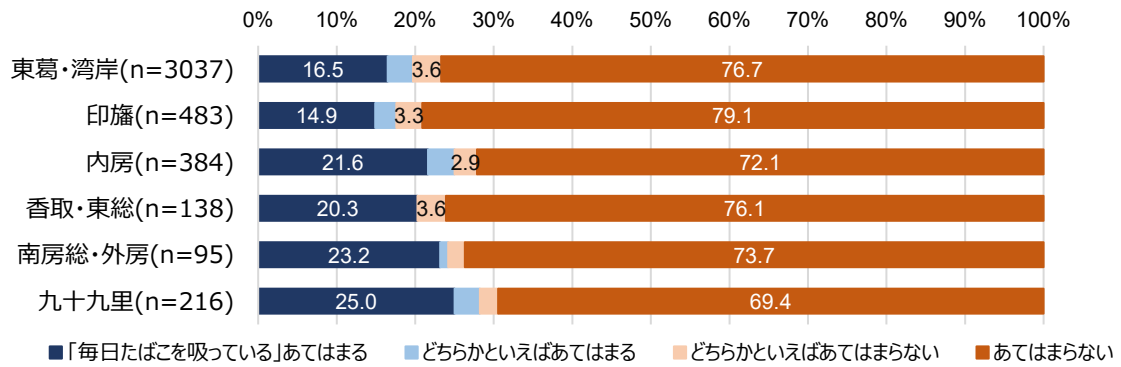


図 2-11 健康行動・意識 (%)【エリア別】

(6) 生活レベル評価

〈Q17-6〉

「あなたが考える最高の生活を10点（満点）としたときに、あなたの今の生活は0～10のうち何点の位置にあると思うか」という設問では、全体の平均は5.6点、中央値は6点、最頻値は5点という結果であった。

性別では、女性（平均5.8点）の方が男性（同5.4点）より若干評価が高い傾向があった。年代別では、60代（平均6.0点）が他の年代より評価が高い（30代・20代・50代が平均5.5点、40代が平均5.4点）。

エリア別では、評価の平均点が高い順に、東葛・湾岸（平均5.7点）、印旛および内房（同5.5点）、九十九里（同5.3点）、南房総・外房および香取・東総（同4.9点）であった。性別・年代別よりもエリア別の差の方が顕著であり、たとえば東葛・湾岸と南房総・外房では明確な差がみられた。

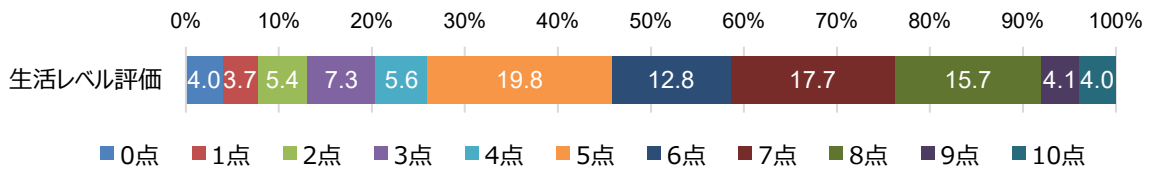


図 2-12 生活レベル自己評価 (%) 【全体、2023 年度調査結果との比較】

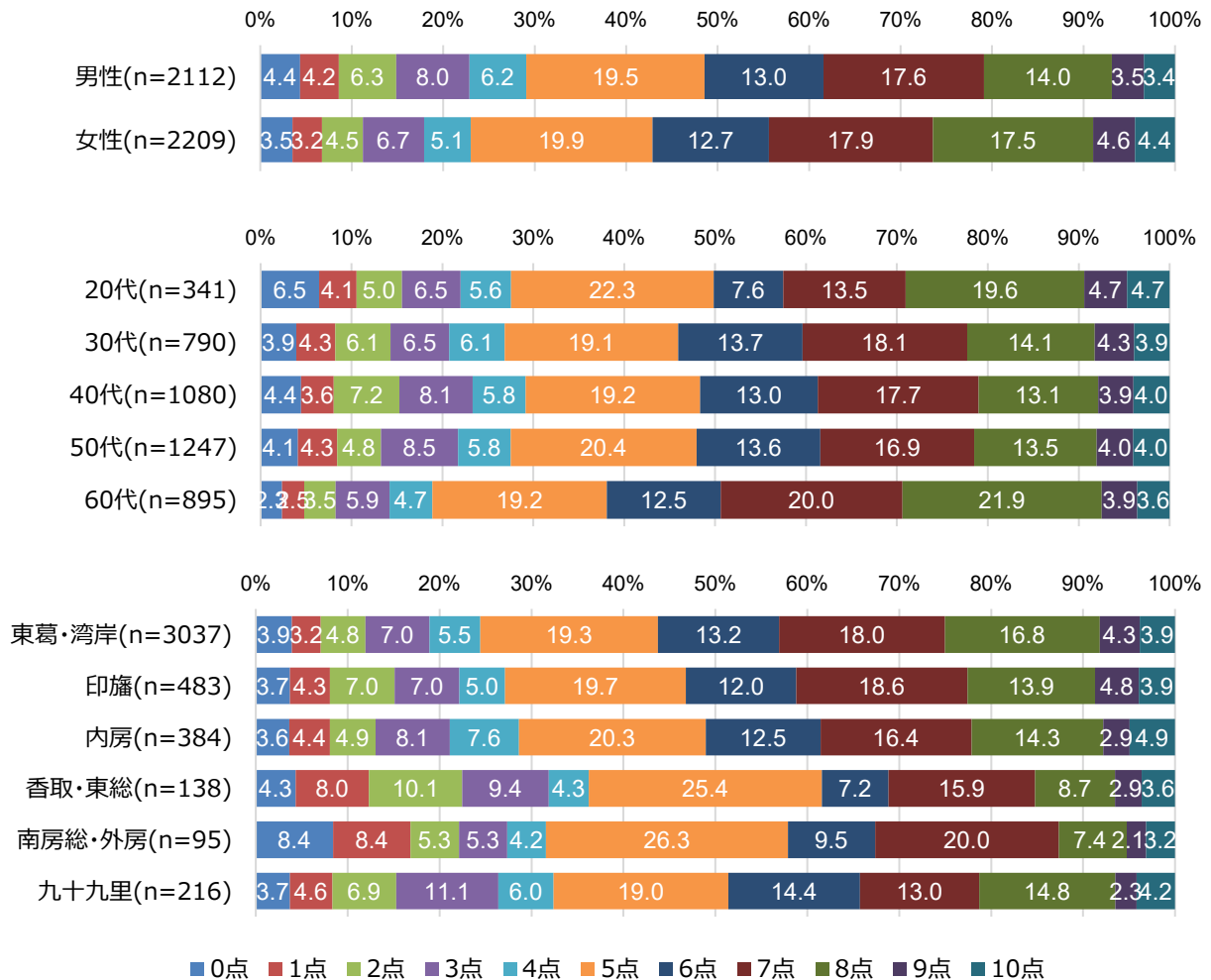


図 2-13 生活レベル自己評価 (%) 【性別、年代別、エリア別】

(7) メンタルヘルス

〈Q9〉

メンタルヘルスに関する自己評価について4件法で聞いた結果を図2-14に示す。「体力が落ちたと感じる」「やる気が低下している」「物覚えが悪くなっている」は「そう思う」側の回答の方が多いが、その他の多くの項目は「そう思う」側と「そう思わない」側が拮抗しているといえる。

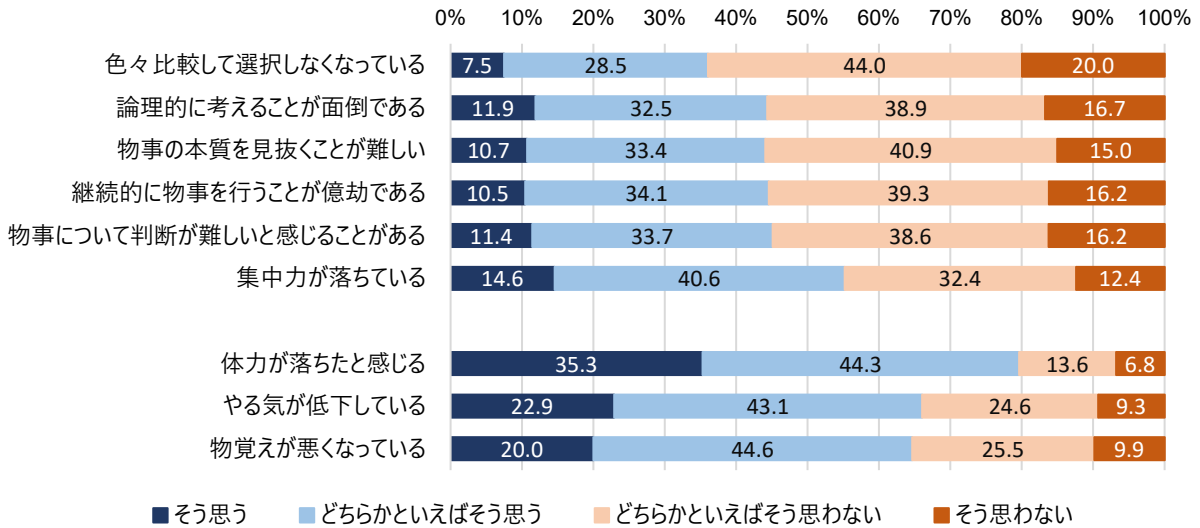


図2-14 メンタルヘルス自己評価 (%)【全体】

図2-15および図2-17は、「そう思う」を4点～「そう思わない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

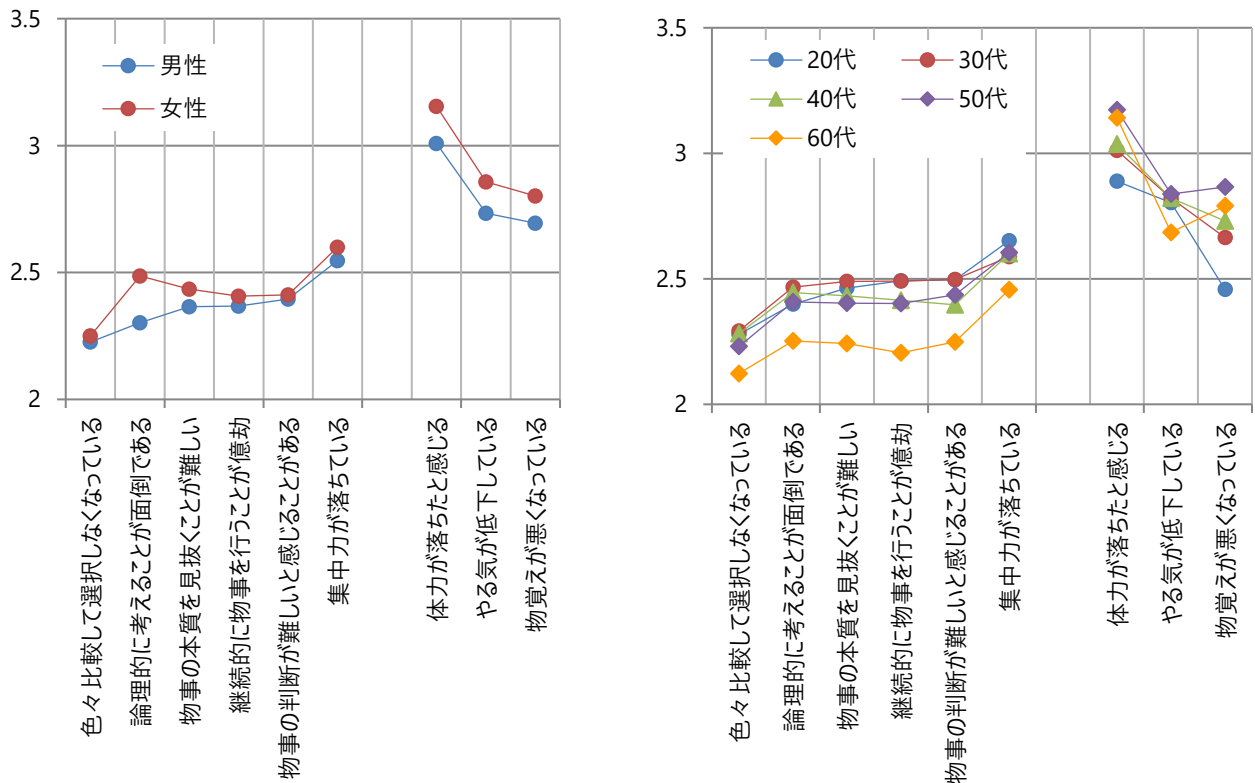


図2-15 メンタルヘルス自己評価 (平均点)【性別、年代別】

項目を問わず、性別では女性の方が「そう思う」側の回答が多いという傾向がみられる。とくに「論理的に考えることが面倒」では差が大きい。

年代別では、「体力が落ちたと感じる」「物覚えが悪くなっている」以外の項目で、若年層の方が「そう思う」側の回答が若干多い傾向がみられる。特徴的なのは60代で、多くの項目において他の年代よりも「そう思わない」側の回答が多いという結果になった。

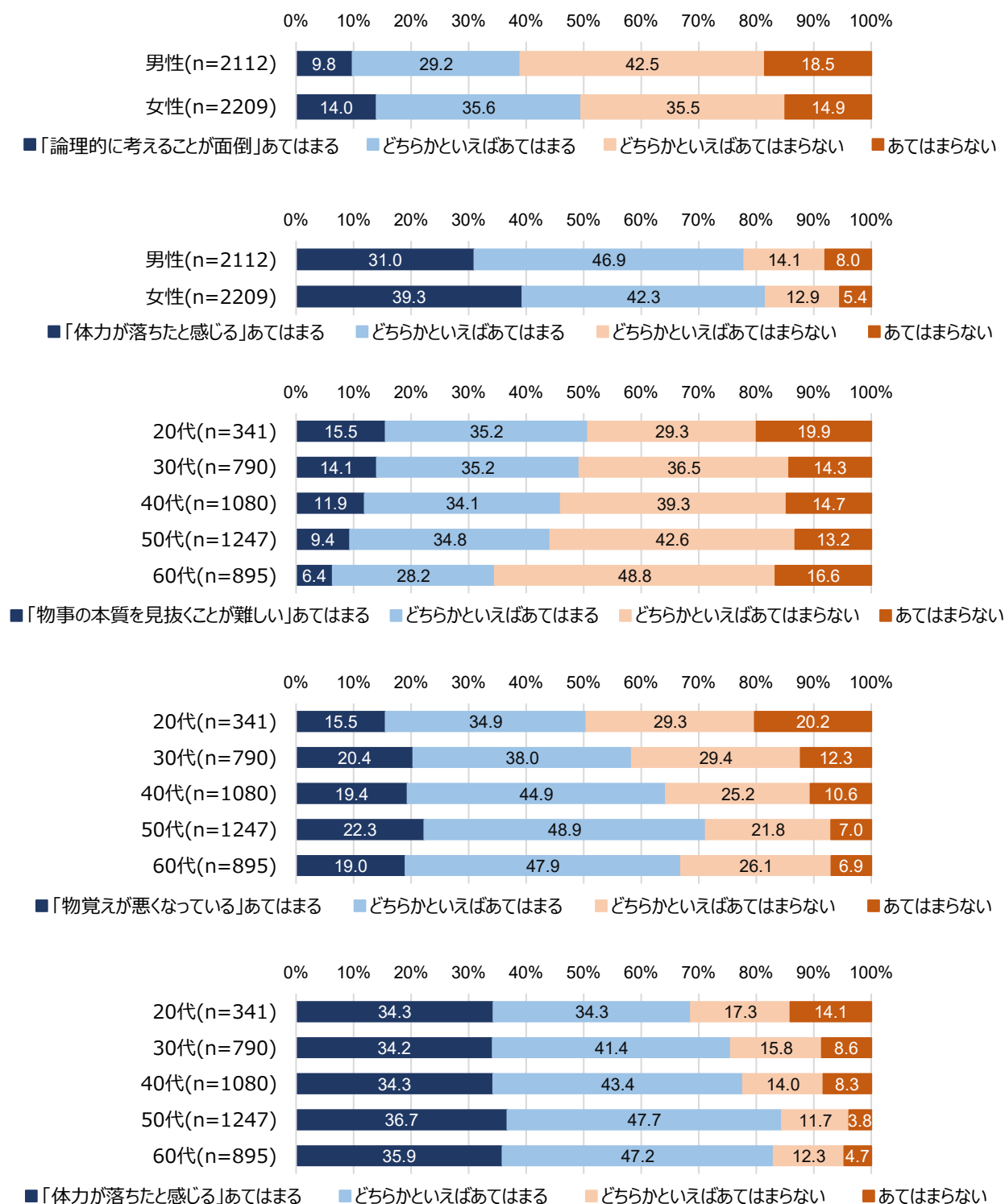


図 2-16 メンタルヘルス自己評価 (%)【性別、年代別】

エリア別では、性別や年代別のような一貫した特徴はみられなかったが、いくつかの項目において、南房総・外房、および内房において「そう思う」側の回答が若干多いという傾向がみられた。たとえば「論理的に考えることが面倒」「継続的に物事を行うことが億劫」等である。

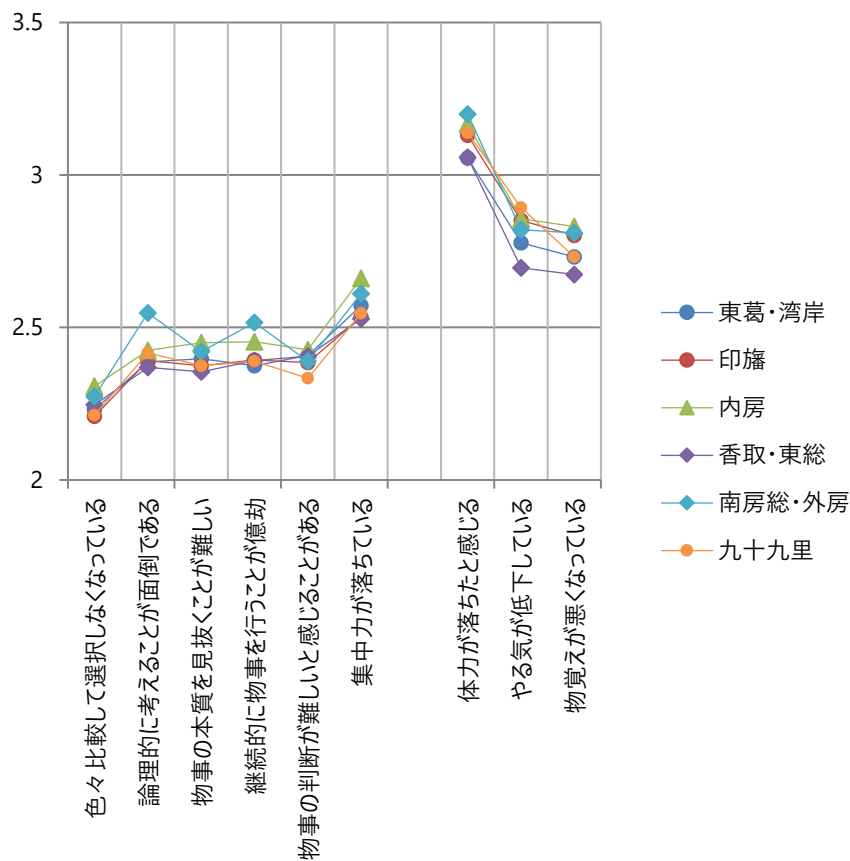


図 2-17 メンタルヘルス自己評価（平均点）【エリア別】

(8) ゆとり・階層意識

〈Q28-5~8〉

「時間的なゆとりを感じる」は50.4%と半数、「精神的なゆとりを感じる」は41.8%、「経済的なゆとりを感じる」は32.7%、「生活の程度は平均よりも上のほうだと思う」は31.5%という結果であった（4件法。「あてはまる」+「どちらかといえばあてはまる」の合計）。

性別では差はなかったが、年代別では、60代がもっとも「ゆとりを感じる」世代、40代がその逆であるという特徴がみられた。中でも顕著に60代の該当者が多いのは「時間的なゆとり」と「精神的ゆとり」である。

エリア別では、香取・東総等で「ゆとり」を感じる割合等が若干低いという傾向があった。

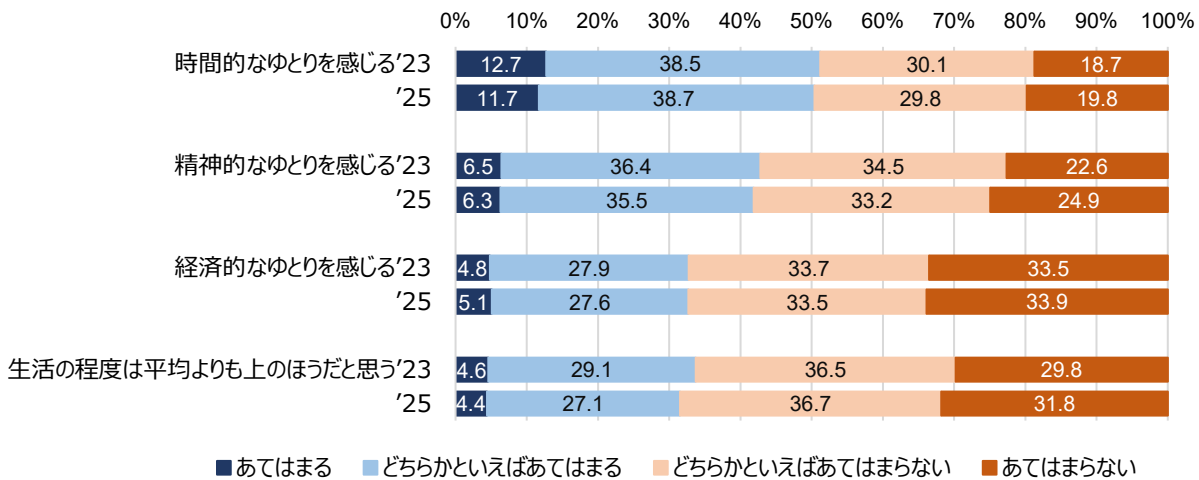


図 2-18 ゆとり・階層意識 (%) 【全体、2023 年度調査結果との比較】

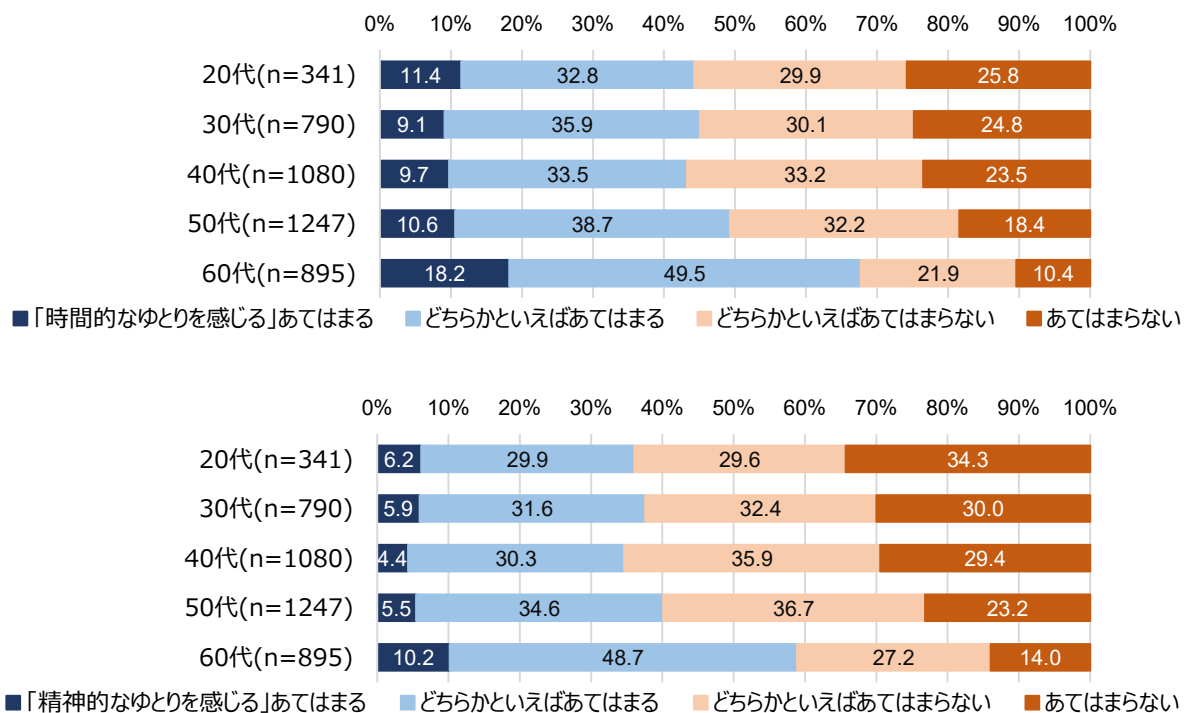


図 2-19-1 ゆとり・階層意識 (%) 【年代別】

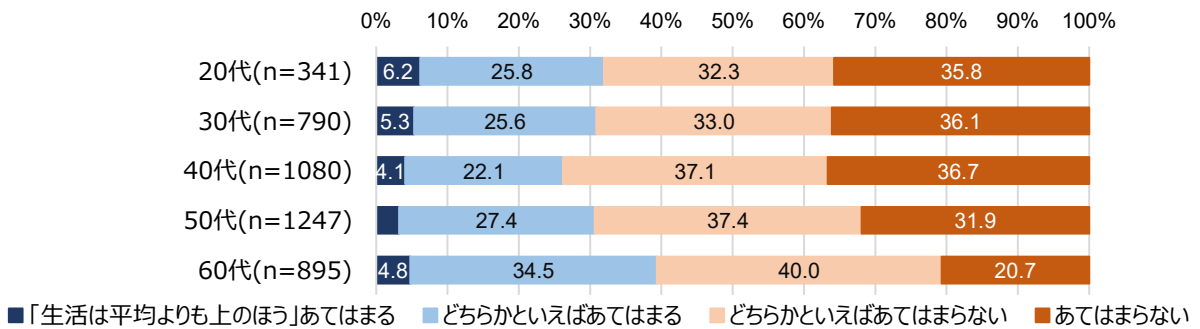
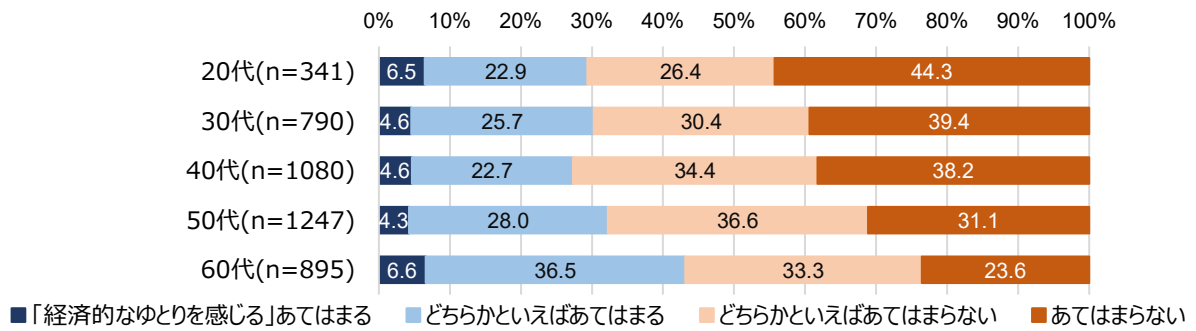


図 2-19-2 ゆとり・階層意識 (%)【年代別】(続き)

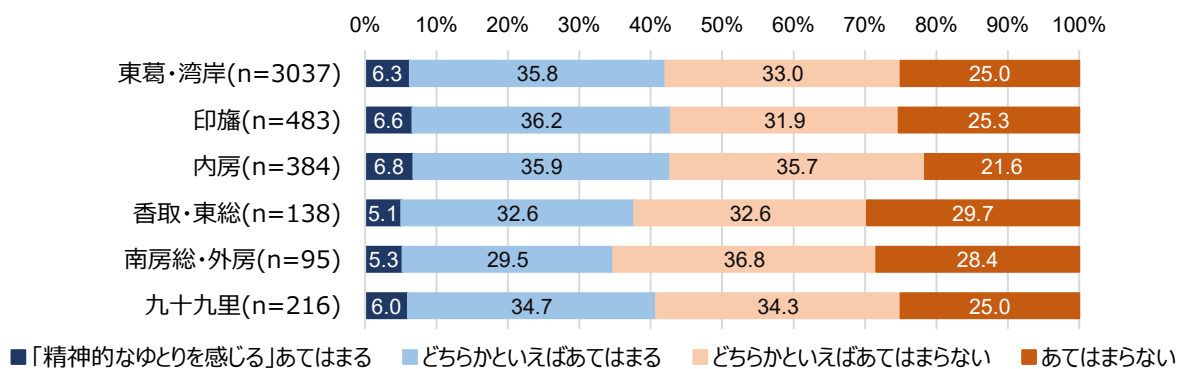
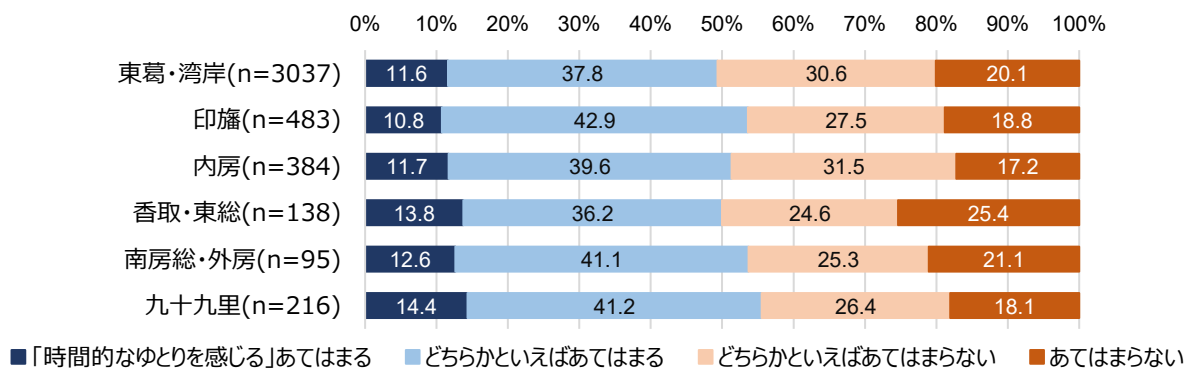


図 2-20-1 ゆとり・階層意識 (%)【エリア別】

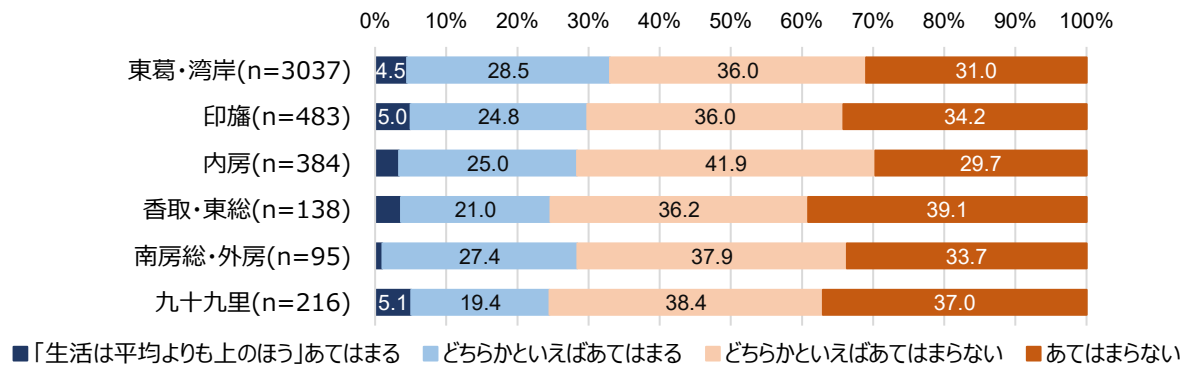
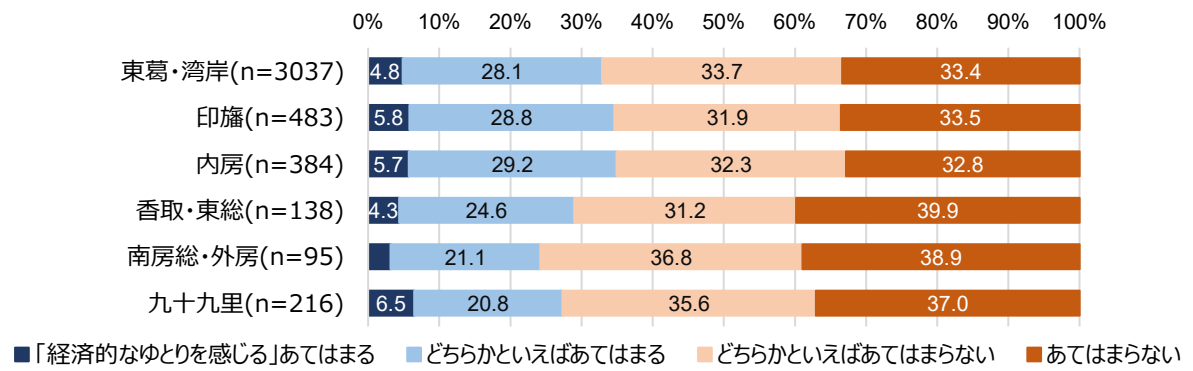


図 2-20-2 ゆとり・階層意識 (%)【エリア別】(続き)

(9) ギャンブル

〈Q28-9,10〉

「週1回以上、パチンコ・パチスロやギャンブルなどに参加する」および「自分はギャンブルに関する問題を抱えているかもしれないと思うことがある」について4件法で聞いたところ、両項目とも「あてはまらない」が85%と大半であった。当然のことながら、両者の相関は非常に高い（R=0.69）。

性別では、男性の方が女性よりも「あてはまる」率が高い。年代別、エリア別には明確な差はないが、40代、香取・東総において同率が若干高い傾向がみられる。

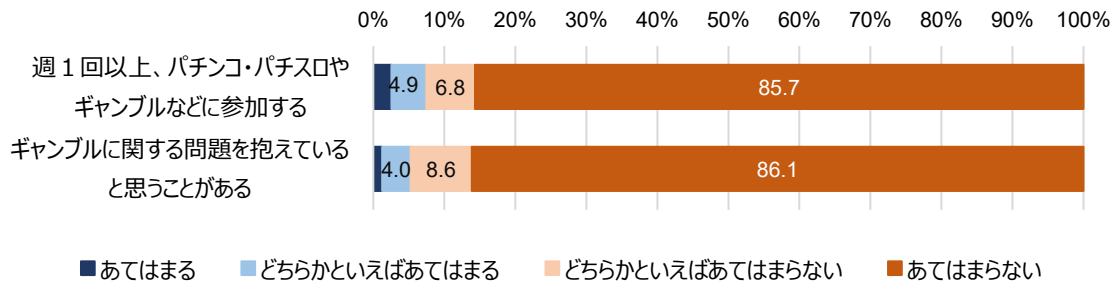
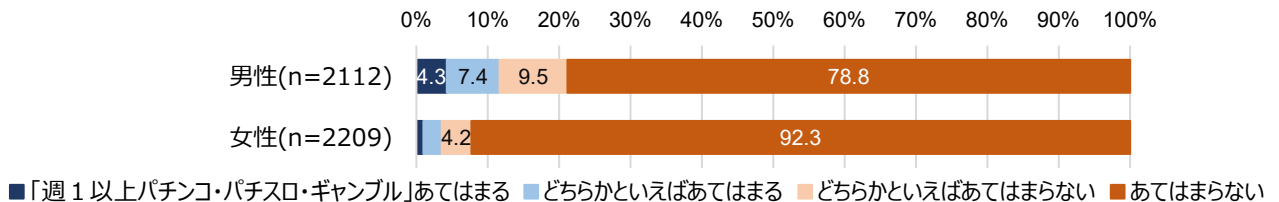
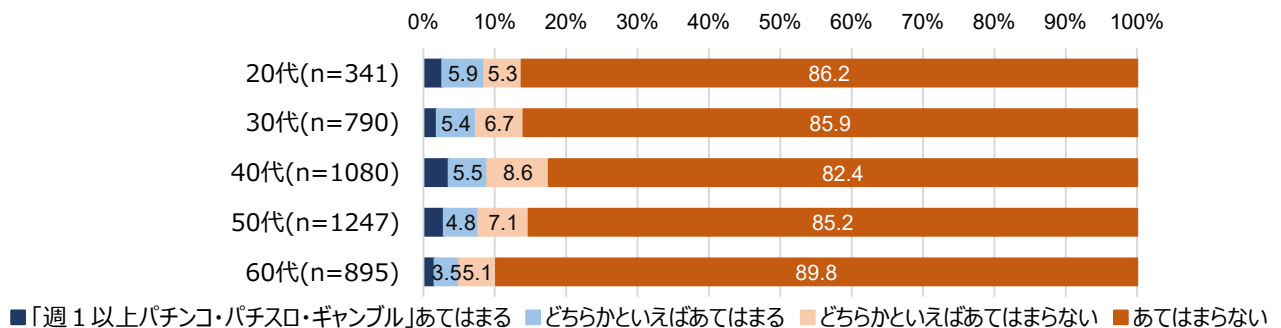


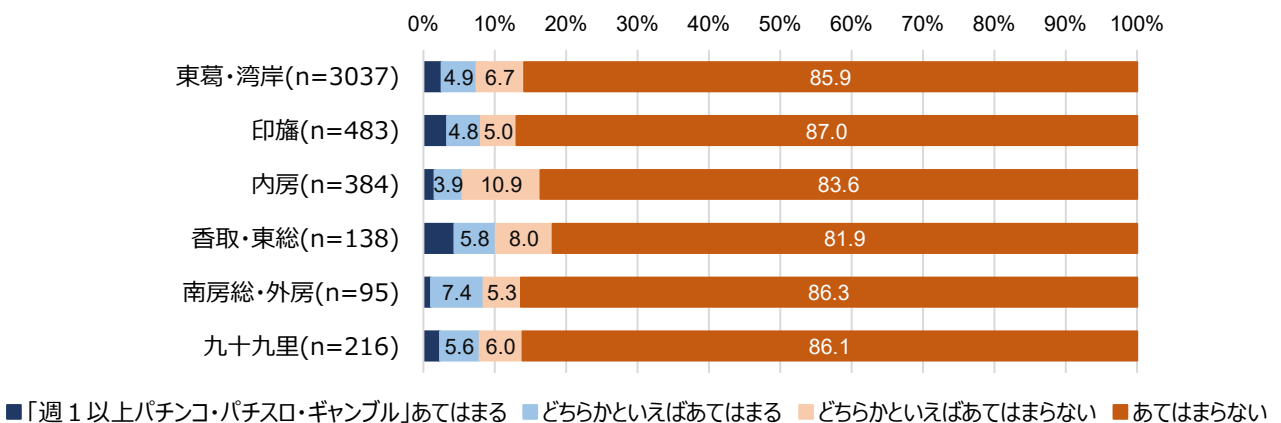
図 2-21 ギャンブル経験・依存傾向（%）【全体】



■「週1以上パチンコ・パチスロ・ギャンブル」あてはまる ■どちらかといえばあてはまる ■どちらかといえばあてはまらない ■あてはまらない



■「週1以上パチンコ・パチスロ・ギャンブル」あてはまる ■どちらかといえばあてはまる ■どちらかといえばあてはまらない ■あてはまらない



■「週1以上パチンコ・パチスロ・ギャンブル」あてはまる ■どちらかといえばあてはまる ■どちらかといえばあてはまらない ■あてはまらない

図 2-22 ギャンブル経験（%）【性別、年代、エリア別】

2-2. 交流・サポート・福祉

(1) 家族・友人等との交流

〈Q3〉

電話や手紙、インターネット上のやりとりも含めた交流の頻度について聞いた結果を図 2-23 に示す。「同居している家族」のみ、ひとり暮らしを除いた 3,440 人の結果であるが、もっとも交流の頻度が多いのは「同居家族」であることがわかる。

いずれの項目においても「該当する人がいない」の割合が少なくない。「ボランティア活動の仲間」「インターネット上でつながっている人」は半数以上、「趣味や習い事の仲間」はほぼ半数、「別居している家族」「職場やアルバイト先の人」は 2 割以上が該当者なしである。さらに、2023 年度調査に比べ、これらの項目における「該当する人がいない」割合は微増傾向にある。

図 2-24 は、該当者なしを除いた交流の頻度（4 件法）の結果で、「よく交流している」を 4 点、「まったく交流していない」を 1 点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。もっとも交流しているのが「家族」、次いで「友人」と「職場やアルバイト先の人」であった。該当者なしを除くと、「隣近所の人」と「インターネット上でつながっている人」は同頻度の交流といえる。

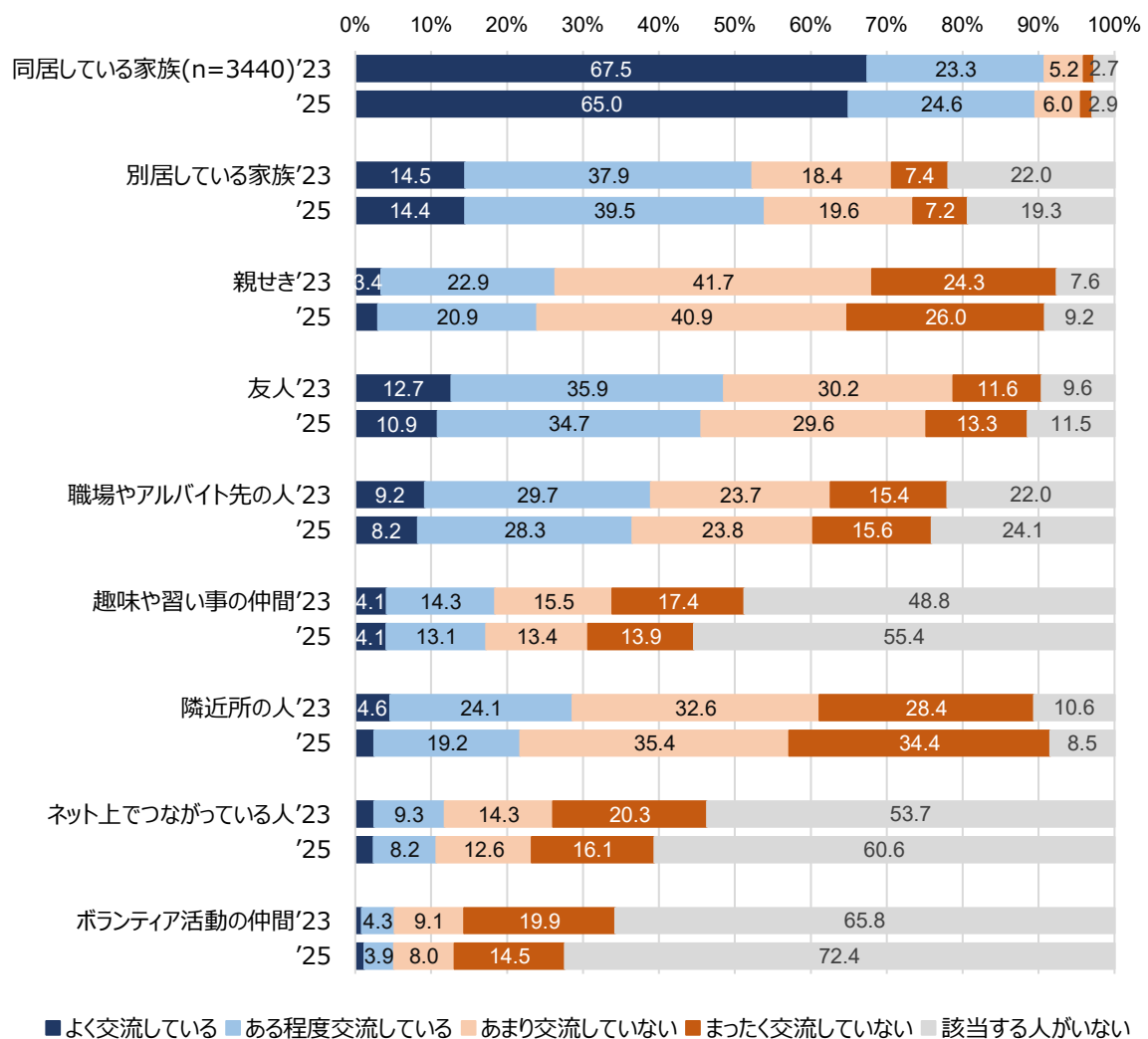


図 2-23 家族・友人等との交流（％）【全体、2023 年度調査結果との比較】

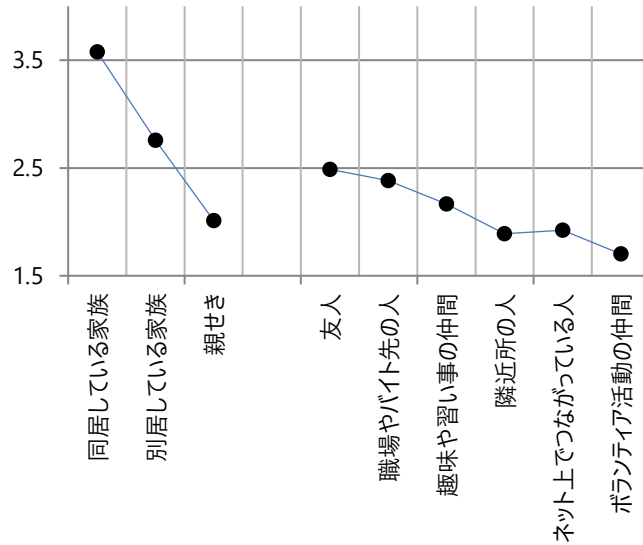


図 2-24 家族・友人等との交流「該当する人がいない」を除いた平均点【全体】

性別によって、該当者なしの割合が異なる項目に一定の傾向がみられた。該当者なしの割合は、男性では「別居家族」（男 221.6%、女 16.7%）、「友人」（男 12.5%、女 10.2%）が若干多く、女性では「職場やアルバイト先の人」（男 17.0%、女 30.6%）、「趣味や習い事の仲間」（男 49.7%、女 60.8%）、「ボランティア活動の仲間」（男 67.3%、女 77.4%）、「インターネット上でつながっている人」（男 57.3%、女 64.0%）が多いという結果である。

該当者なしを除いた交流の頻度の平均点グラフ（図 2-25）をみると、どの項目でも女性の方が交流の頻度が多いことがわかる。以上より、交友範囲は男性の方が広めであり、女性は家族親せきや隣近所に限られる傾向があるが、相対的に交流の頻度は女性の方が多いいえる。

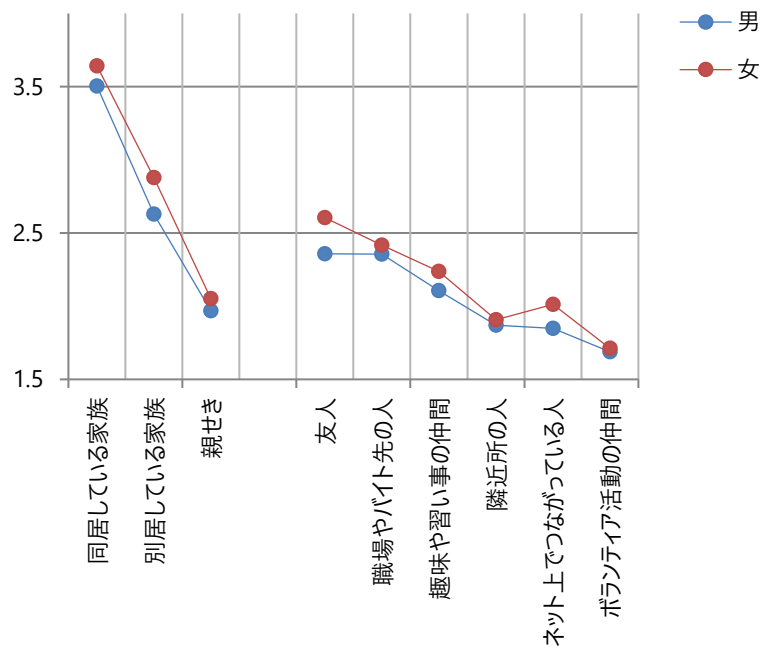


図 2-25 家族・友人等との交流「該当する人がいない」を除いた平均点【性別】

年代別でも、該当者なしの割合が異なる項目に傾向がみられた。該当者なしの割合は、家族、親せき、隣近所では高齢者の方が少なく、職場、インターネットは若年層の方が少ない。友人、趣味等の仲間などについてはまちまちである。

該当者なしを除いた交流の頻度の平均点グラフ（図 2-26）をみると、各年代のうち、とくに 20 代と 60 代に特徴があることが分かる。20 代は、「隣近所の人」を除き、他の世代よりも総じて交流の頻度が多いといえる。とくに「友人」「インターネット上でつながっている人」「趣味等の仲間」などに顕著である。60 代は、20 代に次いで交流の頻度が多い世代といえるが、顕著なのは「隣近所の人」との交流である。

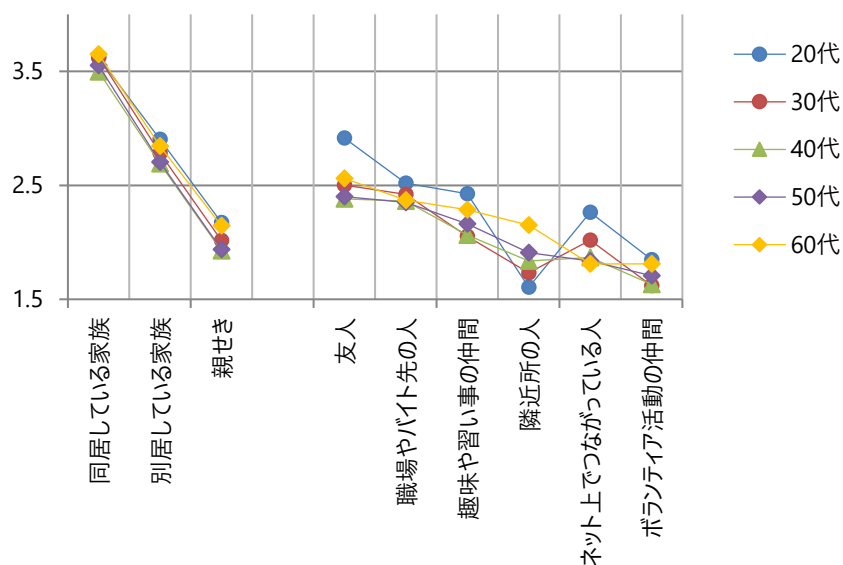


図 2-26 家族・友人等との交流「該当する人がいない」を除いた平均点【年代別】

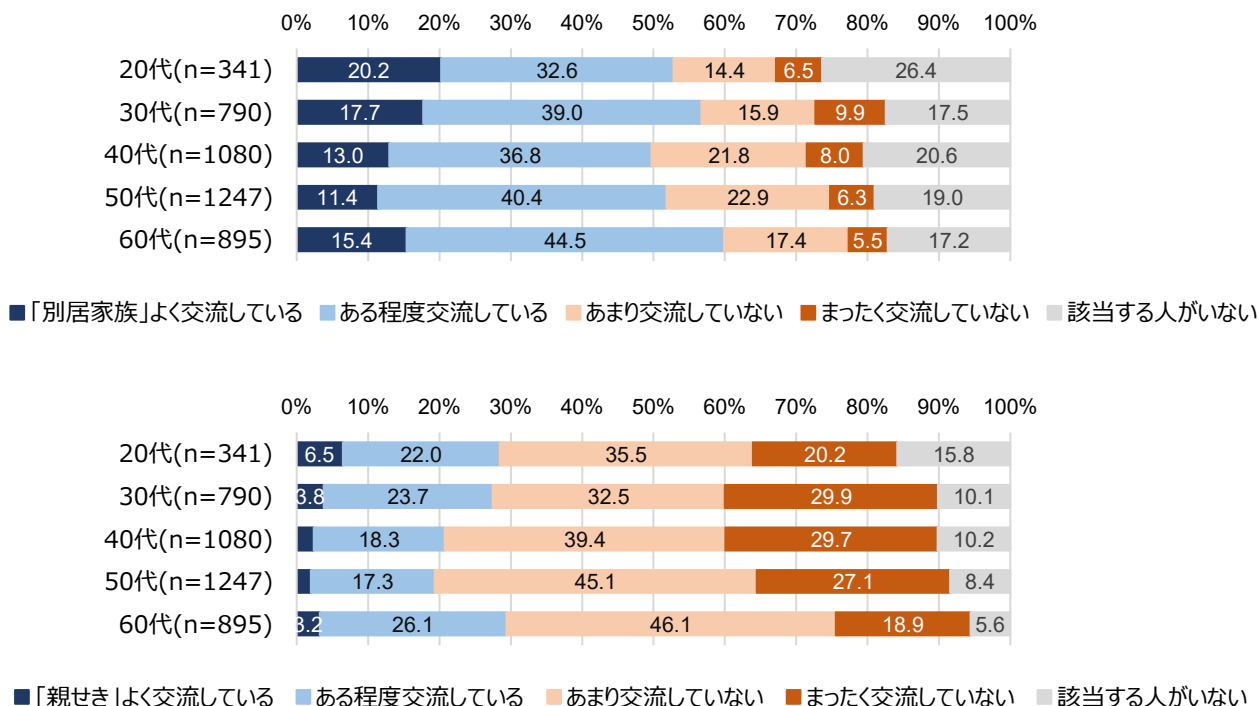


図 2-27-1 家族・友人等との交流（%）【年代別】

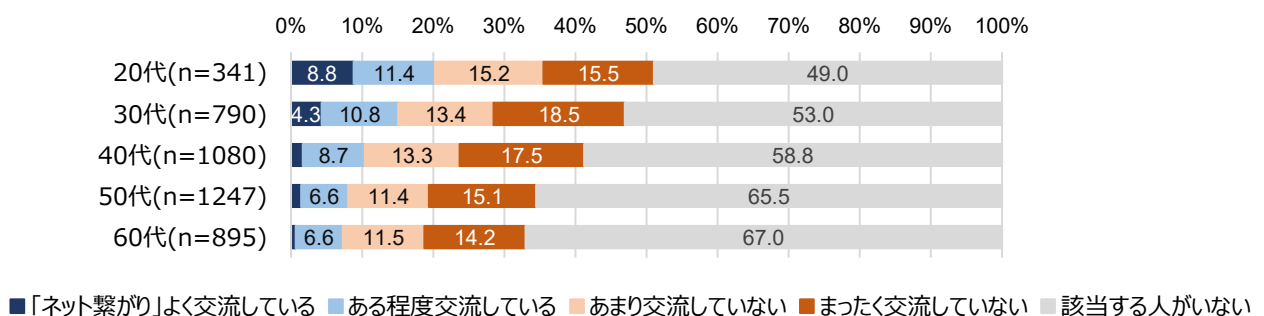
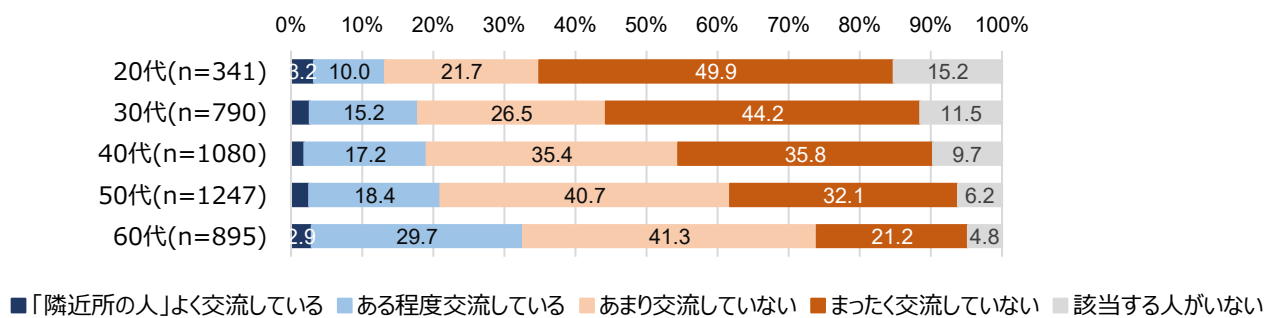
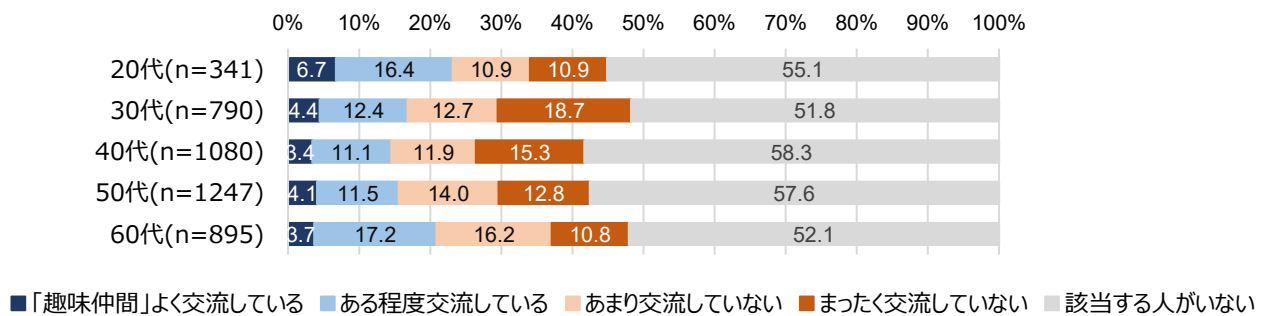
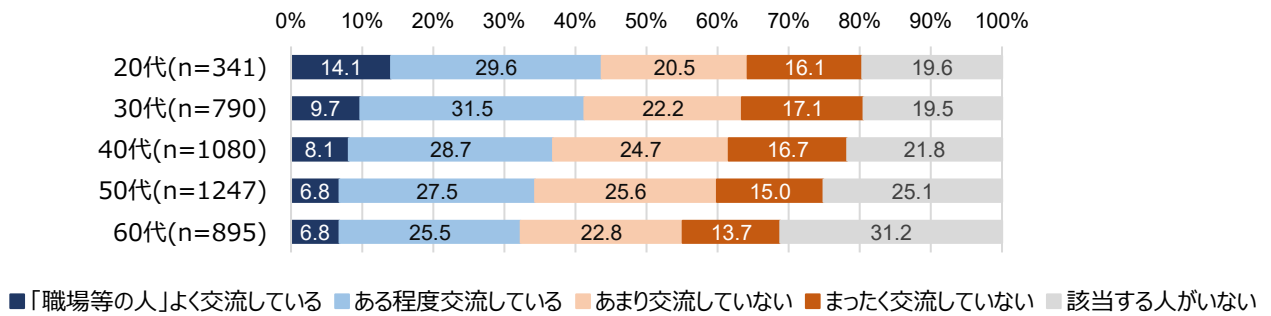
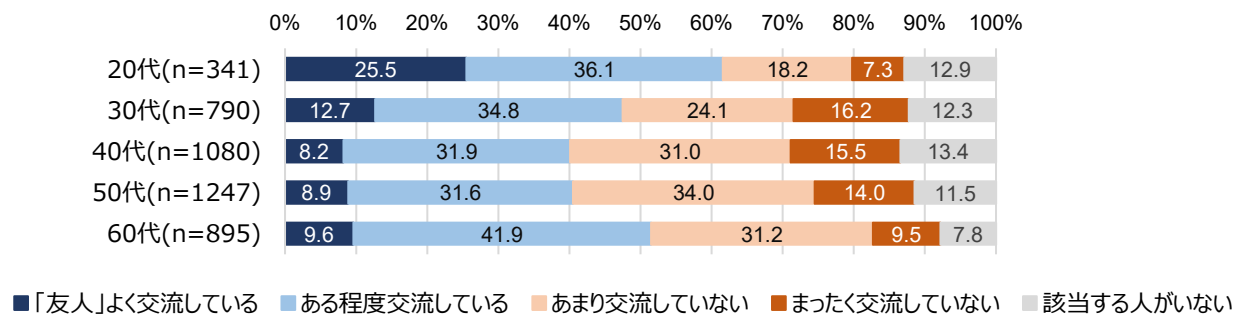


図 2-27-2 家族・友人等との交流 (%)【年代別】(続き)

エリア別では、該当者なしの割合が異なる項目に、性別や年代別のような顕著な傾向はみられない。該当者なしを除いた平均点グラフ（図 2-28）をみると、「隣近所の人」との交流の頻度には若干の違いがみられ、南房総・外房や九十九里では交流の頻度が多く、東葛・湾岸では少ないことがわかる。また、「趣味仲間」との交流頻度の多さは、香取・東総が突出している。

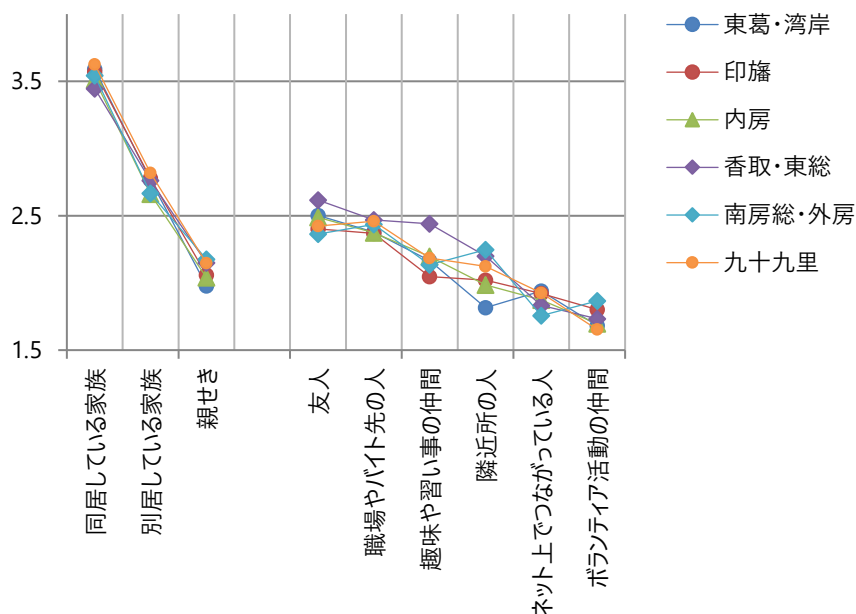
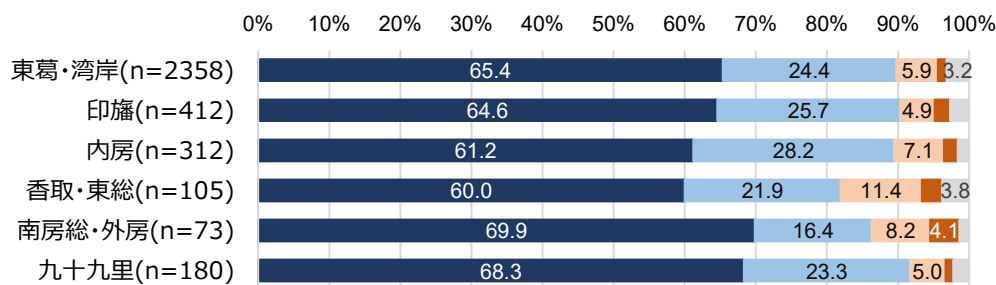
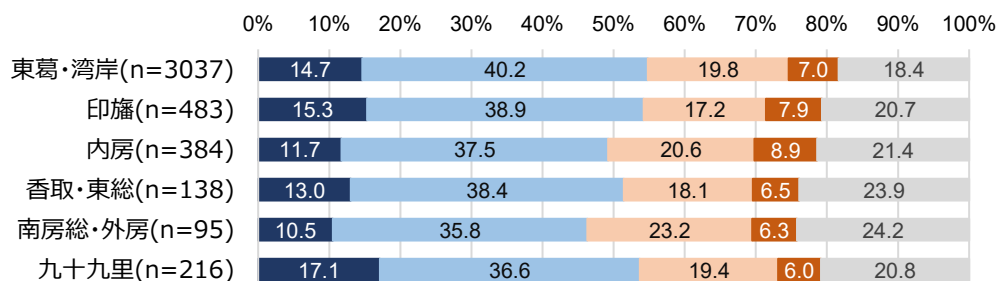


図 2-28 家族・友人等との交流「該当する人がいない」を除いた平均点【エリア別】



■「同居家族」よく交流している ■ ある程度交流している ■ あまり交流していない ■ まったく交流していない ■ 該当する人がいない



■「別居家族」よく交流している ■ ある程度交流している ■ あまり交流していない ■ まったく交流していない ■ 該当する人がいない

図 2-29-1 家族・友人等との交流 (%)【エリア別】

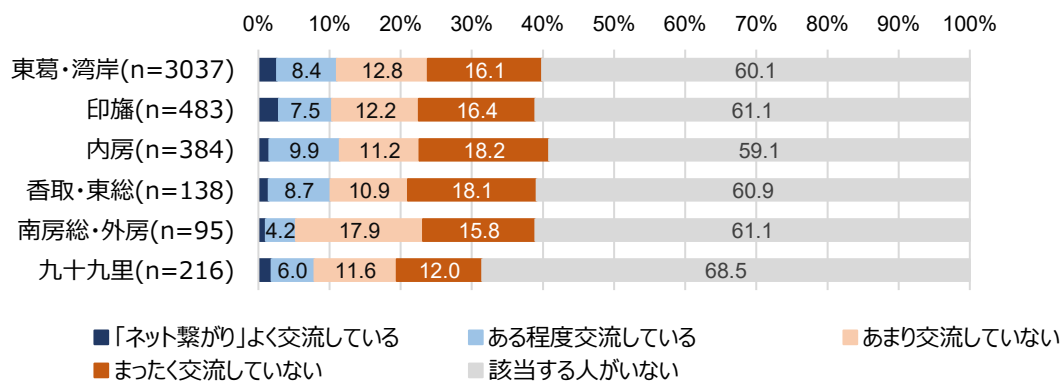
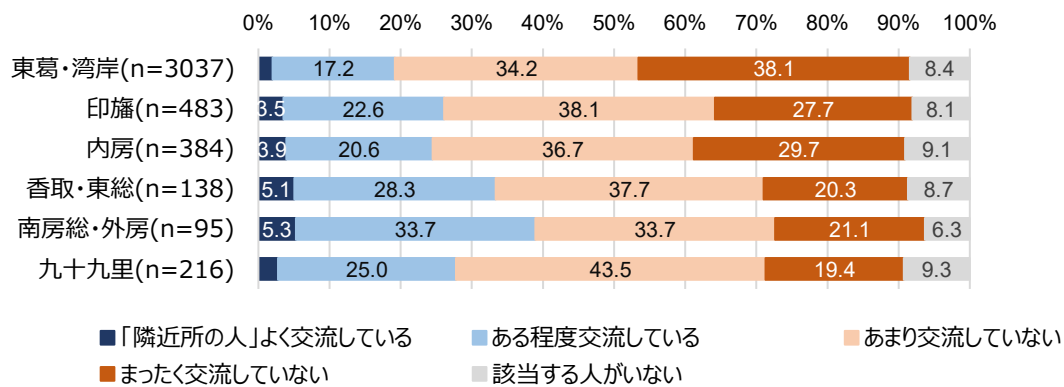
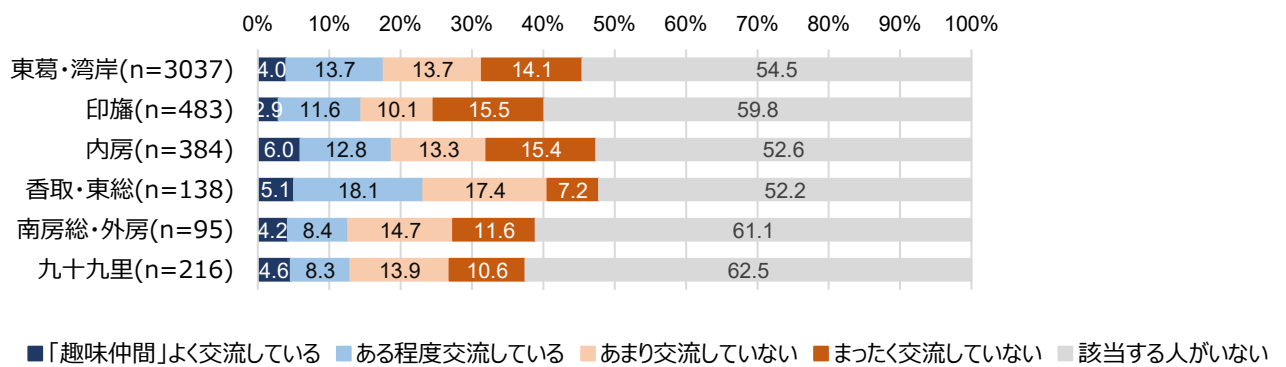
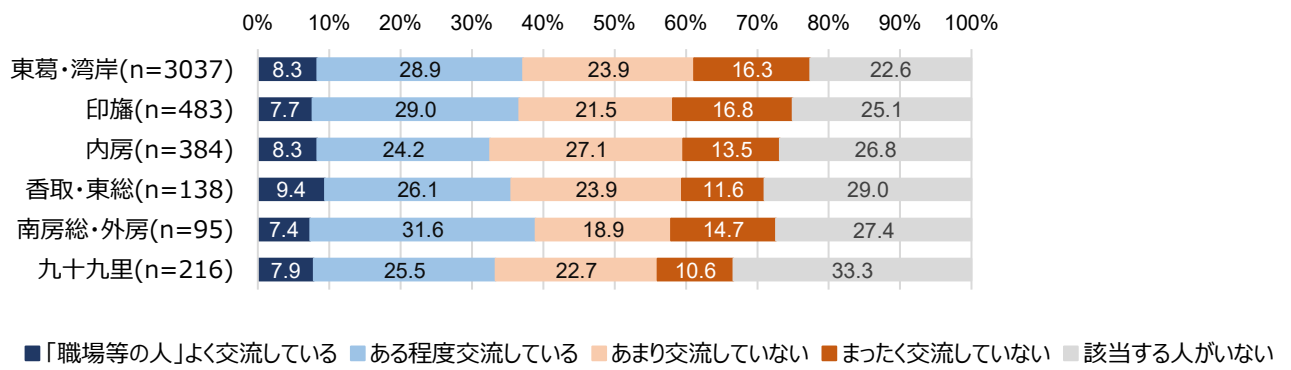


図 2-29-2 家族・友人等との交流 (%) 【エリア別】 (続き)

(2) ソーシャル・サポート（心理的支えになる人）

〈Q4〉

心理的支えになる人の存在等について4件法で聞いた結果を図2-30に示す。

いずれの項目においても、「あてはまる」側の肯定的な回答が多い。とくに「家族」（図2-30上段）については7割前後が肯定的な回答である。

なお、全体の傾向は2023年度調査と変わらないが、全ての項目において今回の調査の方が「あてはまる」側の肯定的な回答がごくわずかに減少するという傾向がみられる。

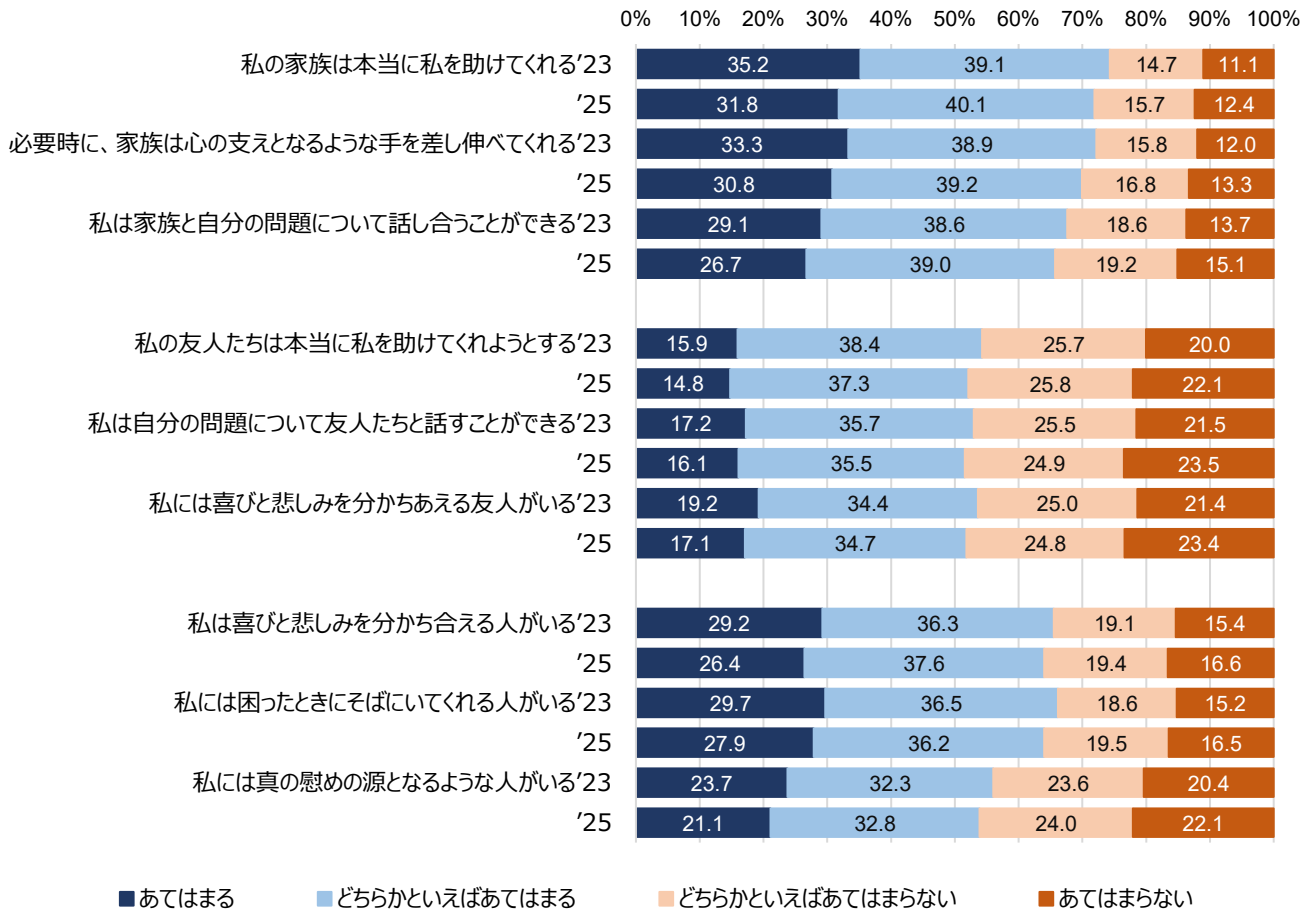


図 2-30 心理的支えになる人（％）【全体、2023 年度調査結果との比較】

性別、年代によって一定の傾向がみられた。

図2-31 および33は、「あてはまる」を4点、「あてはまらない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

どの項目に関しても、男性より女性の方が明らかに肯定的な回答が多い。年代では、20代で肯定的な回答が多く、とくに「友人」に関する項目において顕著である。また、20代に次いで、60代に肯定的な回答が多いことも特徴的である。

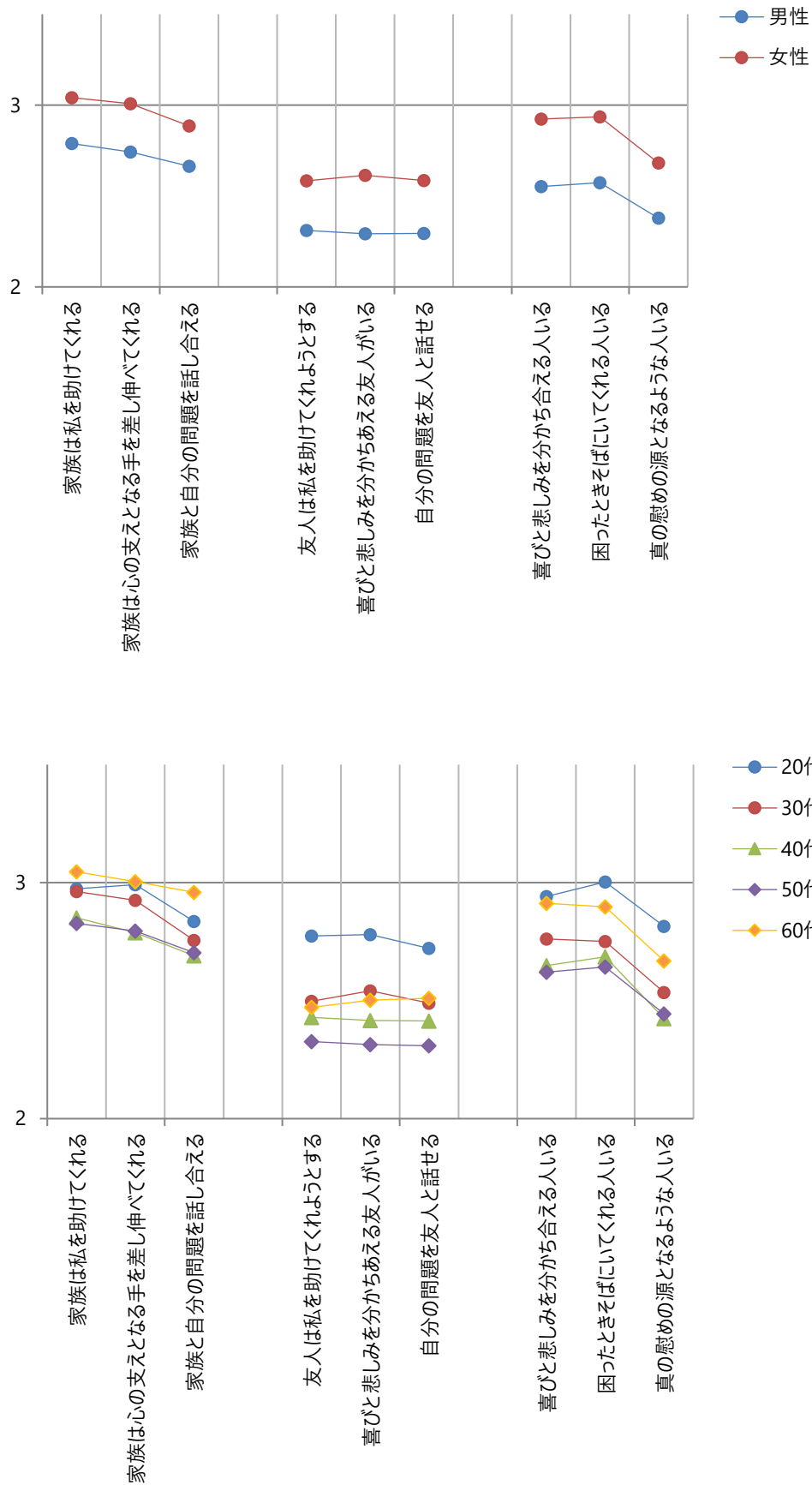


図 2-31 心理的な支えになる人 平均点 【性別、年代別】

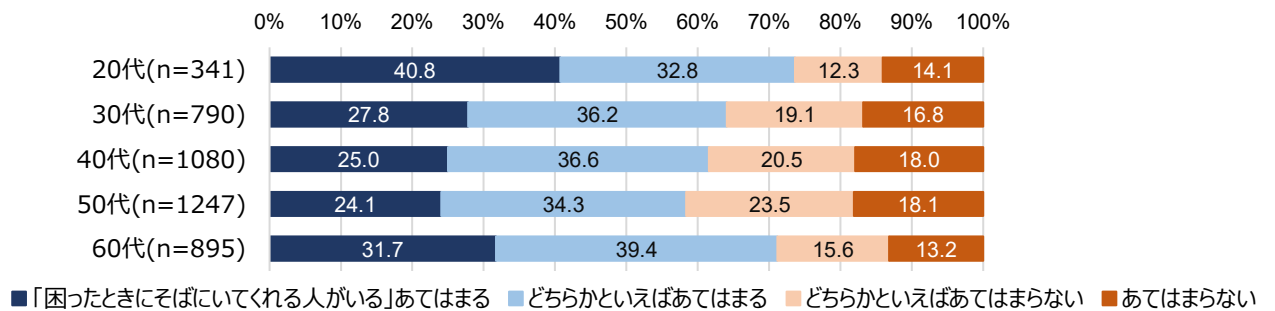
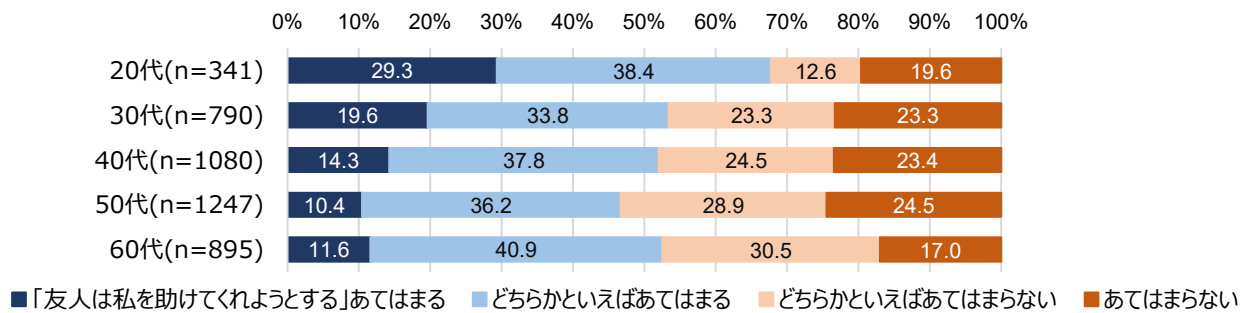
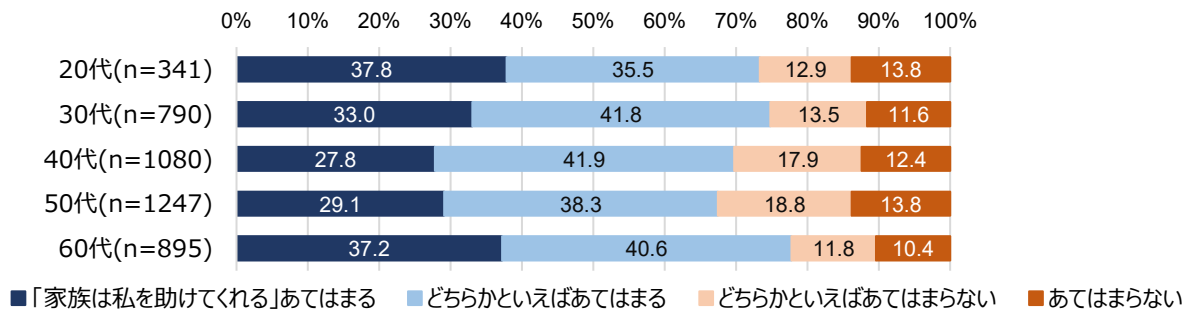


図 2-32 心理的な支えになる人 (%)【年代別】

エリアによる差は顕著ではないが、すべての項目において、南房総・外房および香取・東総において否定的な回答が若干多いという傾向がみられた。南房総・外房については2023年度調査においても他のエリアに比べ否定的な回答割合が若干高めであったが、今回の調査ではこの傾向はより明確になっている。なお、2023年度調査においては、印旛で若干肯定的な回答が多かったが、今回は印旛に特徴的な傾向はみられない。

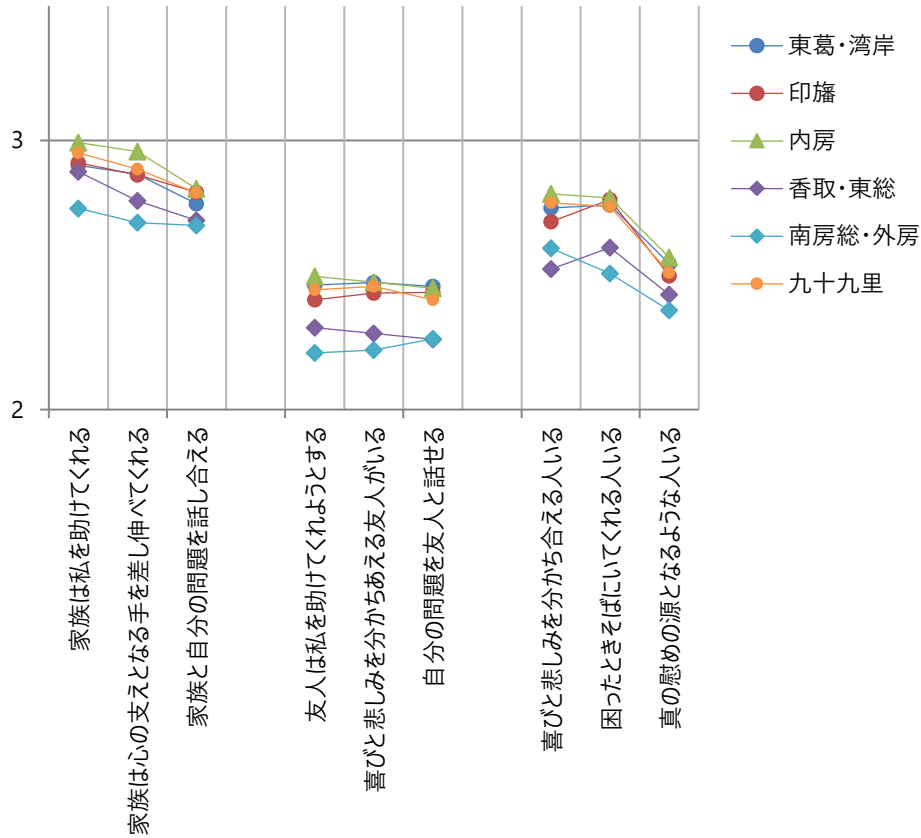


図 2-33 心理的な支えになる人 平均点【エリア別】

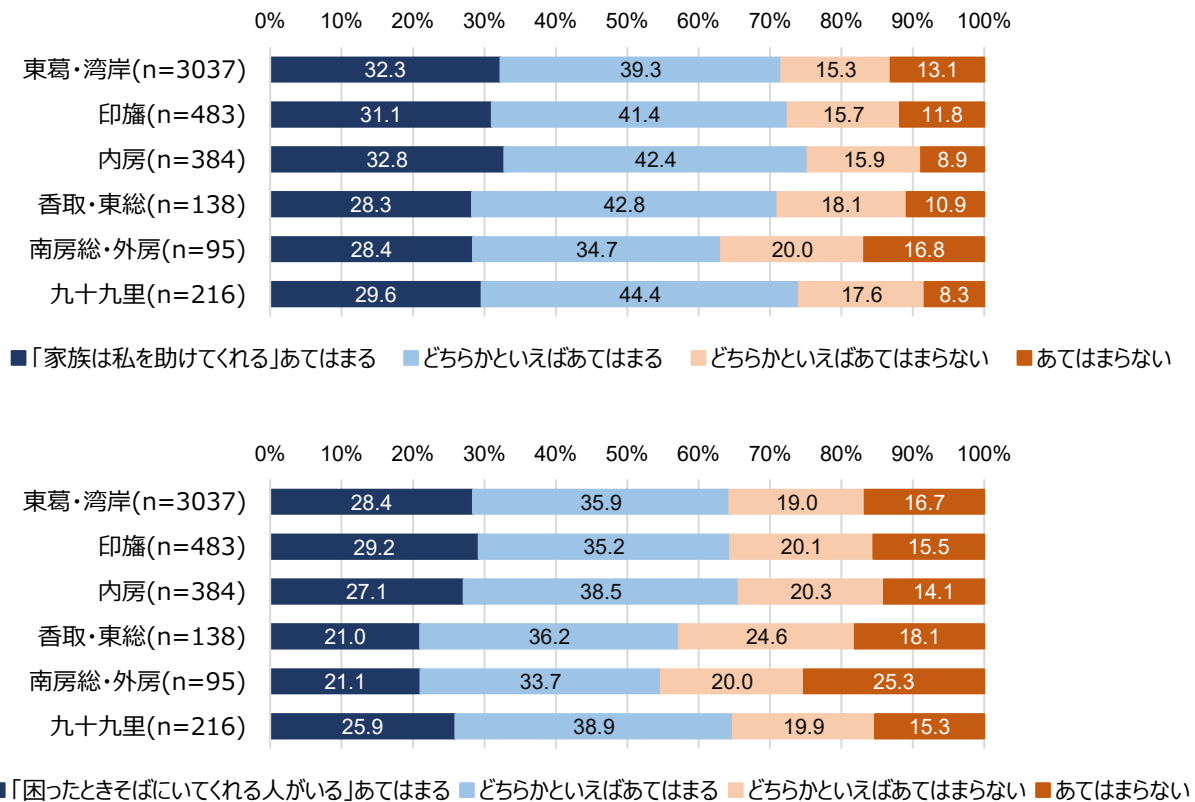


図 2-34 心理的な支えになる人 (%)【エリア別】

(3) 孤独感・ストレス

〈Q26〉 〈Q27〉

1) 孤独感

日々の生活において孤独感などを感じる頻度について5件法で聞いた結果を図2-35に示す。

いずれの項目においても「しばしば・常にある」は少ないが、「時々ある」「たまにある」を加えると、「人とのつきあいが無いと感じることがある」は6割弱、「他の人たちから孤立していると感じることがある」「孤独であると感じることがある」「自分は取り残されていると感じることがある」は5割弱、「本気で自殺したいと考えることがある」は3割弱という結果である。

なお、全ての項目において、2023年度調査に比べて孤独感・ストレスは微減傾向にある。

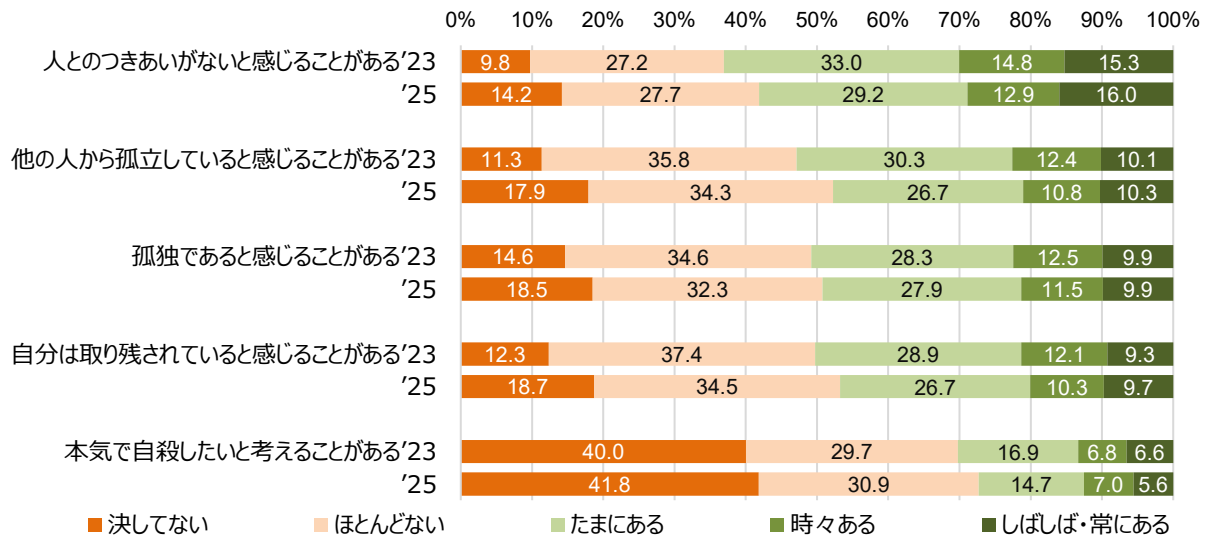


図 2-35 孤独感などを感じる頻度 (%) 【全体、2023 年度調査結果との比較】

年代別にみると、高齢になるほど孤独感などを感じる頻度が少ない、「自殺したいと考えることがある」は若いほど多い傾向があるといった特徴がみられた。性別による差はみられない。

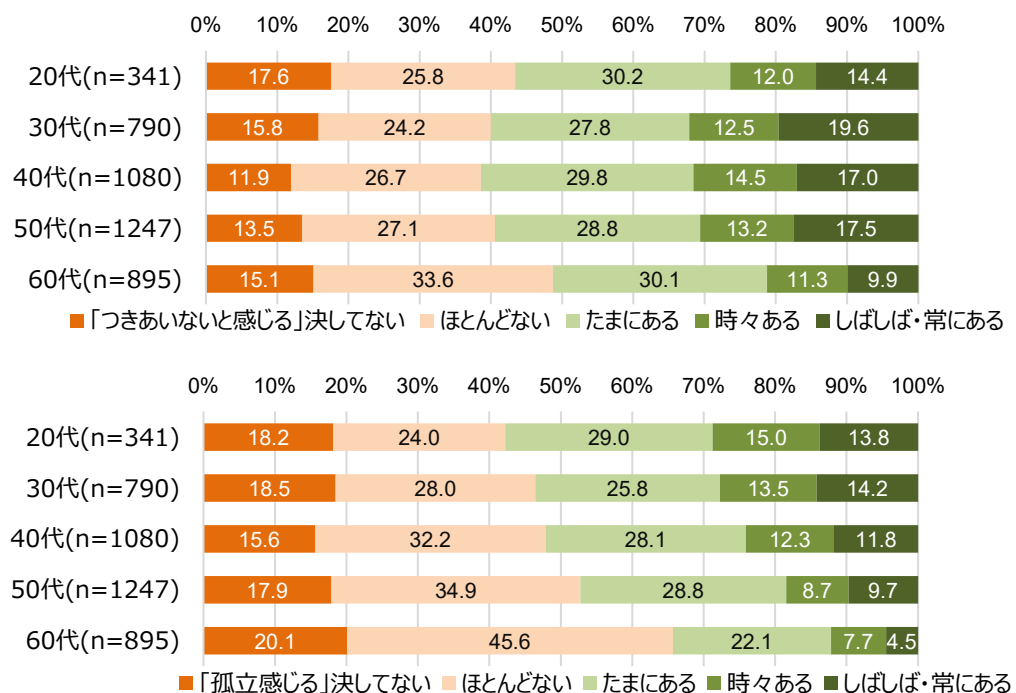


図 2-36-1 孤独感などを感じる頻度 (%) 【年代別】

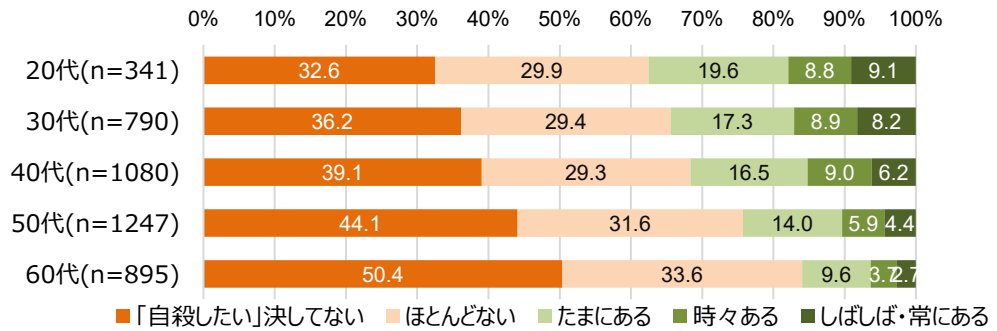
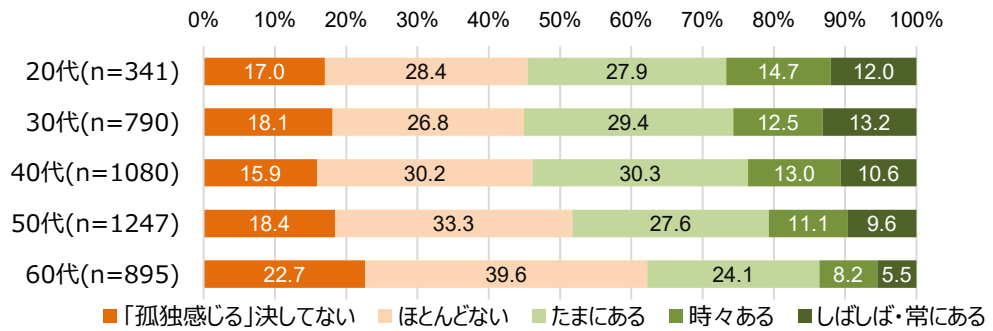


図 2-36-2 孤独感などを感じる頻度 (%)【年代別】(続き)

エリア別では、香取・東総などにおいて孤独感や孤立感などを感じる頻度が多い、九十九里で若干少ないといった傾向がみられた。

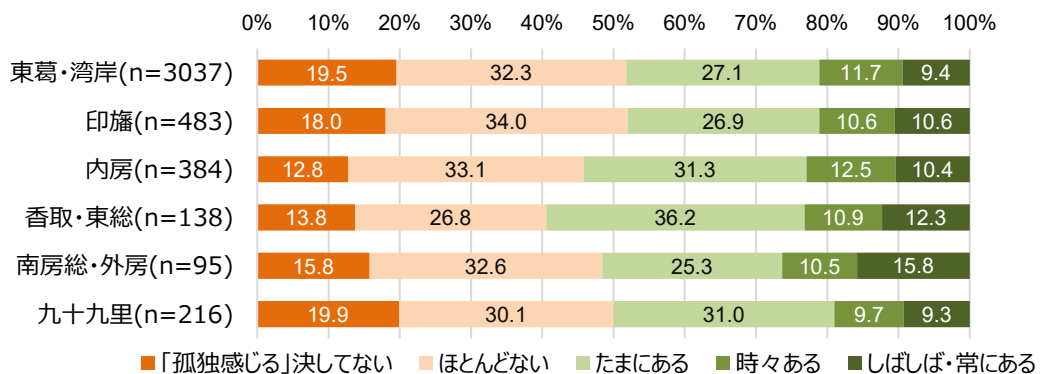
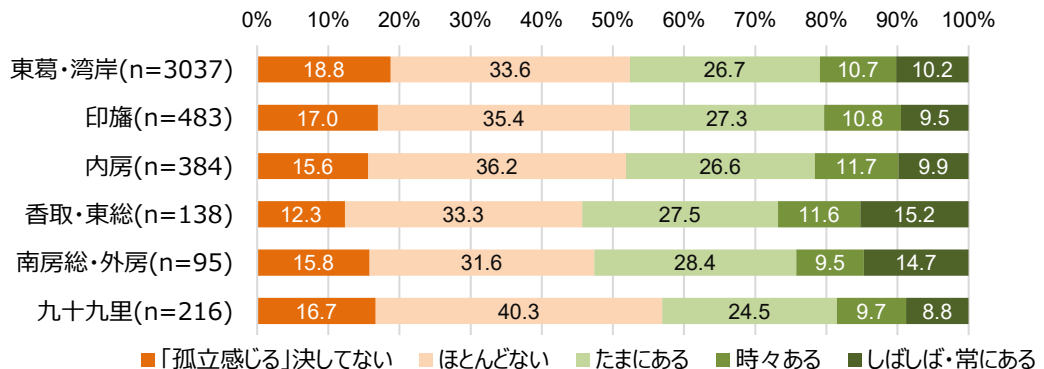


図 2-37 孤独感などを感じる頻度 (%)【エリア別】

2) ストレス

過去1カ月の間に感じたストレスの頻度について5件法で聞いた結果を図2-38に示す。いずれの項目においても「まったくない」が最多であり4~5割を占める。また、いずれの項目も、2023年度調査に比べて「まったくない」の割合が若干増加している。

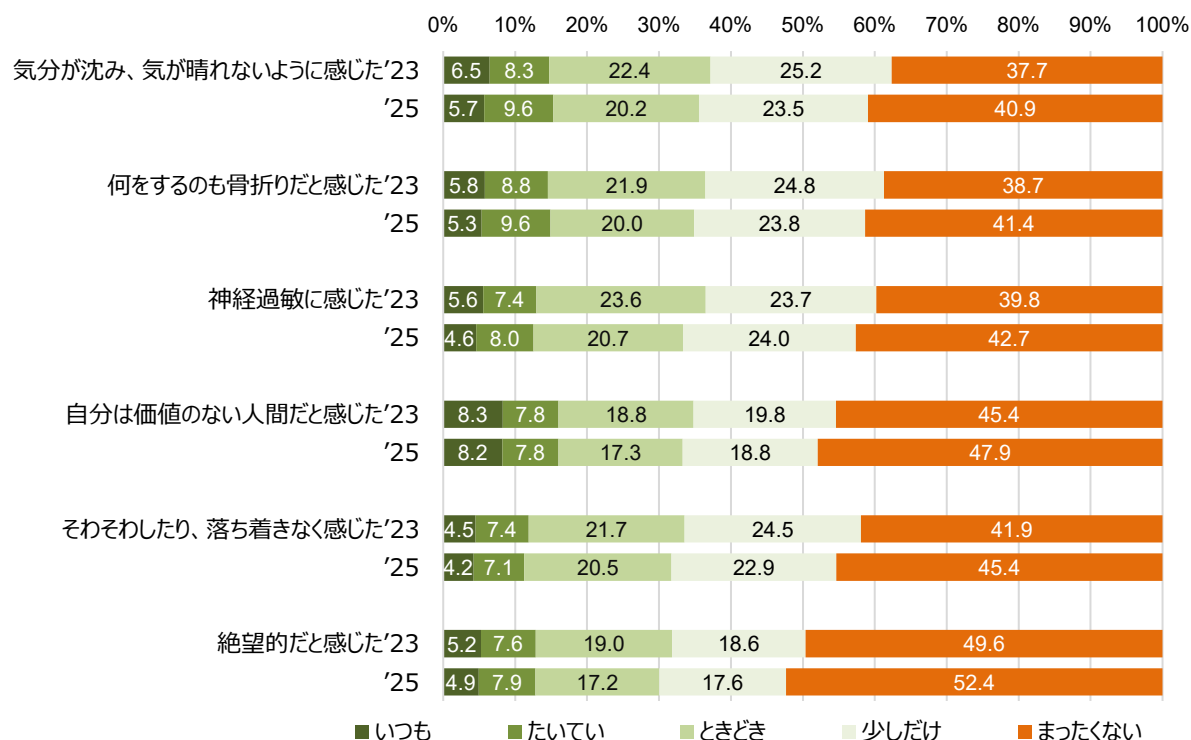


図 2-38 過去1カ月の間に感じたストレス等 (%)【全体、2023年度調査結果との比較】

年代による差は顕著であった。いずれの項目においても、若い方がよりストレス等を感じているという結果であった。

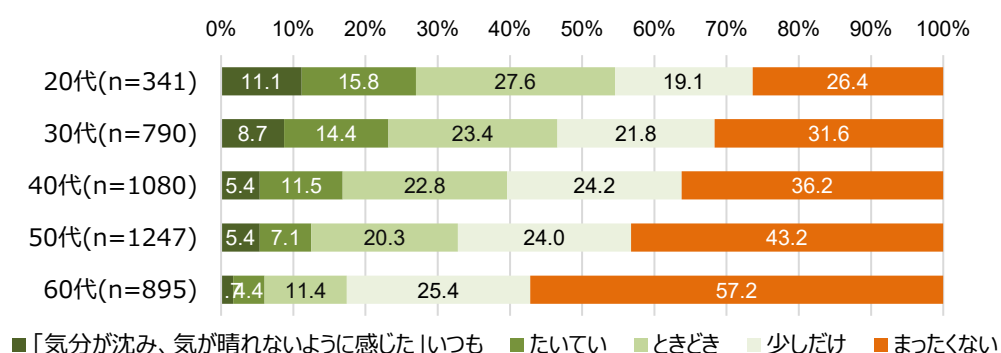


図 2-39-1 過去1カ月の間に感じたストレス等 (%)【年代別】

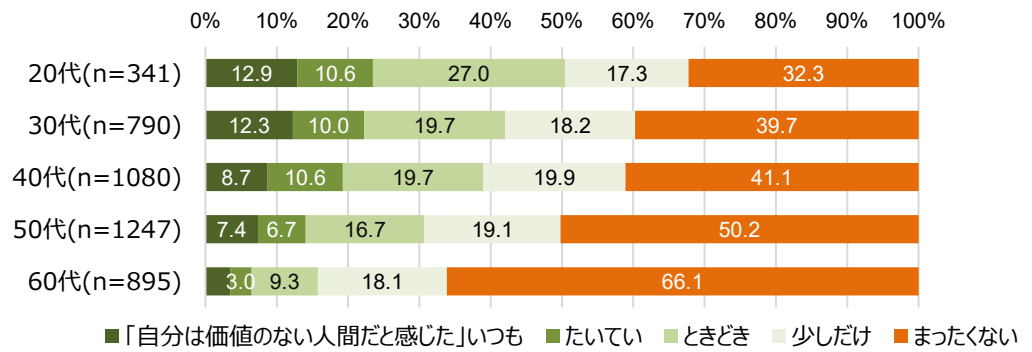
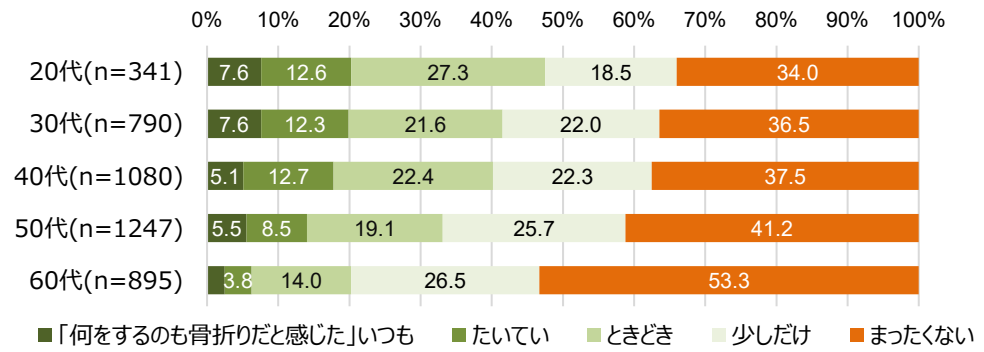


図 2-39-2 過去 1 カ月の間に感じたストレス等 (%)【年代別】(続き)

(4) 各機関への信頼度

〈Q12〉

主な機関や職業への信頼度を5件法で聞いた結果を図2-40に示す。

「自衛隊」「裁判所」「警察」「市役所・町役場」等では肯定的回答が多く、「政府」「マスコミ・報道機関」「国会議員」では否定的回答が多い。ただし、いずれの項目においても「どちらともいえない」が最多であり、「町内会・自治会」「大企業」および「学校」では過半数となった。

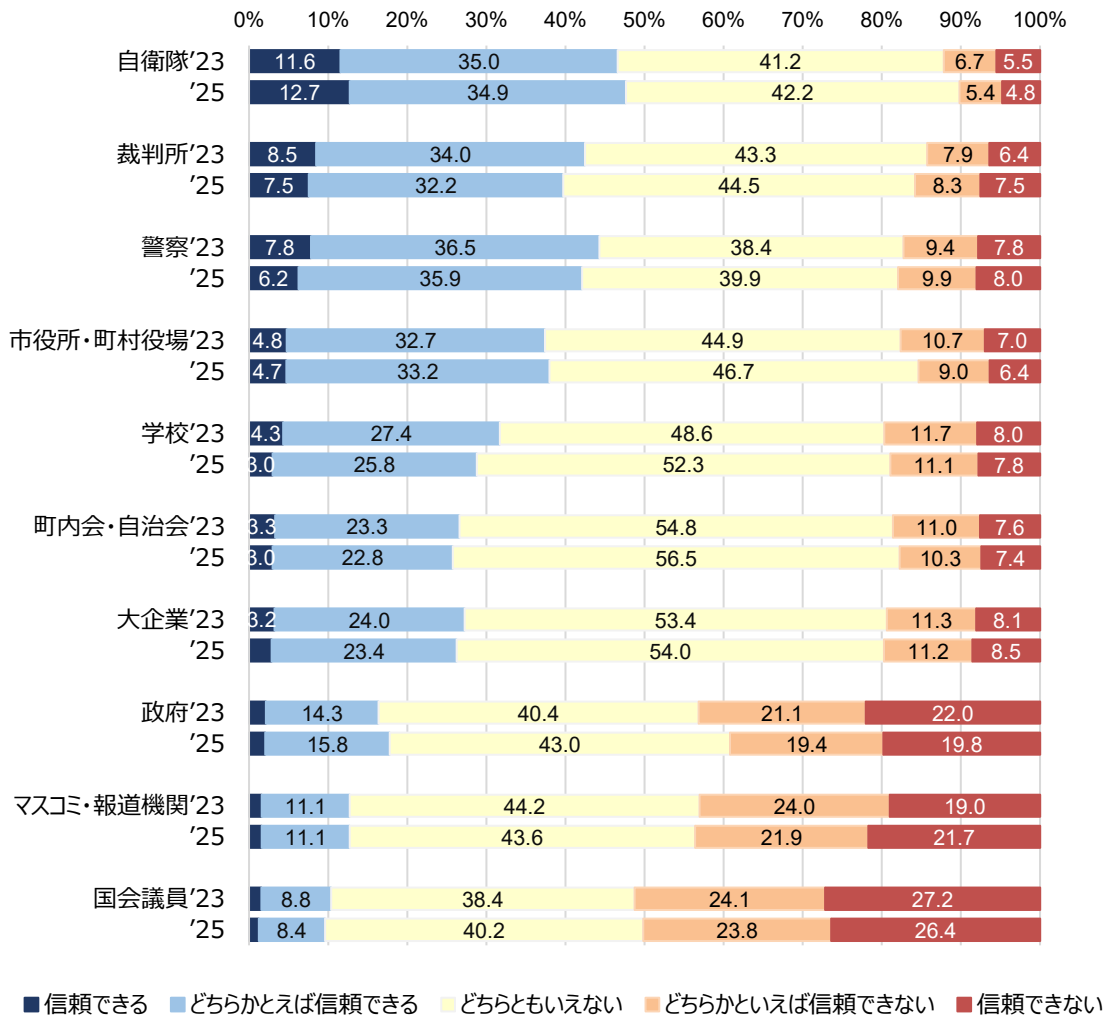


図2-40 各機関・職業への信頼度 (%)【全体】

図2-41 および43は、「信頼できる」を5点、「信頼できない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別による差は小さいが、「自衛隊」については男性の信頼度が高い。

年代別では、「大企業」および「国会議員」以外の項目すべてで、肯定的回答が多いのは、60代であった。「大企業」および「国会議員」を最も信頼しているのは20代であった。

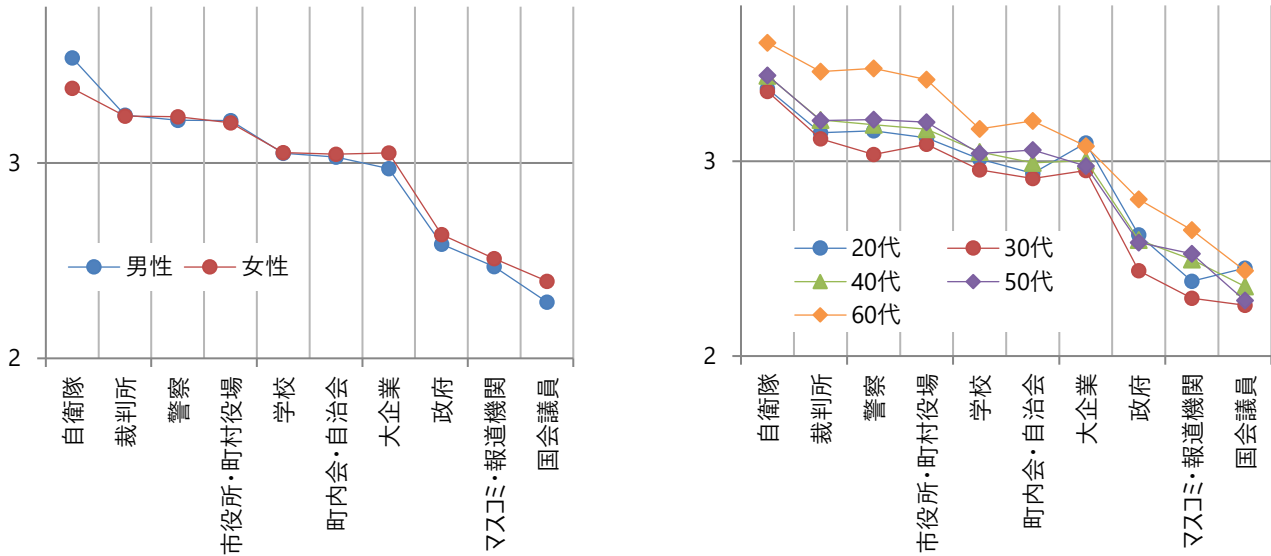


図 2-41 各機関・職業への信頼度 平均点【性別、年代別】

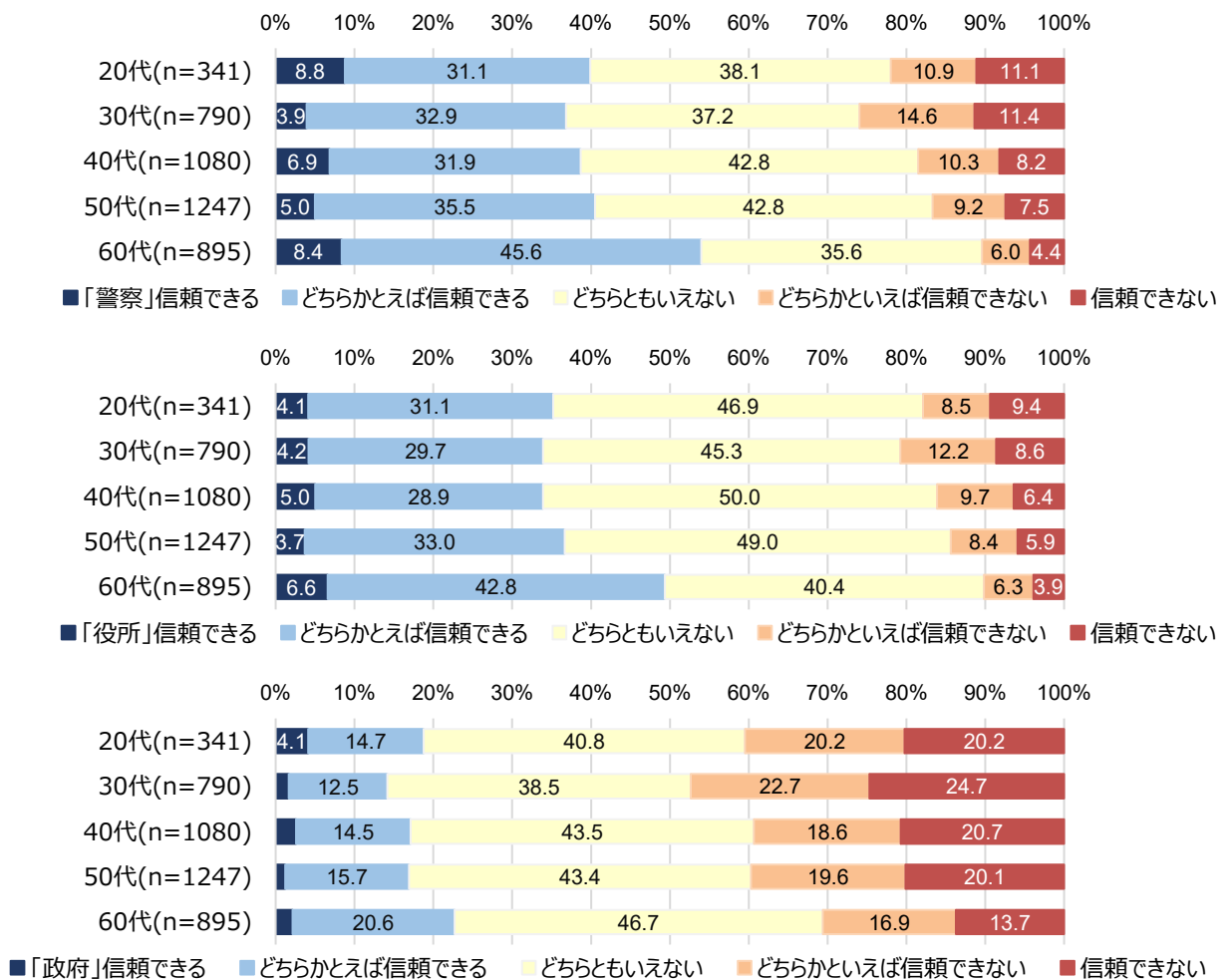


図 2-42 各機関・職業への信頼度 (%)【年代別】

エリア別では、「マスコミ・報道機関」を除くすべての機関に対する信頼度が低いのは南房総・外房であった。

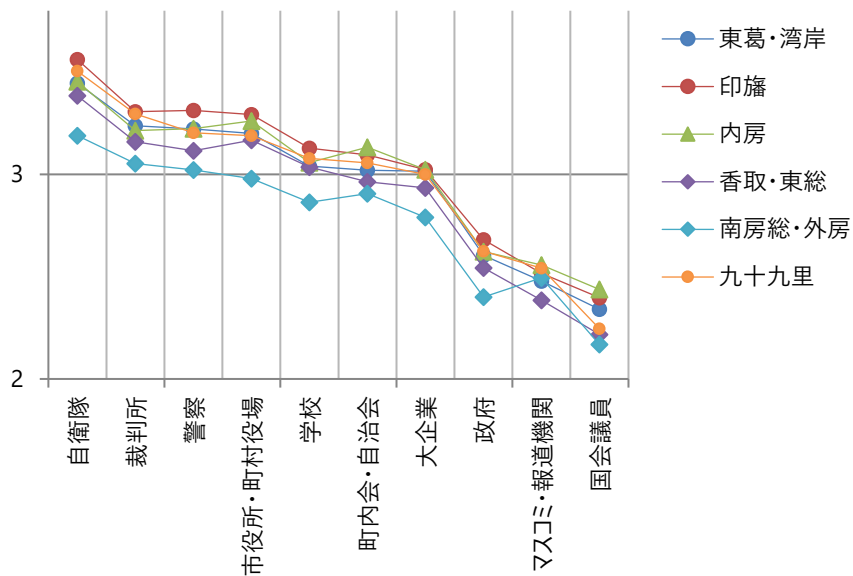


図 2-43 各機関・職業への信頼度 平均点【エリア別】

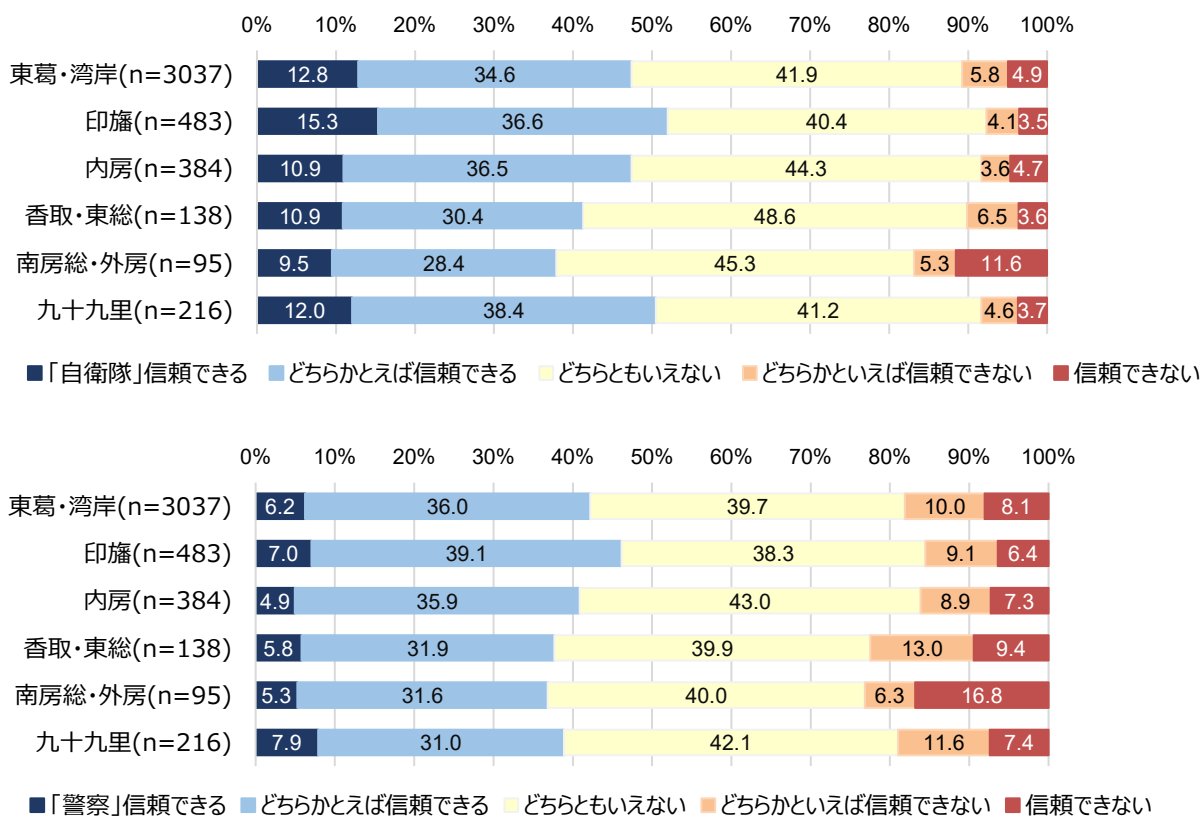


図 2-44-1 各機関・職業への信頼度 (%)【エリア別】

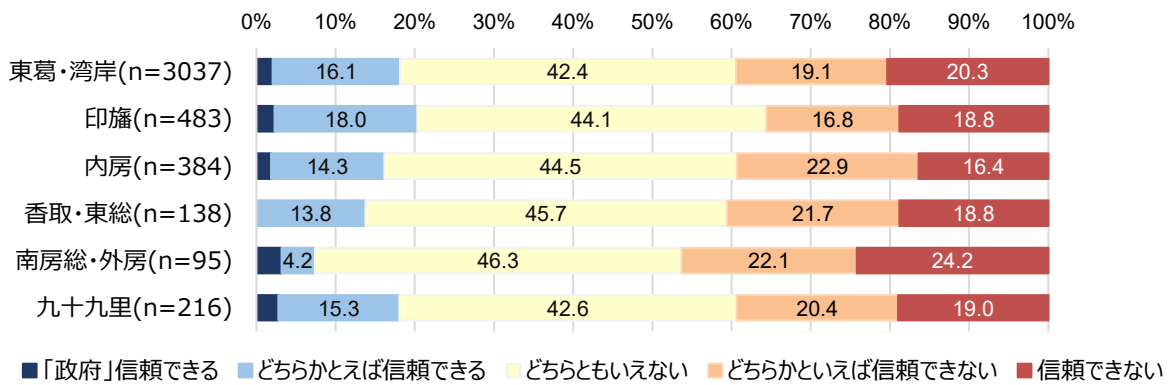
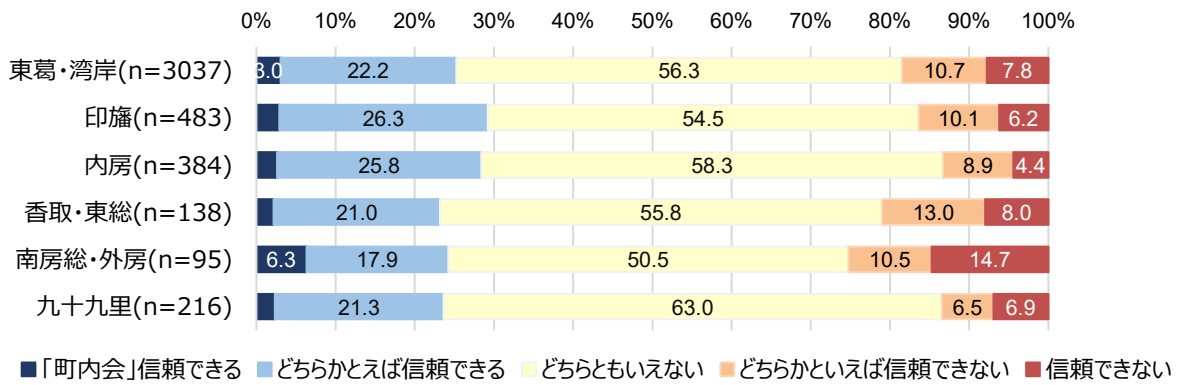
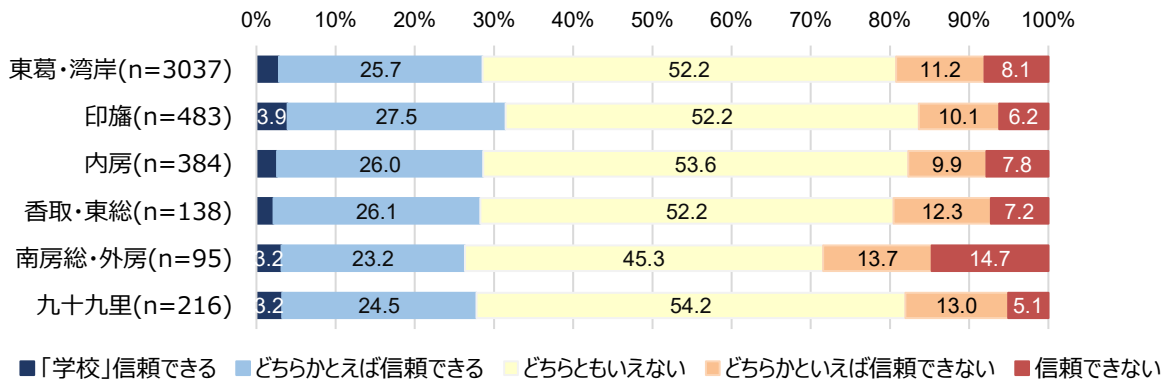
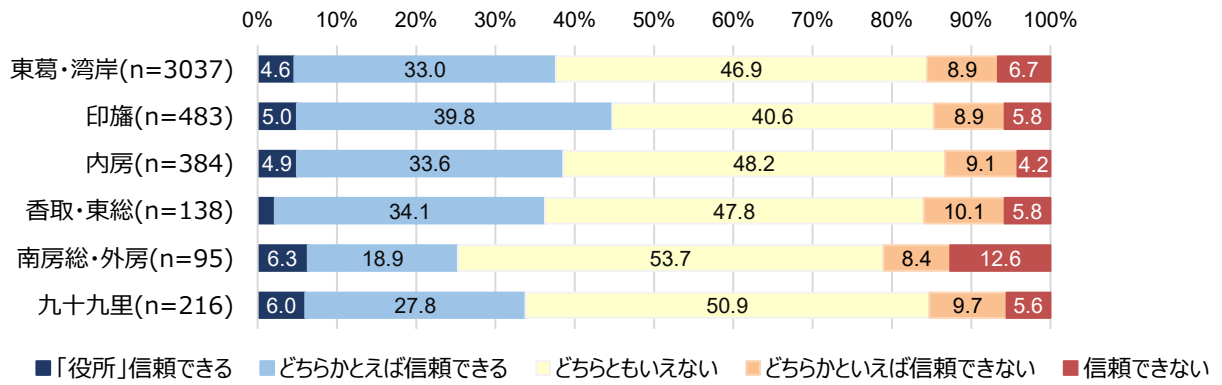


図 2-44-2 各機関・職業への信頼度 (%)【エリア別】(続き)

(5) 生活保護に関する意見、生活保護等受給状況

〈Q10〉 〈Q5-17,18〉

生活保護に関する意見について5件法で聞いた結果を図2-45に示す。

全ての項目においても「そう思う」側の意見が多く、「そう思わない」側の意見は非常に少ない。とくに「生活保護費によるギャンブルは禁止すべき」「不正受給への罰則を強化すべき」では「そう思う」側が7割前後と大半を占め、「そう思わない」側はごく僅かである。この2項目以外についても「そう思う」側が多いが、いずれの項目でも、もっとも多いのは「どちらともいえない」であり、「現在の生活費は高すぎる」「親族による扶養義務を強化すべき」では「どちらともいえない」は5割を超える。

図4-46は、「とてもそう思う」を5点、「まったくそう思わない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別では、女性の方が男性よりも「そう思う」側の意見が強い項目が多い。とくに差があるのは、「生活保護費によるギャンブルは禁止すべき」「働ける人には期限を設けて生活保護を支給すべき」「生活保護申請時の審査を厳しくすべき」である。

年代別では、とくに60代と20代に特徴がみられた。60代は「働ける人には期限を設けて生活保護を支給すべき」「就職あっせん拒否は生活保護を減額すべき」をはじめ、複数の項目で「そう思う」側の意見が多く、20代はその逆であった。しかし、「外国人の生活保護を禁止すべき」「生活保護は現金支給ではなく、クーポン制にすべき」等では60代では「そう思う」側の意見が少ない。これらの項目では30代で「そう思う」側が多かった。

エリア別では、香取・東総において「そう思う」側の意見が少ない一貫した傾向がみられた。とくに特徴的なのは「働ける人には期限を設けて生活保護を支給すべき」「生活保護受給者も医療費を一部負担すべき」などである。南房総・外房はこの逆で、多くの項目で他のエリアよりも「そう思う」側の意見が強い傾向がみられた。

なお、「自分自身を含め、身近に生活保護を受けている人がいる」は全体で5.5%であり、性別、年代、エリアによる差はほとんどない。年金受給者は全体で13.6%であり、その大半は60代（60代では46.7%）である。

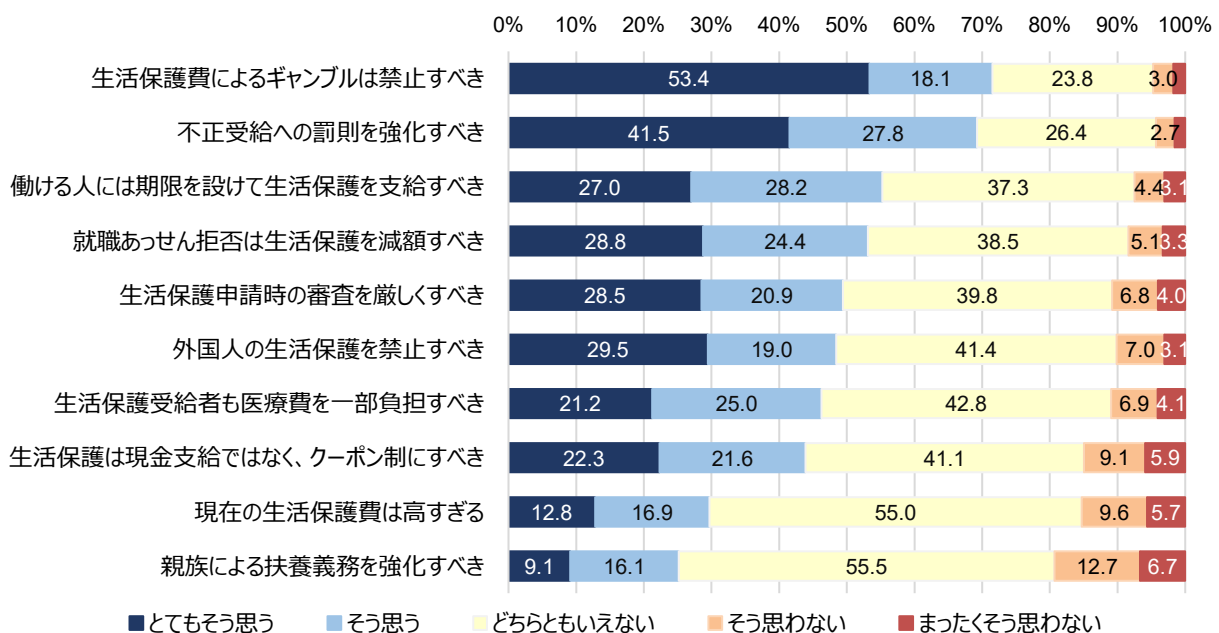


図2-45 生活保護に関する意見（%）【全体】

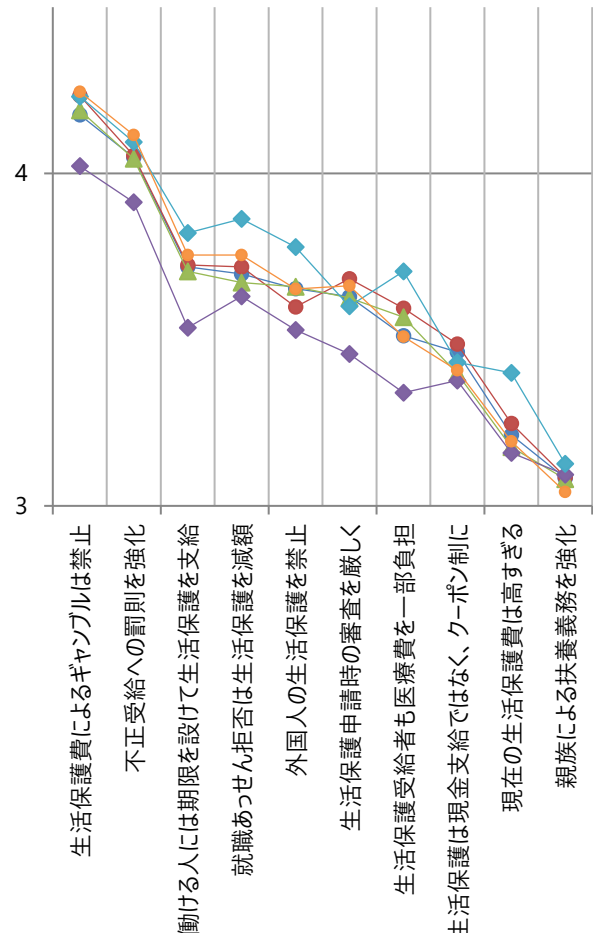
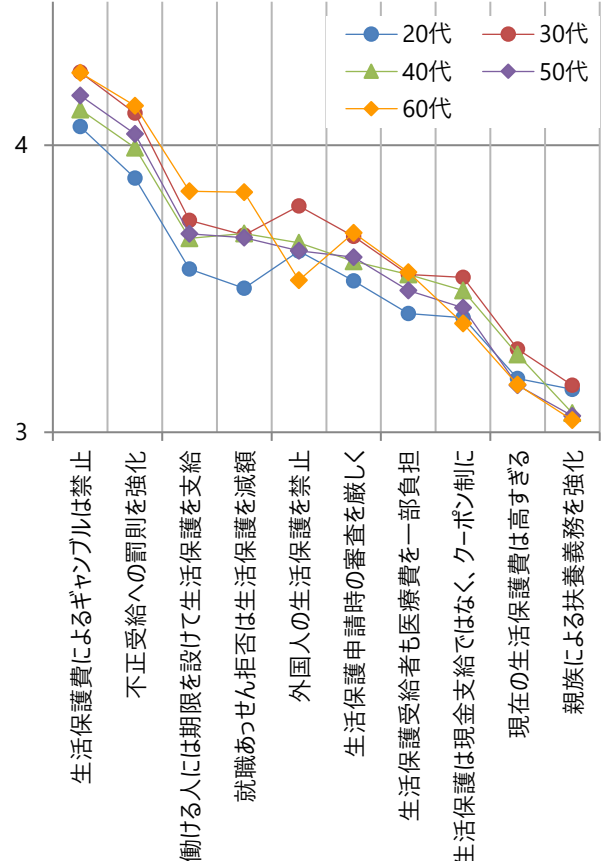
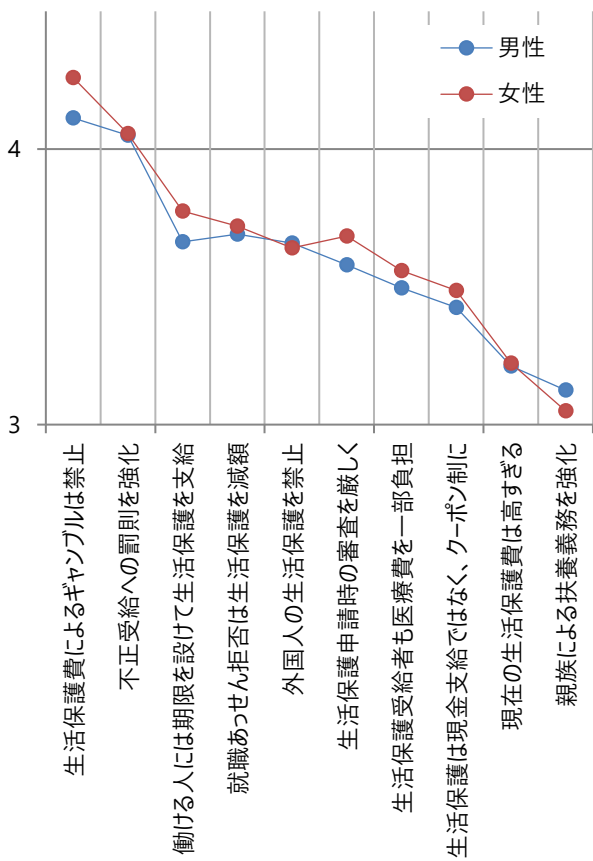


図 2-46 生活保護に関する意見（平均点）【性別、年代別、エリア別】

2-3. 地域・コミュニティ

(1) 地域との関わり

〈Q5-3～10〉

地域との関わりについて、「あてはまる」「あてはまらない」で聞いた結果（「あてはまる」という回答割合）を図 2-47 に示す。

ほとんどの項目で 2023 年度調査結果と大きな差はないが、「住んでいる地域をよく散策する」「住んでいる地域のお祭りやイベントに参加している」等では微減傾向がみられる。

なお、「主な仕事場、学校などは現在住んでいる地域にある」は 2023 年度に比べ大きく増加しているが、これは、この設問の直前に「生まれてからずっと千葉県に住んでいる」があったために、「現在住んでいる地域」を「千葉県」ととらえた人がいたためではないかと推測される。なお、2023 年度調査では千葉県居住のタイミングは別の設問であり、「生まれてからずっと」という選択肢の回答は 42.6%であった。

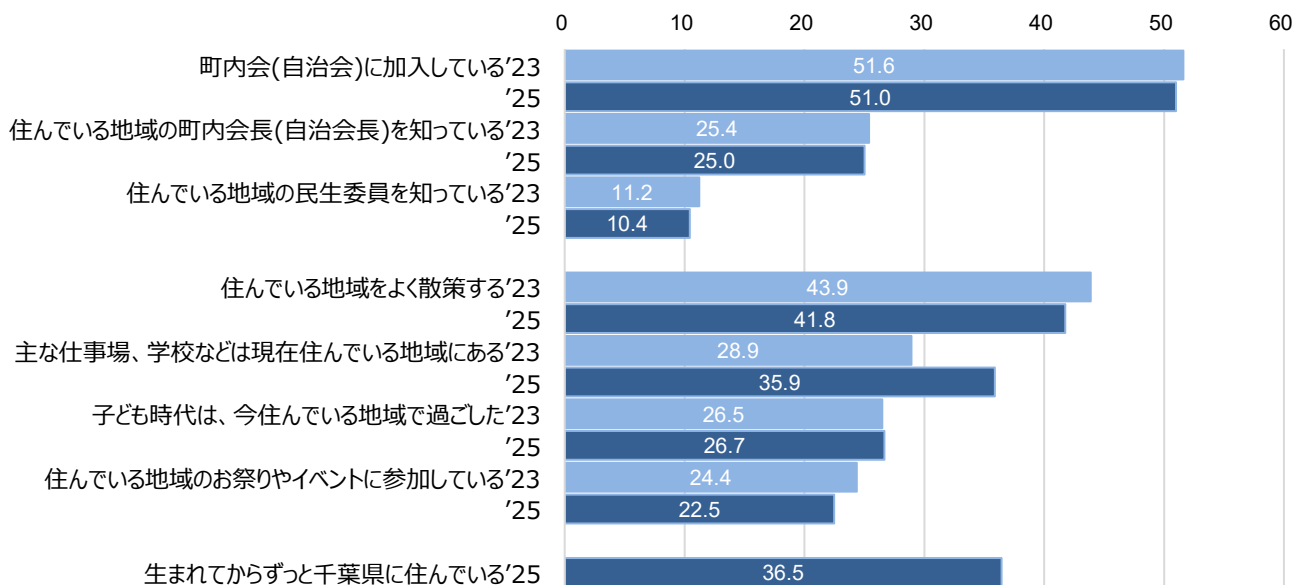


図 2-47 地域との関わり (%) 【全体、2023 年度調査結果との比較】

年代別では、「町内会加入」「町内会長の認知」「民生委員の認知」は、高年齢層になるほど該当率が高いという顕著な傾向があった。また、「イベント参加」は 30 代で高く 50 代で低い傾向があった。

性別では、「職場や学校等が住んでいる地域にある」(男 25.8%、女 32.0%) 以外の項目についてはほとんど差がなかった。

エリア別では、「町内会加入」「町内会長の認知」「民生委員の認知」および「職場や学校等が住んでいる地域にある」率は、南房総・外房、次いで香取・東総で高く、東葛・湾岸で低いという一定の傾向があった。「子ども時代はこの地域で過ごした」率も、香取・東総、次いで南房総・外房である以外は同様の傾向である。

「地域を散策する」「地域のお祭りやイベントに参加している」についてはエリアによる差は小さいが、上記とは異なる傾向であることがうかがえる。

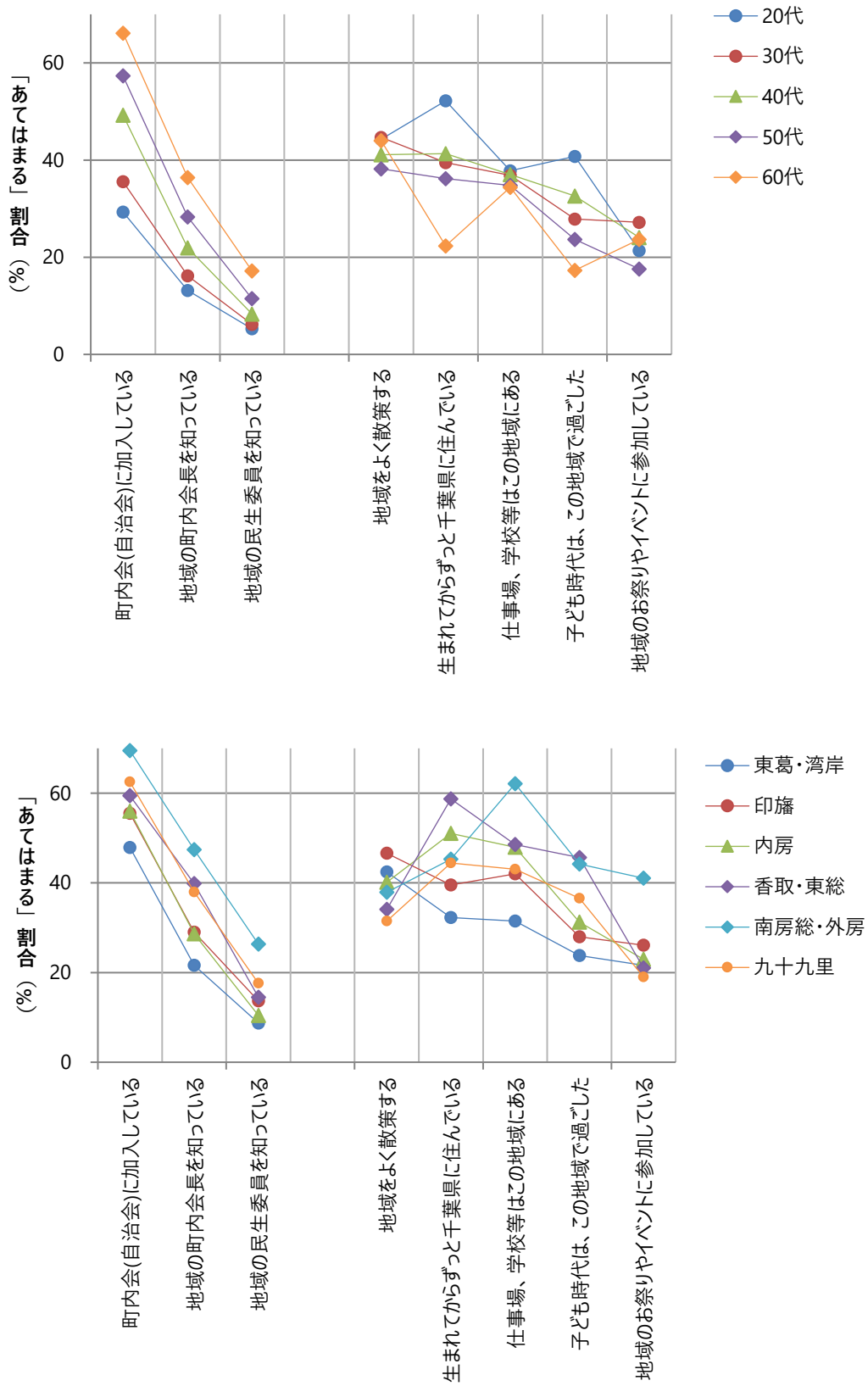


図 2-48 地域との関わり 少なくともはまる割合 (%) 【年代別、エリア別】

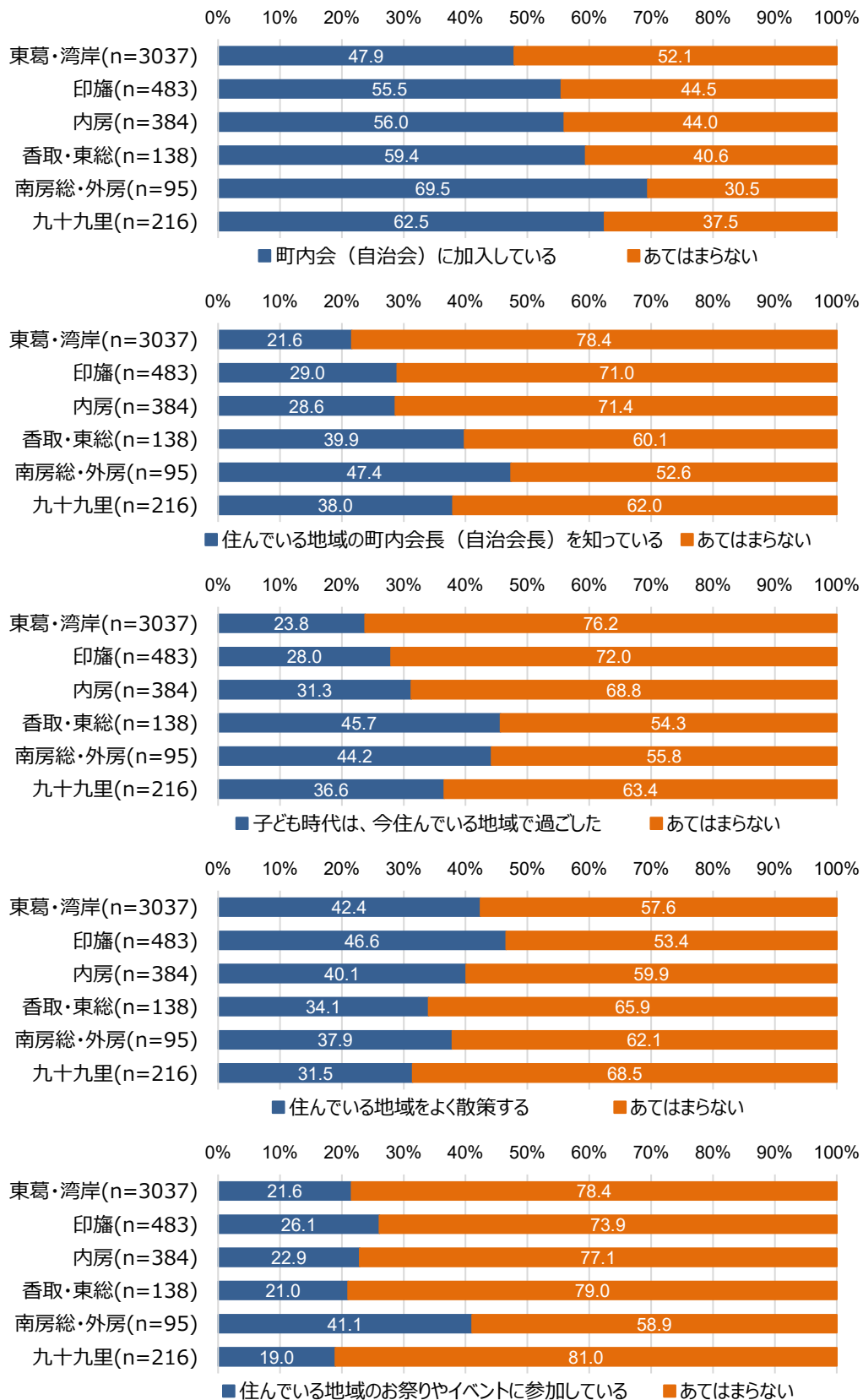


図 2-49 地域との関わり (%) 【エリア別】

(2) 地域環境満足度

〈Q8〉

住宅のまわりの環境に対する満足度を5件法で聞いた結果を図2-50に示す。いずれの項目も「不満」「やや不満」は1割前後と少なく、「満足」「やや満足」側が多い。

「どちらともいえない」の割合には項目ごとの特徴がみられる。「福祉・介護の生活支援サービス」「子どもの遊び場、子育て支援サービス」および「近隣の人やコミュニティとの関わり」では同割合が過半数と多いのに対し、利便性に関する満足度では同割合が少ないという傾向である。とくに買い物などの便、通勤・通学の便については、満足側、不満側に分かれていることが分かる。

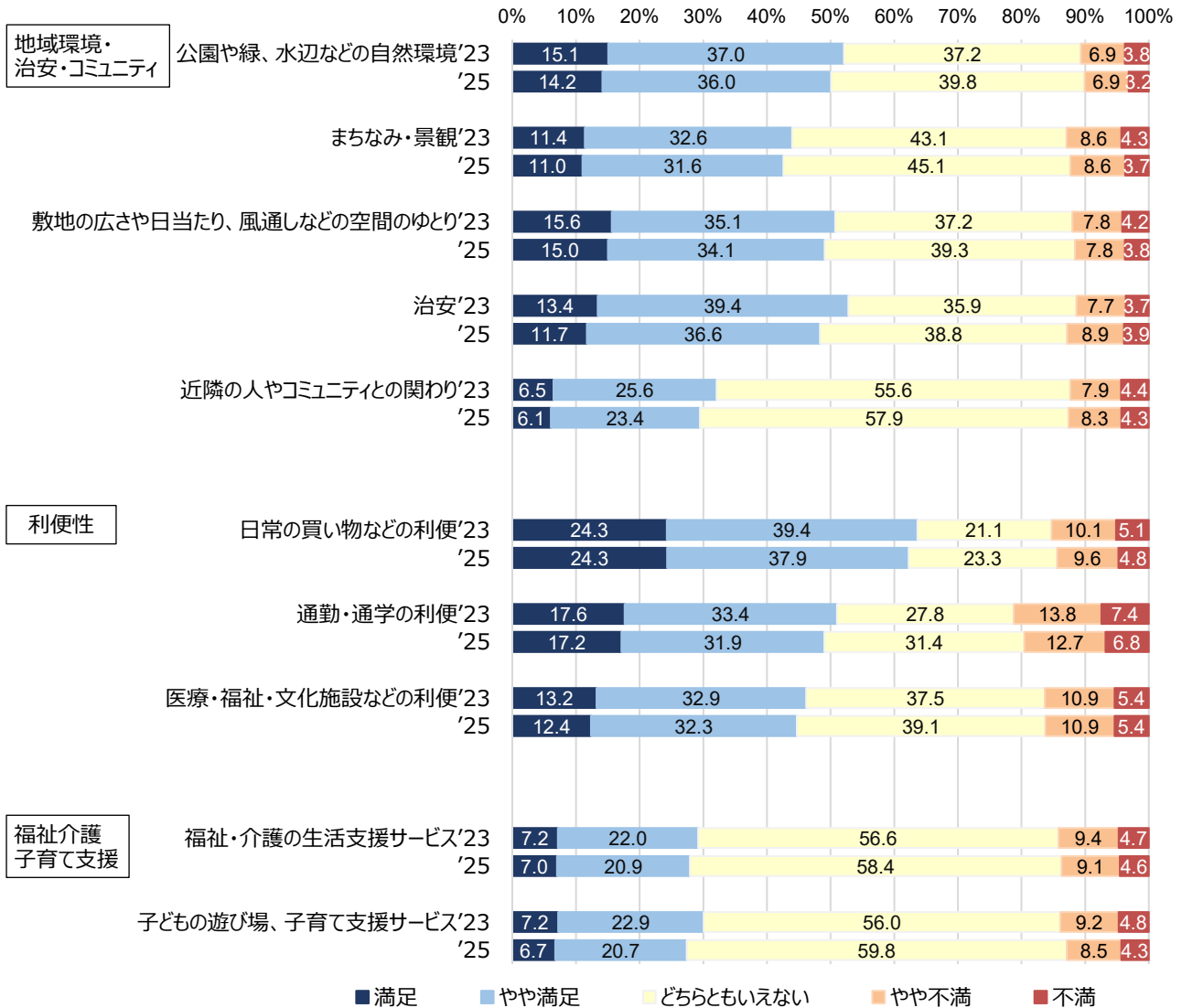


図 2-50 地域環境満足度 (%) 【全体、2023 年度調査結果との比較】

図 2-51 および 53 は、「満足」を5点、「不満」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

年代別では、利便性については若年層で満足度が高く、この傾向は通勤通学の便で顕著であった。福祉介護、子育て支援、および「まちなみ・景観」については、20代から50代にかけて満足度が低くなるが、60代で高くなるという傾向がみられた。

性別では、ほとんどの項目で女性の方が男性よりも満足度が高めだがその差は小さい。

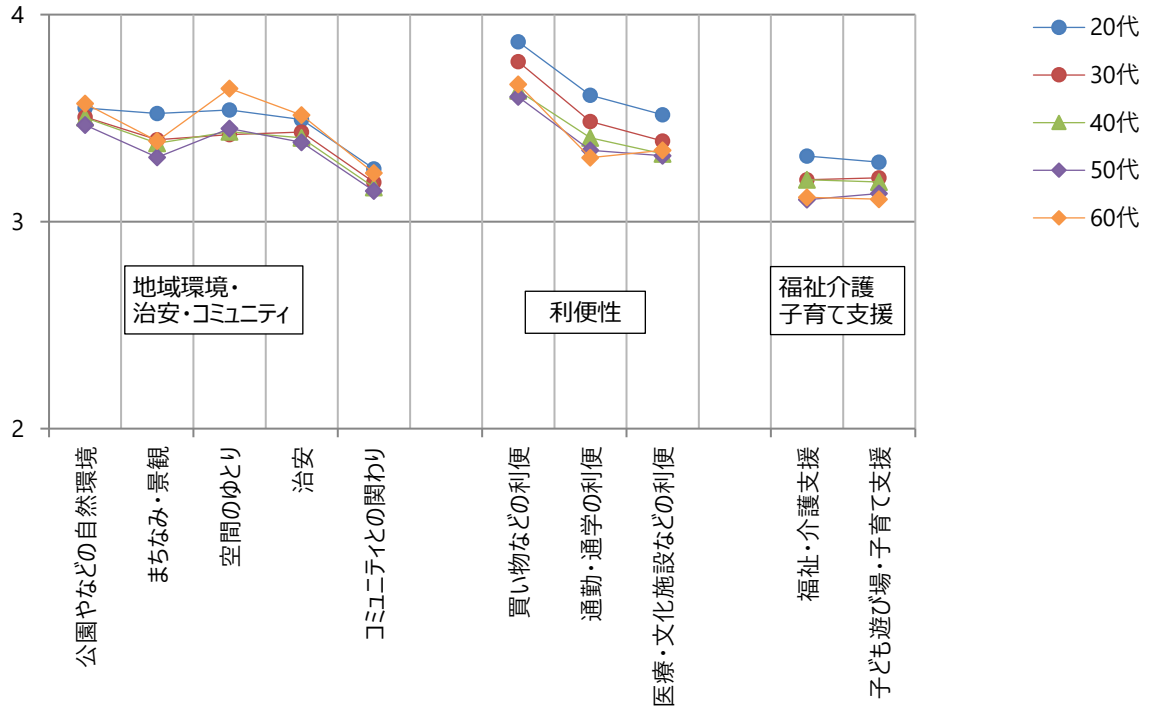


図 2-51 地域環境満足度 平均点【年代別】

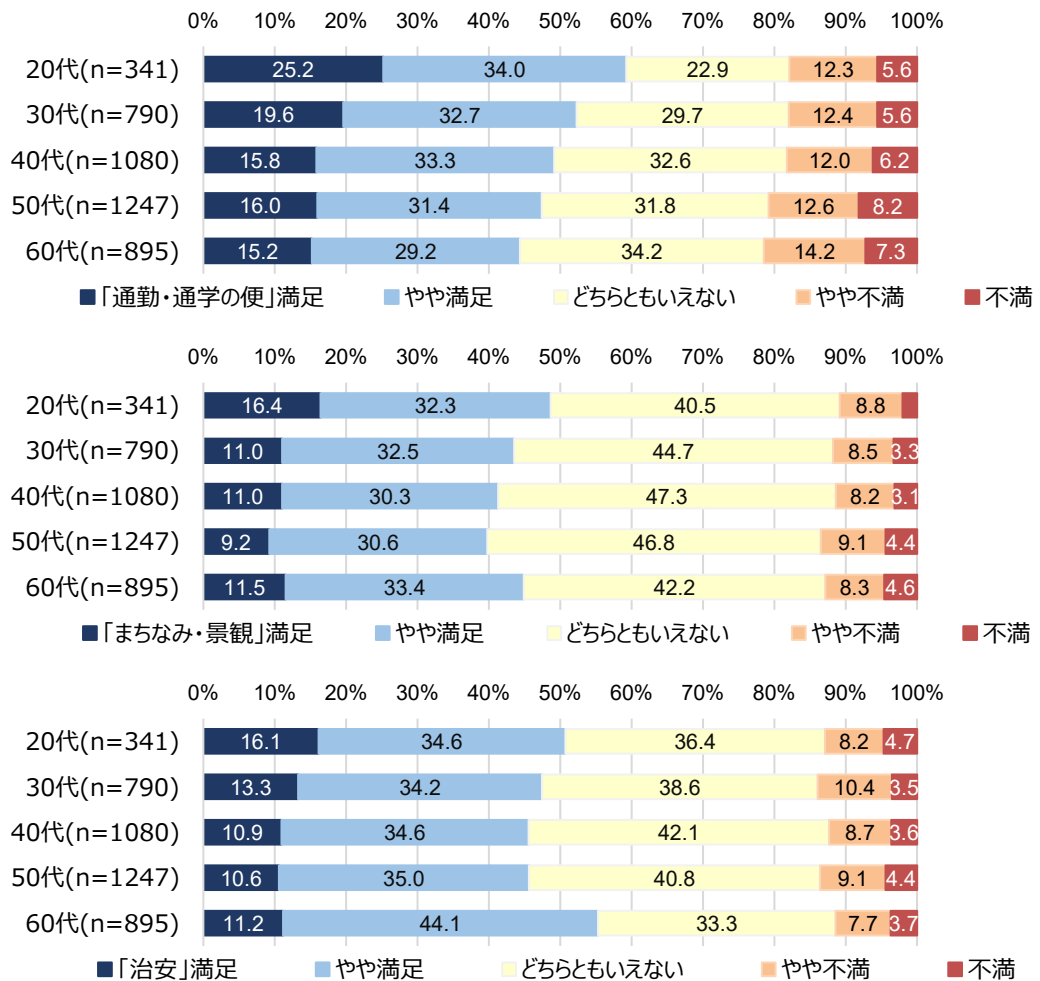


図 2-52 地域環境満足度 (%)【年代別】

エリア別では、利便性、福祉介護子育て支援の満足度において一定の差がみられた。利便性の満足度がもっとも高いのは東葛・湾岸であり、次いで印旛、内房、九十九里および香取・東総と続き、南房総・外房でもっとも低い。福祉介護子育て支援の満足度がもっとも高いのは、東葛・湾岸と印旛の2エリアとなるが、その他の順は変わらない。

地域環境・治安・コミュニティについては、利便性等に比べるとエリア差は大きくはないが、ほとんどの項目で印旛の満足度が高いという点が特徴的であった。

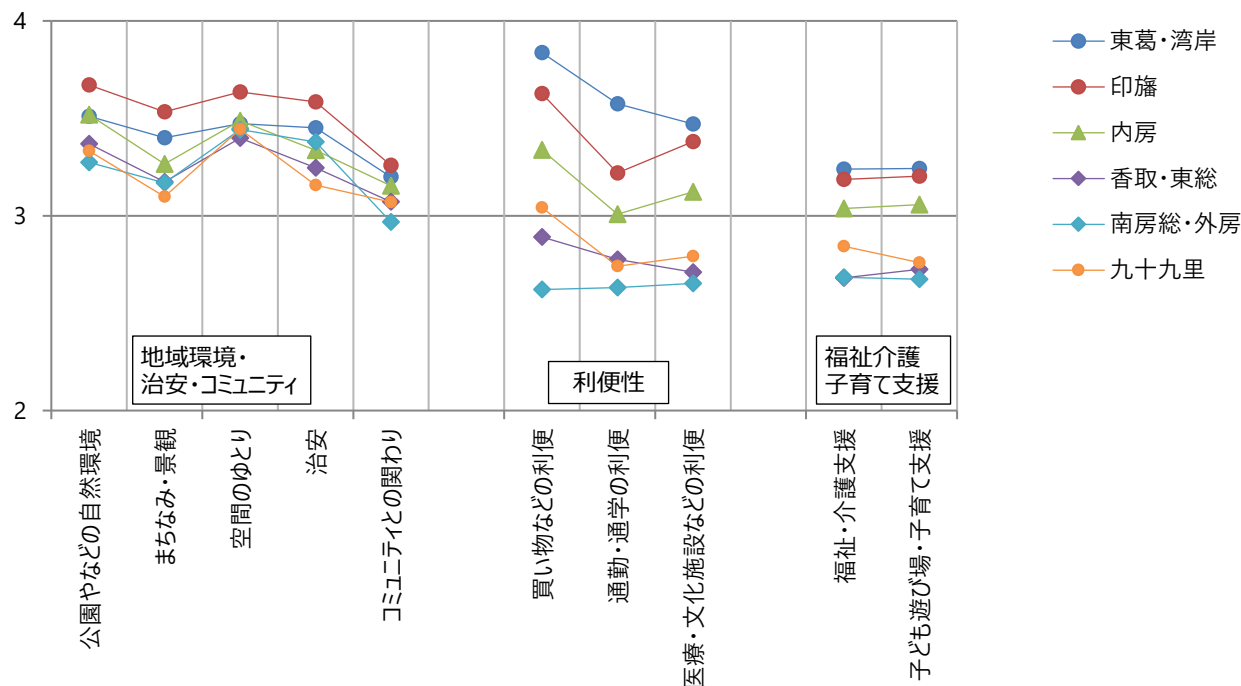


図 2-53 地域環境満足度 平均点【エリア別】

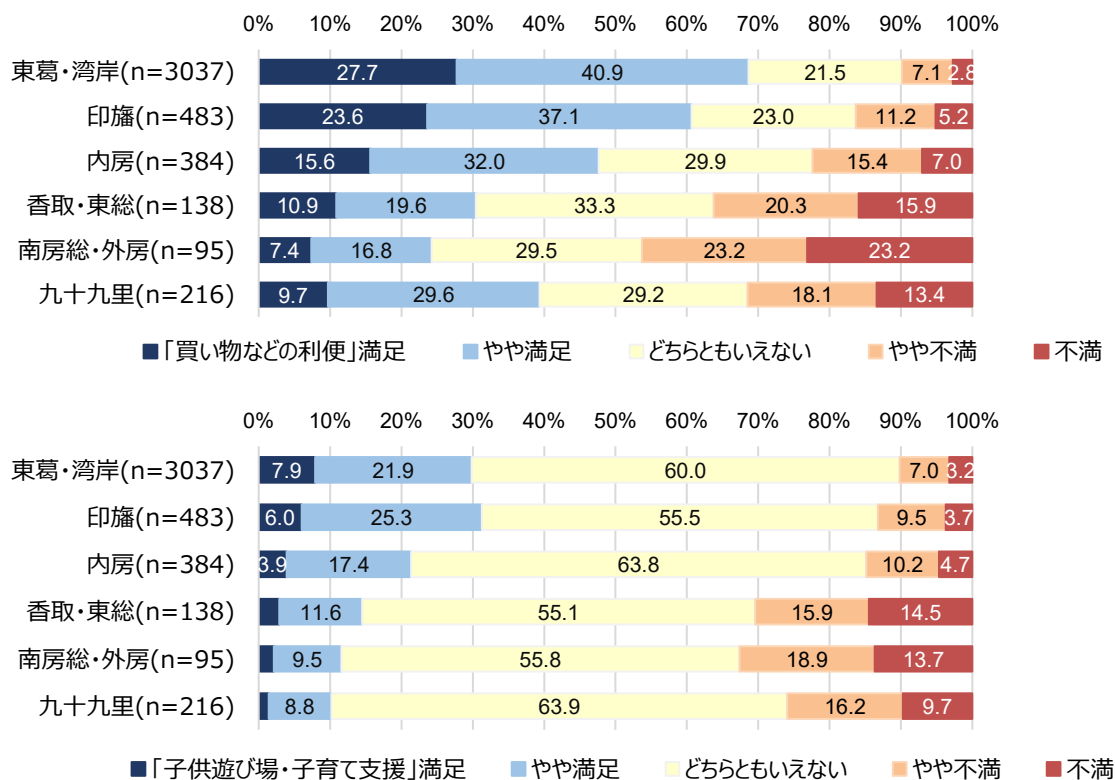


図 2-54-1 地域環境満足度 (%)【エリア別】

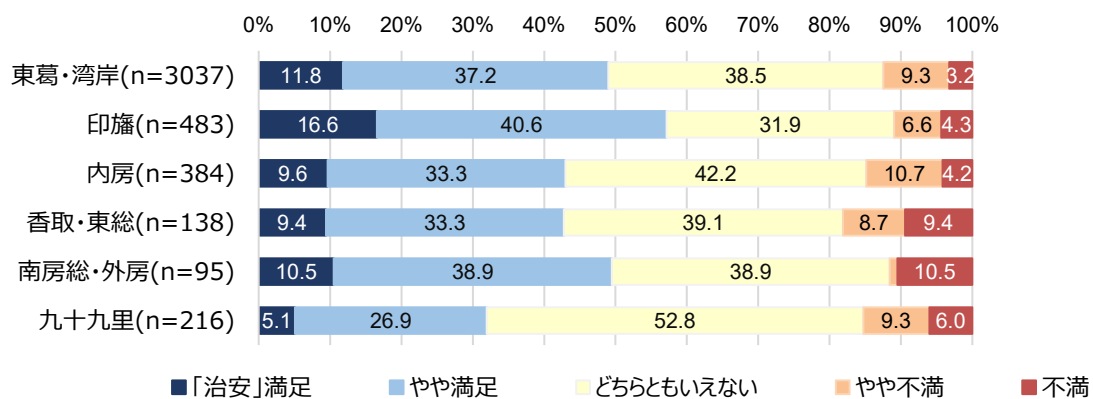
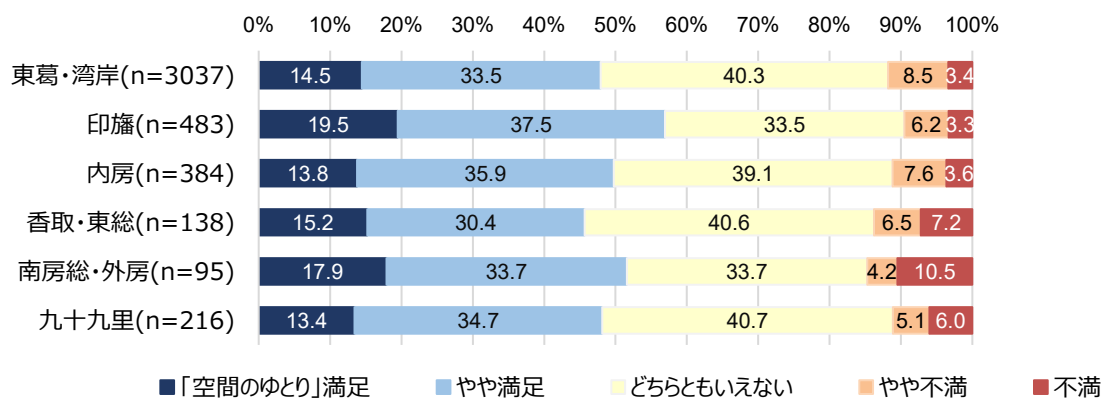
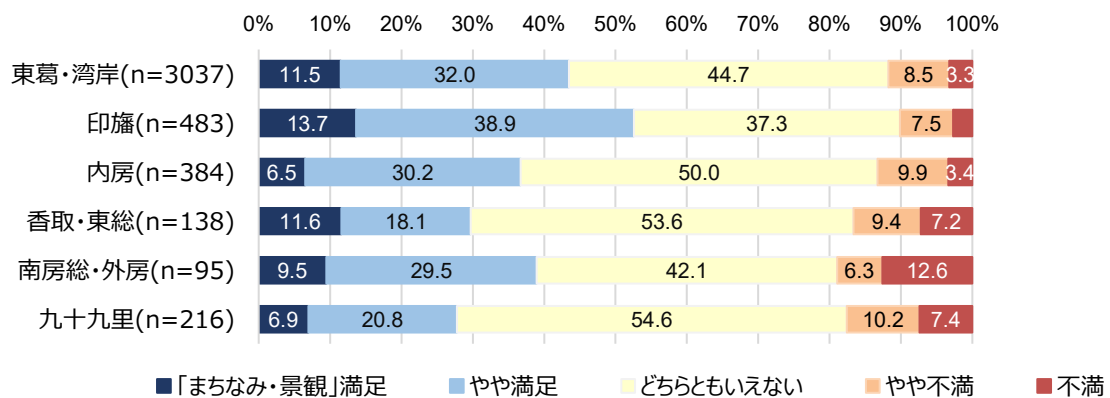
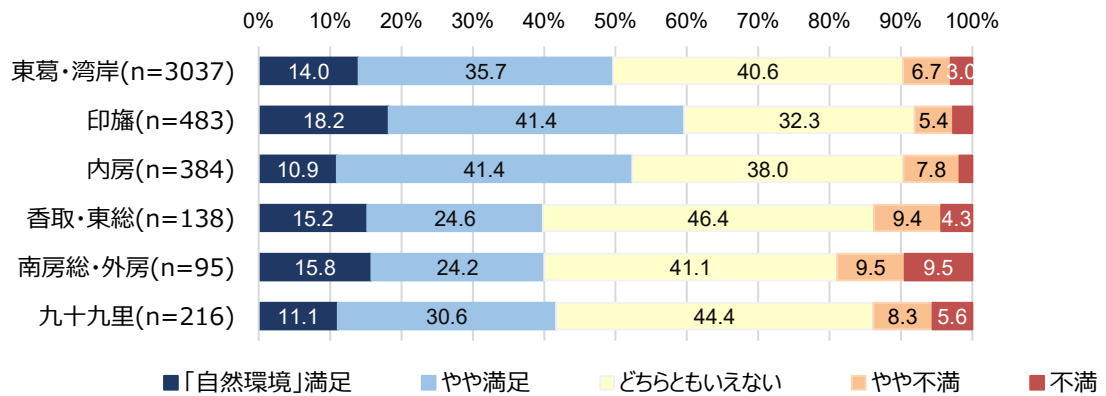


図 2-54-2 地域環境満足度 (%)【エリア別】(続き)

(3) 地域評価

〈Q7〉

地域の総合評価について5件法で聞いた結果を図2-55に示す。いずれの項目でも「あてはまる」側の回答が多く、地域評価は高いといえる。総合評価、永住意向については「あてはまる」側が半数前後と多く、「あてはまらない」は2割弱と少ない。比較すると、コミュニティは「あてはまる」側は3割強と少なく、その分「どちらともいえない」と「あてはまらない」側が多くなっている。

2023年度調査結果と比較すると、「このまちは住みよい」「好きだ」「安心できる」「近所づきあいが良好である」では「あてはまる」側の回答が微減している傾向がみえる。

図2-56および58は、「あてはまる」を5点、「あてはまらない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

年代別では、多くの項目において60代、および20代で評価が高いという傾向がみられた。ただし「このまちにずっと住みたい」「安心できる」「近所づきあいが良好」では60代のみ評価が高く、「地域活動・イベント等が活発」では若年層の方が評価が若干高いという傾向であった。

性別では、地域環境満足度と同じく、ほとんどの項目で女性の方が男性よりも評価が高い傾向があったがその差はほとんどない。

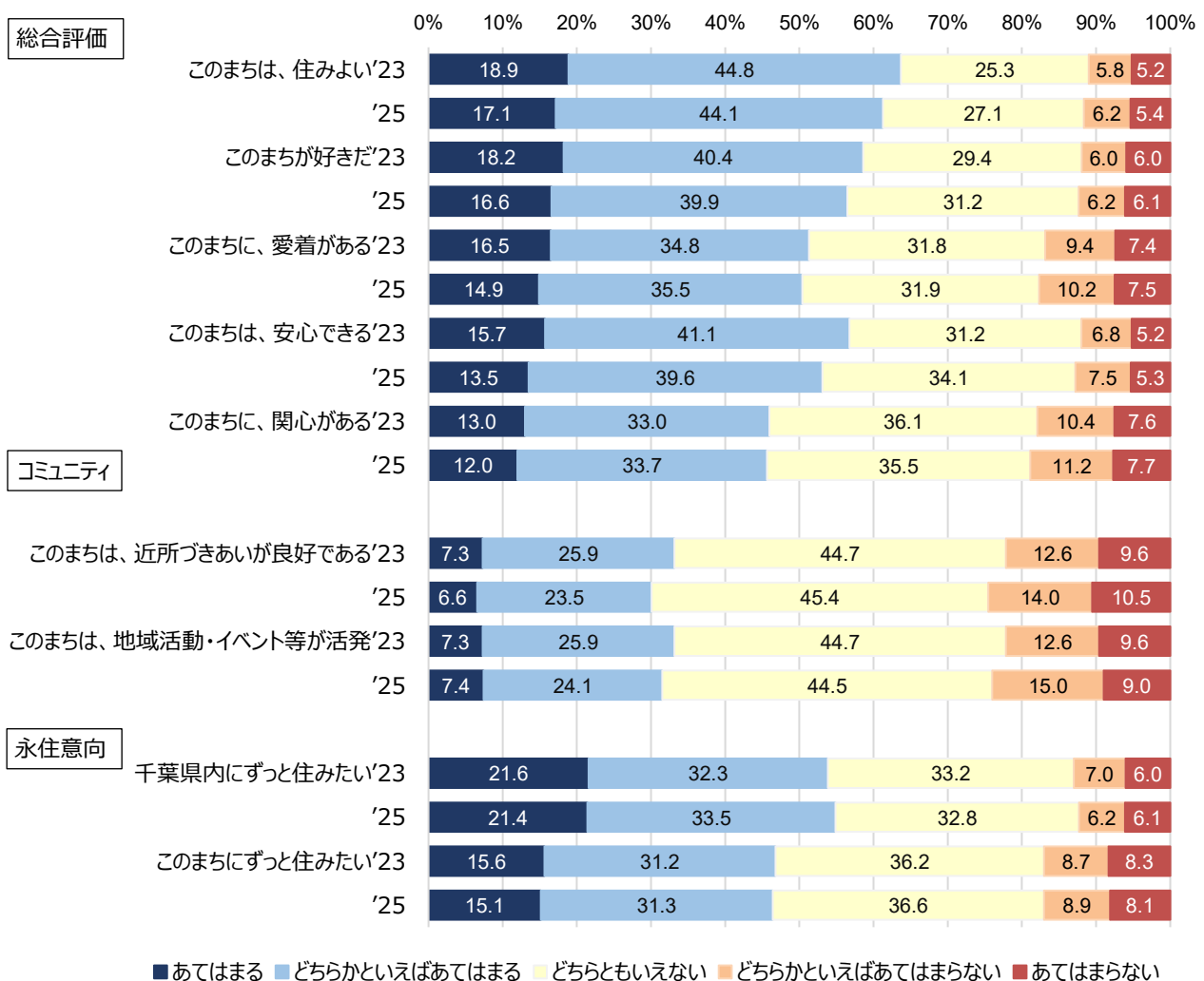


図2-55 地域の評価 (%) 【全体、2023年度調査結果との比較】

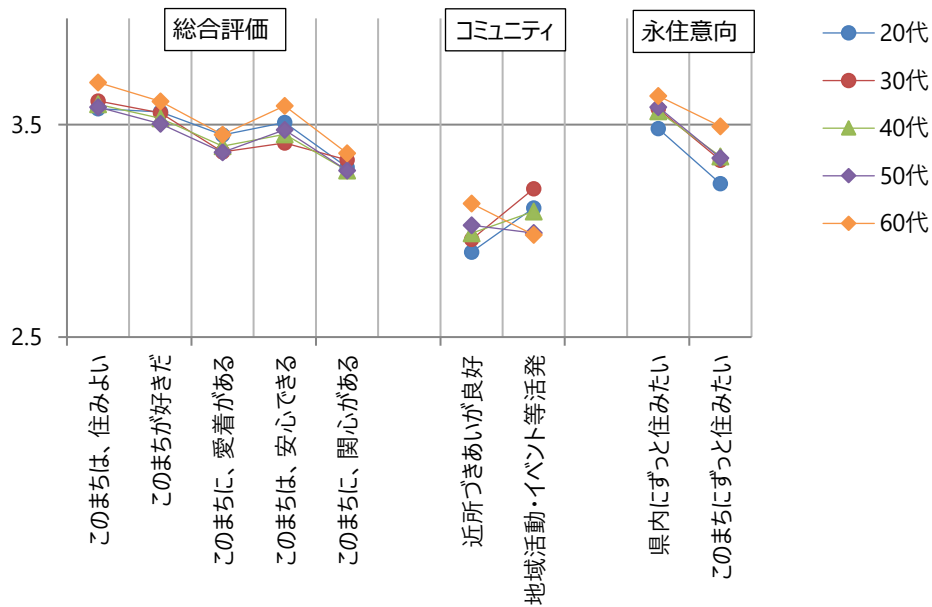


図 2-56 地域の評価 平均点【年代別】

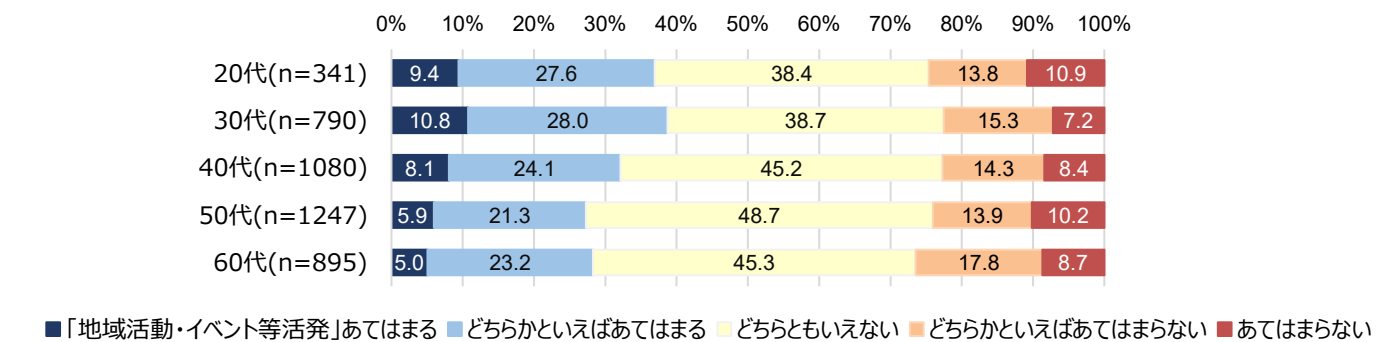
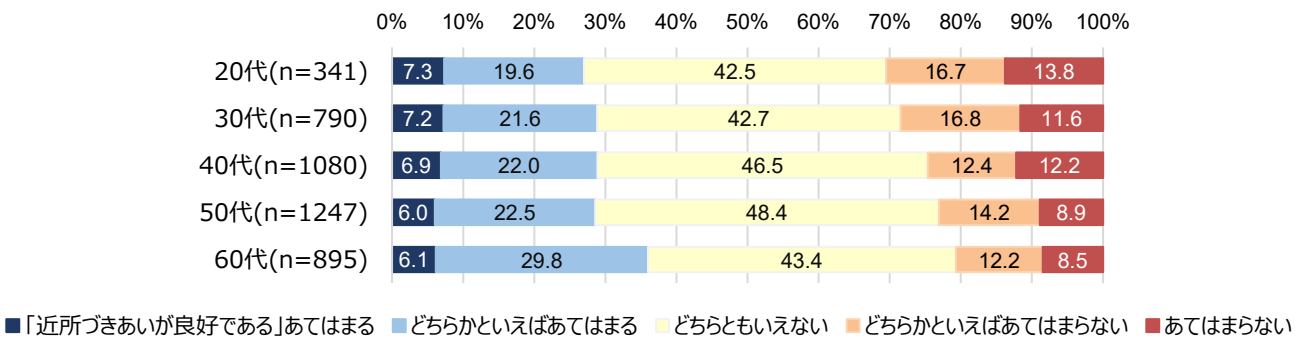
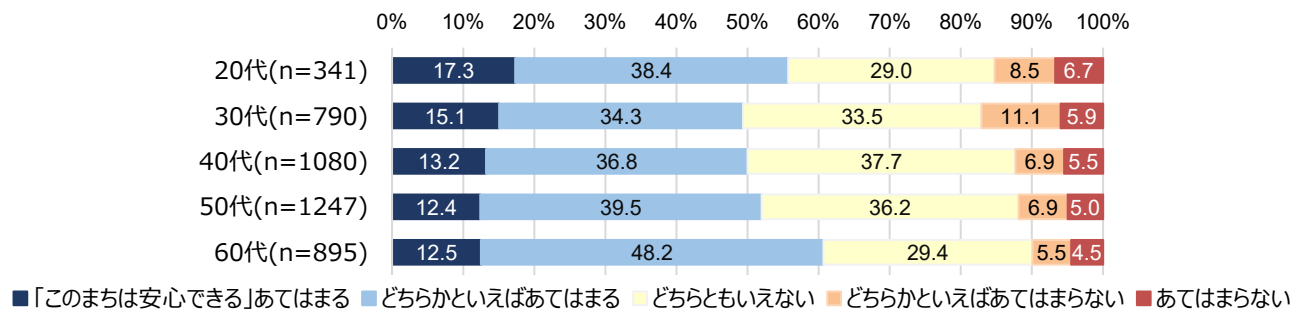


図 2-57 地域の評価 (%)【年代別】

エリア別では、地域の総合評価において、印旛および東葛・湾岸で評価が高く、南房総・外房で低いという傾向がみられた。南房総・外房では永住意向も他エリアより低い傾向があるが、「地域活動・イベント等活発」では印旛に次いで評価が高かった。

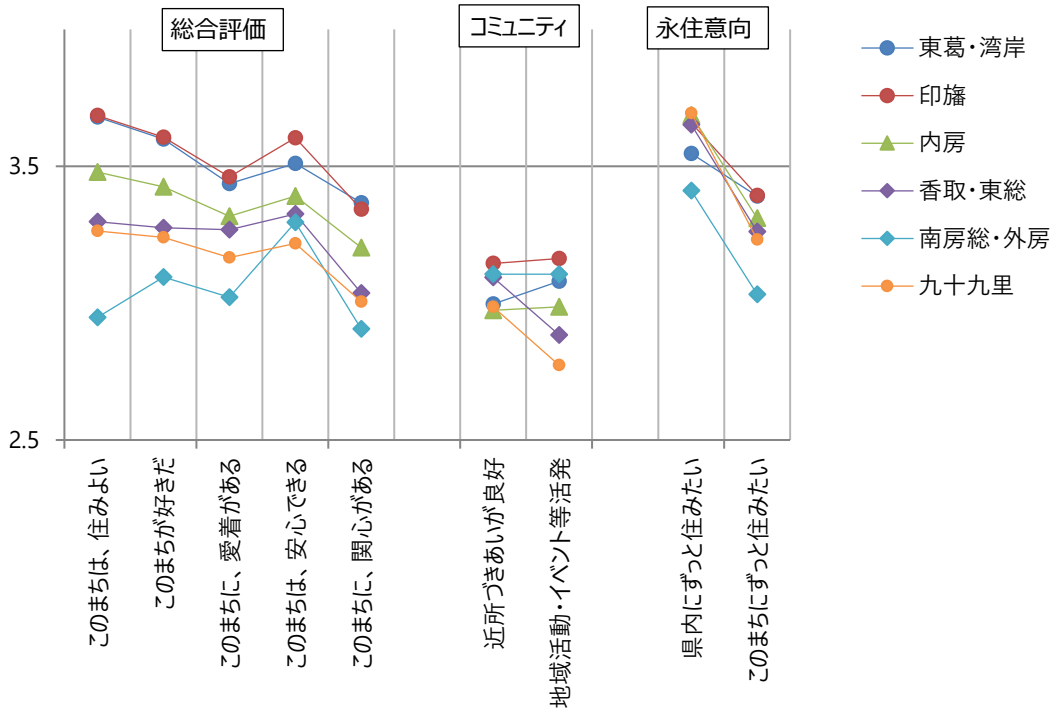


図 2-58 地域の評価 平均点【エリア別】

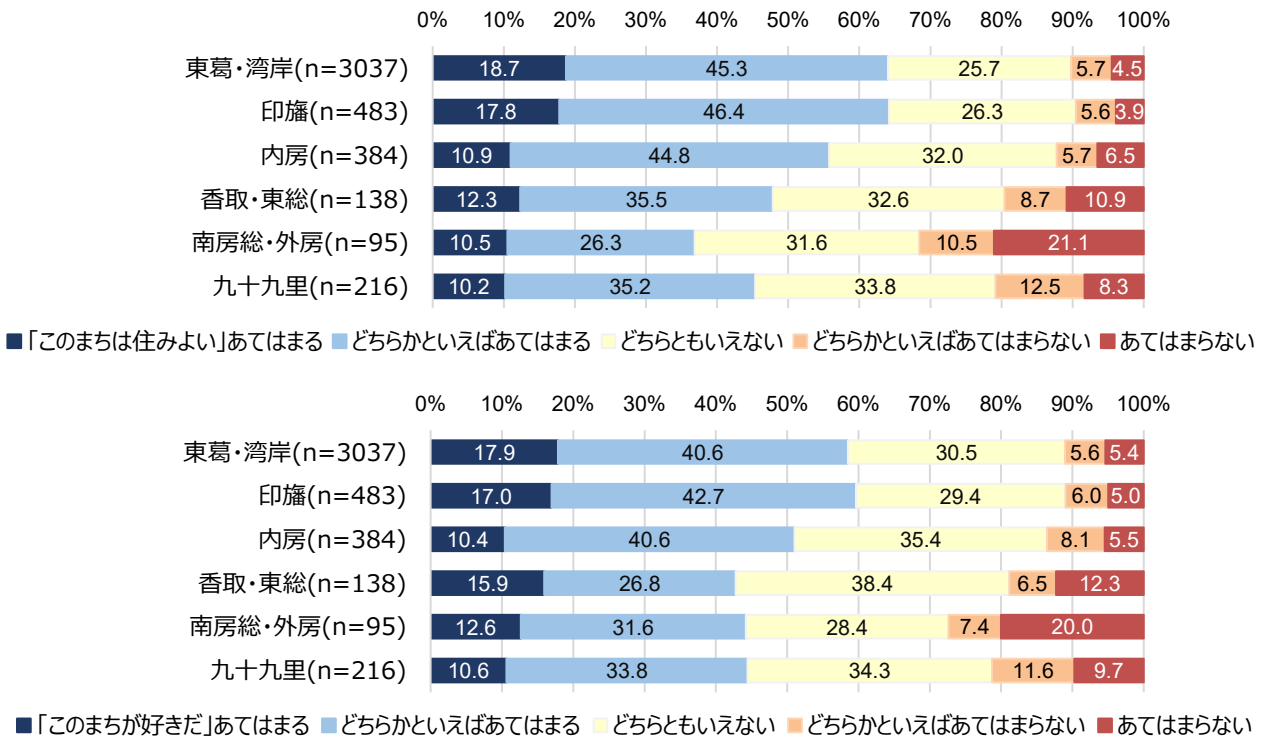


図 2-59-1 地域の評価 (%)【エリア別】

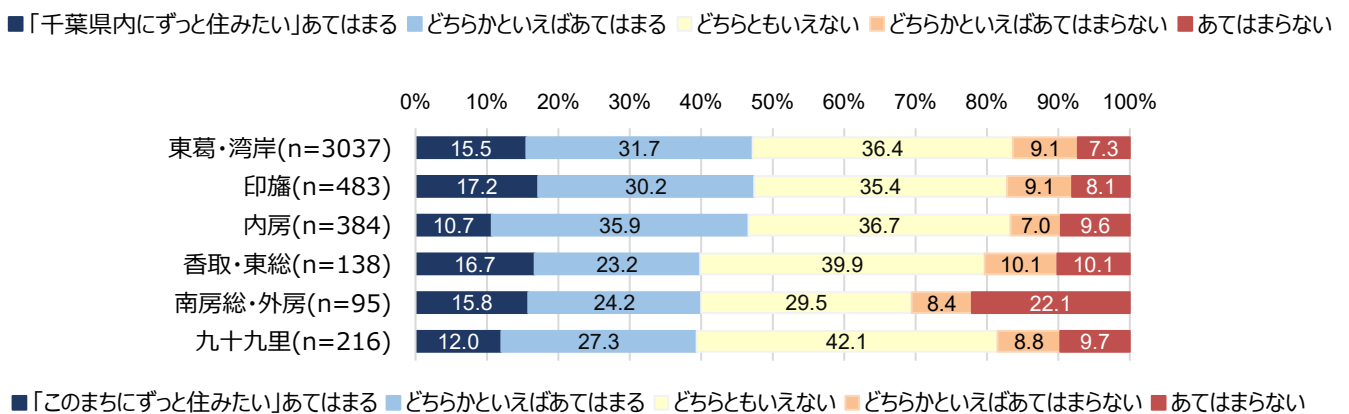
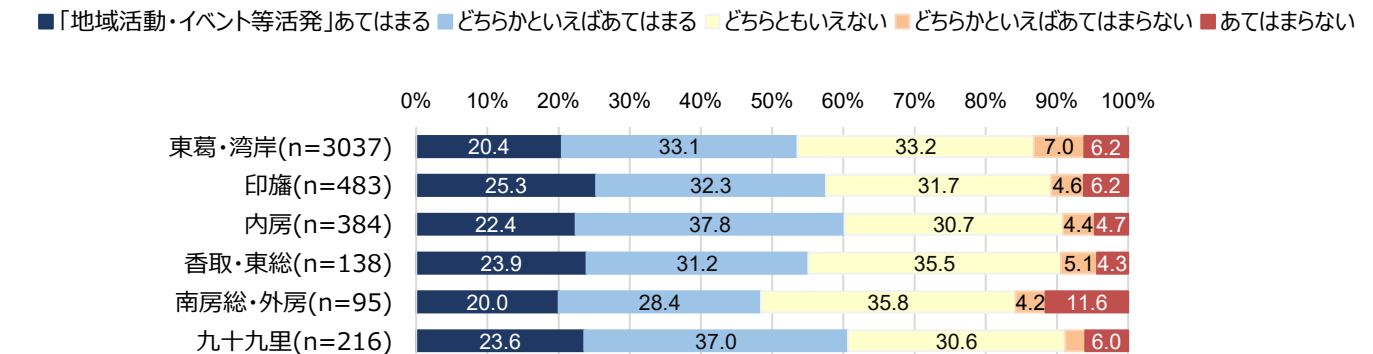
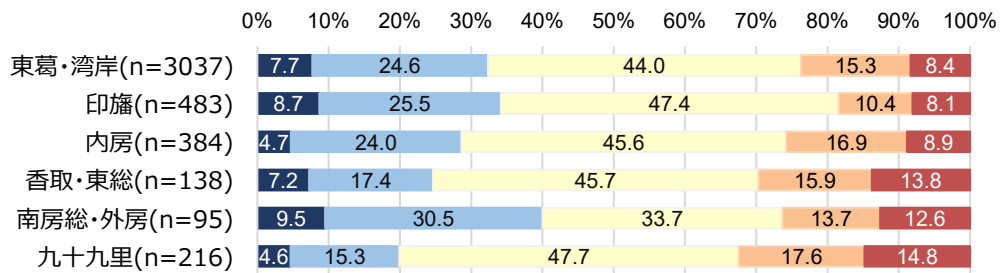
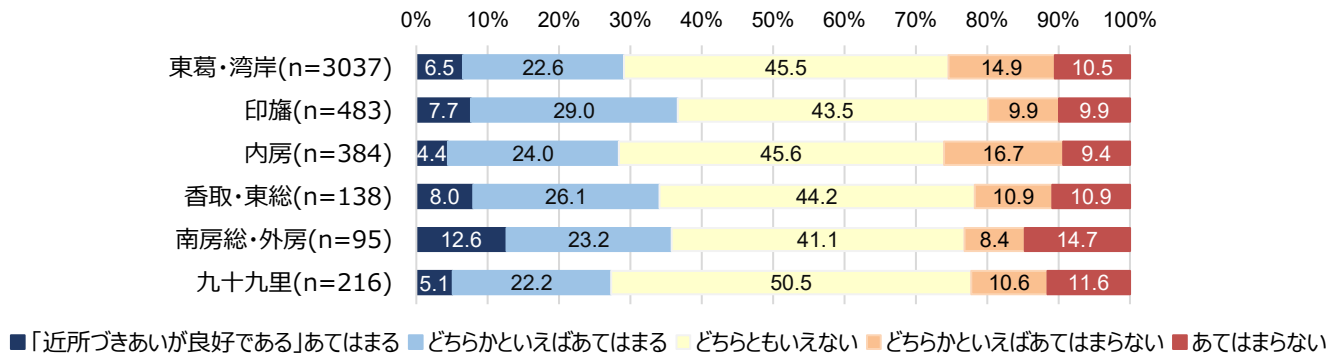
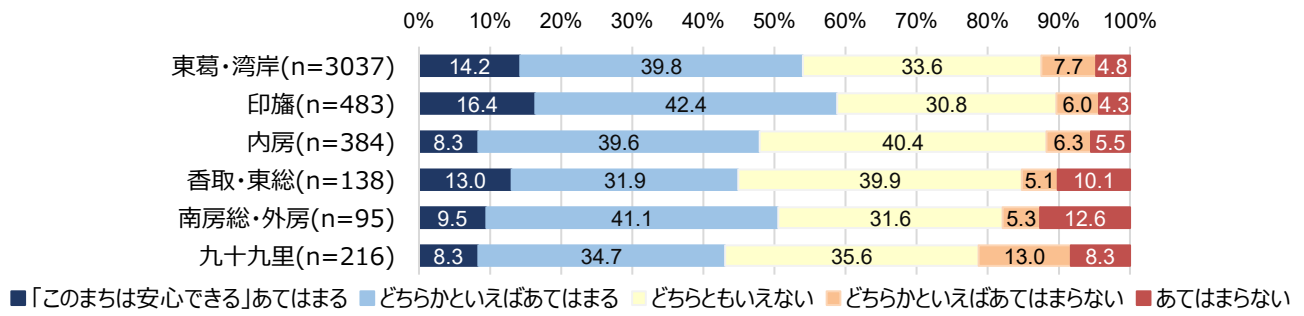


図 2-59-2 地域の評価 (%)【エリア別】(続き)

(4) 地域信頼感

〈Q18-3~7〉

隣近所の人々への信頼感等について4件法で聞いた結果を図2-60に示す。いずれの項目も「あてはまらない」側が過半数であった。

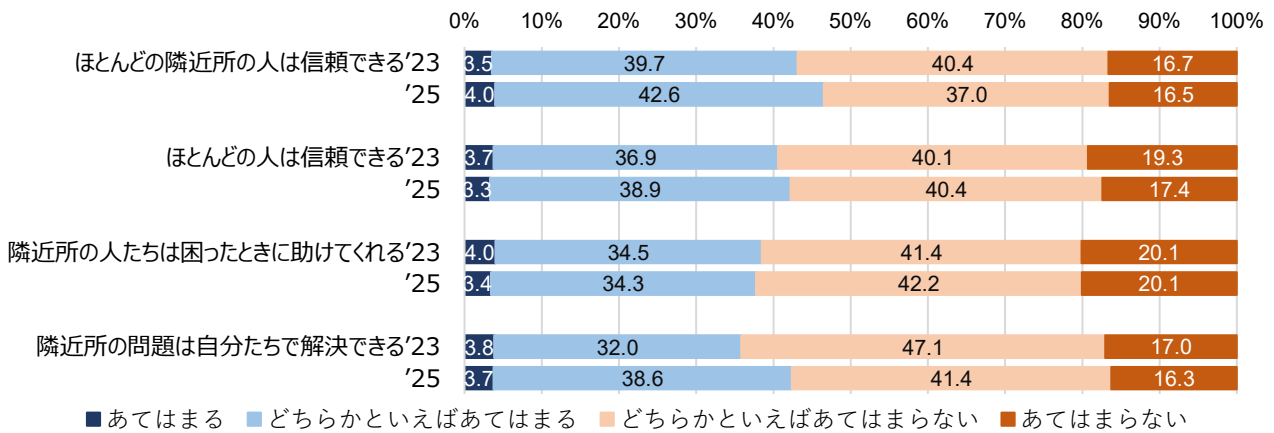


図 2-60 隣近所の人々への信頼感等 (%)【全体、2023 年度調査結果との比較】

図 2-61 は、「あてはまる」を 4 点、「あてはまらない」を 1 点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

年代別では明確な差があった。30 代以降は年代が高くなるにしたがって「あてはまる」側の回答が増える。ただし、20 代の「あてはまる」側の回答は 30 代よりも多い。

エリア別では有意な差はなかったが、印旛で「あてはまる」側の回答が多く、南房総・外房で少ないという傾向がみられた。

性別では、ほとんど差がみられなかった。

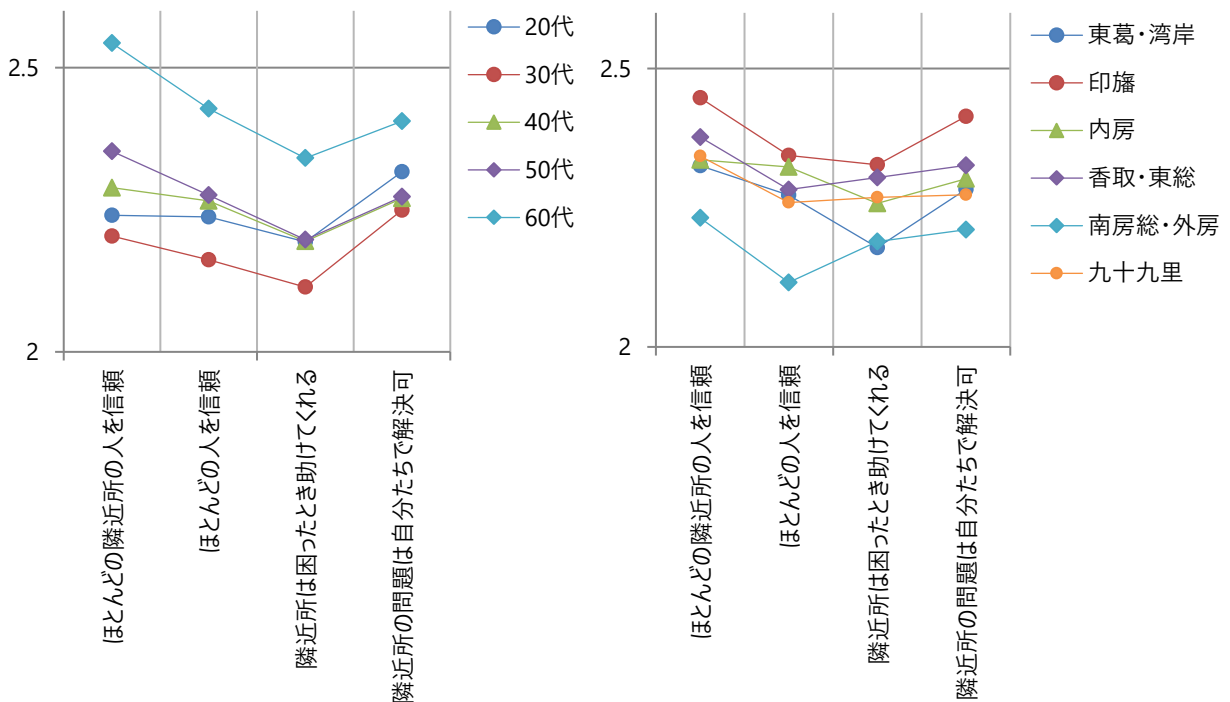


図 2-61 隣近所の人々への信頼感等 平均点【年代別、エリア別】

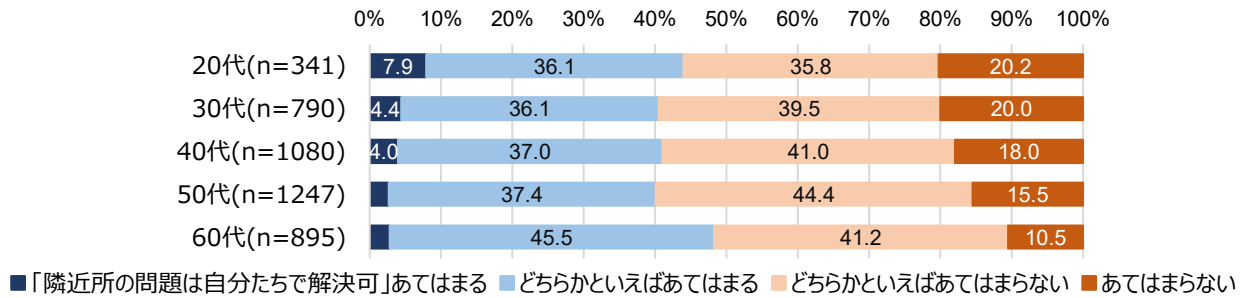
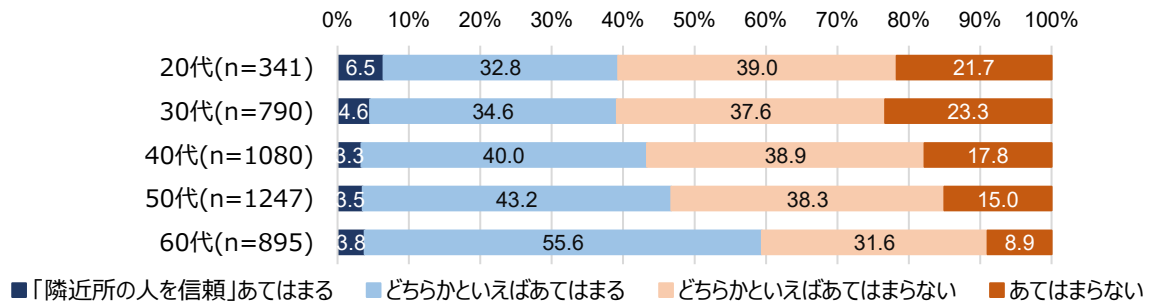


図 2-62 隣近所の人々への信頼感等 (%)【年代別】

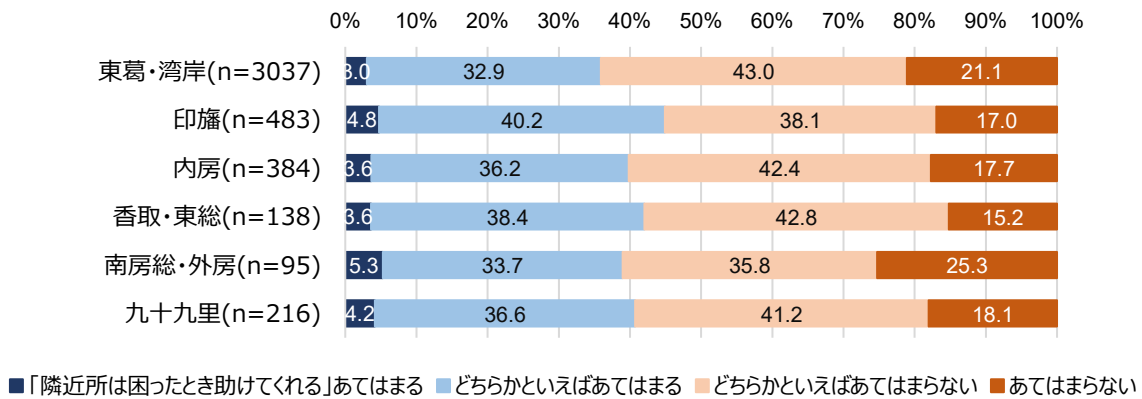
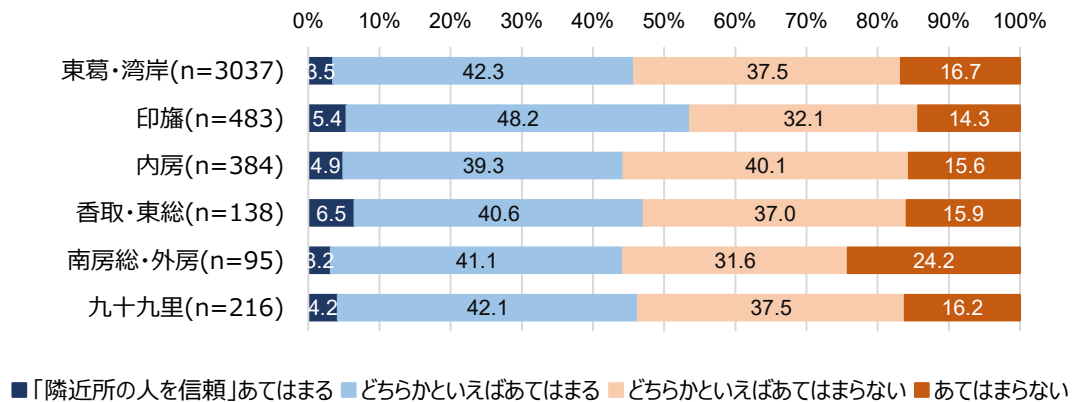


図 2-63 隣近所の人々への信頼感等 (%)【エリア別】

(5) 地域安全確保主体への意見

〈Q21-6~8〉

地域の安全を確保する責任について4件法で聞いた結果を図2-64に示す。両項目とも「そう思う」側が過半数と多い。

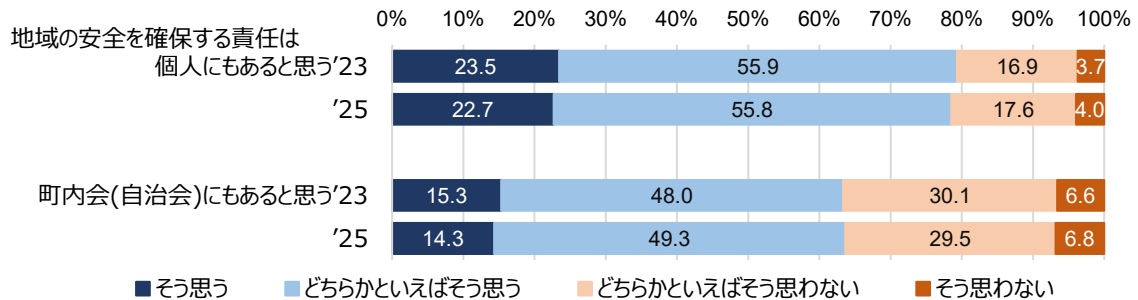


図2-64 地域安全確保主体への意見 (%)【全体、2023年度調査結果との比較】

性別では、両項目とも女性の方が「そう思う」側の回答が若干多かった。

年代別では、「個人にも責任がある」に関しては高齢である方が、「町内会にも責任がある」は若い層の方が「そう思う」側の回答が若干多かった。

エリア別ではほとんど差がみられなかった。

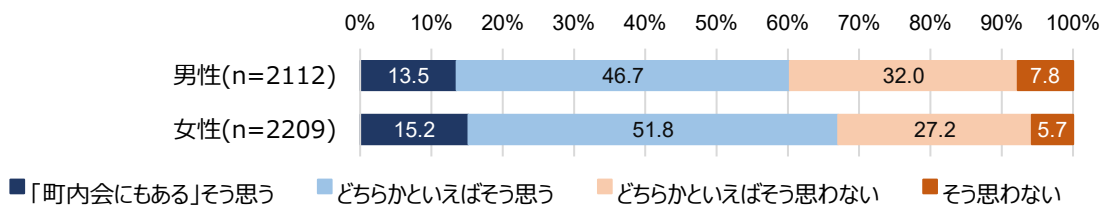


図2-65 地域安全確保主体への意見 (%)【性別】

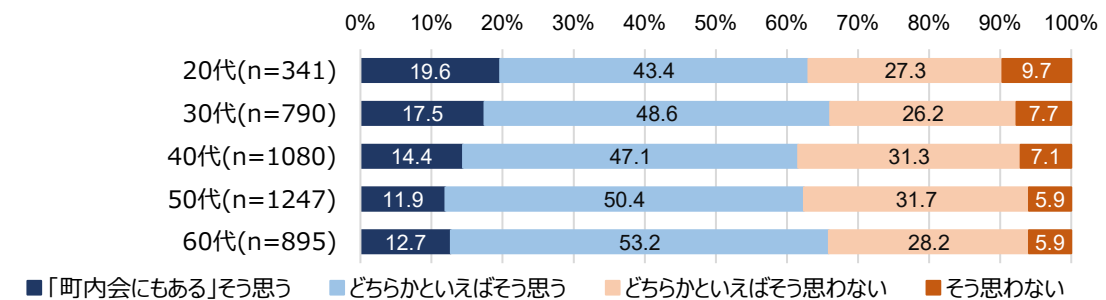
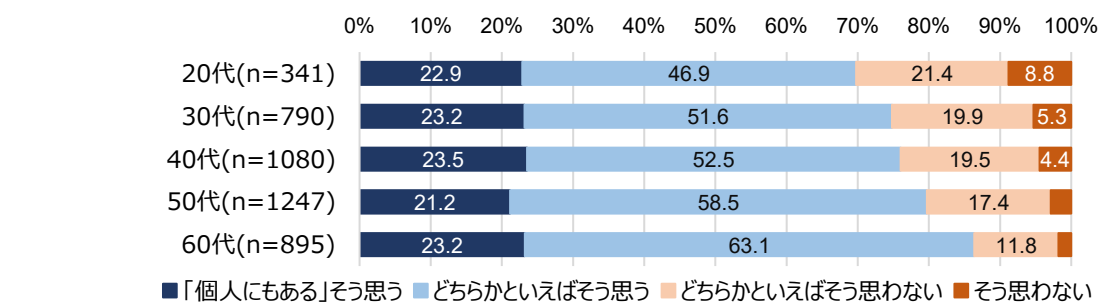


図2-66 地域安全確保主体への意見 (%)【年代別】

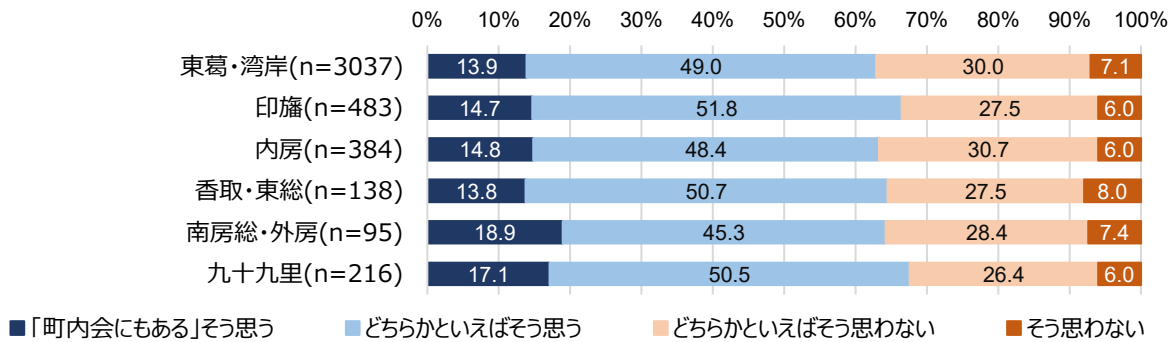
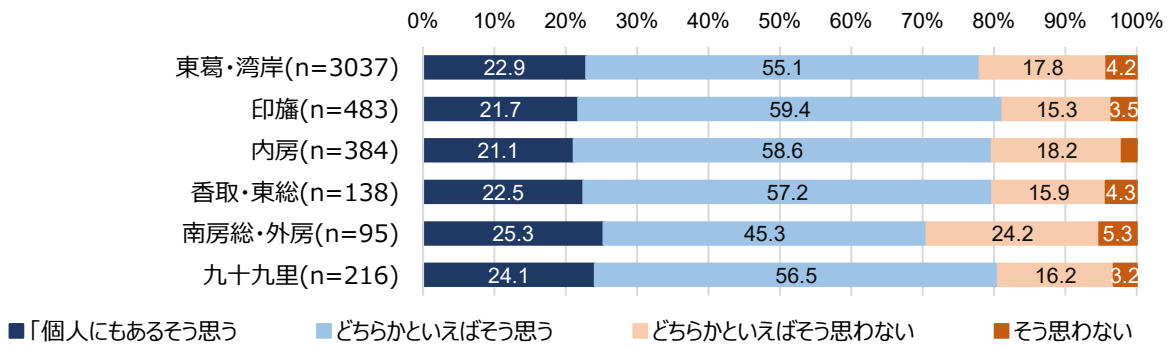


図 2-67 地域安全確保主体への意見 (%)【エリア別】

「市民は、地域や社会に貢献する責任がある」という意見について 4 件法で聞いた結果を図 2-68 に示す。地域の安全を確保する責任に関する設問と同様に、「そう思う」側の回答が多い。エリア別ではほとんど差はないが、九十九里で若干「そう思う」側の回答が多い傾向がみえる。

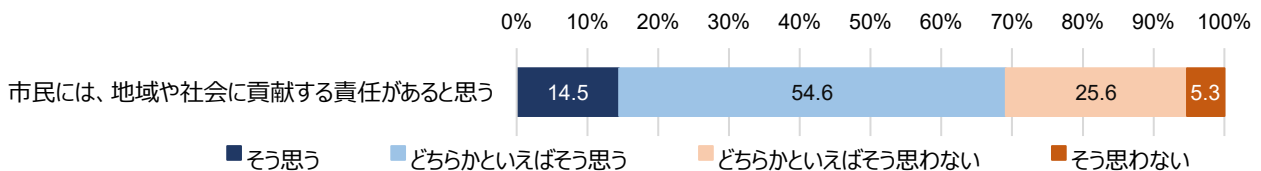


図 2-68 市民の地域・社会貢献責任に関する意見 (%)【全体】

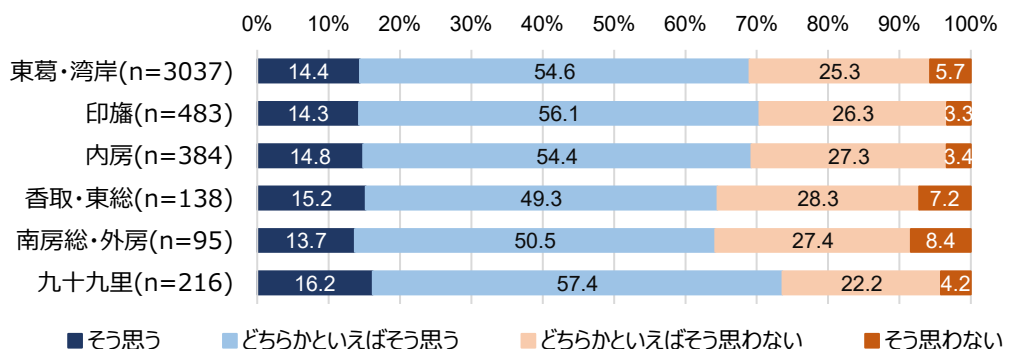


図 2-69 市民の地域・社会貢献責任に関する意見 (%)【全体】

(6) 地域の変化

〈Q18-8~10〉

地域の変化について4件法で聞いた結果を図2-70に示す。「あてはまる」側が多い順に、「外国籍の住民増」、「新築マンション増」、「住民数減少」であった。

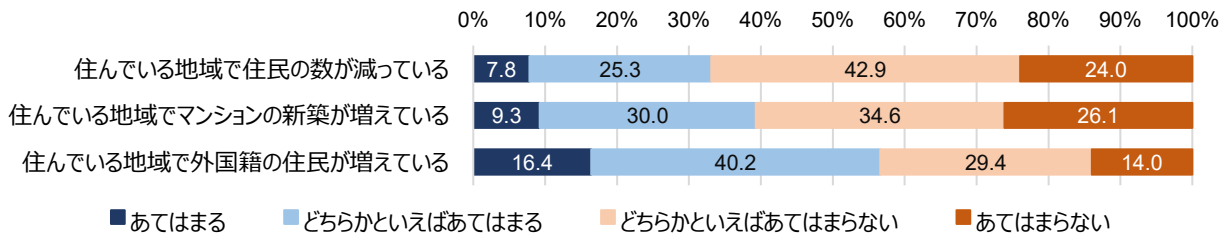


図 2-70 地域の変化に関する評価 (%)【全体】

これらの項目は、エリアごとに顕著な差がみられる。

住民数減少で「あてはまる」側の回答が8割近くともっとも多いのは南房総・外房である。次いで多いのは香取・東総、九十九里の順であり、この3エリアでは「あてはまる」側が6割以上を占めるが、その他のエリアでは4割にも満たない。新築マンション増で「あてはまる」側の回答がもっとも多いのは東葛であり、5割近くを占めるが、もっとも少ない九十九里では1割程度である。外国籍の住民増で「あてはまる」側の回答がもっとも多いのは印旛である。次いで東葛、香取・東総、九十九里、内房、南房総・外房の順であった。

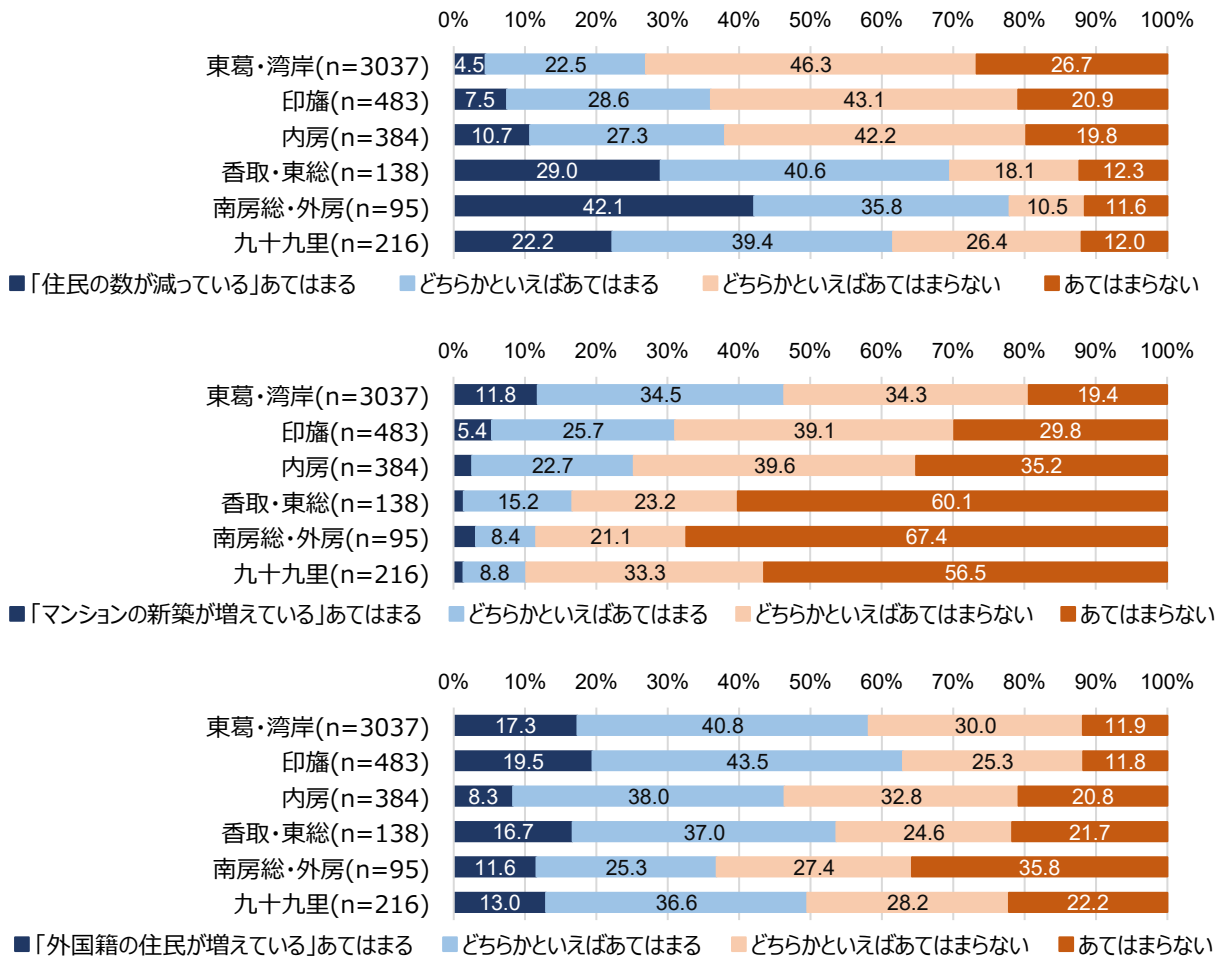


図 2-71 地域の変化に関する評価 (%)【エリア別】

2-4. 犯罪・防犯

(1) 犯罪被害経験

〈Q 13〉 〈Q6-7〉

この1年間に犯罪被害にあったことがあるかを聞いたところ、「あなた・同居家族ともに犯罪の被害にあったことはない」が90.4%であった（2023年度調査では91.8%）。

何らかの被害にあった417人に対し罪種等を複数回答可で聞いた結果を図2-72および73に示す。回答者本人、同居家族を問わずもっとも多かったのは「インターネットによる詐欺・悪質商法・消費者被害」であり、2023年度調査よりも割合がわずかに増加している。その他、増加傾向がみえるのは「電話de詐欺」「自転車盗」等である。

年代別、性別、エリア別の割合を表2-3に示す。

性別による差はほとんどない。年代別では、「ネット詐欺・悪質商法・消費者被害」は20代と60代で、「ちかん・つきまといなど」「自動車盗・バイク盗・車上ねらい」は20代で若干多かった。

エリア別では、「自宅敷地への侵入」が香取・東総や南房総・外房等で、「家族や恋人からの暴力」および「建物や自動車の落書きや損壊」は南房総・外房で若干多い等の傾向がみられた。

なお、別問で、1年間の間に、犯罪の被害にあった友人・知人がいるかを聞いたところ、「あてはまる」という回答は全体の4.6%であった（2023年度調査では4.8%）。

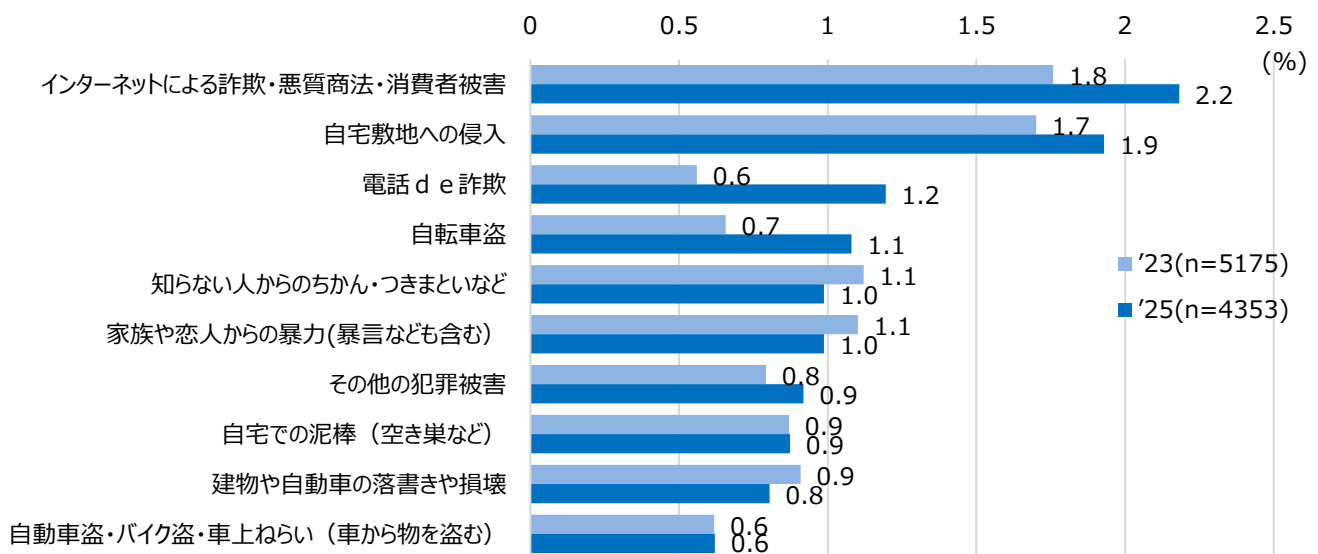


図 2-72 1年間に回答者本人があった犯罪被害経験（複数回答可）【全体、2023年度調査結果との比較】

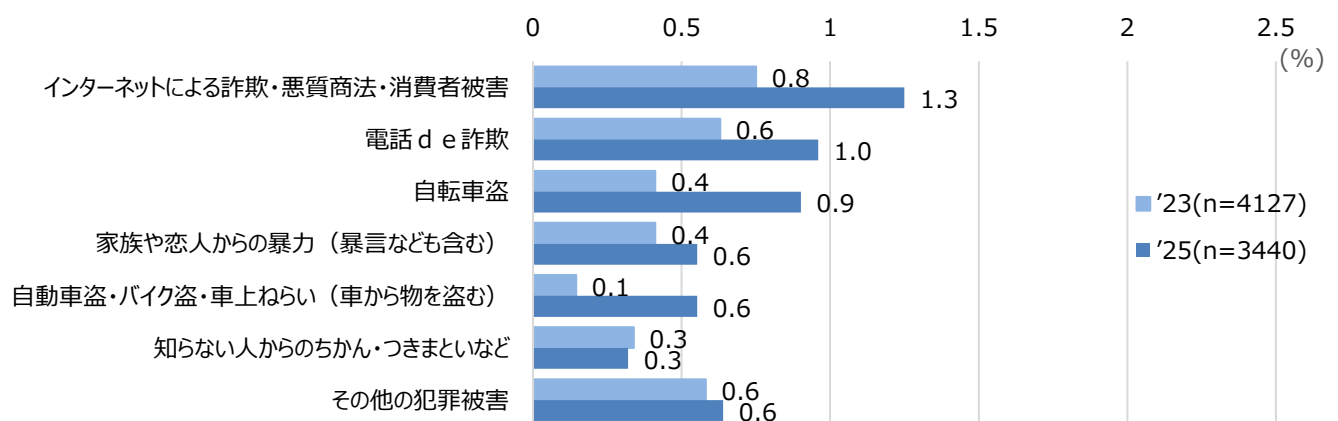


図 2-73 1年間に同居家族があった犯罪被害経験（複数回答可）【同居家族あり全体、'23との比較】

表 2-3 1 年間であった犯罪被害経験 (%)【年代別、性別、エリア別】

本人があった犯罪被害（年代別、性別）	年代別					性別	
	20代 (n=341)	30代 (n=790)	40代 (n=1080)	50代 (n=1247)	60代 (n=895)	男性 (n=2112)	女性 (n=2209)
ネットによる詐欺・悪質商法・消費者被害	3.5	2.2	1.9	1.2	3.5	2.4	2.0
自宅敷地への侵入	1.8	2.0	1.8	2.2	1.8	1.8	2.0
電話 d e 詐欺	1.5	1.1	0.7	1.6	1.1	1.3	1.1
自転車盗	1.2	1.4	0.6	1.4	1.0	1.3	0.9
知らない人からのちかん・つままといなど	2.3	1.0	1.1	1.1	0.1	0.8	1.2
家族や恋人からの暴力(暴言なども含む)	1.5	1.4	1.1	0.8	0.6	0.7	1.3
その他の犯罪被害	0.9	0.5	0.4	1.7	0.9	1.2	0.6
自宅での泥棒（空き巣など）	2.1	0.9	0.7	0.6	1.0	1.0	0.7
建物や自動車の落書きや損壊	0.6	1.0	1.1	0.6	0.6	0.9	0.8
自動車盗・バイク盗・車上ねらい（車から物を盗む）	2.1	0.6	0.5	0.3	0.7	0.9	0.4
犯罪の被害にあったことはない	87.7	90.1	91.3	90.2	90.9	90.5	90.3

本人があった犯罪被害（エリア別）	エリア別						全体 (n=4353)
	東葛・湾岸 (n=3037)	印旛 (n=483)	内房 (n=384)	香取・東総 (n=138)	南房総・外房 (n=95)	九十九里 (n=216)	
ネットによる詐欺・悪質商法・消費者被害	2.4	1.9	1.3	1.4	2.1	1.9	2.2
自宅敷地への侵入	1.7	2.3	1.3	4.3	3.2	2.8	1.9
電話 d e 詐欺	1.2	1.9	0.5	0.7	1.1	0.9	1.2
自転車盗	1.0	1.0	1.6	1.4	1.1	1.4	1.1
知らない人からのちかん・つままといなど	1.1	0.6	0.8	0.7	0.0	0.9	1.0
家族や恋人からの暴力(暴言なども含む)	0.9	1.2	1.0	0.7	3.2	0.5	1.0
その他の犯罪被害	1.0	1.2	0.0	0.0	2.1	0.5	0.9
自宅での泥棒（空き巣など）	0.9	0.8	0.8	1.4	1.1	0.5	0.9
建物や自動車の落書きや損壊	0.8	1.0	0.8	0.7	3.2	0.0	0.8
自動車盗・バイク盗・車上ねらい（車から物を盗む）	0.7	0.0	1.0	0.0	0.0	0.9	0.6
犯罪の被害にあったことはない	90.5	88.4	93.0	90.6	86.3	90.3	90.4

同居家族があった犯罪被害（エリア別）	エリア別						全体 (n=3440)
	東葛・湾岸 (n=2358)	印旛 (n=412)	内房 (n=312)	香取・東総 (n=105)	南房総・外房 (n=73)	九十九里 (n=180)	
ネットによる詐欺・悪質商法・消費者被害	1.1	1.2	0.3	1.0	0.0	0.6	1.0
電話 d e 詐欺	1.0	3.2	1.3	0.0	1.4	1.1	1.3
自転車盗	1.1	0.5	0.3	0.0	1.4	0.6	0.9
知らない人からのちかん・つままといなど	0.3	0.5	0.6	0.0	1.4	0.0	0.3
家族や恋人からの暴力(暴言なども含む)	0.6	1.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.6
自動車盗・バイク盗・車上ねらい（車から物を盗む）	0.6	0.7	0.3	0.0	0.0	0.0	0.6
その他の犯罪被害	0.7	0.5	0.3	1.0	0.0	0.6	0.6

(2) 犯罪不安感

〈Q14〉

犯罪に対する不安感について4件法で聞いた結果を図2-74に示す。いずれの項目も「やや不安」が4～5割と最も多く、「不安はない」は1～3割と少ない。

2023年度調査結果と比較すると、いずれの項目においても不安感が若干高くなっている。

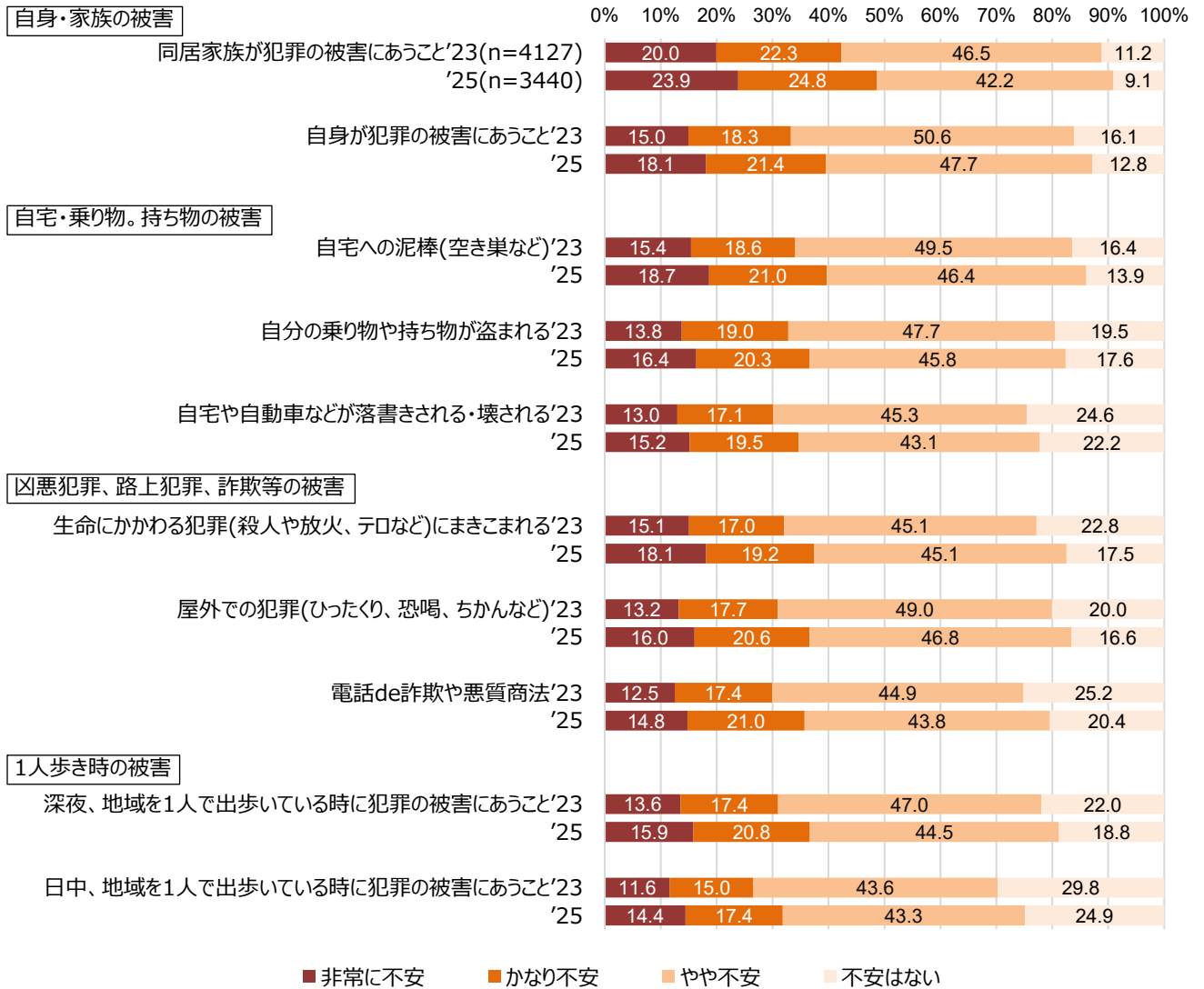


図2-74 犯罪不安感 (%)【全体、2023年度調査結果との比較】

図2-75は、「非常に不安」を4点、「不安はない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。項目を問わず、性別では女性の方が、年代別では概ね若い方が不安感が高いという顕著な傾向がみられた。エリア別では、ほとんどの項目で、東葛・湾岸で不安感が低いという傾向がみられた。

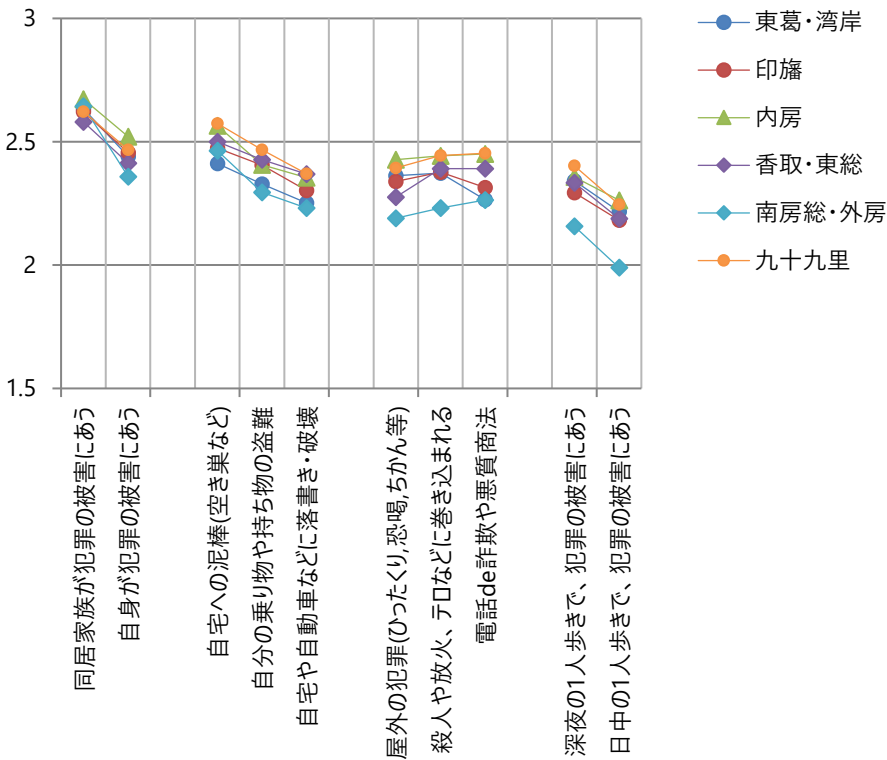
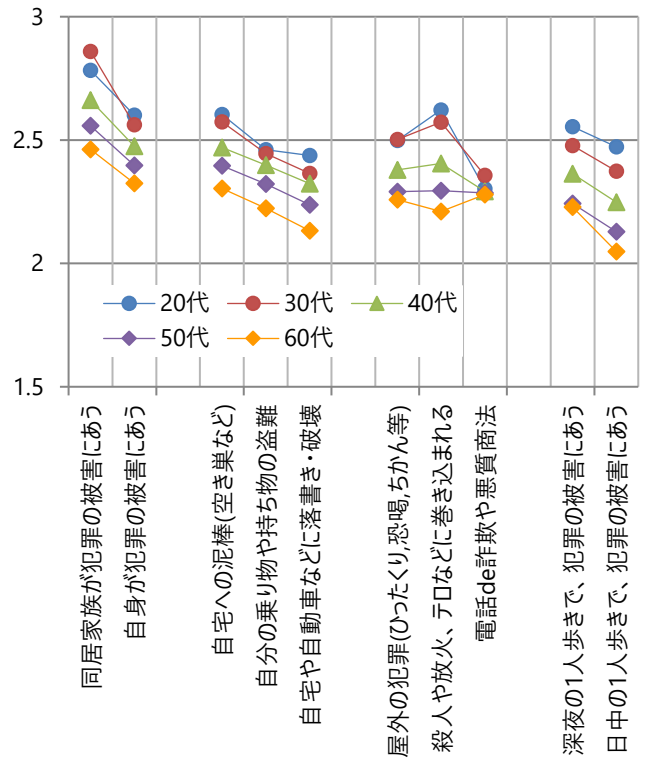
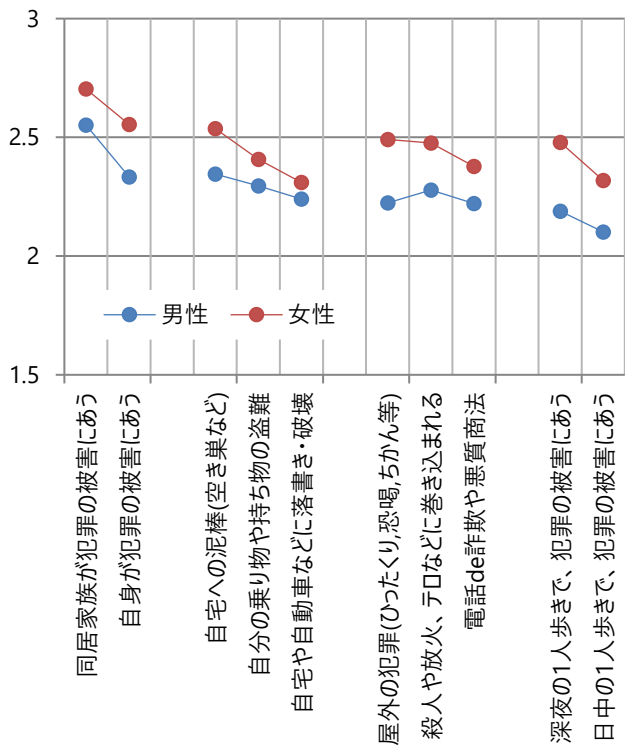


図 2-75 犯罪不安感 平均点【性別、年代別、エリア別】

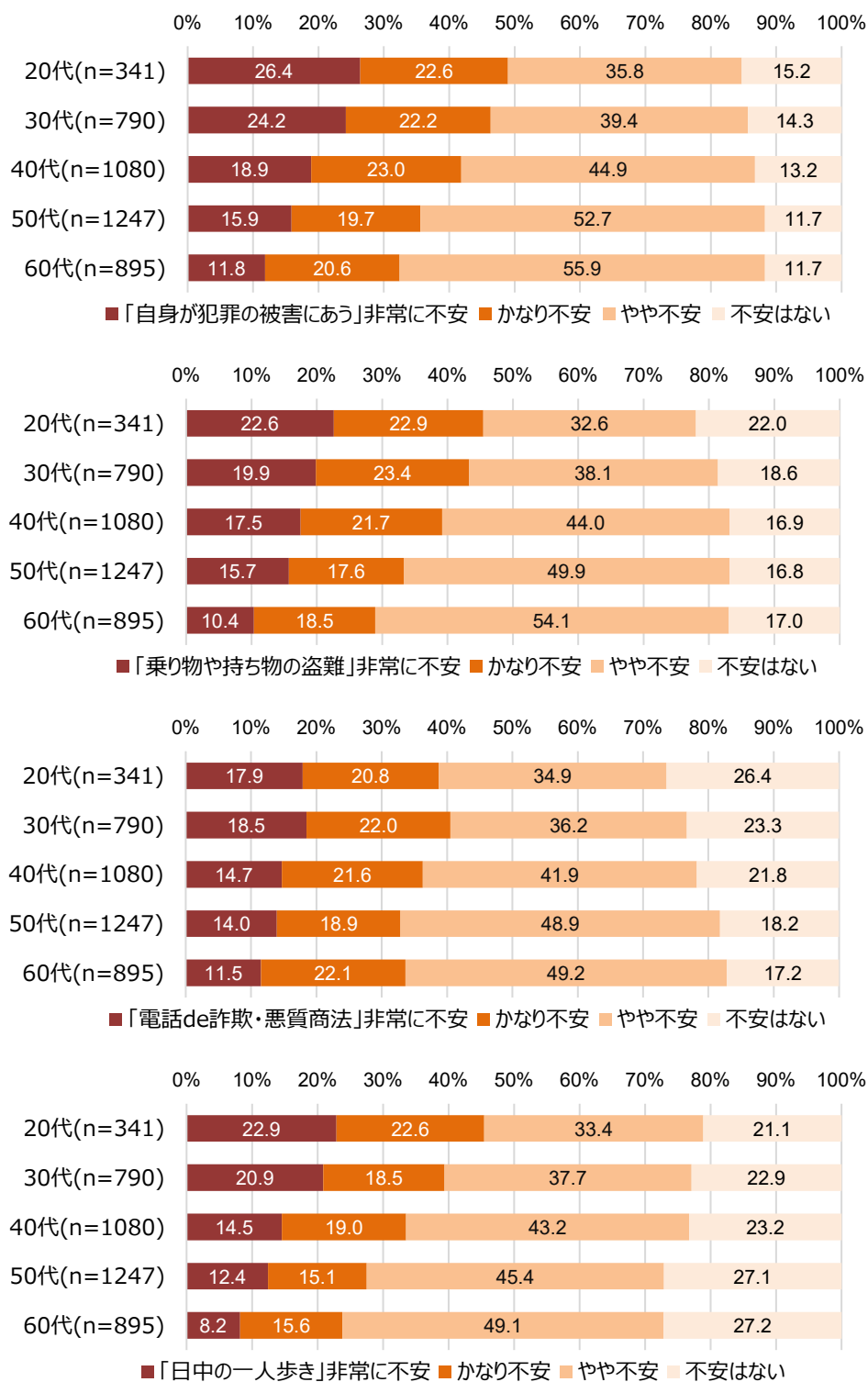


図 2-76 犯罪不安感 (%)【年代別】

(3) 固定電話対策の実施状況

〈Q6-1,2,4〉

固定電話の対策実行状況について2件法で聞いた結果（「あてはまる」率）を図2-77に示す。

2023年度調査結果と比較すると、留守電・ナンバーディスプレイに関する対策実行率は微増しているといえる。

性別による差はほとんどみられなかったが、年代による差は大きく、国際電話の対策を除き、年齢が高いほど「あてはまる」という回答が多い傾向がみられた。国際電話の対策実行率は、20代がもっとも高く、他の世代では進んでいないことがわかった。

エリア別の差は顕著ではなかった。

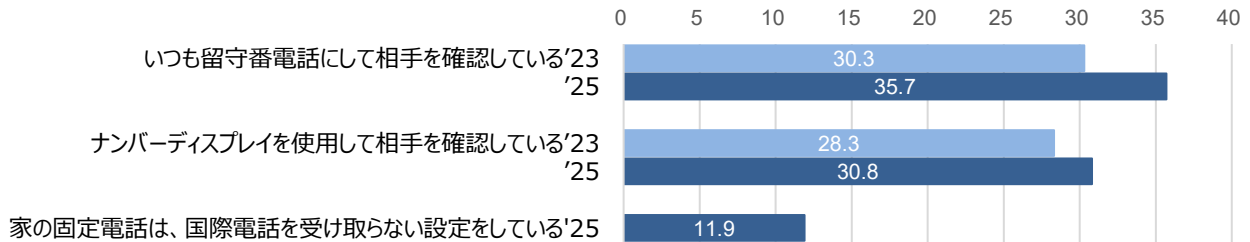


図 2-77 固定電話対策の実施状況 (%) 【全体、2023 年度調査結果との比較】

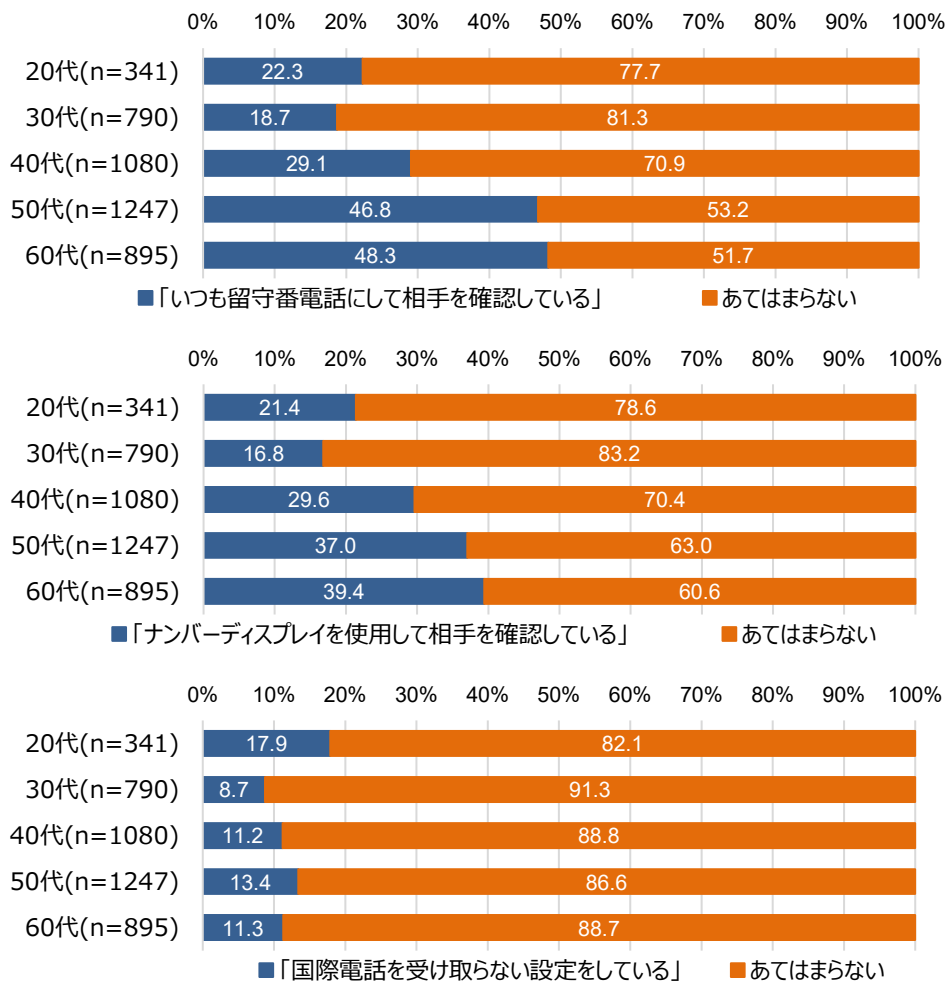


図 2-78 固定電話対策の実施状況 (%) 【年代別】

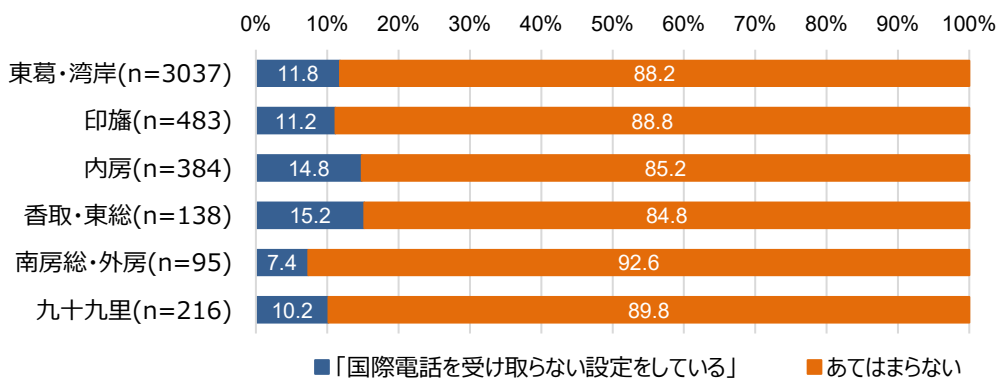
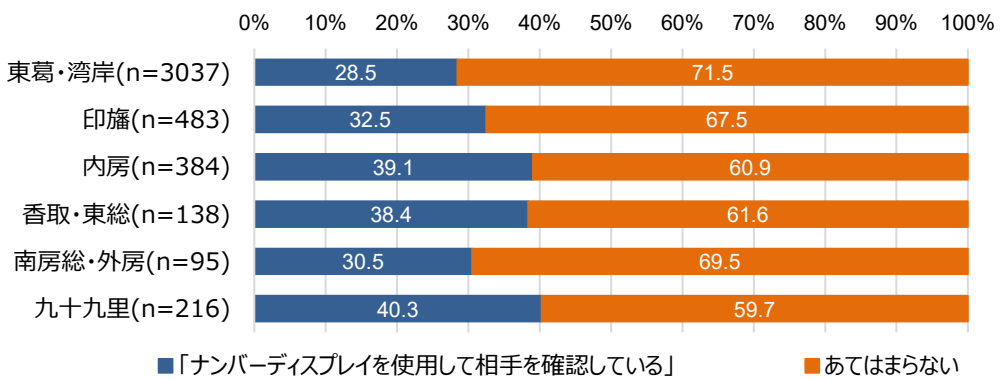
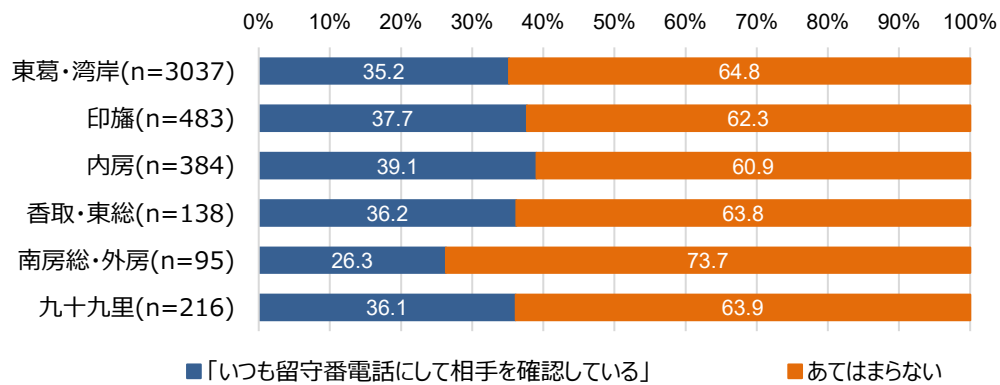


図 2-79 固定電話対策の実施状況 (%)【エリア別】

(4) 相談窓口等の認知

〈Q11〉

犯罪被害や悩みごとの相談窓口について、知っているものをすべて選ぶという設問の結果を図 2-80 に示す。2023 年度調査結果と比較すると、いずれの窓口の認知度も微減しているといえる。

すべての回答の中でもっとも多く選択されたのは「どれも知らない」であり、44.2%である。もっとも知られている「いのちの電話」でも認知度は 35.0%にとどまっている。

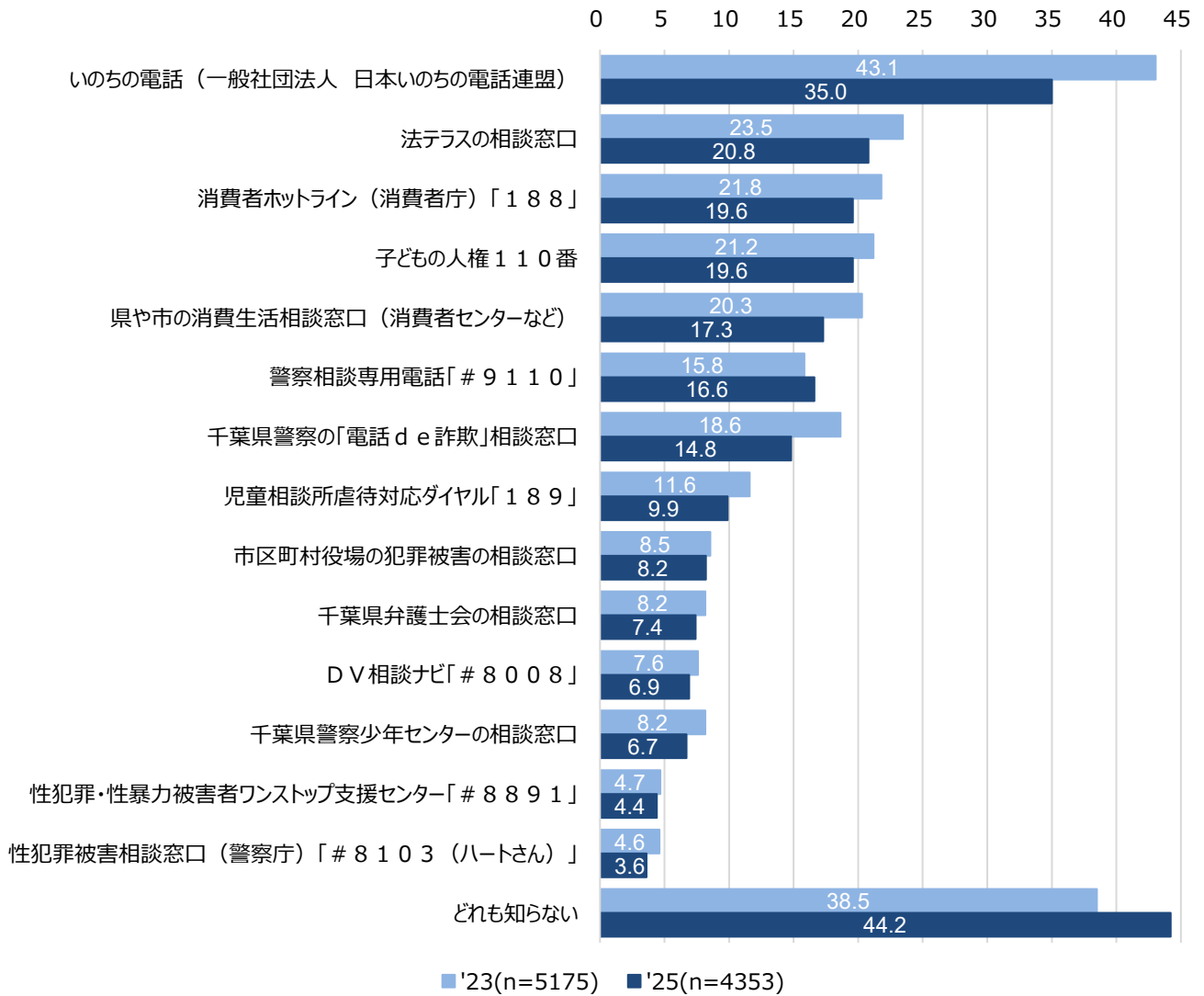


図 2-80 相談窓口等の認知率（複数回答可・%）【全体、2023 年度調査結果との比較】

年代別、性別、エリア別の割合を表 2-4 に示す。どの相談窓口等がどの程度知られているかという大きな傾向には違いはないが、年代別・性別では若干特徴的な傾向がみられた。

性別では、ほとんどすべての項目で女性の認知率が高かった。「どれも知らない」という回答も、男性 48.8%に対し、女性は 39.7%と少ない。男性の認知率がわずかに女性を上回っていたのは、「警察相談専用電話 # 9 1 1 0」および「千葉県弁護士会の相談窓口」だけであった。

年代別では、高齢者では「いのちの電話」「法テラスの相談窓口」「消費者ホットライン」「消費者センターなど」等、若年層では「子どもの人権 110 番」「児童相談所虐待ダイヤル 189」で若干認知率が高い傾向がみられた。

表 2-4 相談窓口等の認知率（複数回答可・%）【年代別、性別、エリア別】

相談窓口等の認知（年代別、性別）	年代別					性別	
	20代 (n=341)	30代 (n=790)	40代 (n=1080)	50代 (n=1247)	60代 (n=895)	男性 (n=2112)	女性 (n=2209)
いのちの電話 （一般社団法人 日本いのちの電話連盟）	36.1	34.1	30.2	34.6	41.8	27.9	41.7
法テラスの相談窓口	14.7	20.0	20.5	22.4	22.0	20.2	21.3
消費者ホットライン（消費者庁）「188」	19.4	18.0	16.1	18.8	26.6	18.1	21.1
子どもの人権110番	22.0	21.4	17.2	18.6	21.3	16.1	22.9
県や市の消費生活相談窓口（消費者センターなど）	12.9	13.9	14.4	17.9	24.8	15.9	18.9
警察相談専用電話「#9110」	19.1	18.6	15.0	16.0	16.4	17.2	15.8
千葉県警察の「電話de詐欺」相談窓口	17.0	15.6	13.1	14.8	15.5	14.3	15.5
児童相談所虐待対応ダイヤル「189」	14.7	13.2	9.6	8.0	7.9	7.2	12.3
市区町村役場の犯罪被害の相談窓口	6.5	8.6	6.6	8.2	10.7	8.4	8.1
千葉県弁護士会の相談窓口	4.7	6.6	5.9	8.3	9.6	8.6	6.3
DV相談ナビ「#8008」	9.1	8.6	7.5	6.3	4.7	4.8	8.8
千葉県警察少年センターの相談窓口	8.2	6.2	6.1	6.3	7.7	7.1	6.4
性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター 「#8891（はやくワンストップ）」	5.3	6.6	4.4	3.4	3.4	3.9	4.8
性犯罪被害相談窓口（警察庁） 「#8103（ハートさん）」	3.5	5.3	4.0	2.9	2.8	3.6	3.6
どれも知らない	41.1	44.9	50.0	45.1	36.4	48.8	39.7

相談窓口等の認知（エリア別）	東葛・湾岸 (n=3037)	印旛 (n=483)	内房 (n=384)	香取・東総 (n=138)	南房総・外房 (n=95)	九十九里 (n=216)	全体 (n=4535)
いのちの電話 （一般社団法人 日本いのちの電話連盟）	34.7	37.5	36.5	29.0	33.7	35.2	35.0
法テラスの相談窓口	21.3	18.8	21.1	13.0	22.1	21.3	20.8
消費者ホットライン（消費者庁）「188」	19.4	21.9	20.3	15.9	14.7	20.8	19.6
子どもの人権110番	19.5	20.9	20.6	13.0	14.7	23.1	19.6
県や市の消費生活相談窓口（消費者センターなど）	16.6	22.8	16.1	12.3	14.7	21.8	17.3
警察相談専用電話「#9110」	16.5	17.0	15.9	12.3	15.8	20.4	16.6
千葉県警察の「電話de詐欺」相談窓口	14.1	19.7	11.2	15.9	16.8	19.0	14.8
児童相談所虐待対応ダイヤル「189」	9.7	11.6	8.9	7.2	8.4	12.5	9.9
市区町村役場の犯罪被害の相談窓口	8.2	8.5	5.7	8.7	10.5	12.0	8.2
千葉県弁護士会の相談窓口	7.4	5.8	7.8	5.1	9.5	11.1	7.4
DV相談ナビ「#8008」	6.5	7.0	8.9	4.3	9.5	9.7	6.9
千葉県警察少年センターの相談窓口	6.4	6.6	7.6	5.8	9.5	8.3	6.7
性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター 「#8891（はやくワンストップ）」	4.4	4.6	3.1	1.4	4.2	7.4	4.4
性犯罪被害相談窓口（警察庁） 「#8103（ハートさん）」	3.6	3.9	2.6	1.4	2.1	7.4	3.6
どれも知らない	44.1	41.6	43.0	51.4	45.3	48.6	44.2

(5) 犯罪や刑罰への意見

〈Q21-1～5〉

犯罪や刑罰に対する意見を4件法で聞いた結果を図2-81に示す。いずれの項目においても「そう思う」が8割前後と多い。

図2-82は、「そう思う」を4点、「そう思わない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。性別では女性の方が、年代別では高齢層の方が、エリア別では九十九里、次いで南房総・外房で「そう思う」という回答が多い傾向があった。ただし、エリアによる差は小さい。

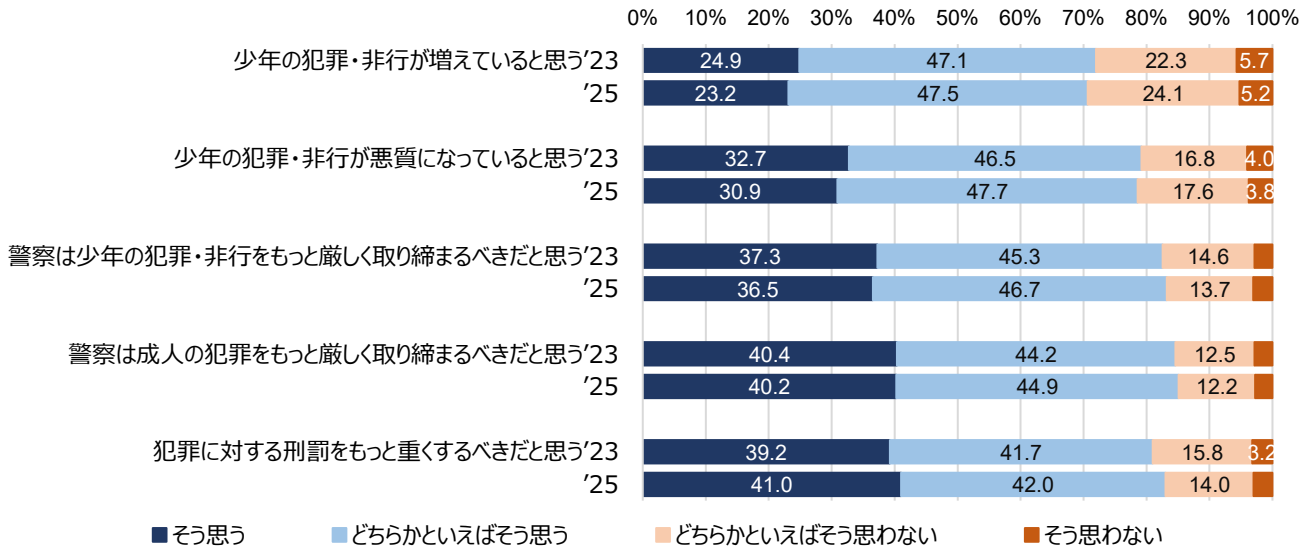


図 2-81 犯罪や刑罰への意見 (%) 【全体、2023 年度調査結果との比較】

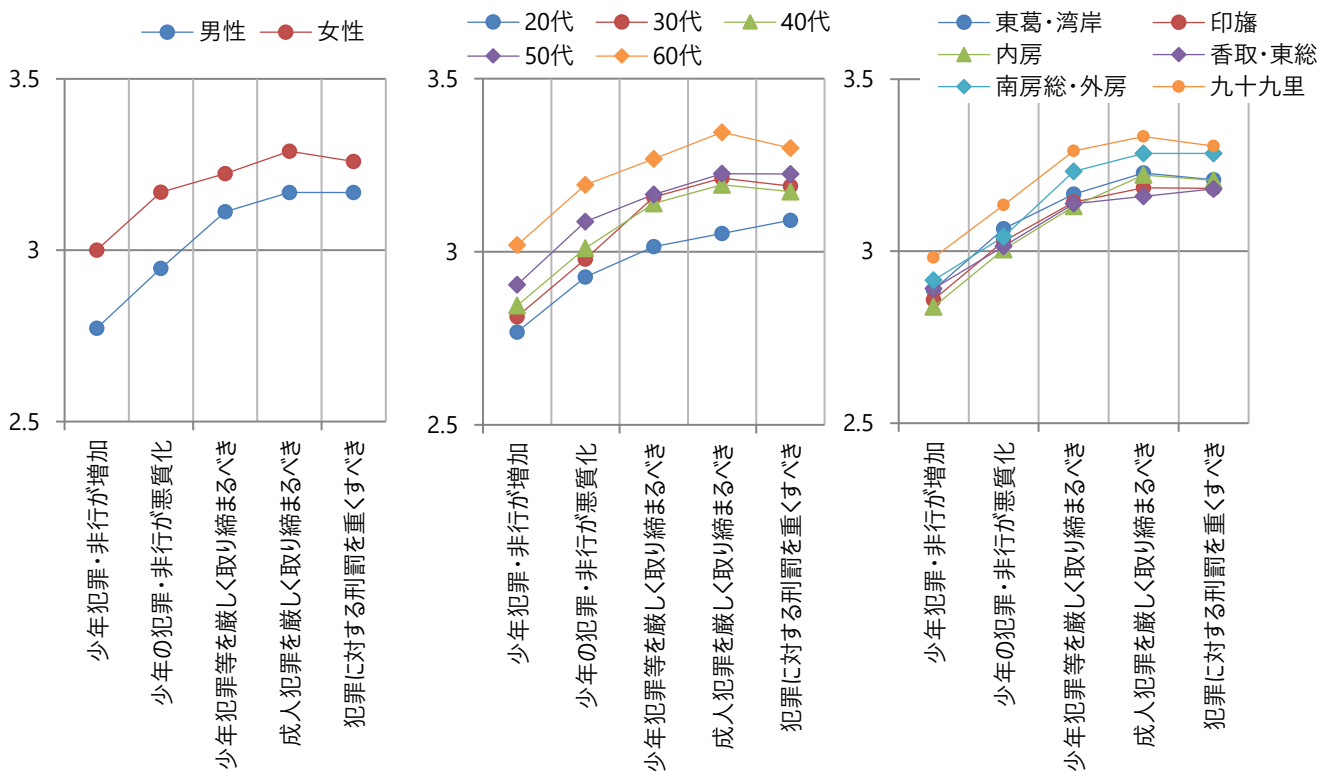
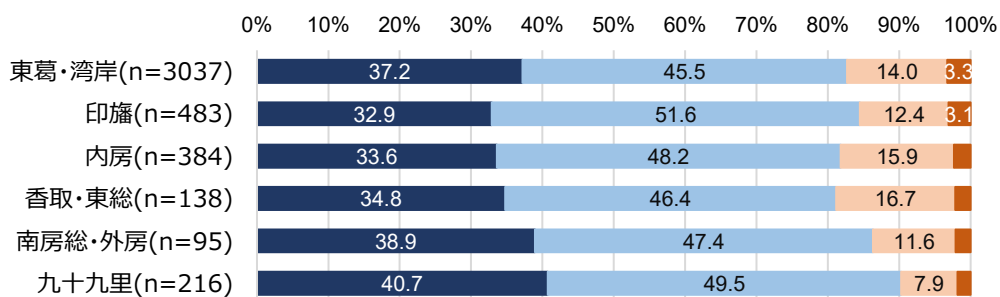
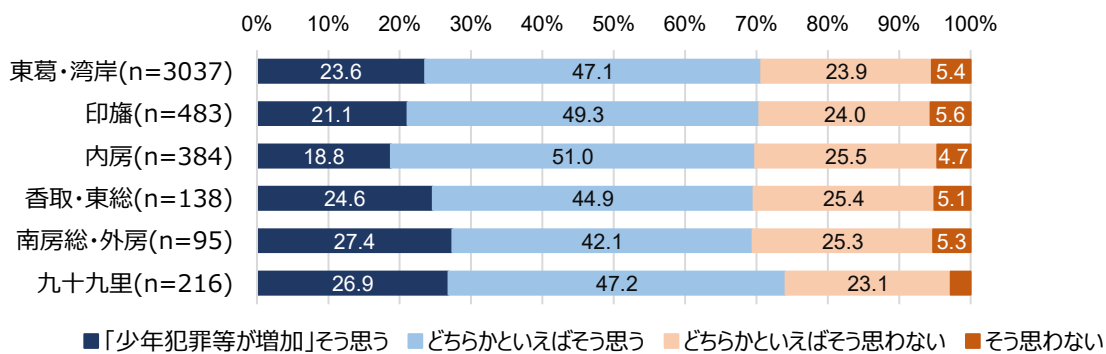
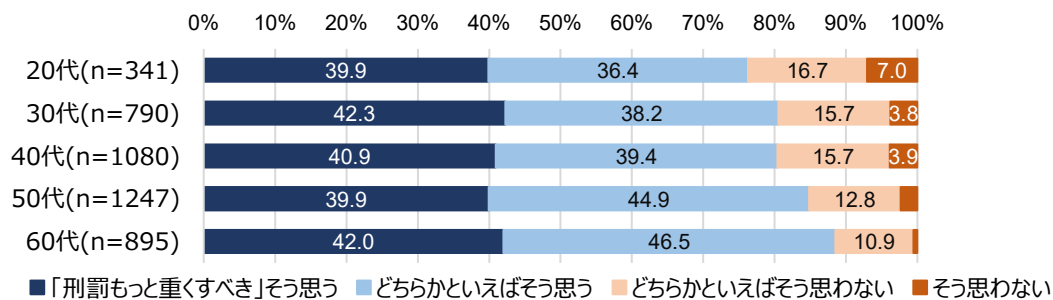
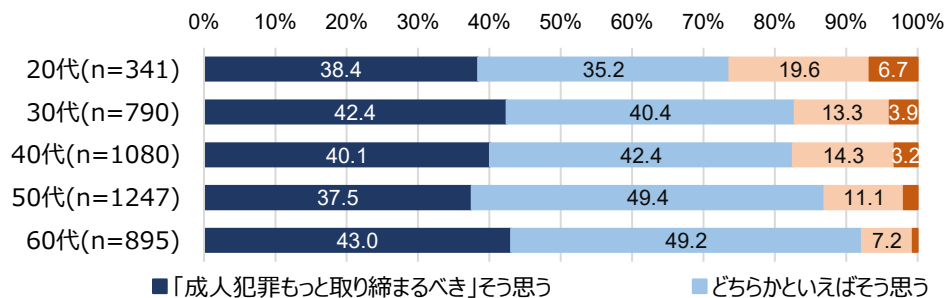
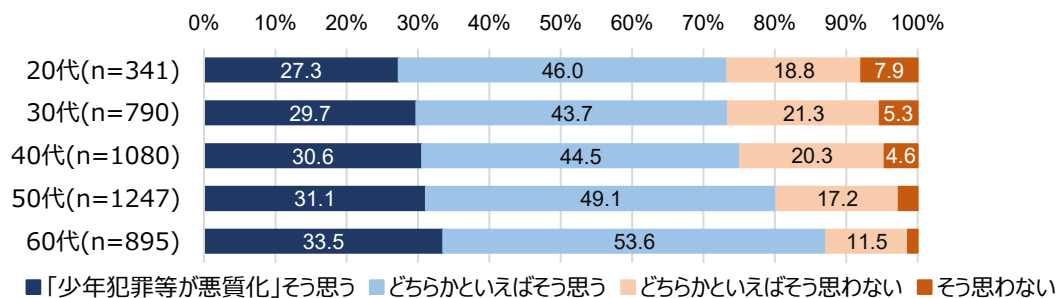


図 2-82 犯罪や刑罰への意見 平均点【性別、年代別、エリア別】



■「警察は少年の犯罪・非行をもっと厳しく取り締まるべき」そう思う ■どちらかといえばそう思う ■どちらかといえばそう思わない ■そう思わない

図 2-83 犯罪や刑罰への意見（％）【年代別、エリア別】

2-5. 災害・防災

(1) 災害不安感

〈Q23〉

自然災害に対する不安感を4件法で聞いた結果を図2-84に示す。

もっとも不安視されているのは「地震」であり、「非常に不安」という回答が4割程度である。立地の影響が大きい「土砂災害」「津波」「高潮」は、「不安はない」の割合が比較的高い。

2023年度調査と比較すると、いずれの項目でも「不安はない」という回答が増えていることがわかる。とくに「土砂災害」「津波」「高潮」について顕著であり、これらの項目では不安側の選択割合がいずれも減っている。わずかであるが、「豪雨・洪水」についても同じ傾向がみえる。

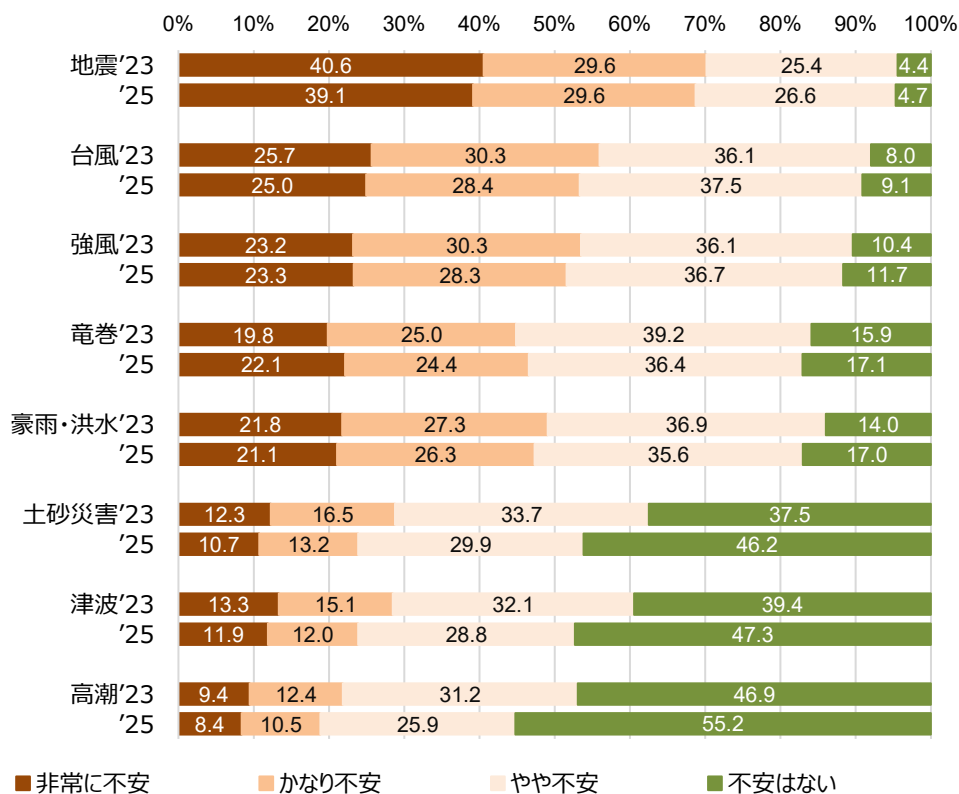


図2-84 自然災害に対する不安感 (%) 【全体、2023年度調査結果との比較】

図2-84は、「非常に不安」を4点、「不安はない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別では、いずれの災害に対しても女性の方が一定して不安感が強い。

年代別では、「土砂災害」「津波」「高潮」に関しては年齢が若いほど不安感が強い。

エリア別では、いずれの災害に対しても南房総・外房で不安感が強く、東葛・湾岸および印旛で弱い傾向があった。この傾向はとくに「土砂災害」「津波」「高潮」において顕著である。なお、「地震」に関しては有意な差はなかった。

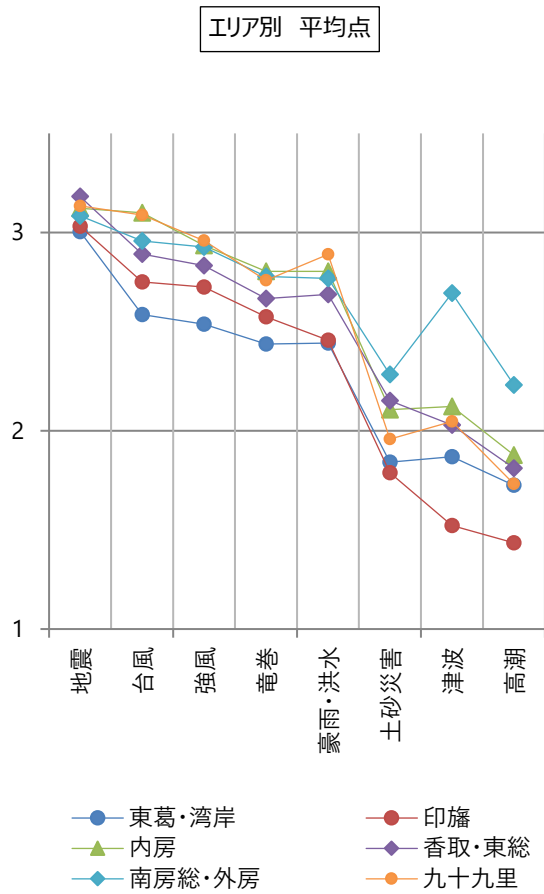
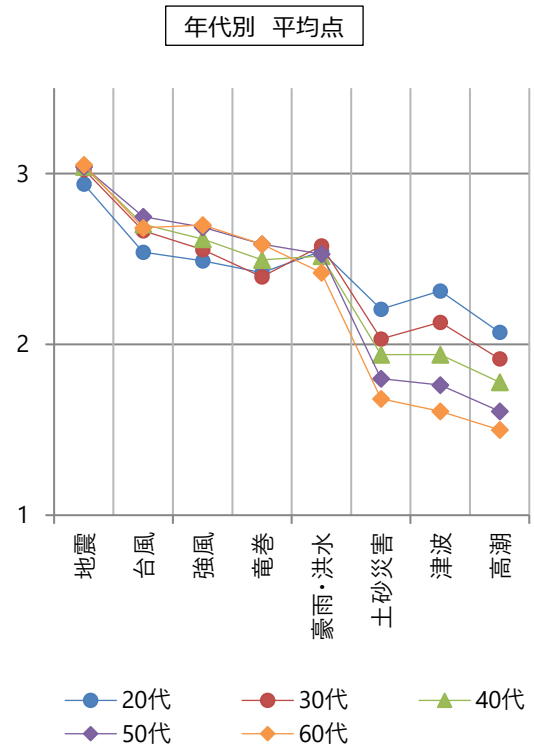
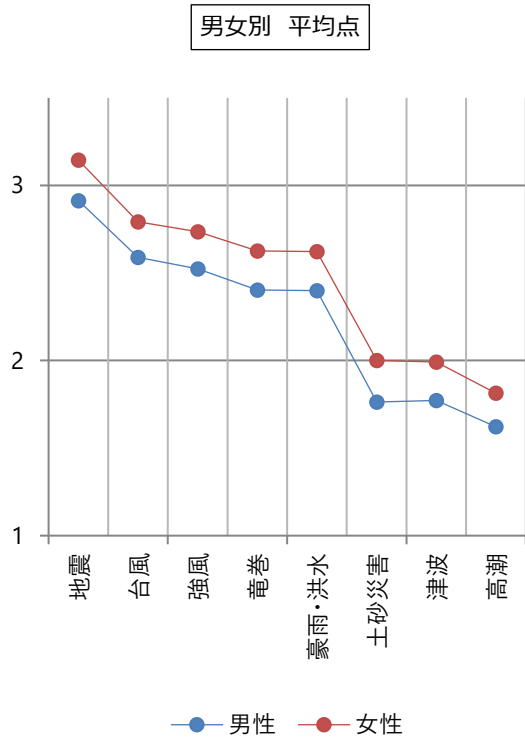


図 2-85 自然災害に対する不安感 平均点【性別、年代別、エリア別】

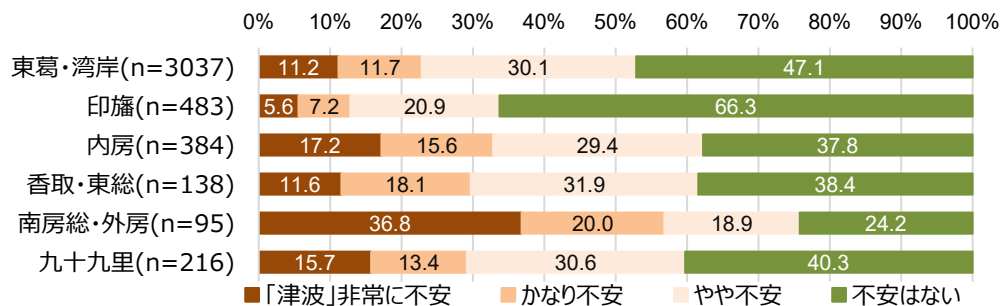
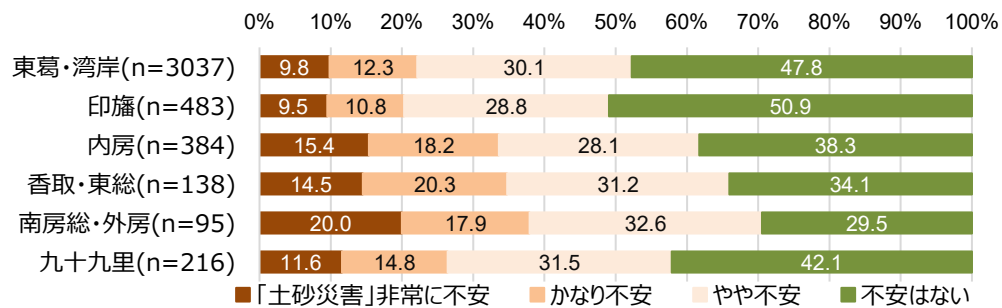
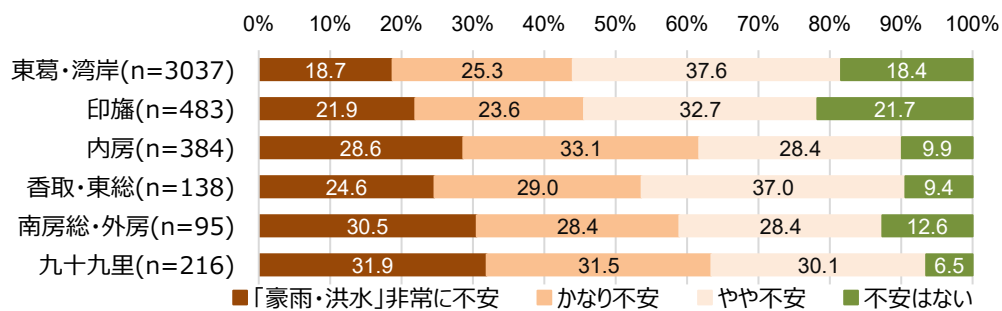
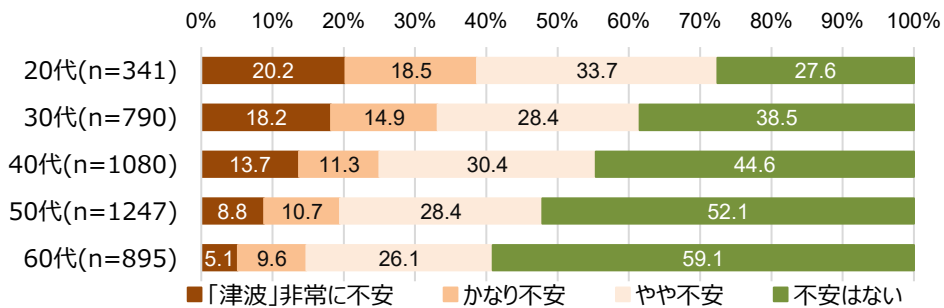
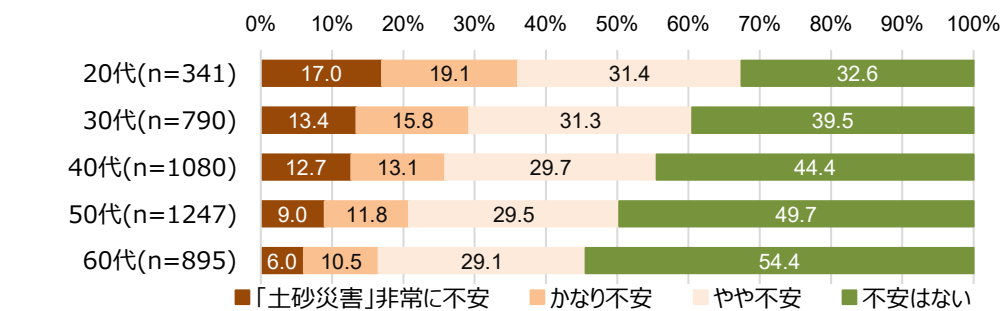


図 2-86 自然災害に対する不安感 (%) 【エリア別】

(2) 災害被害経験 〈Q22〉

現在住んでいる地域における自然災害による被災経験で聞いた結果を図 2-87 に示す。

もっとも「経験あり」が多いのは「停電」であり、経験者は半数を超す。次いで「断水」(25.0%)、「地震の揺れによる被害」(24.5%)、は「台風や豪雨強風などによる被害」(21.2%)、「水洗トイレ使用不能」(18.9%)、「ガス使用不能」(12.1%)の順であった。

千葉県に被害をもたらした近年の自然災害には、東日本大震災の他、令和元年房総半島台風、令和元年東日本台風等があり、長期間の停電、停電に伴う断水等ライフライン途絶を経験した世帯が少なくない。「停電」経験率の高さは、2019年の台風災害の影響が考えられる。

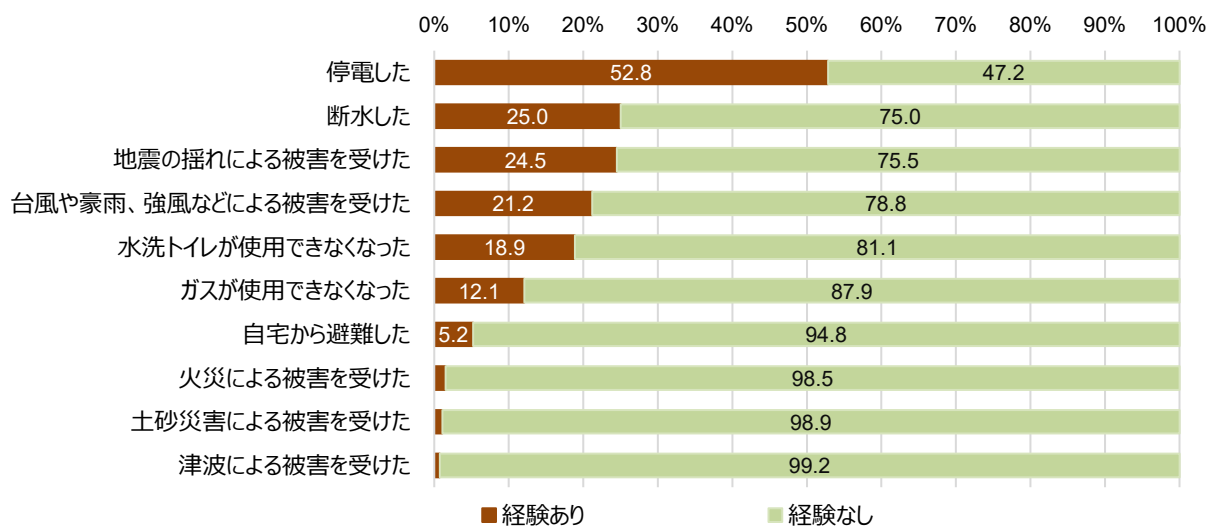


図 2-87 災害被害経験 (%)【全体】

本設問は被災経験という事実を聞いているため、性差はほとんどないことが想定された。しかし、性別では、「停電」(男性 57.0%、女性 48.9%)、「台風・豪雨・強風」(男性 23.4%、女性 19.0%)については、男性の方が経験者が若干多いという結果が示された。年代では、高年齢の方が経験が多くなるとも考えられたが、その傾向がみられたのは「台風・豪雨・強風」程度であり、差はわずかであった。

エリア別では、顕著な差がみられた。

多くの項目において、該当者がもっとも多いのは香取・東総であり、次いで九十九里、南房総・外房および内房、もっとも少ないのが東葛・湾岸という結果であった。なかでも「停電」はかなり高率であり、香取・東総 87.0%、九十九里 78.7%、南房総・外房 76.8%、内房 73.2%、印旛 61.1%、東葛・湾岸 44.8%である。「停電」と関連が大きい「断水」「水洗トイレ使用不可」「ガス使用不可」についても香取・東総および九十九里では該当者が多く、おおむね半数程度は経験しているという結果であった。

「台風・豪雨・強風」については、該当者がもっとも少ないのは東葛・湾岸、次いで印旛であるが、その他のエリアの経験率はほぼ同じであり、いずれも 50%弱であった。

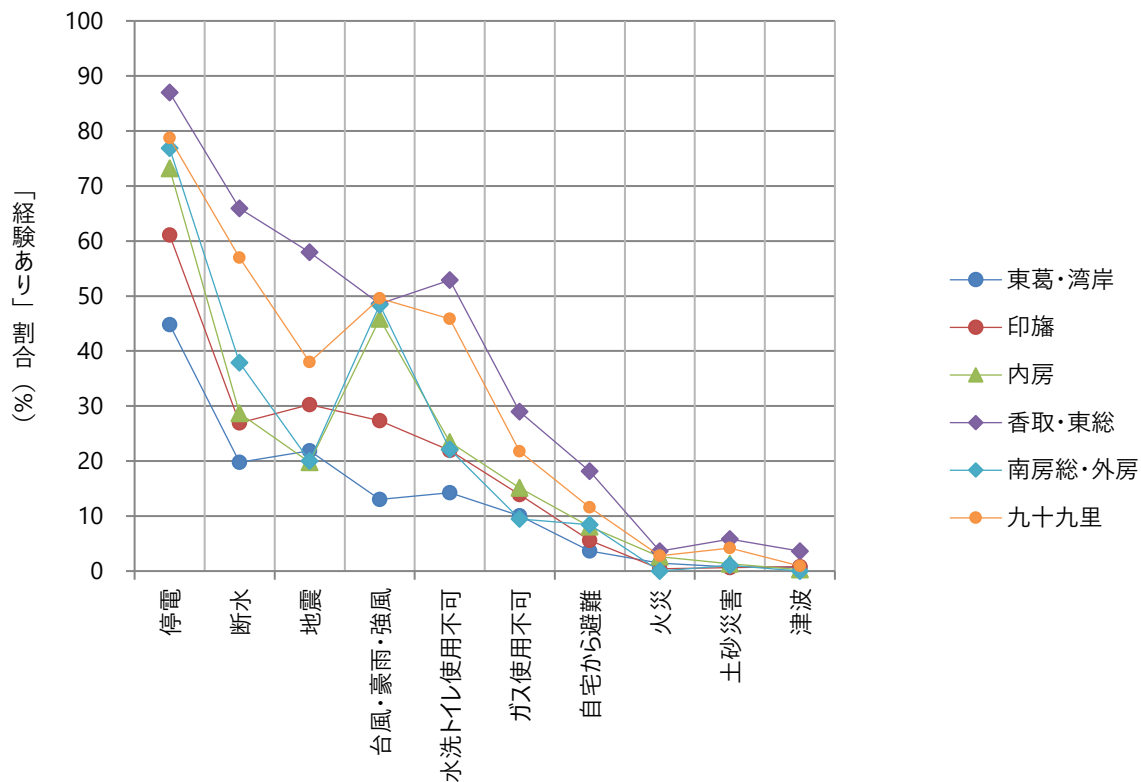


図 2-88 災害被害経験 (%) 【エリア別】

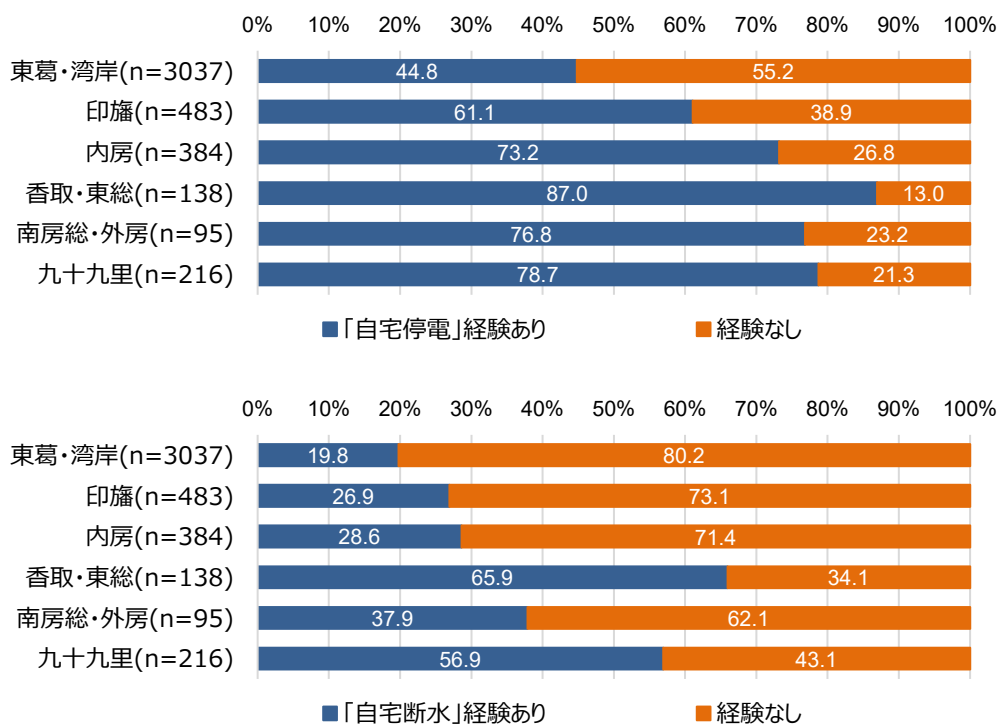


図 2-89-1 災害被害経験 (%) 【エリア別】

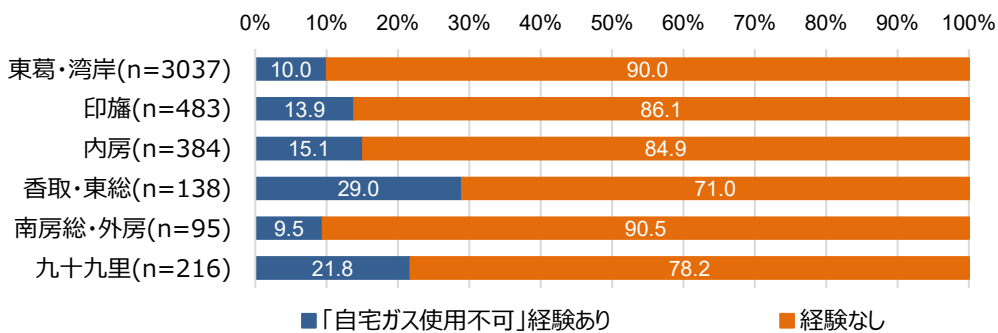
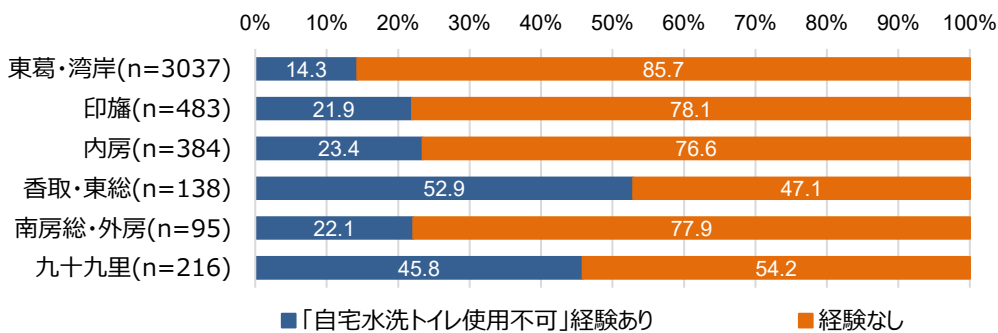
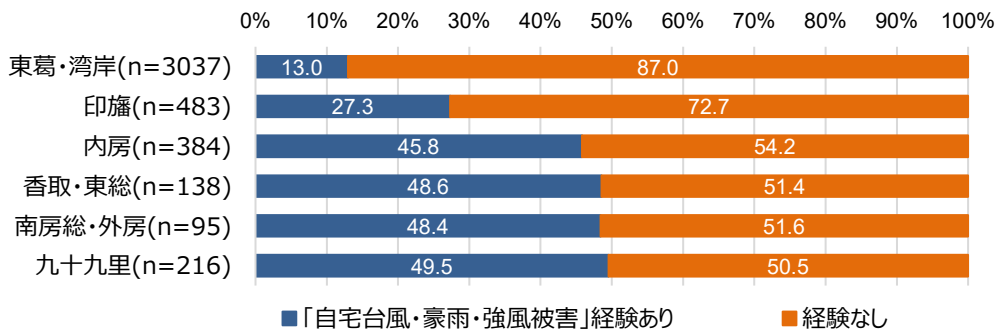
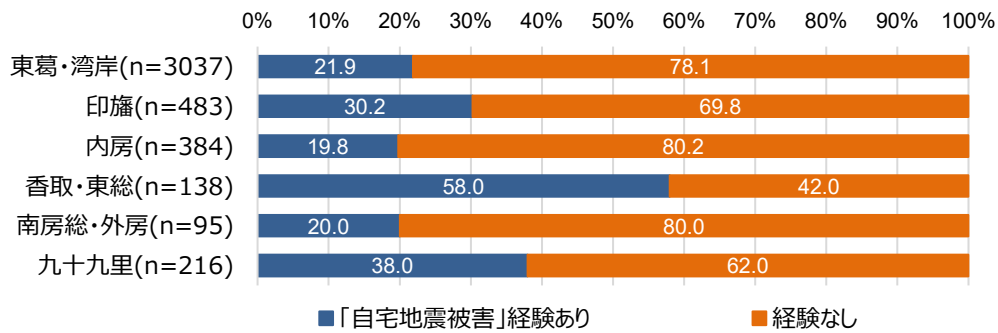


図 2-89-2 災害被害経験 (%) 【エリア別】 (続き)

(3) 災害への備え実施状況

〈Q24〉 〈Q21-9,10〉

自然災害に備えて本人や同居家族が行っていることを複数回答可で聞いた結果を図 2-90 に示す。何らかの備えを行っているのは「特に何もしていない」(24.6%)を除く 75.4%であり、多かったのは「飲料水の備蓄」54.0%、「懐中電灯の準備」52.4%、「食料の備蓄」48.5%である。

2023 年度調査結果と比較すると、「簡易携帯トイレの準備」5.2%増など、実行率が微増した対策が多いことがわかる。

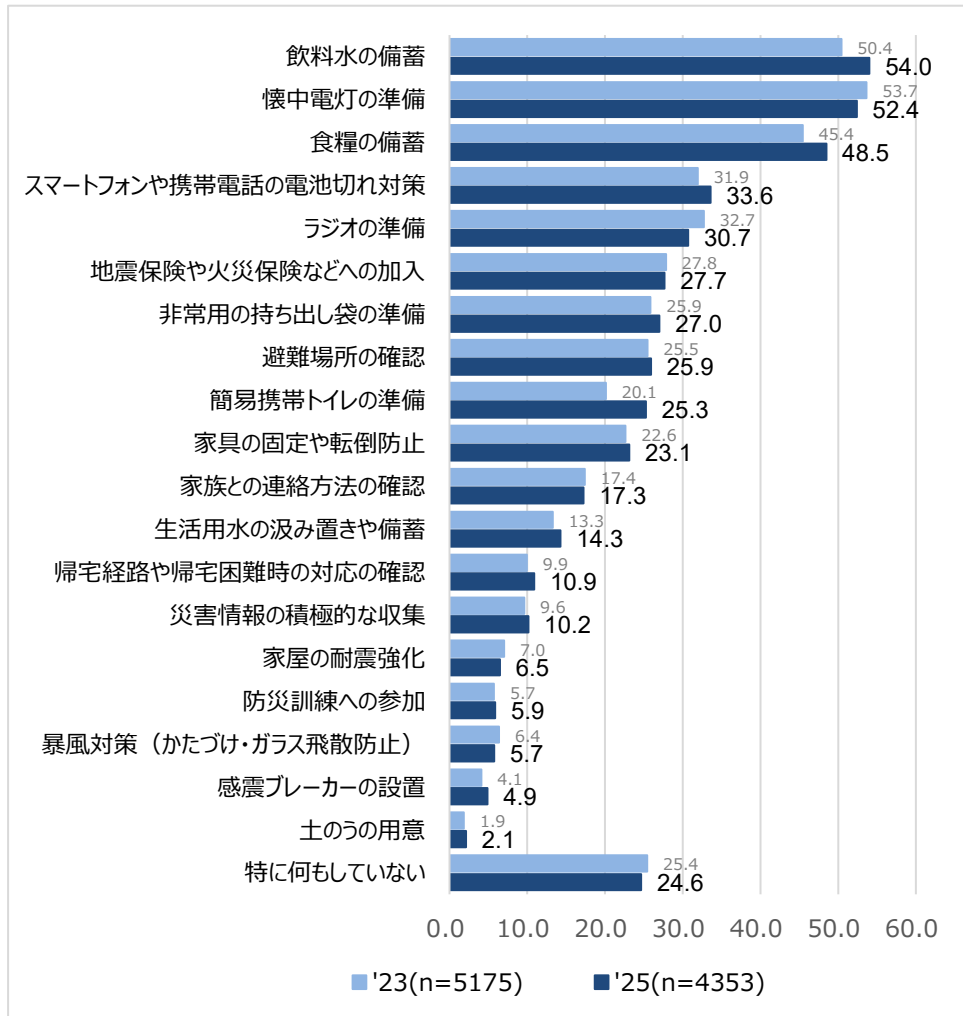


図 2-90 自然災害に対する備えの実施状況 (%)【全体、2023 年度調査結果との比較】

年代別、性別、エリア別の割合を図 2-91 および 92 に示す。どの対策の実施状況が高いかという点では大きな違いはないが、それぞれで特徴的な傾向がみられた。

性別では、多くの項目で女性の対策実施状況が男性を上回った。とくに「簡易携帯トイレの準備」や「飲料水の備蓄」等で差が目立つ。

年代別では、ほとんどすべての項目で年齢が高くなるにつれて対策実施率が高くなる傾向がみられた。「スマホや携帯電話の電池切れ対策」「避難場所の確認」「家族との連絡方法の確認」等を除き、多くの項目で顕著な差が認められる。若年層の家庭内備蓄は進んでいないといえる。

エリア別では、多くの項目において、香取・東総および南房総・外房で対策実行率が低く、印旛・十九里で実行率が高いという傾向がみられた。

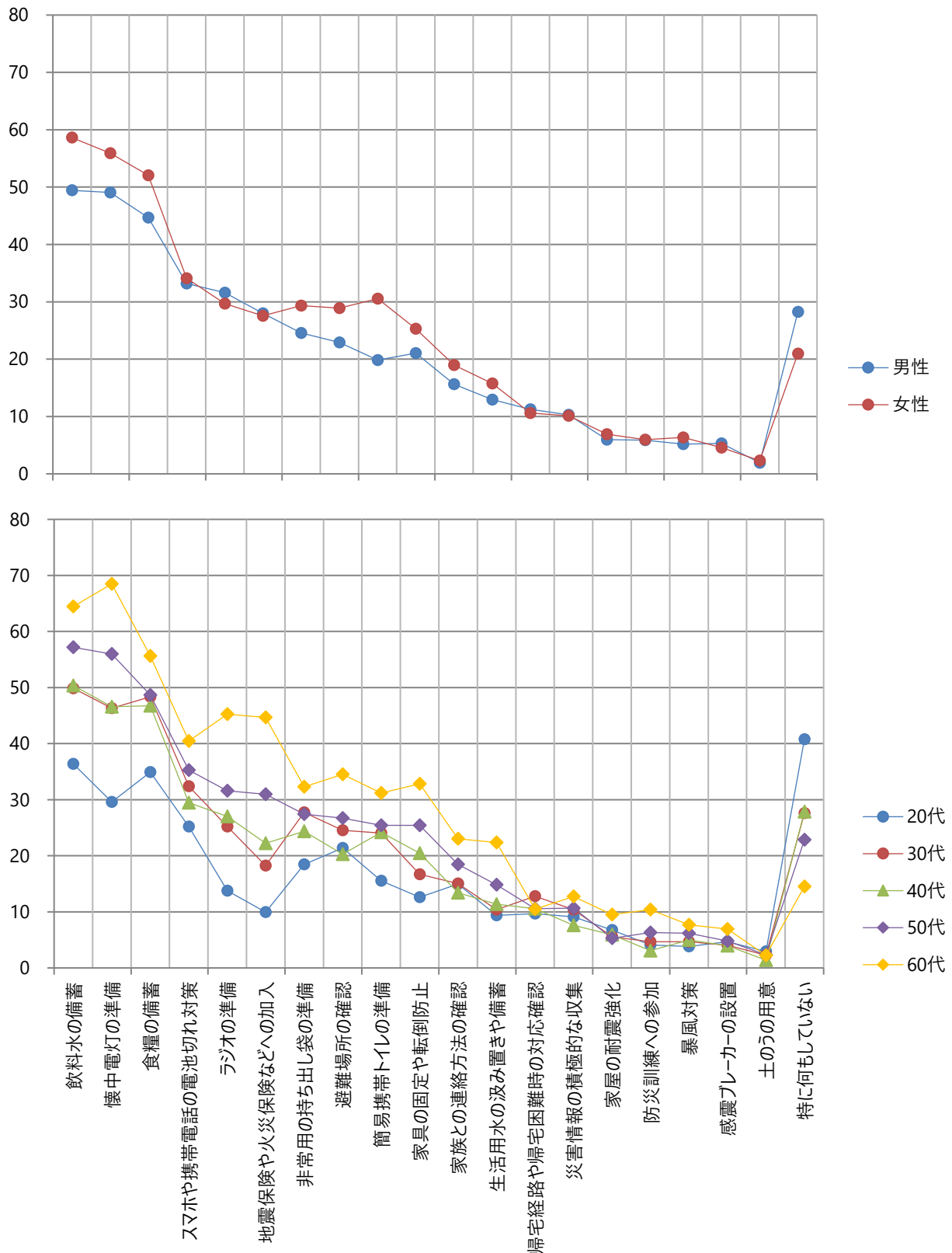


図 2-91 自然災害に対する備えの実施状況 (%)【性別、年代別】

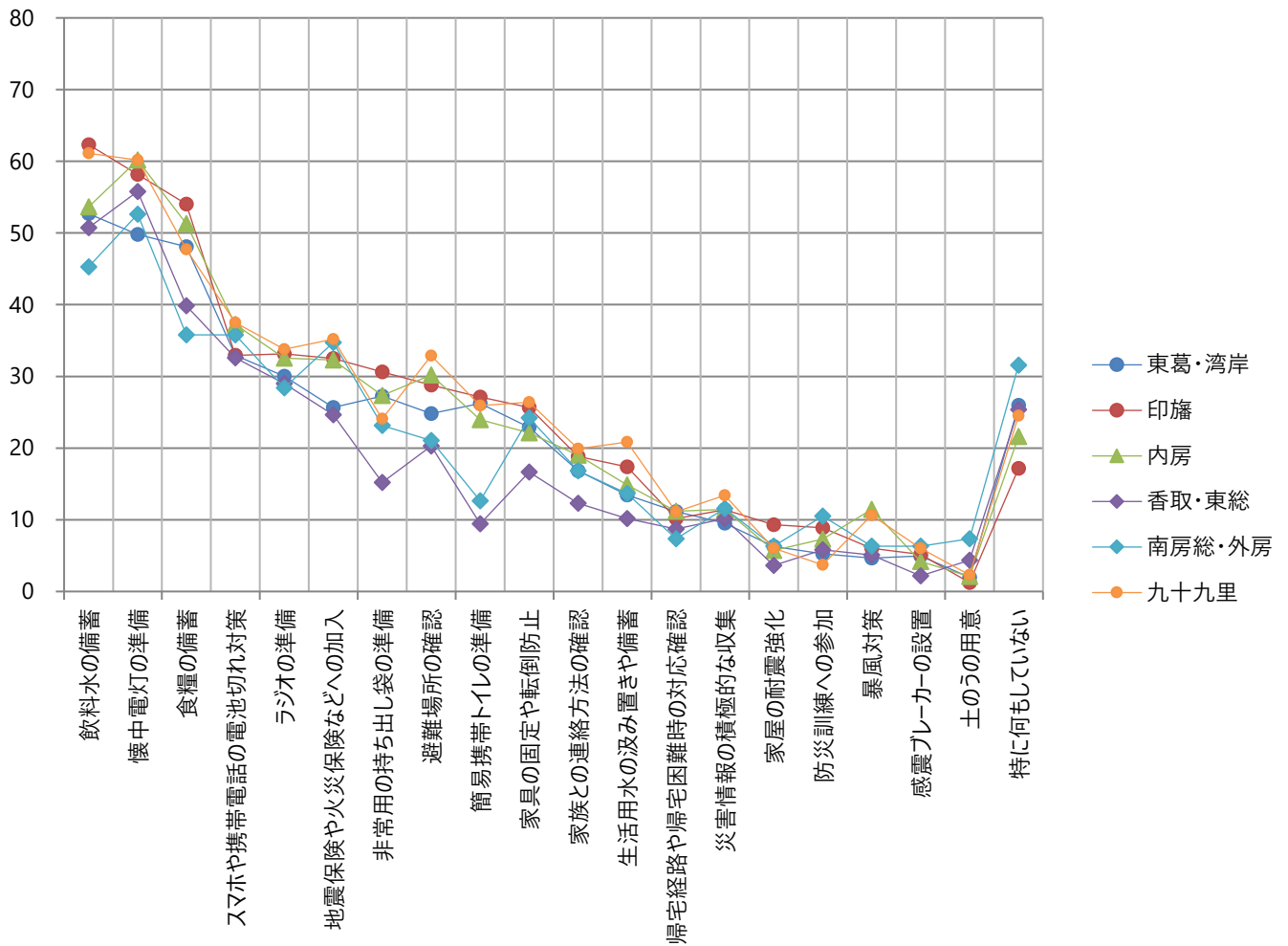


図 2-92 自然災害に対する備えの実施状況 (%)【エリア別】

自然災害への備えができているかを4件法で聞いた結果を図 2-93 に示す。自分の家についても、住んでいる地域についても備えができているとは「思わない」側の回答が過半数という結果である。

性別による差はなかった。年代別による差も小さいが、両項目とも高齢になるほど「どちらかといえば」という回答割合が多くなるという傾向がみられた。エリア別では、印旛などで肯定的な意見が多く、香取・東総で少ないという傾向がみられた。

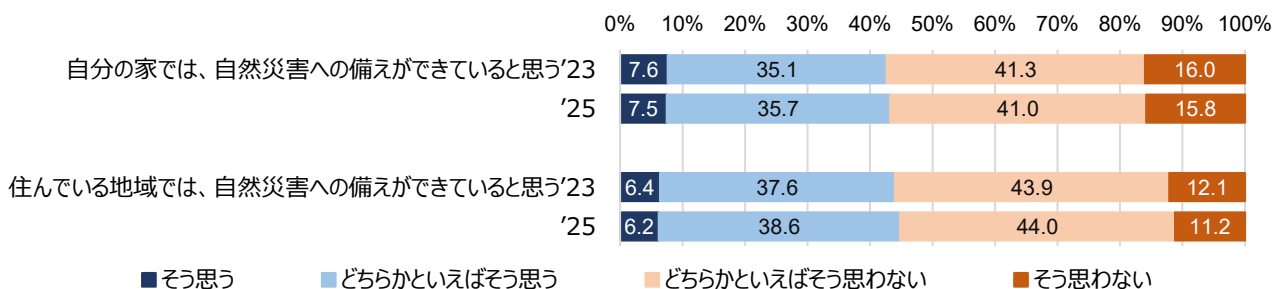


図 2-93 自然災害への備えに対する認識 (%)【全体、2023 年度調査結果との比較】

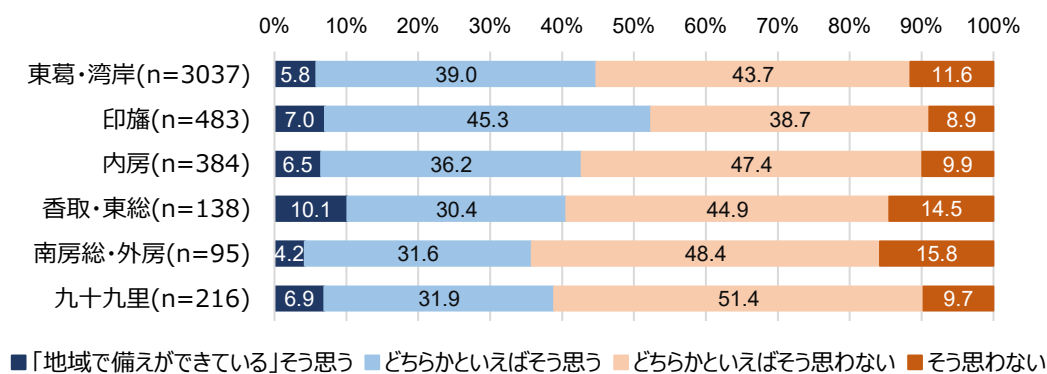
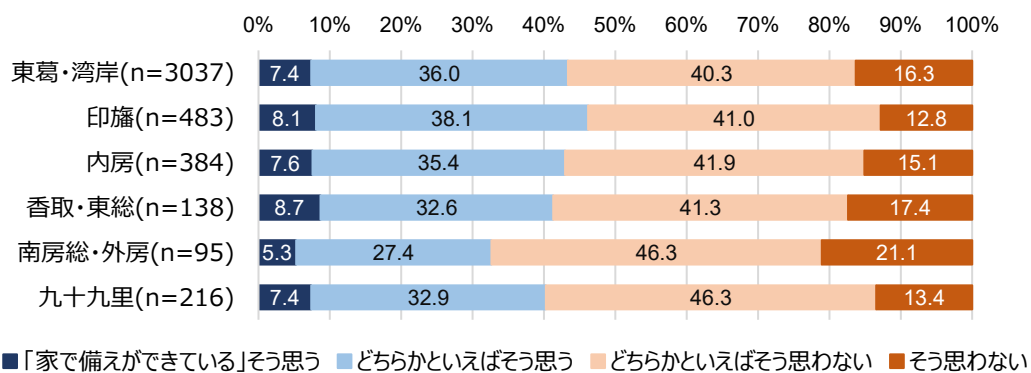
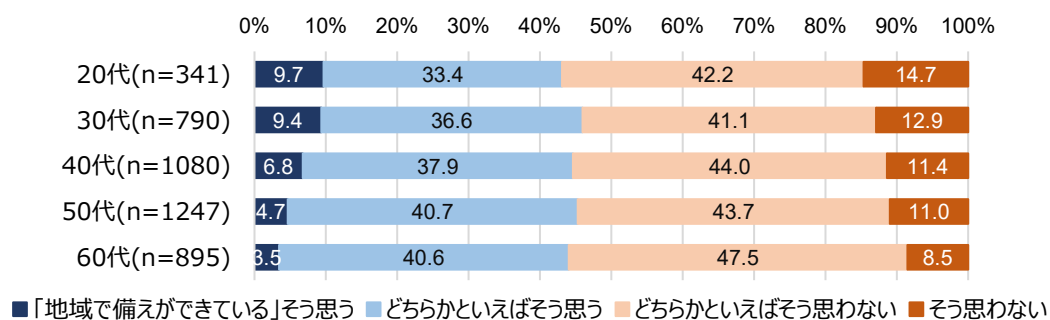
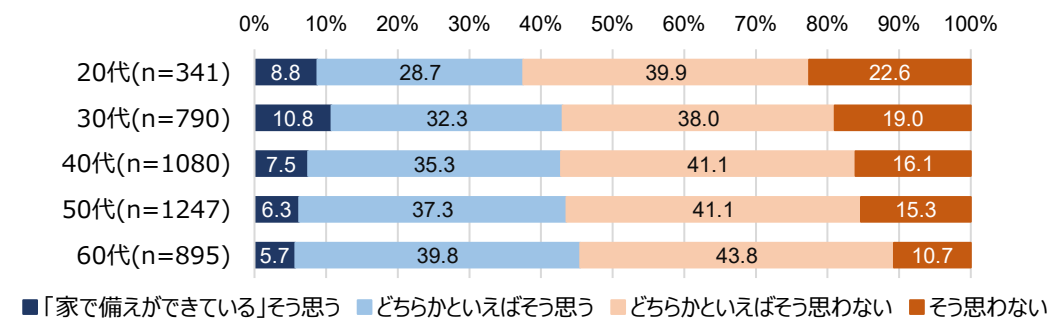


図 2-94 自然災害への備えに対する認識 (%)【年代別、エリア別】

(3) ペット災害対策実施状況

〈Q5-19,20〉 〈Q-25〉

ペットに対する防災対策の実施状況について複数回答可で聞いた結果を図 2-95 に示す。回答者は「犬を飼っている」または「猫を飼っている」とした 828 人（19.0%）である。

何らかの備えを行っているのは「特に何もしていない」（27.5%）を除く 72.5%（600 人）であり、多かったのは「ペットフードの備蓄」56.9%、「トイレ用品の備蓄」48.4%、「キャリーバックやケージの準備」44.1%などである。

なお、「犬を飼っている」は 10.5%（455 人）、「猫を飼っている」は 11.0%（481 人）であり、東葛・湾岸、印旛で少なく、香取・東総、南房総・外房、九十九里で多いという傾向があった。

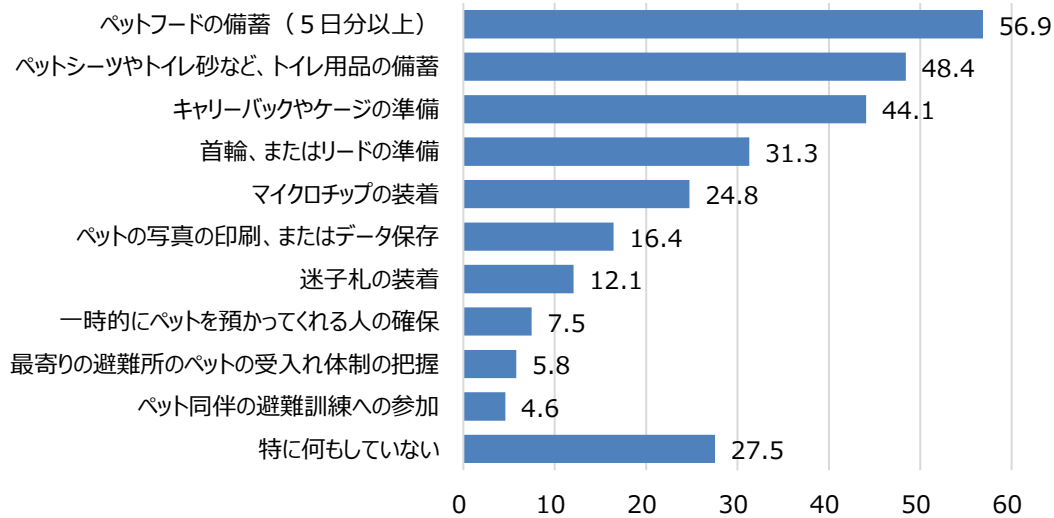


図 2-95 ペット災害対策実施状況 (%) 【全体】

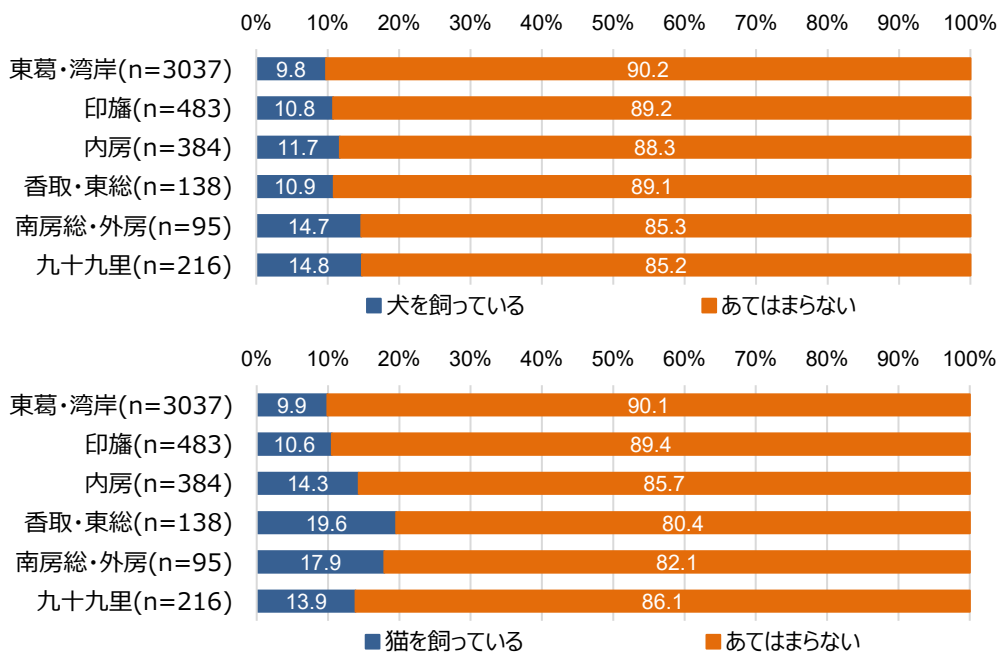


図 2-96 ペットの飼育状況 (%) 【エリア別】

2-6. 行政・施策への意見

(1) 政策の必要性に関する意向

〈Q15〉

政府や自治体などの政策の必要性に関する意向について4件法で聞いた結果を図2-97に示す。

いずれの取り組みについても「必要である」側が多数という結果であった。もっとも必要とされたのは「子どもを犯罪の被害から守るための取り組み」（「必要である」側90.4%）であり、次いで「女性を性犯罪から守る取り組み」（同89.8%）、「災害の予防や被災者の支援のための取り組み」（同88.4%）と続く。もっとも必要性の意向が低かった「性的少数者(同性愛者、LGBT等)を支援するための取り組み」でも「必要である」側は65.8%であり、「必要ない」は少数派である。

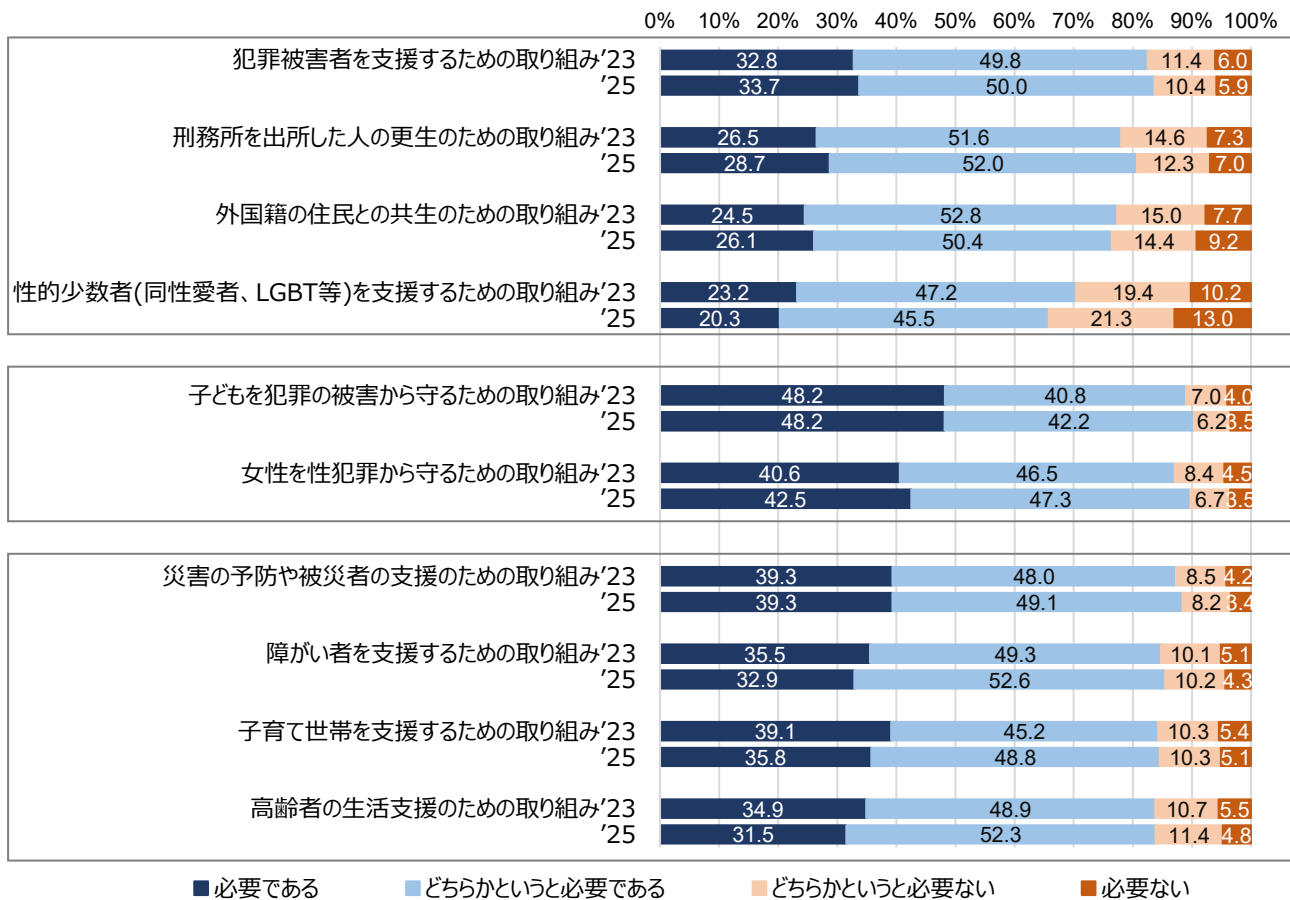


図2-97 政策の必要性に関する意向（％）【全体、2023年度調査結果との比較】

図2-98は、「必要である」を4点、「必要ない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別では、「子育て世帯を支援するための取り組み」を除くすべての取り組みに対して女性の方が一様に必要性の意向が強い。

年代別では、ほとんどの取り組みについて、40代から60代にかけて徐々に必要性の意向が高くなる傾向がみられた。ただし、「子育て世帯を支援するための取り組み」では若い世代の方が、必要性の意向は強い。また、「高齢者の生活支援のための取り組み」は20代から60代にかけて意向が強くなる傾向があった。

エリア別では、南房総・外房などで弱いという傾向がみられた項目も複数あった。

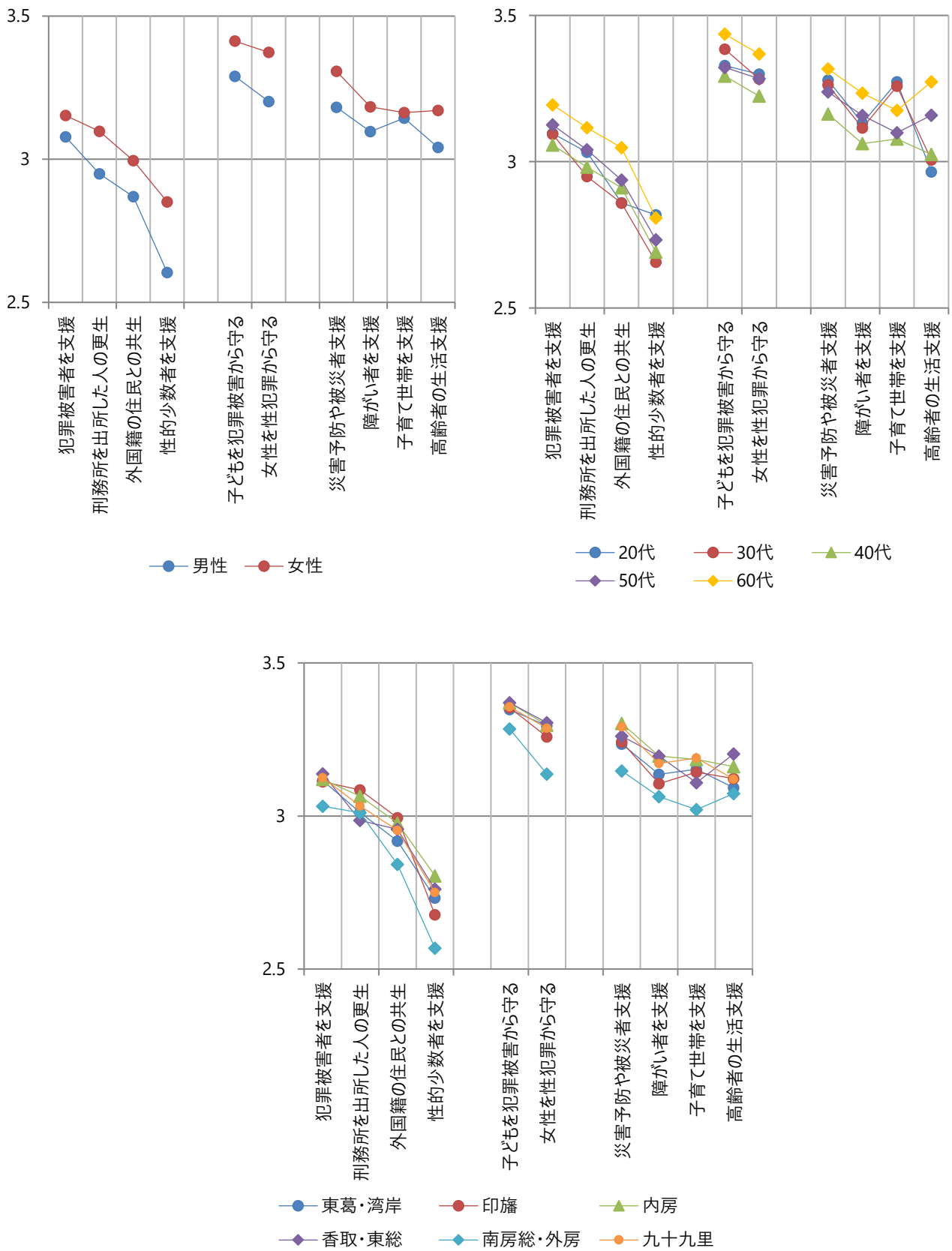


図 2-98 政策の必要性に関する意向 平均点【性別、年代別、エリア別】

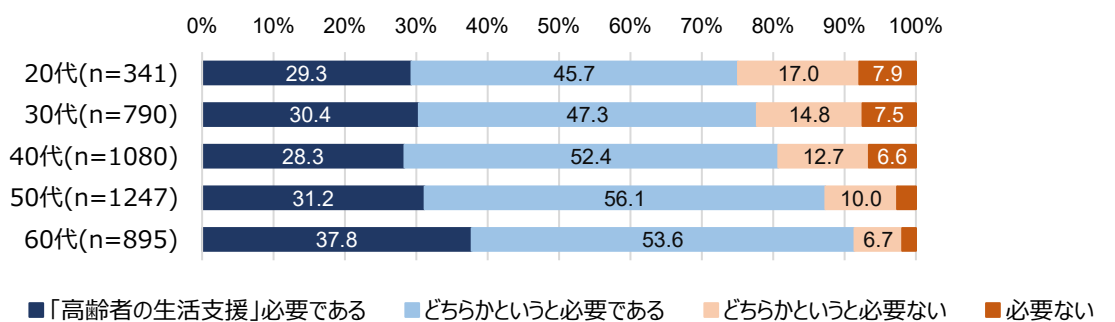
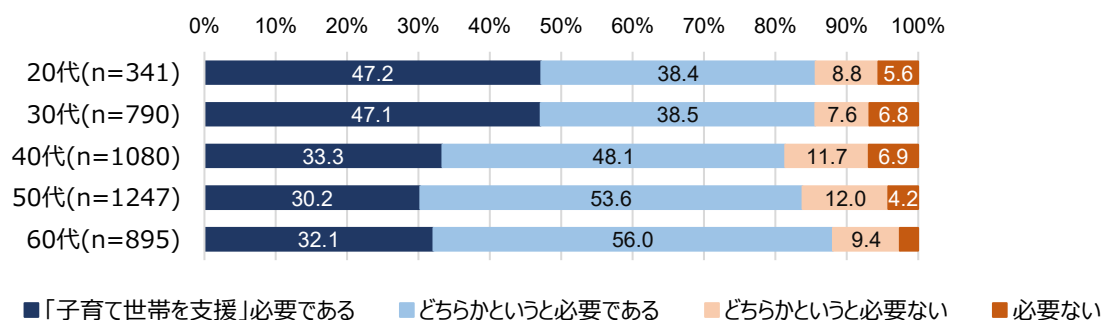
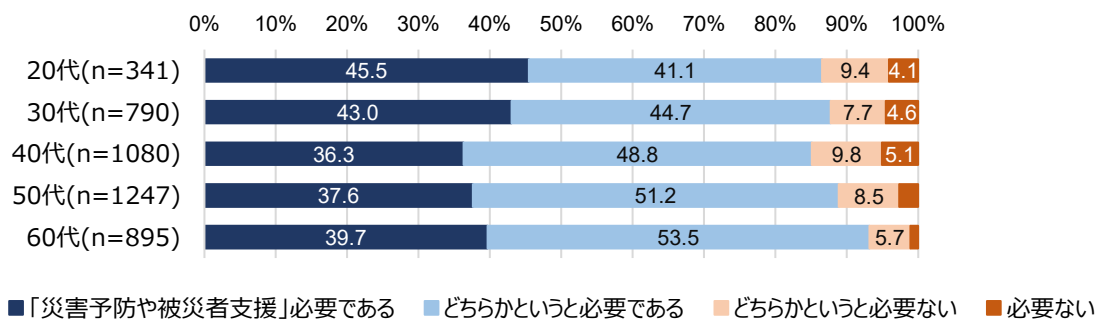
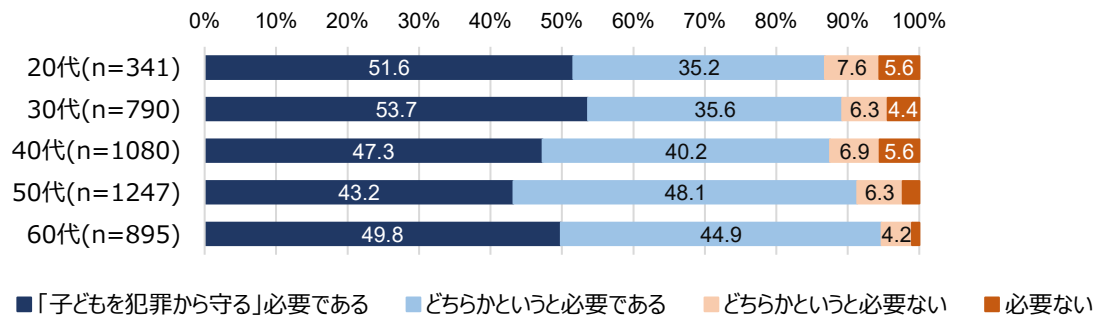
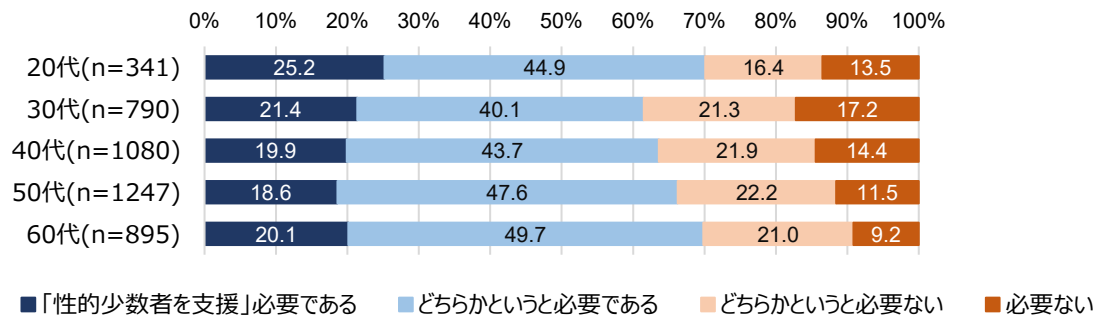


図 2-99 政策の必要性に関する意向 (%)【年代別】

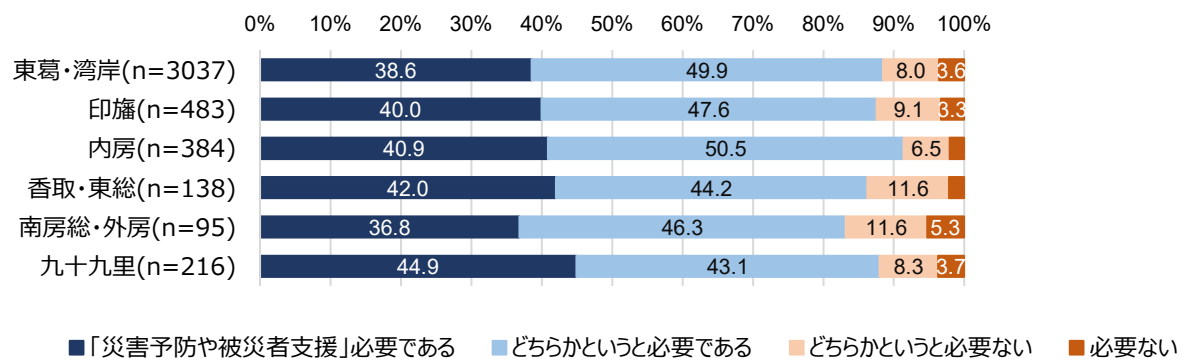
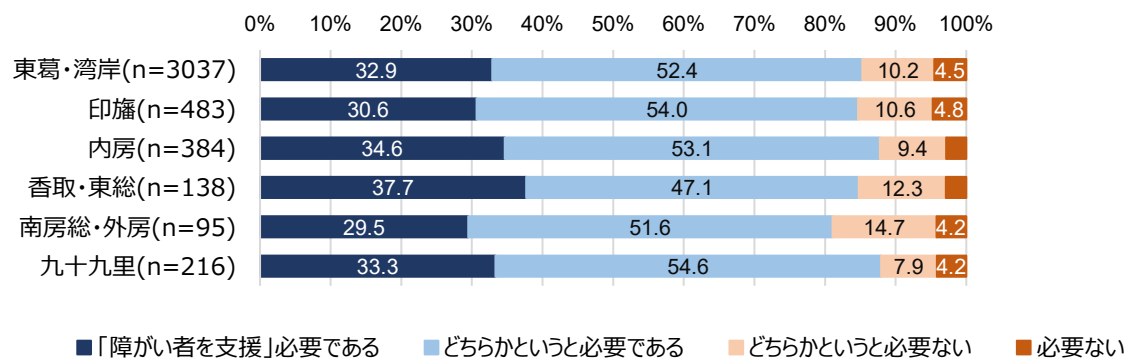
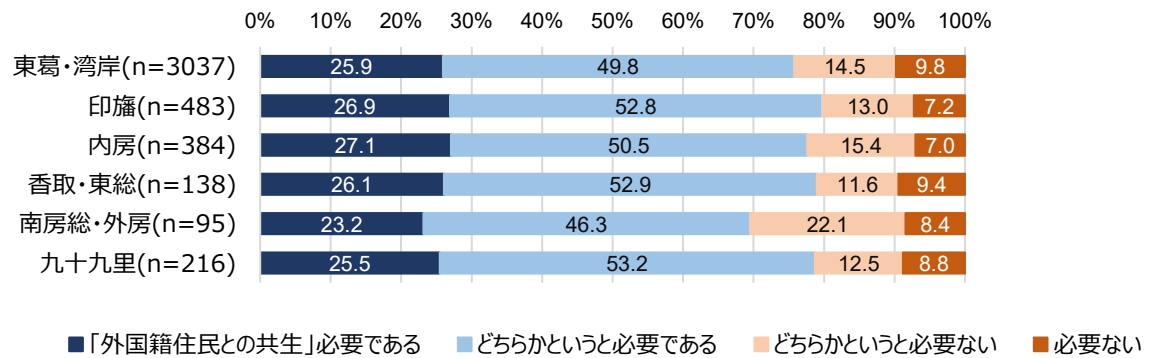
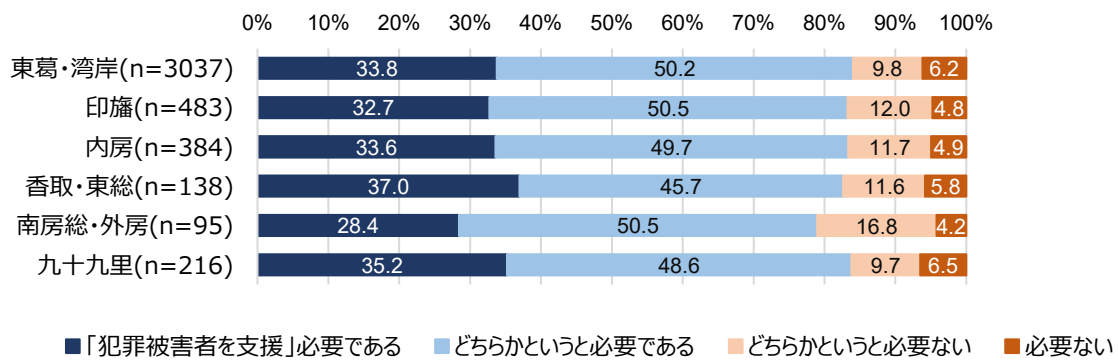


図 2-100 政策の必要性に関する意向 (%)【エリア別】

2-7. その他

(1) 行動基準

〈Q19〉

街中や電車の中などで行動するときの考え方に関する結果を図 2-101 に示す。

問題を起こすことや警察につかまることを嫌う、異なる意見も大切にして人権を尊重する、人の迷惑になることを嫌い気を遣うといった項目については「あてはまる」側の回答がいずれも過半数であり、「あてはまらない」側は 1 割前後と非常に少なかった。何をしようが勝手だと思う、悪事でも仲間に合わせてしまうといった項目についてはその逆であり、「あてはまる」側の回答は 1 割前後と非常に少ない。

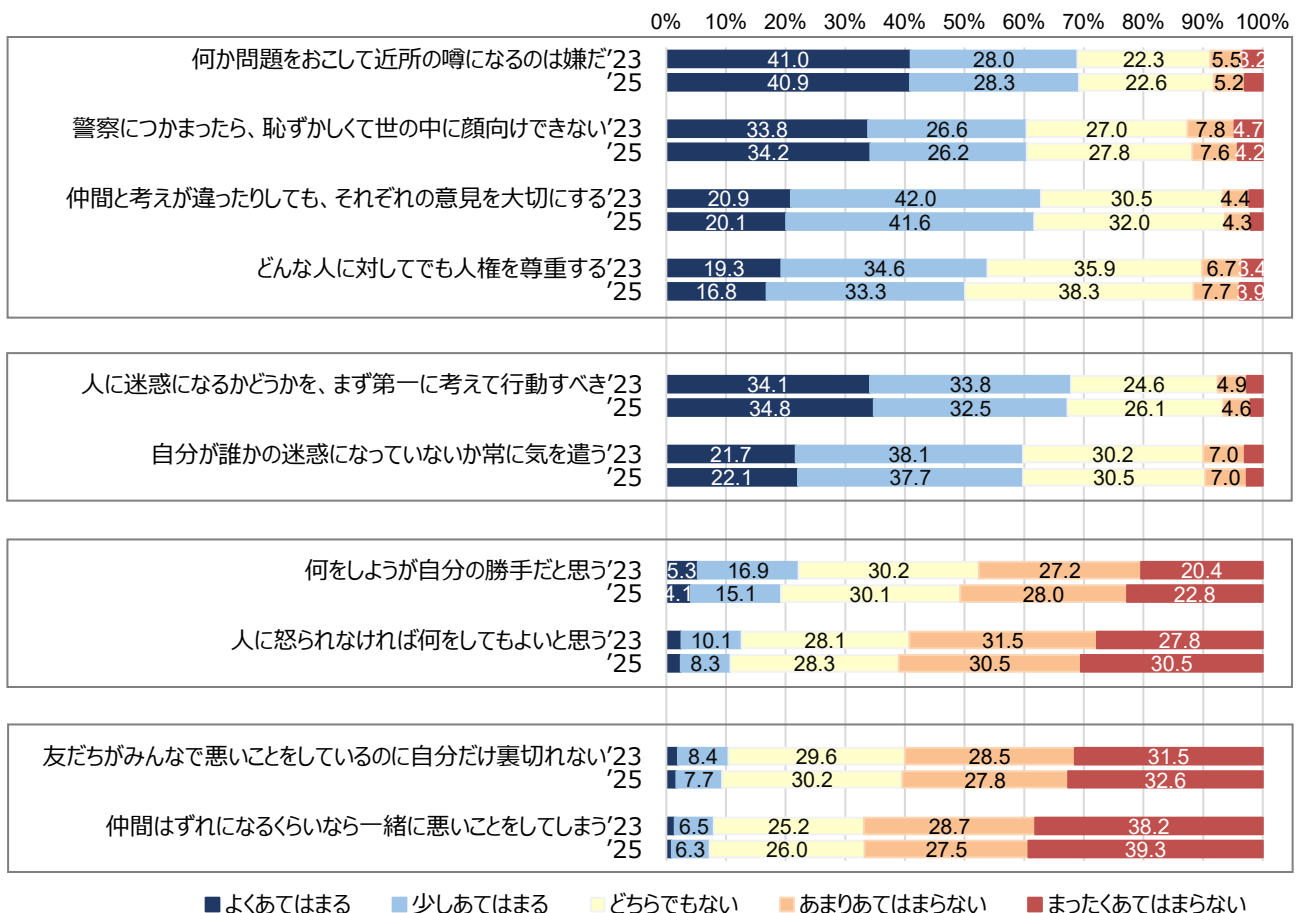


図 2-101 街中での行動基準 (%) 【全体、2023 年度調査結果との比較】

図 2-102 は、「よくあてはまる」を 5 点、「まったくあてはまらない」を 1 点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別では、「何か問題をおこして近所の噂になるのは嫌だ」「人に迷惑になるかどうかを第一に考えて行動すべき」等、「あてはまる」側の回答が過半数以上であった項目全てにおいて、女性の方が「あてはまる」率が高いという一定の傾向がみられた。その他の項目では男女が逆転する傾向がみられるが、その差は比較的小さい。「何をしようが自分の勝手だと思う」「友だちがみんなで悪いことをしているのに自分だけ裏切れない」では差はみられなかった。

年代別では、「何をしようが自分の勝手だと思う」「仲間はずれになるくらいなら一緒に悪いことをしてしまう」等、「あてはまる」側の回答が少数であった項目全てにおいて、若い方が「あてはまる」率

が高いという一定の傾向がみられた。その他の項目については差が小さいが、「仲間と考えが違ったりしても、それぞれの意見を大切に」「どんな人に対してでも人権を尊重する」「自分が誰かの迷惑になっていないか常に気を遣う」「警察につかまったら、恥ずかしくて世の中に顔向けできない」については、20代から40代にかけて徐々に「あてはまる率」が下がり、40代から60代にかけて徐々に上がるという一定の傾向がみられた。「何か問題をおこして近所の噂になるのは嫌だ」「人に迷惑になるかどうかを第一に考えて行動すべき」の「あてはまる」率は、40代までは変わらず、50代、60代で若干高まるという傾向を示している。

なお、エリア別の違いはほとんどみられなかった。

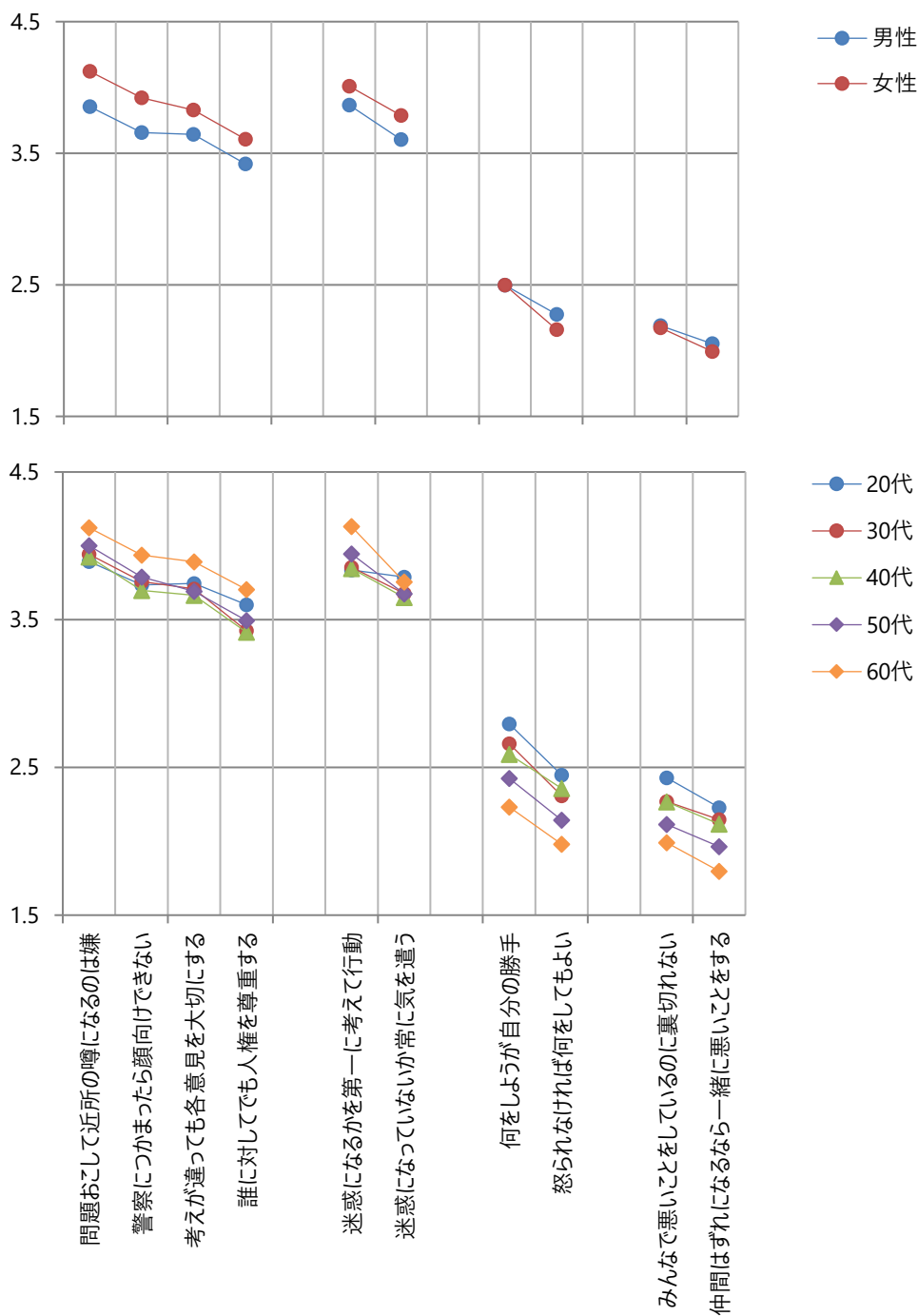


図 2-102 街中での行動基準 平均点【年代別】

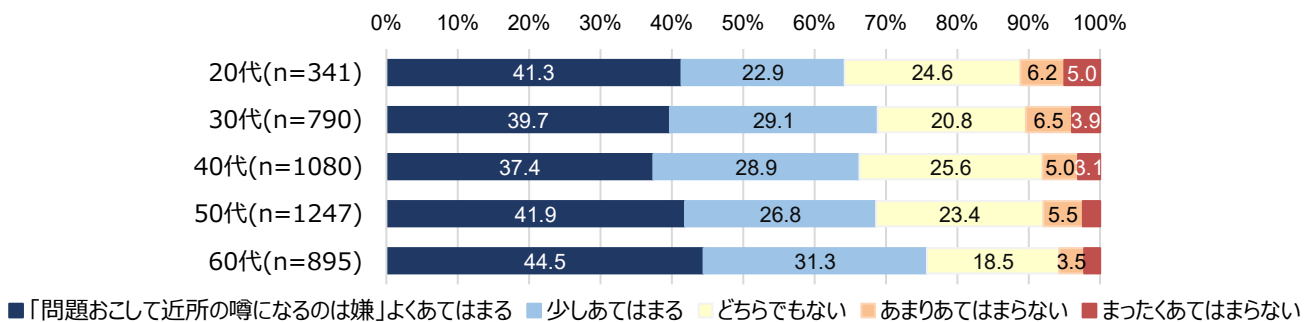
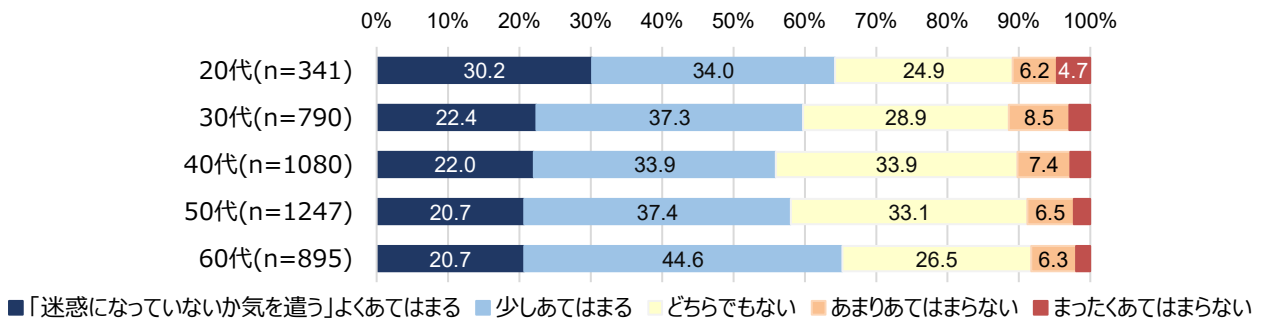
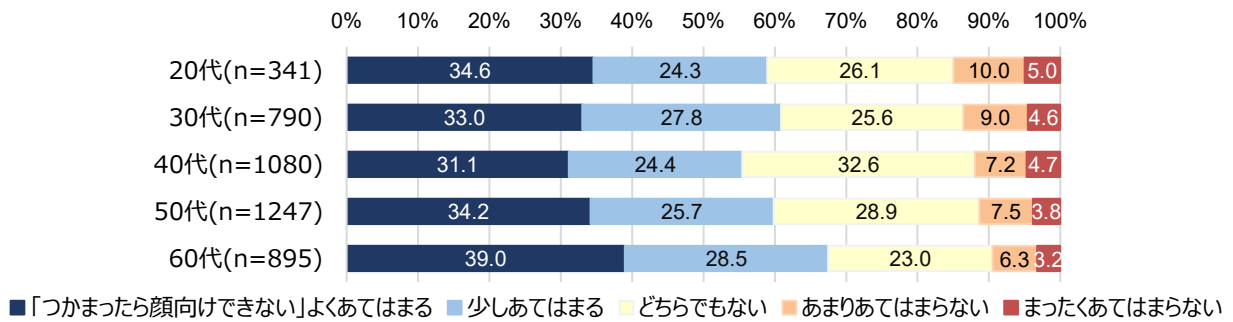
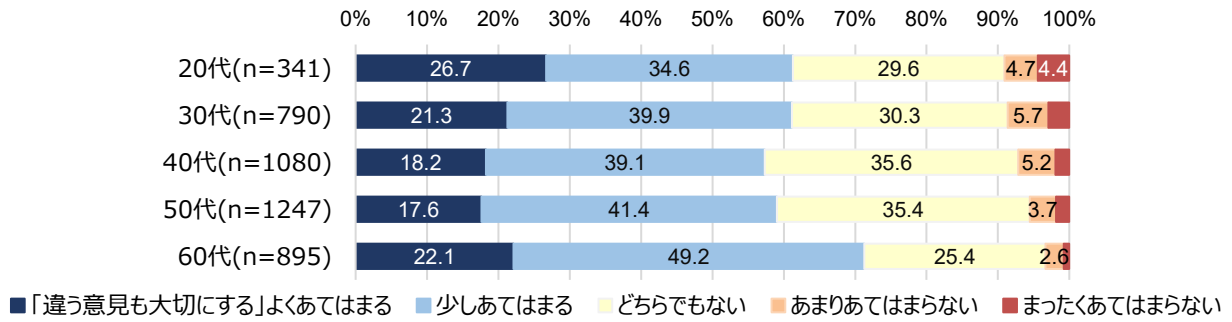
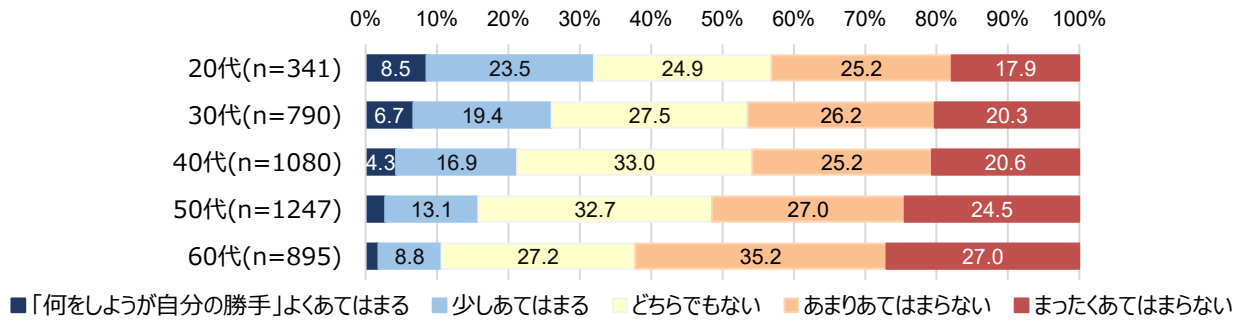


図 2-103 街中での行動基準 (%)【年代別】

(2) いじめに対する認識

〈Q20〉

いじめに対する考えを5件法で聞いた結果を図2-104に示す。

「いじめは人権侵害である」「いじめは子どものいる学校だけでなく大人がいる職場・地域にもある」に対して「そう思う」側の回答は7割以上であり、「そう思わない」側は5%以下であった。「いじめは陰湿化、巧妙化している」に対しては66.3%、「いじめは増えている」は50.4%であり、「そう思わない」側の回答は1割に満たない。「いじめ問題に関心がある」も44.5%と多い。

学校でのいじめに関しては、「加害者である子どもにも支援が必要である」に対して「そう思う」側の回答は44.8%、「加害者である子どもの出席停止が有効である」は41.5%、「周りの子どもが傍観するのは仕方がない」は31.1%であり、いずれも「そう思わない」側を上回った。なお、「学校での子どものいじめは学校だけに責任がある」は11.3%であり、非常に少なかった。

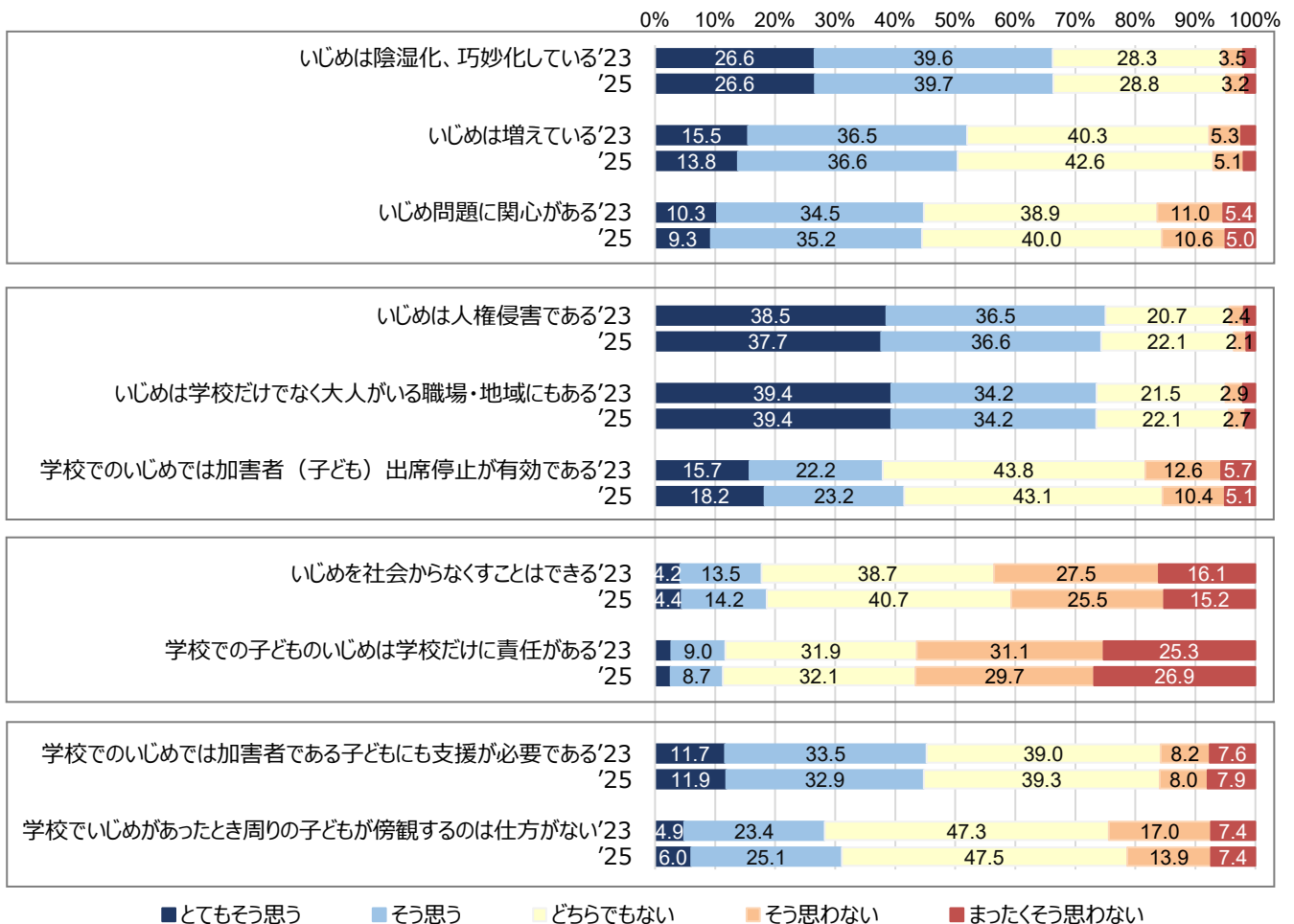


図2-104 いじめに対する認識(%)【全体、2023年度調査結果との比較】

図2-105は、「とてもそう思う」を5点、「まったくそう思わない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別では、女性の方が、いじめ問題に関心が高く、いじめの増加、陰湿化・巧妙化、職場・地域にもあること等を感じており、学校でのいじめに関しては加害者の子どもへの支援が必要と考えている。

年代別で特徴があったのは、学校でのいじめに関する項目である。若い世代の方が、「学校だけに責任がある」「加害者である子どもの出席停止が有効である」「周りの子どもが傍観するのは仕方がない」と考える傾向が顕著であった。その他の項目については、基本的に高年齢層の方が「そう思う」側の回答

が多くなっている。

エリア別では、南房総・外房などで「人権侵害である」をはじめ、多くの項目に対して「そう思う」側が若干少ないという傾向がみられた。

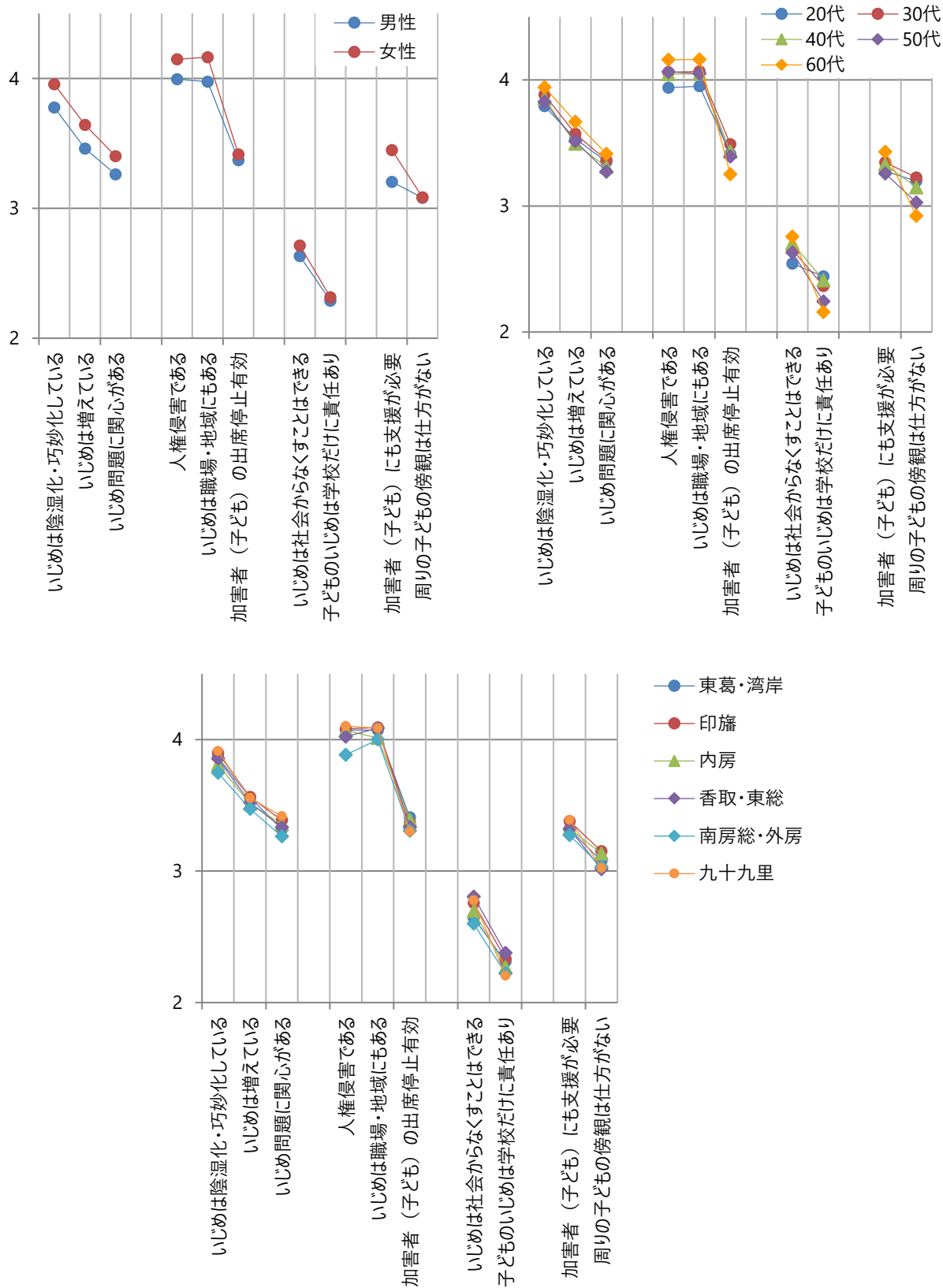


図 2-105 いじめに対する認識 平均点【エリア別】

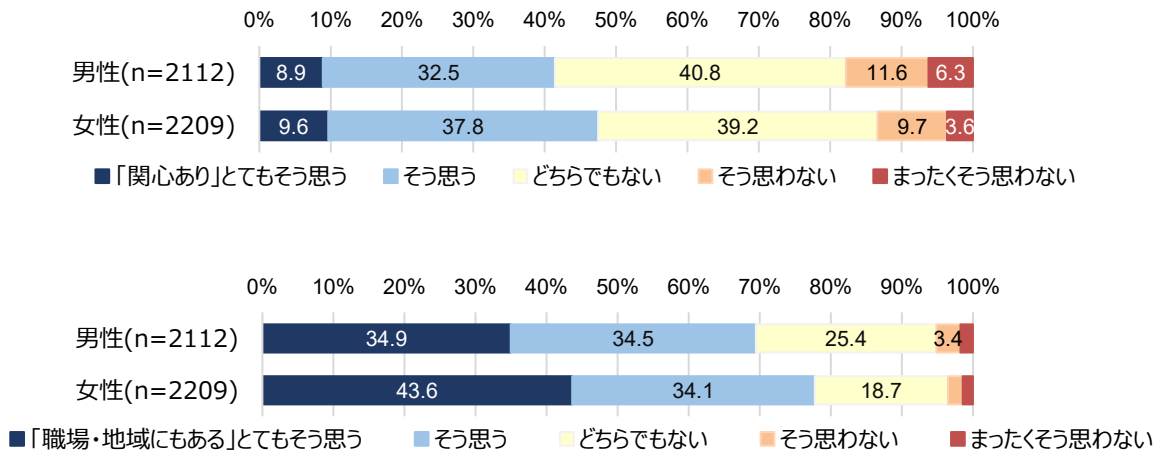


図 2-106 いじめに対する認識 (%)【性別】

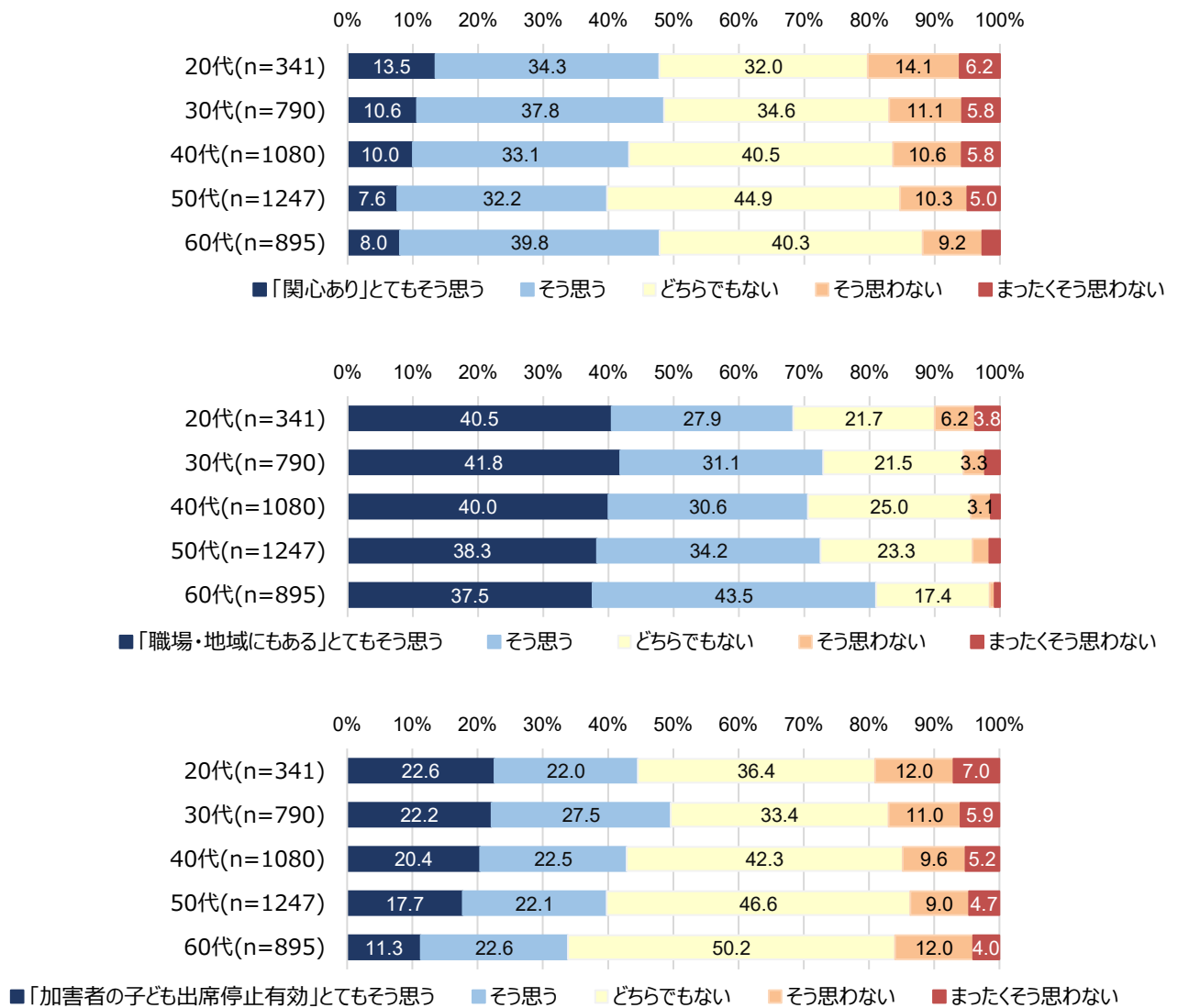


図 2-107-1 いじめに対する認識 (%)【年代別】

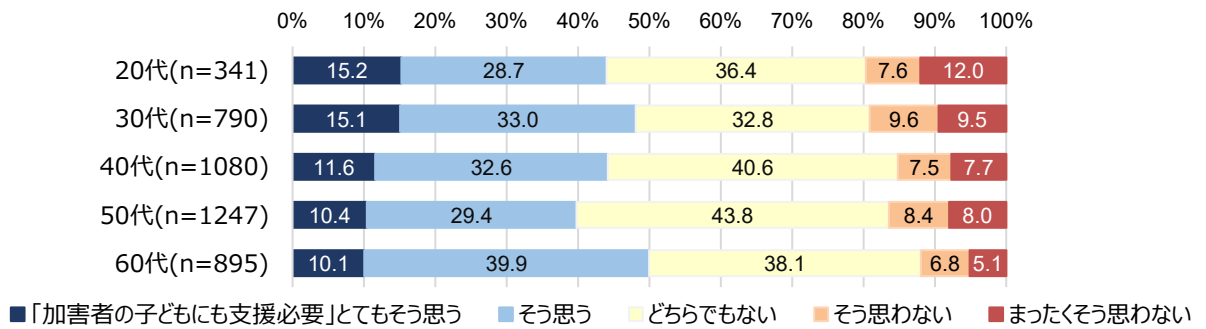
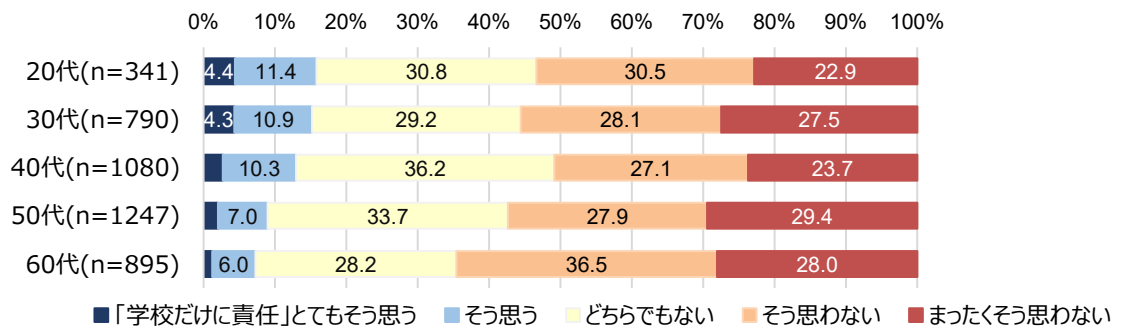


図 2-107-2 いじめに対する認識 (%)【年代別】(続き)

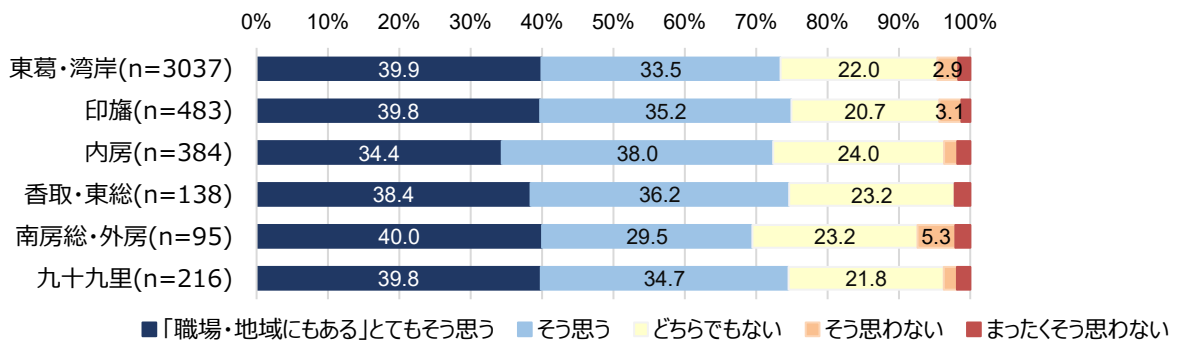
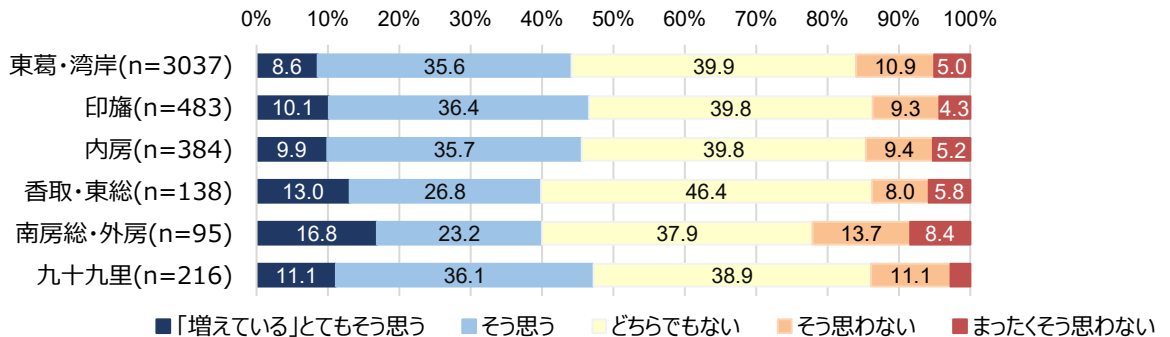


図 2-108 いじめに対する認識 (%)【エリア別】

(3) ジェンダーに関する認識

〈Q29〉

女性と男性の違いに関する考え方への評価について4件法で聞いた結果を図2-109に示す。

「女性は男性にくらべ、感情的である」に対して「そう思う」側の回答は54.8%、「子育ては、やはり母親でなくては、と思う」は44.7%と、肯定否定が分かれた。「人前では、妻は夫を立てた方がよい」「最終的に頼りになるのは、やはり男性である」「女性は出産する可能性があるため、男性と仕事の上で互角に並ぶのは無理である」「家庭のこまごまとした管理は、女性でなくては、と思う」では4割前後が肯定意見であった。

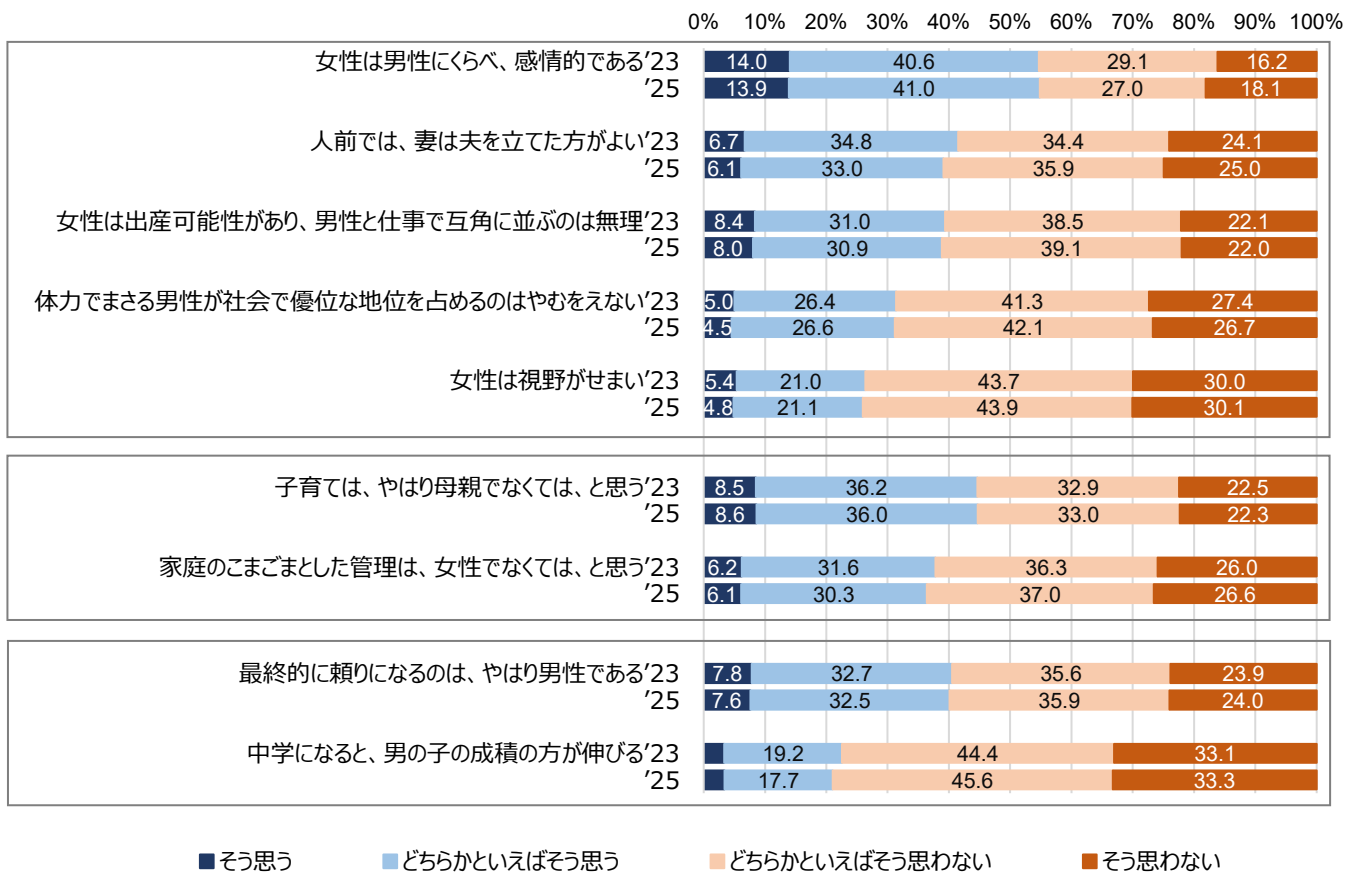


図2-109 ジェンダーに関する認識 (%) 【全体、2023年度調査結果との比較】

図2-110は、「そう思う」を4点、「そう思わない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別では、女性の方が、女性を感情的、男性と仕事で互角に並ぶのは無理と感じ、男性の方が、子育ては女性、女性を視野が狭いと感じる明確な傾向がみられた。妻は夫を立てた方がよい、男性が有意なのはやむを得ない、最終的に頼りになるのは男性という項目については男女の回答にほとんど差がなかった。

年代別では、一貫して、年代が若いほどすべての項目に対して否定的な回答が多くなる傾向がみられた。とくに顕著だったのは、子育て・育児は女性という考え方、女性を視野が狭い、妻は夫を立てた方がよいという考え方に対する回答である。

エリア別では、南房総・外房で、女性を感情的、家庭の管理は女性という考え方に対して「そう思う」側が若干多い傾向等があったが、一貫したエリア差はみられなかった。

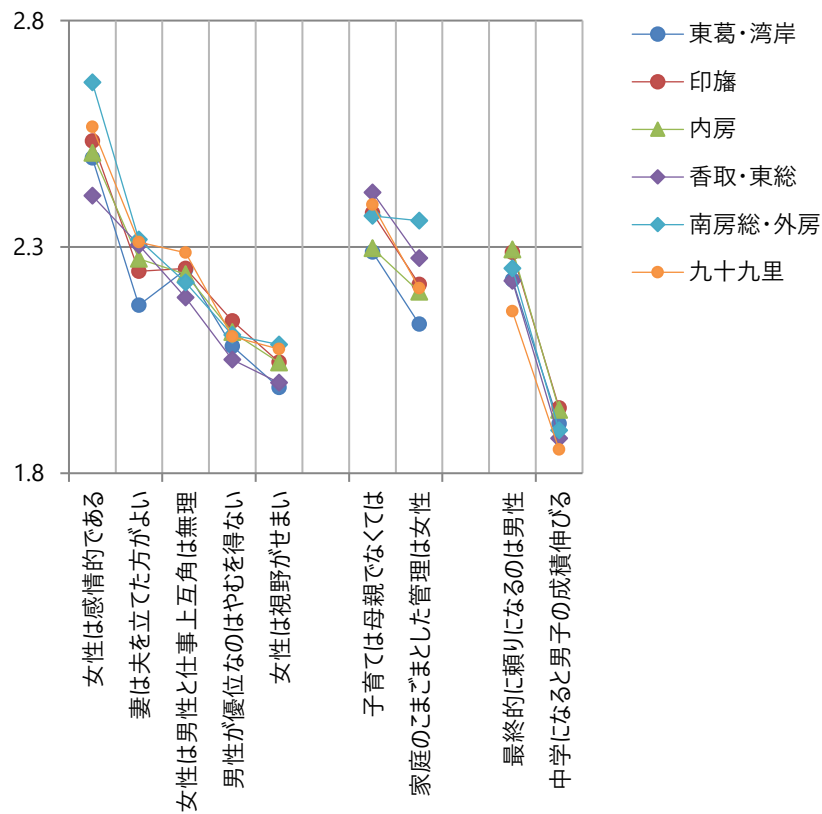
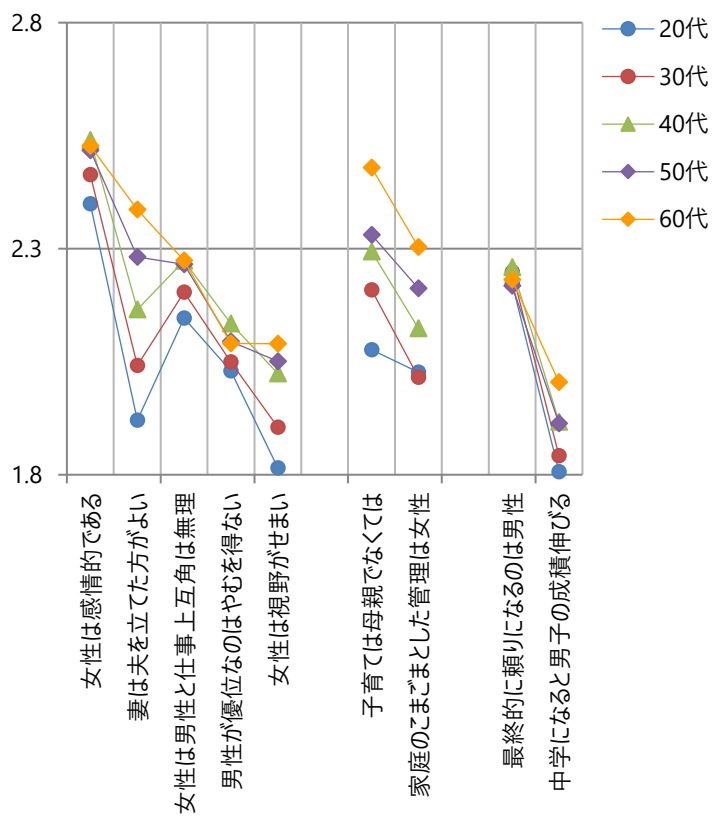
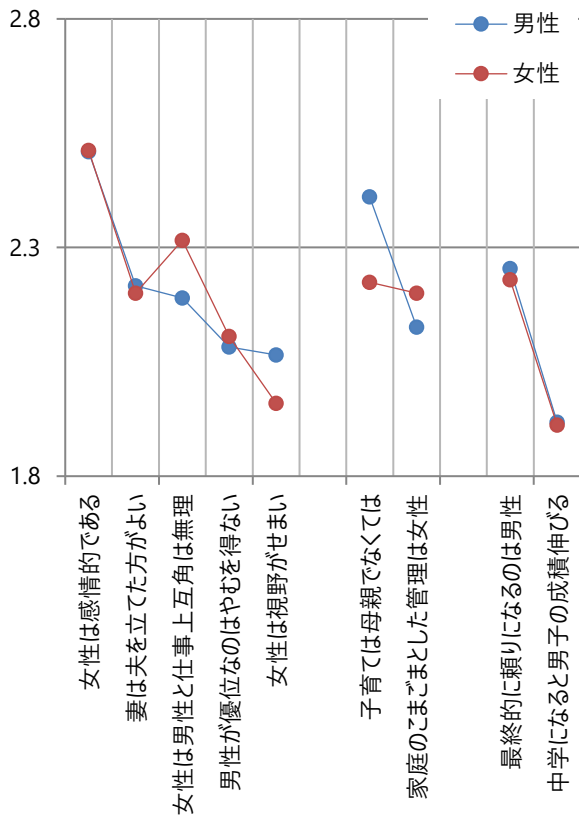


図 2-110 ジェンダーに関する認識 平均点【性別、年代別、エリア別】

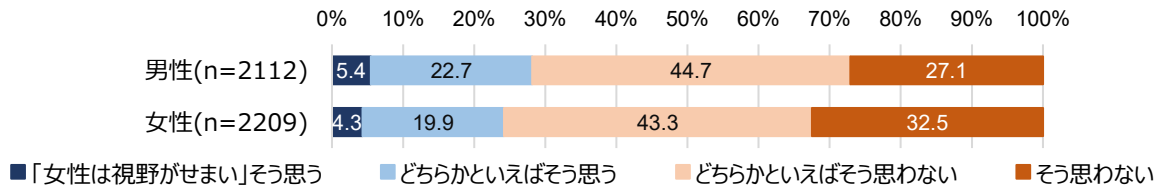
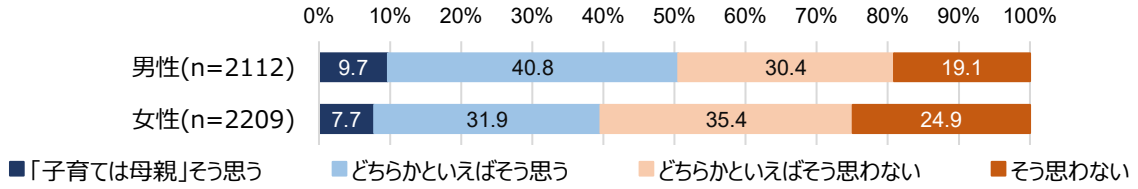
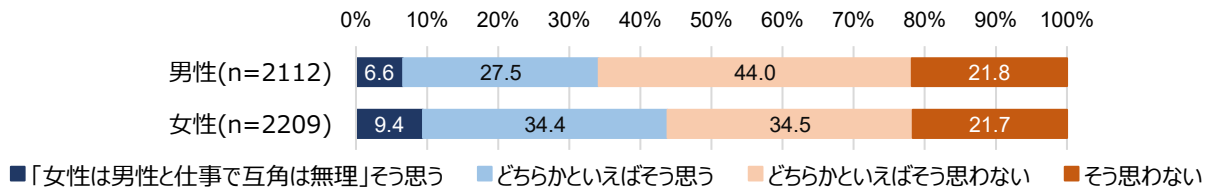


図 2-108 ジェンダーに関する認識 (%)【性別】

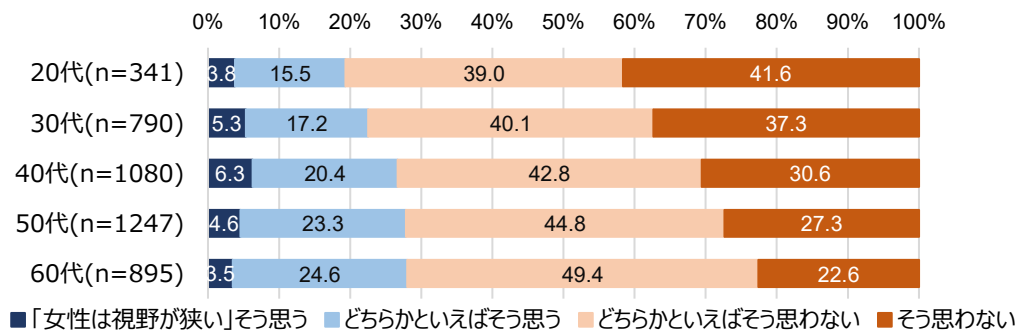
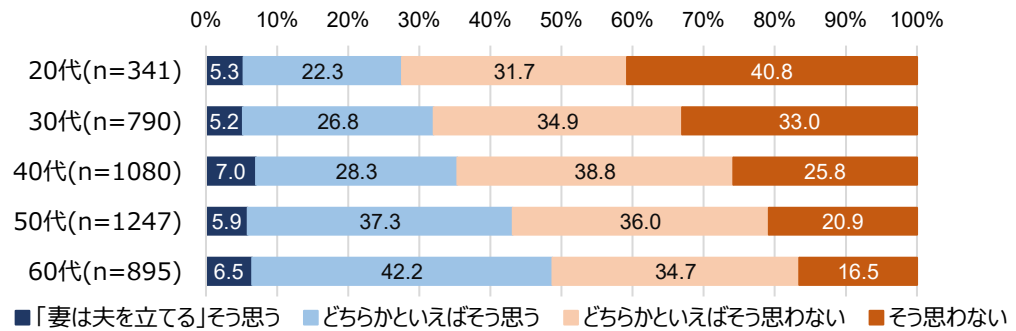


図 2-111-1 ジェンダーに関する認識 (%)【年代別】

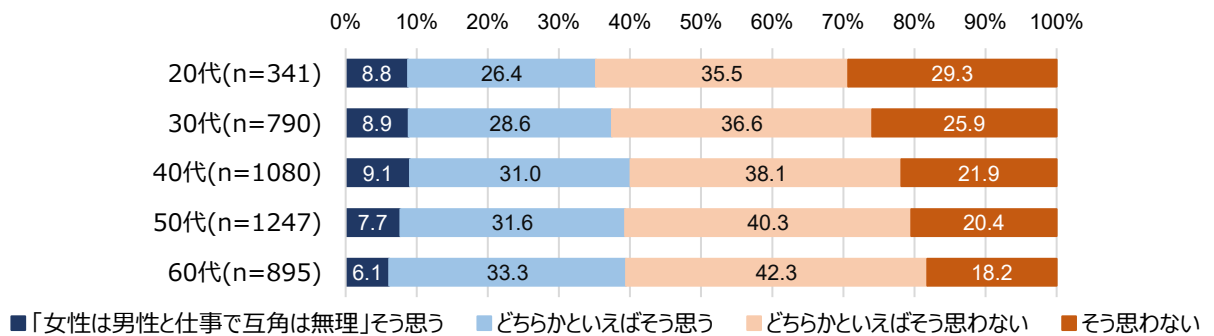
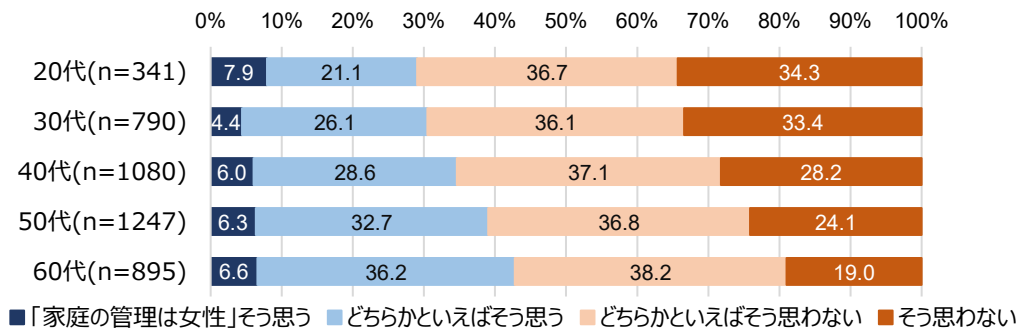
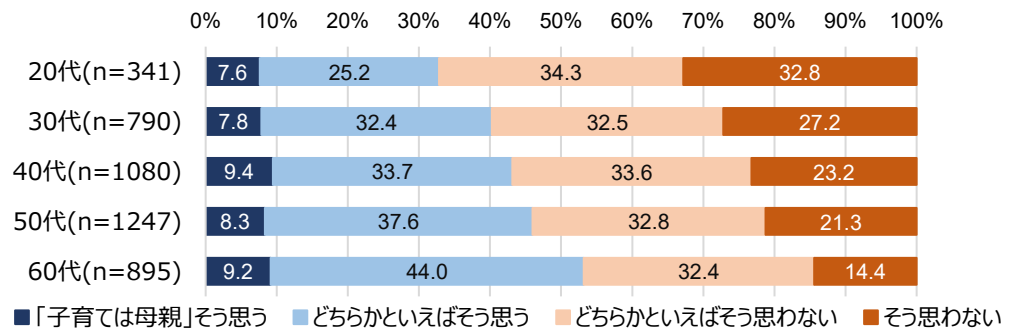


図 2-111-2 ジェンダーに関する認識 (%)【年代別】(続き)

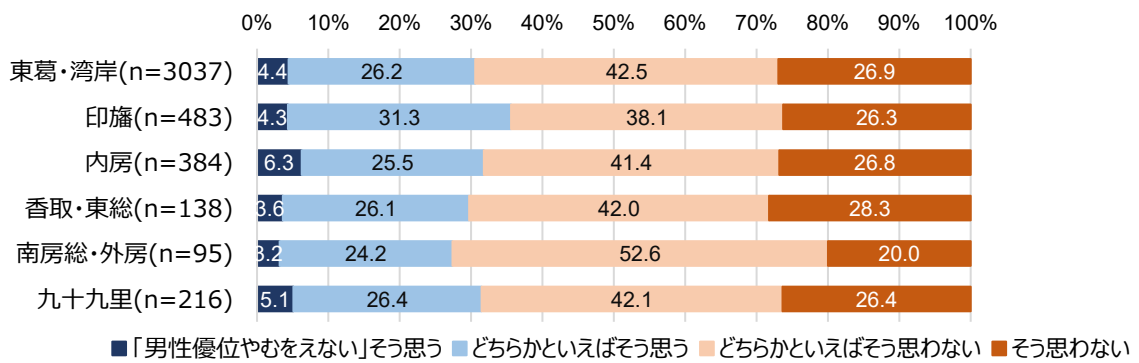
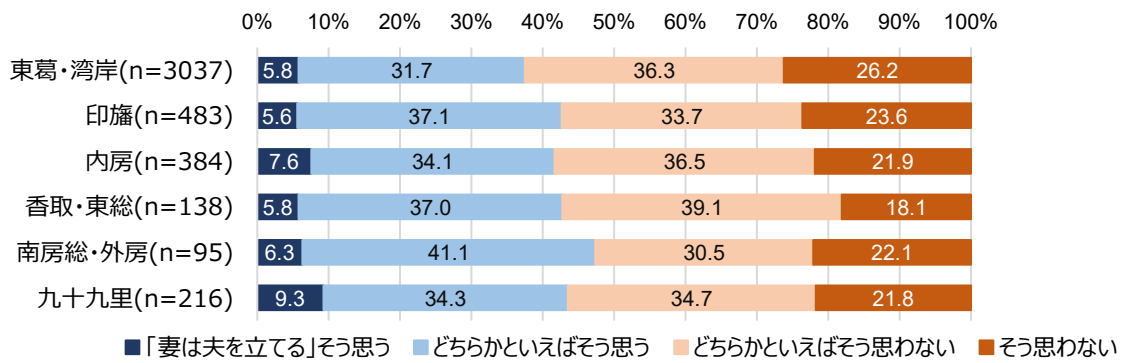
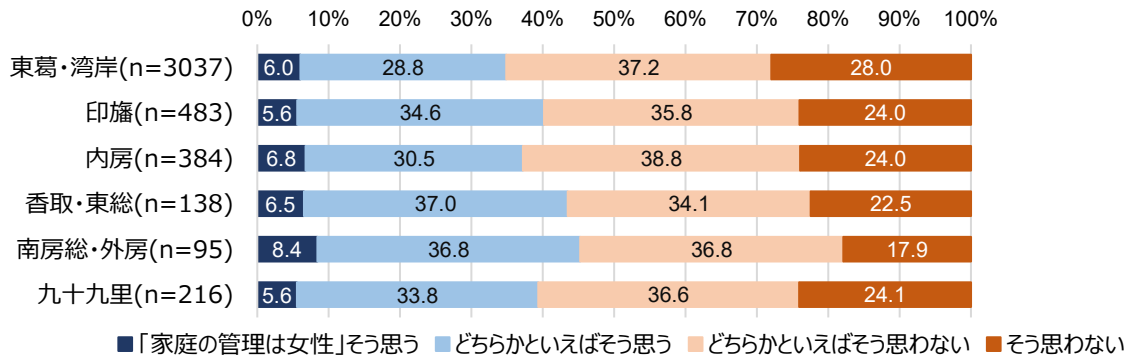


図 2-112 ジェンダーに関する認識 (%) 【エリア別】

3. 調査画面

アンケート画面開始

Page 1

このアンケートは、千葉県在住の方に生活や意識についておたずねし、千葉県の実態を把握してどのような施策が必要であるかを分析・研究することを目的としたものです。淑徳大学と読売新聞東京本社が共同で企画し、株式会社クロス・マーケティングに委託して実施いたします。

ご回答の途中でやめたくなった場合には、途中でやめて下さっても構いません。回答をしないことによって生じる不利益や、回答者が特定されることは一切ございません。

なお、ご回答をもちまして、アンケートへの参加に同意したものとさせていただきます。

調査から1年後に、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターにデータを寄託することを予定していますが、この際も回答者個人が特定されることはございません。

どうぞご協力いただけますようお願いいたします。

Q1

同居している人として、あてはまるものすべてを選んで下さい。(いくつでも)

- 1 誰とも同居していない(ひとり暮らし)
- 2 配偶者
- 3 親(配偶者の親を含む)
- 4 子ども
- 5 子どもの配偶者
- 6 孫
- 7 祖父母(配偶者の祖父母を含む)
- 8 兄弟・姉妹
- 9 友人など、親族以外の人
- 10 その他

Q2

あなた自身を含み、あなたのご家庭に以下のような人はいますか。
あてはまるものすべてを選んで下さい。(いくつでも)

- 1 大学、大学院生、短大、専門学校生
- 2 高校生の男子
- 3 高校生の女子
- 4 中学生の男子
- 5 中学生の女子
- 6 小学生の男子
- 7 小学生の女子
- 8 3歳以上の未就学児
- 9 3歳未満の未就学児
- 10 65～74歳の高齢者
- 11 75歳以上の高齢者
- 12 要支援の認定を受けている人
- 13 要介護の認定を受けている人
- 14 障害支援区分の認定を受けている人
- 15 15～39歳で、家事・通学・就業又は求職活動をしていない人
- 16 40～64歳で、家事・通学・就業又は求職活動をしていない人
- 17 あてはまる人はいない

Q3

あなたは次のような人々とよく交流していると思いますか。
対面で会うことのほか、電話や手紙、インターネット上のやりとりも含めてお答えください。(それぞれひとつずつ)



よく交流している
ある程度交流している
あまり交流していない
まったく交流していない
該当する人がいない

1 同居している家族	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>	5 <input type="radio"/>
2 別居している家族	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>	5 <input type="radio"/>
3 親せき	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>	5 <input type="radio"/>
4 隣近所の人	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>	5 <input type="radio"/>
5 職場やアルバイト先の人(仕事以外の目的で)	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>	5 <input type="radio"/>
6 友人	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>	5 <input type="radio"/>
7 趣味や習い事の仲間	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>	5 <input type="radio"/>
8 ボランティア活動の仲間	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>	5 <input type="radio"/>
9 インターネット上でつながっている人	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>	5 <input type="radio"/>

Q4

人間関係についておたずねします。
以下のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。(それぞれひとつずつ)



あてはまる
どちらか
どち
あてはまらない

1 私には困ったときにそばにいてくれる人がいる	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
2 私は喜びと悲しみを分かち合える人がいる	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
3 私の家族は本当に私を助けてくれる	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
4 必要な時に、私の家族は私の心の支えとなるような手を差し伸べてくれる	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
5 私には真の慰めの源となるような人がいる	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
6 私の友人たちは本当に私を助けてくれようとする	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
7 私は家族と自分の問題について話し合えることができる	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
8 私には喜びと悲しみを分かちあえる友人がいる	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
9 私は自分の問題について友人たちと話すことができる	1 <input type="radio"/>	2 <input checked="" type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>

Q5

以下のそれぞれについて、あてはまるかどうかお答えください。(それぞれひとつずつ)

	あてはまる	あてはまらない
➔		
1 今の住まいは、持家である(分譲マンションを含む)	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
2 今の住まいは、戸建てである	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
3 町内会(自治会)に加入している	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
4 住んでいる地域の町内会長(自治会長)を知っている	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
5 住んでいる地域の民生委員を知っている	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
6 住んでいる地域のお祭りやイベントに参加している	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
7 子ども時代は、今住んでいる地域で過ごした	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
8 生まれてからずっと千葉県に住んでいる	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
9 主な仕事場、学校などは現在住んでいる地域にある	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
10 住んでいる地域をよく散歩する	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
11 同居の家族は、自身を含めて全員65歳以上である	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
12 大学を卒業している(在学中を含む)	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
13 よく読書する方である(電子書籍含む)	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
14 ふだん自動車を運転している	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
15 通勤・通学の交通手段として鉄道(モノレール含む)を利用している	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
16 通勤・通学の交通手段としてバスを利用している	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
17 自分自身を含め、身近に生活保護を受けている人がいる	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
18 年金を受給している	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
19 犬を飼っている	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
20 猫を飼っている	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
➔		
	あてはまる	あてはまらない

Q6

以下のそれぞれについて、あてはまるかどうかお答えください。(それぞれひとつずつ)

	あてはまる	あてはまらない
➔		
1 家の固定電話は、いつも留守番電話にして相手を確認している	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
2 家の固定電話は、ナンバーディスプレイを使用して相手を確認している	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
3 この設問には、「あてはまらない」を選んで下さい	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
4 家の固定電話は、国際電話を受け取らない設定をしている	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
5 有名人などによる特殊詐欺予防のイベントを見聞きした	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
6 この1年間の間に、地域の警察官の見回り訪問(巡回連絡)を受けた	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
7 この1年間の間に、犯罪の被害にあった友人・知人がいる	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>

Q7

あなたがお住まいのまちについておたずねします。(それぞれひとつずつ)



あてはまる
 どちらかといえ
 どちらともいえない
 どちらかといえ
 どちらかといえ
 あてはまらない

1 このまちが好きだ	1	2	3	4	5
2 このまちは、住みよい	1	2	3	4	5
3 このまちに、愛着がある	1	2	3	4	5
4 このまちに、関心がある	1	2	3	4	5
5 このまちは、安心できる	1	2	3	4	5
6 このまちは、近所づきあいが良好である	1	2	3	4	5
7 このまちは、地域活動、祭りやイベント等が活発である	1	2	3	4	5
8 このまちにずっと住みたい	1	2	3	4	5
9 千葉県内にずっと住みたい	1	2	3	4	5

Q8

現在お住まいの住宅のまわりの環境に対する満足度について、あてはまるものを選んでください。(それぞれひとつずつ)



満足
 やや満足
 どちらともいえない
 やや不満
 不満

1 通勤・通学の利便	1	2	3	4	5
2 日常の買い物などの利便	1	2	3	4	5
3 医療・福祉・文化施設などの利便	1	2	3	4	5
4 福祉・介護の生活支援サービス	1	2	3	4	5
5 子どもの遊び場、子育て支援サービス	1	2	3	4	5
6 治安	1	2	3	4	5
7 近隣の人やコミュニティとの関わり	1	2	3	4	5
8 敷地の広さや日当たり、風通しなどの空間のゆとり	1	2	3	4	5
9 公園や緑、水辺などの自然環境	1	2	3	4	5
10 まちなみ・景観	1	2	3	4	5



満足
 やや満足
 どちらともいえない
 やや不満
 不満

Q9

以下のそれぞれについて、あなたのお考えとしてあてはまるものを選んで下さい。
(それぞれひとつずつ)



あてはまる
どちらかといえ
どちらかといえ
あてはまらない

1 体力が落ちたと感じる	1	2	3	4
2 やる気が低下している	1	2	3	4
3 物覚えが悪くなっている	1	2	3	4
4 物事について判断が難しいと感じることがある	1	2	3	4
5 物事の本質を見抜くことが難しい	1	2	3	4
6 論理的に考えることが面倒である	1	2	3	4
7 色々比較して選択しなくなっている	1	2	3	4
8 継続的に物事を行うことが億劫である	1	2	3	4
9 集中力が落ちている	1	2	3	4

Q10

生活保護に関する次の意見について、あなたはどのように考えますか。
(それぞれひとつずつ)



まったくそう思わない
あまりそう思わない
どちらともいえない
ややそう思う
とてもそう思う

1 現在の生活保護費は高すぎる	1	2	3	4	5
2 不正受給への罰則を強化すべき	1	2	3	4	5
3 親族による扶養義務を強化すべき	1	2	3	4	5
4 外国人の生活保護を禁止すべき	1	2	3	4	5
5 生活保護受給者も医療費を一部負担すべき	1	2	3	4	5
6 生活保護費によるギャンブルは禁止すべき	1	2	3	4	5
7 生活保護は現金支給ではなく、生活必需品のみ入手できる仕組み(クーポン制)にすべき	1	2	3	4	5
8 生活保護申請時の審査を厳しくすべき	1	2	3	4	5
9 働ける人には期限を設けて生活保護を支給すべき	1	2	3	4	5
10 働ける人が就職あっせんを拒否した場合は生活保護を減額すべき	1	2	3	4	5



まったくそう思わない
あまりそう思わない
どちらともいえない
ややそう思う
とてもそう思う

Q11

犯罪被害や悩みごとを相談する窓口として、知っているものすべてを選んでください。
(いくつでも)

- 1 千葉県警察の「電話de詐欺」相談窓口
- 2 千葉県警察少年センターの相談窓口
- 3 市区町村役場の犯罪被害の相談窓口
- 4 県や市の消費生活相談窓口(消費者センターなど)
- 5 法テラスの相談窓口
- 6 千葉県弁護士会の相談窓口
- 7 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター「#8891(はやくワンストップ)」
- 8 警察相談専用電話「#9110」
- 9 性犯罪被害相談窓口(警察庁)「#8103(ハートさん)」
- 10 消費者ホットライン(消費者庁)「188」
- 11 児童相談所虐待対応ダイヤル「189」
- 12 DV相談ナビ「#8008」
- 13 子どもの人権110番
- 14 いのちの電話(一般社団法人 日本いのちの電話連盟)
- 15 どれも知らない

Q12

あなたは、以下の機関や職業を信頼できますか。(それぞれひとつずつ)

	信頼できる	どちらかといえば	どちらともいえない	どちらかといえ	信頼できない
1 自衛隊	1○	2○	3○	4○	5○
2 マスコミ・報道機関	1○	2○	3○	4○	5○
3 学校	1○	2○	3○	4○	5○
4 警察	1○	2○	3○	4○	5○
5 市役所・町村役場	1○	2○	3○	4○	5○
6 町内会・自治会	1○	2○	3○	4○	5○
7 裁判所	1○	2○	3○	4○	5○
8 国会議員	1○	2○	3○	4○	5○
9 大企業	1○	2○	3○	4○	5○
10 政府	1○	2○	3○	4○	5○

Q13

あなたや同居のご家族は、この1年間に以下に示す犯罪などの被害にあったことがありますか。あてはまるものすべてを選んで下さい。(いくつでも)

- 1 自宅での泥棒(空き巣など)
- 2 自宅敷地への侵入
- 3 建物や自動車の落書きや損壊
- 4 【あなた自身】自動車盗・バイク盗・車上ねらい(車から物を盗む)
- 5 【あなた自身】自転車盗
- 6 【あなた自身】知らない人からのちかん・つきまといなど
- 7 【あなた自身】家族や恋人からの暴力(暴言なども含みます)
- 8 【あなた自身】電話de詐欺
- 9 【あなた自身】インターネットによる詐欺・悪質商法・消費者被害
- 10 【あなた自身】その他の犯罪被害
- 11 【同居家族】自動車盗・バイク盗・車上ねらい(車から物を盗む)
- 12 【同居家族】自転車盗
- 13 【同居家族】知らない人からのちかん・つきまといなど
- 14 【同居家族】家族や恋人からの暴力(暴言なども含みます)
- 15 【同居家族】電話de詐欺
- 16 【同居家族】インターネットによる詐欺・悪質商法・消費者被害
- 17 【同居家族】その他の犯罪被害
- 18 あなた・同居家族ともに犯罪の被害にあったことはない

Q14

犯罪に対する不安感についておたずねします。

以下のそれぞれについて、どれくらい不安に感じていますか。(それぞれひとつずつ)

	非 常 に 不 安	か な り 不 安	や や 不 安	不 安 は な い
1 自身が犯罪の被害にあうこと	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
2 同居家族が犯罪の被害にあうこと	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
3 自宅への泥棒(空き巣など)	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
4 自宅や自動車などが落書きされる・壊される	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
5 自分の乗り物や持ち物が盗まれる	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
6 屋外での犯罪(ひったくり、恐喝、ちかんなど)	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
7 生命にかかわる犯罪(殺人や放火、テロなど)にまきこまれる	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
8 電話de詐欺や悪質商法	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
9 日中、住んでいる地域を1人で出歩いている時に犯罪の被害にあうこと	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
10 深夜23時を過ぎてから、住んでいる地域を1人で出歩いている時に、犯罪の被害にあうこと	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>

Q15

政府や自治体などの政策として、以下のそれぞれについての必要性をおたずねします。
(それぞれひとつずつ)



必要
で
あ
る

ど
ち
ら
か
あ
る
う
と

ど
ち
ら
か
あ
る
う
と

必
要
な
い

1 女性を性犯罪から守るための取り組み	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
2 子どもを犯罪の被害から守るための取り組み	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
3 外国籍の住民との共生のための取り組み	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
4 刑務所を出所した人の更生のための取り組み	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
5 性的少数者(同性愛者、LGBT等)を支援するための取り組み	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
6 犯罪被害者を支援するための取り組み	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
7 子育て世帯を支援するための取り組み	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
8 障がい者を支援するための取り組み	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
9 災害の予防や被災者の支援のための取り組み	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
10 高齢者の生活支援のための取り組み	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>



必要
で
あ
る

ど
ち
ら
か
あ
る
う
と

ど
ち
ら
か
あ
る
う
と

必
要
な
い

Q16

あなたの情報環境などについておたずねします。あてはまるものすべてを選んで下さい。(いくつでも)

- 1 自分専用のパソコン(タブレットも含む)を持っている
- 2 家族共用のパソコン(タブレットも含む)を持っている
- 3 自宅に固定電話がある
- 4 スマートフォンを持っている
- 5 テレビのニュースをほぼ毎日見ている(ネット配信を含む)
- 6 新聞を購読している(電子版を含む)
- 7 県や市町村の広報紙に目をとおしている
- 8 警察の広報紙に目をとおしている
- 9 X(旧Twitter)を利用している
- 10 Facebookを利用している
- 11 Instagramを利用している
- 12 LINEを利用している
- 13 TikTokを利用している
- 14 YouTubeを利用している
- 15 あてはまるものはない

Q17

以下のそれぞれについて、あてはまる数値を入力してください。

1 あなたご自身を含む、同居家族人数	<input type="text"/>	人
2 現在お住まいの場所での居住年数 ※1年未満の方は、1と入力ください。	<input type="text"/>	年
千葉県内での居住年数 ※1年未満の方は、1と入力ください。 ※一度県外に出られた方は、千葉県内におられた合計年数をお答えください。	<input type="text"/>	年
4 あなたの1週間における仕事をしている日数 (例:0、1、2、3、4、5、6、7)	<input type="text"/>	日
5 向こう1年間にあなたご自身や同居家族が、犯罪の被害にあう可能性 ※あなたの予想を0~100%の間の数値でお答えください。	<input type="text"/>	%
6 あなたが考える最高の生活を10点(満点)としたときに、あなたの今の生活は0~10のうち何点の位置にあると思いますか。 ※0~10でお答え下さい	<input type="text"/>	点

Q18

以下のそれぞれについて、あなたのお考えをおたずねいたします。
(それぞれひとつずつ)



あてはまる
どちらかといえ
どちらかといえ
あてはまらない

- | | | | | |
|------------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|------------------------------------|
| 1 自治体(市町村)の施策・サービスについて満足している | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input checked="" type="radio"/> |
| 2 自治体の首長(市長・町長・村長)は信頼できる | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> |
| 3 隣近所の問題は自分たちで解決できる | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> |
| 4 ほとんどの人は信頼できる | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> |
| 5 ほとんどの隣近所の人は信頼できる | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> |
| 6 隣近所の人たちは困ったときに助けてくれる | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> |
| 7 この質問には、「あてはまらない」を選択して下さい | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> |
| 8 住んでいる地域で住民の数が減っている | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> |
| 9 住んでいる地域でマンションの新築が増えている | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> |
| 10 住んでいる地域で外国籍の住民が増えている | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> |



あてはまる
どちらかといえ
どちらかといえ
あてはまらない

Q19

街中や電車の中などで行動するとき、以下の項目はあなたの考え方にどの程度あてはまりますか。
あてはまる程度1つを選んでください。(それぞれひとつずつ)



よくあてはまる
少しあてはまる
どちらでもない
あまりあてはまらない
まったくあてはまらない

- | | | | | | |
|--------------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 1 何をしようが自分の勝手だと思う | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 5 <input type="radio"/> |
| 2 人に怒られなければ何をしてもよいと思う | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 5 <input type="radio"/> |
| 3 友だちがみんなで悪いことをしているのに自分だけ裏切れない | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 5 <input type="radio"/> |
| 4 仲間はずれになるくらいなら一緒に悪いことをしてしまう | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 5 <input type="radio"/> |
| 5 警察につかまったら、恥ずかしくて世の中に顔向けできない | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 5 <input type="radio"/> |
| 6 何か問題をおこして近所の噂になるのは嫌だ | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 5 <input type="radio"/> |
| 7 人に迷惑になるかどうかを、まず第一に考えて行動すべき | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 5 <input type="radio"/> |
| 8 自分が誰かの迷惑になっていないか常に気を遣う | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 5 <input type="radio"/> |
| 9 どんな人に対してでも人権を尊重する | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 5 <input type="radio"/> |
| 10 仲間と考えが違ったりしても、それぞれの意見を大切にする | 1 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 5 <input type="radio"/> |



よくあてはまる
少しあてはまる
どちらでもない
あまりあてはまらない
まったくあてはまらない

Q20

いじめについて、あなたのお考えにあてはまるものを選んでください。
(それぞれひとつずつ)



ま
っ
た
く
そ
う
思
わ
な
い

そ
う
思
わ
な
い

ど
ち
ら
で
も
な
い

そ
う
思
う

と
て
も
そ
う
思
う

1	いじめ問題に関心がある	1	2	3	4	5
2	いじめは増えている	1	2	3	4	5
3	いじめは陰湿化、巧妙化している	1	2	3	4	5
4	いじめは人権侵害である	1	2	3	4	5
5	いじめを社会からなくすことはできる	1	2	3	4	5
6	いじめは子どもがいる学校だけでなく大人がいる職場・地域にもある	1	2	3	4	5
7	学校での子どものいじめは学校だけに責任がある	1	2	3	4	5
8	学校でのいじめでは加害者である子どもの出席停止が有効である	1	2	3	4	5
9	学校でのいじめでは加害者である子どもにも支援が必要である	1	2	3	4	5
10	学校でいじめがあったとき周りの子どもが傍観するのは仕方がない	1	2	3	4	5

Q21

以下のそれぞれについて、あなたのお考えとしてあてはまるものを選んで下さい。
(それぞれひとつずつ)



そ
う
思
う

ど
ち
ら
か
と
い
え
ば

ど
ち
ら
か
と
い
え
ば

そ
う
思
わ
な
い

そ
う
思
わ
な
い

1	少年の犯罪・非行が増えていると思う	1	2	3	4
2	少年の犯罪・非行が悪質になっていると思う	1	2	3	4
3	警察は少年の犯罪・非行をもっと厳しく取り締まるべきだと思う	1	2	3	4
4	警察は成人の犯罪をもっと厳しく取り締まるべきだと思う	1	2	3	4
5	犯罪に対する刑罰をもっと重くするべきだと思う	1	2	3	4
6	地域の安全を確保する責任は、個人にもあると思う	1	2	3	4
7	地域の安全を確保する責任は、町内会(自治会)にもあると思う	1	2	3	4
8	市民には、地域や社会に貢献する責任があると思う	1	2	3	4
9	自分の家では、自然災害への備えができていると思う	1	2	3	4
10	住んでいる地域では、自然災害への備えができていると思う	1	2	3	4



そ
う
思
う

ど
ち
ら
か
と
い
え
ば

ど
ち
ら
か
と
い
え
ば

そ
う
思
わ
な
い

そ
う
思
わ
な
い

Q22

あなたや同居のご家族は、現在お住まいの地域で自然災害の被害にあったことがありますか。

以下の項目について、「経験あり」「経験なし」のいずれかでお答えください。

(それぞれひとつずつ)



	経験あり	経験なし
1 自宅が、地震の揺れによる被害を受けた	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
2 自宅が、津波による被害を受けた	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
3 自宅が、台風や豪雨、強風などによる被害を受けた	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
4 自宅が、土砂災害による被害を受けた	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
5 自宅が、火災による被害を受けた	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
6 自宅が、停電した	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
7 自宅が、断水した	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
8 自宅の水洗トイレが使用できなくなった	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
9 自宅のガスが使用できなくなった	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>
10 自宅から避難した	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>

Q23

あなたは、以下の自然災害に対してどの程度不安に思いますか。

あてはまるものを選んで下さい。(それぞれひとつずつ)



	非常に不安	かなり不安	やや不安	不安はない
1 地震	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
2 津波	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
3 高潮	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
4 台風	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
5 豪雨・洪水	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
6 強風	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
7 竜巻	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>
8 土砂災害	1 <input type="radio"/>	2 <input type="radio"/>	3 <input type="radio"/>	4 <input type="radio"/>

Q24

自然災害に備えて、あなたや同居家族が行っていることを、いくつでも選んで下さい。
(いくつでも)

- 1 食糧の備蓄
- 2 飲料水の備蓄
- 3 懐中電灯の準備
- 4 ラジオの準備
- 5 非常用の持ち出し袋の準備
- 6 生活用水の汲み置きや備蓄
- 7 簡易携帯トイレの準備
- 8 スマートフォンや携帯電話の電池切れ対策
- 9 家具の固定や転倒防止
- 10 感震ブレーカーの設置
- 11 家屋の耐震強化
- 12 土のうの用意
- 13 暴風対策(かたづけ・ガラス飛散防止)
- 14 地震保険や火災保険などへの加入
- 15 家族との連絡方法の確認
- 16 帰宅経路や帰宅困難時の対応の確認
- 17 避難場所の確認
- 18 災害情報の積極的な収集
- 19 防災訓練への参加
- 20 特に何もしていない

Q25

自然災害に備えて、あなたや同居家族がペットのために行っていることを、いくつでも選んでください。(いくつでも)

- 1 ペットフードの備蓄(5日以上)
- 2 ペットシートやトイレ砂など、トイレ用品の備蓄
- 3 キャリーバックやケージの準備
- 4 首輪、またはリードの準備
- 5 迷子札の装着
- 6 マイクロチップの装着
- 7 ペットの写真の印刷、またはデータ保存
- 8 一時的にペットを預かってくれる人の確保
- 9 最寄りの避難所のペットの受入れ体制の把握
- 10 ペット同伴の避難訓練への参加
- 11 特に何もしていない

Q26

あなたの日々の生活での感じ方についておたずねします。
それぞれ、あてはまるものを選んで下さい。(それぞれひとつずつ)

決してない
ほとんではない
たまにある
時々ある
しばしば・常にある



- | | | | | | |
|-----------------------------|---|---|---|---|---|
| 1 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 自分は取り残されていると感じることがある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4 孤独であると感じることがある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5 本気で自殺したいと考えることがある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

Q29

世間では、女性と男性の違いについて、さまざまなことが言われています。
 以下の記述について、あなたはどのように思われますか。
 それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものを1つずつ選んで下さい。
 (それぞれひとつずつ)



そ
う
思
う
ど
ち
ら
か
と
い
え
ば
ど
ち
ら
か
と
い
え
ば
そ
う
思
わ
な
い

1	最終的に頼りになるのは、やはり男性である	1	2	3	4
2	中学になると、男の子の成績の方が伸びる	1	2	3	4
3	家庭のこまごまとした管理は、女性でなくては、と思う	1	2	3	4
4	子育ては、やはり母親でなくては、と思う	1	2	3	4
5	人前では、妻は夫を立てた方がよい	1	2	3	4
6	女性は男性にくらべ、感情的である	1	2	3	4
7	女性は視野がせまい	1	2	3	4
8	体力において男性がまさる以上、社会のあらゆる場で男性が優位な地位を占めるのは、やむをえない	1	2	3	4
9	女性は出産する可能性があるため、男性と仕事の上で互角に並ぶのは無理である	1	2	3	4

Q30

あなたの世帯年収(税込)と個人年収(税込)を教えてください。
 (それぞれひとつずつ)



	1	2
	世帯年収	個人年収
200万円未満	1	1
200～400万円未満	2	2
400～600万円未満	3	3
600～800万円未満	4	4
800～1,000万円未満	5	5
1,000～1,200万円未満	6	6
1,200～1,500万円未満	7	7
1,500～2,000万円未満	8	8
2,000万円以上	9	9
わからない	10	10
	世帯年収	個人年収
	1	2

第2回 淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査
Shukutoku Yomiuri Chiba Social Survey (SYCSS)
報告書

- 発行 2026（令和8）年3月31日
- 発行者 淑徳大学社会福祉研究所
〒260-8701 千葉市中央区大巖寺町 200
電話 043-265-7331

- 制作編集 株式会社生活環境工房あくと
-